

団体のボランティア活動等に関する実態調査

令和8年3月

東京都生活文化局

まえがき

東京都は、共助社会の実現を目指して、都内におけるボランティア活動等の推進に取り組んでおります。

この調査は、各種団体のボランティア活動の実態や意識、ボランティア活動に至らない原因等を把握することを目的として実施しています。

調査内容は、「ボランティア活動について」、「団体の活動について」、「他の団体との連携について」、「その他の活動などについて」等に関することとし、ボランティア活動に関する現状・意識等について分析しています。

この調査結果が、行政関係者のみならず、都民の方々や、各種団体の方々に広くお役に立てれば幸いです。

最後に、この調査に御協力いただいた多くの皆様に深く感謝申し上げます。

令和8年3月

東京都生活文化局都民生活部

目次

調査概要	1
1. 調査目的.....	3
2. 調査項目.....	3
3. 調査設計.....	3
4. 回収結果.....	4
5. 報告書の見方.....	4
6. その他.....	4

I. 企業向け調査	5
1. ボランティア活動について	7
1. 実施しているボランティア活動	7
2. ボランティア活動の推奨・推進のために行っているもの	8
3. ボランティア活動を推奨・推進する取組を始めたきっかけ	9
4. ボランティア活動の推奨・推進に取り組む理由	10
5. ボランティア活動を進める上での課題	11
6-1. ボランティア活動を推奨・推進する組織の構成人数	12
6-2. ボランティア活動を推奨・推進する組織などへの経営層の関与	13
7. ボランティア休暇制度を利用した従業員数	14
8. プロボノの企画・実施の有無と実施している専門性	15
9. 連携団体	16
10. 今後連携したい団体	17
11. 具体的な連携内容	18
12. ボランティア活動の推奨・推進に取り組んでいない理由	20
13. 取り組んでいない理由が解決された時の取組意向	21
14. 従業員によるボランティア活動組織の有無	22
15. 従業員によるボランティア活動組織への支援有無	23
16. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度および利用経験	24
17. 「ボラ市民ウェブ」の認知度および閲覧経験	25
18. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度および利用経験	26
19. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度および閲覧経験	27
20. 今後の取組意向	28
21. ボランティア活動に関して望む支援	29
2. 会社の概要について	30
22. 総従業員数	30
23. 設立からの経過年数	31
24. 業種	32
25. 事業を行っている地域	33
26. 従業員の平均勤続年数	34
27. 従業員の平均賃金	35
28. 資本金	36

II. NPO 法人向け調査	37
1. ボランティア活動について	39
1. ボランティアと共に取り組む事業の有無.....	39
2. 企画・実施しているボランティア活動.....	40
3-1. ボランティアの年間活動頻度.....	41
3-2. ボランティアの1回あたりの活動人数.....	42
3-3. ボランティアの1回あたりの平均活動時間.....	43
4. 連携団体.....	44
5. 今後連携したい団体.....	45
6. 具体的な連携内容.....	46
7. 現状のボランティアの参加人数は十分か.....	47
8. ボランティアの参加人数を増やすために必要なこと.....	48
9. ボランティアと共に取り組む事業を行いたいのか.....	49
10. ボランティアを募集した活動を実施できていない理由.....	50
11. ボランティアコーディネーター配置の有無.....	51
12. 運営にボランティアとして関わっている方の有無.....	52
13. ボランティア活動を推進するにあたっての課題.....	53
14. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度および利用経験.....	54
15. 「ボラ市民ウェブ」の認知度および閲覧経験.....	55
16. 利用後の満足度.....	56
17. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度および利用経験.....	57
18. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度および閲覧経験.....	58
19. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」を今後活用したいか.....	59
20. ボランティア活動に関して望む支援.....	60
21. 今後の取組意向.....	61
2. 団体の概要について	62
22. 活動の性質.....	62
23. 団体構成員の総数.....	63
24. 設立からの経過年数.....	64
25. 活動分野.....	65
26. 活動地域.....	66
27. 構成員の平均勤続年数.....	67
28. 構成員の平均賃金.....	68
29. 主な収入源.....	69
30. 情報発信の利用媒体.....	70

Ⅲ. 大学向け調査	71
1. ボランティア活動について	73
1. 学生のボランティア活動の支援組織の有無	73
2-1. ボランティア活動支援部署などの設置年度	74
2-2. ボランティア活動支援部署などの教員数	75
2-3. ボランティア活動支援部署などの事務職員数	76
2-4. ボランティア活動支援部署などのボランティアコーディネーターなどの人数	77
2-5. ボランティア活動支援部署などの学生スタッフ数	78
2-6. ボランティア活動支援部署などを設置したきっかけ	79
3. ボランティア活動支援部署などで行っている取組	80
4. 学生が参加したボランティア活動	81
5. ボランティア活動に参加した学生数	82
6. 学生が参加したボランティア活動地域	83
7. 学生へのボランティア情報の周知方法	84
8. 学内ボランティア活動を充実させていくための課題	85
9. ボランティア活動支援部署などを設置していない理由	86
10. 学生ボランティアサークルの有無	87
11-1. ボランティア活動を主目的とするサークルなどの活動内容	88
11-2. ボランティア活動を主目的とするサークルなどの団体数	89
11-3. ボランティア活動を主目的とするサークルなどの学生数	90
12. 連携団体	91
13. 今後連携したい団体	92
14. 具体的な連携内容	93
15. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度および利用経験	94
16. 「ボラ市民ウェブ」の認知度および閲覧経験	95
17. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度および利用経験	96
18. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度および閲覧経験	97
19. 今後の取組意向	98
20. ボランティア活動に関して望む支援	99
2. 学校の概要について	100
21. 職員の総数	100
22. 設立からの経過年数	101
23. 学生数	102

IV. 中学高校向け調査	103
1. ボランティア活動について	105
1. ボランティア活動の取り入れ状況	105
2. 授業に取り入れたボランティア活動の年間時間数及び教科名	106
3. 授業で生徒が参加したボランティア活動	107
4. 授業でボランティア活動を取り入れるための課題	108
5. ボランティア活動を取り入れていない理由	109
6. ボランティア活動を行う部活動の有無	110
7-1. ボランティア活動を行っている部活動の活動内容	111
7-2. ボランティア活動を行っている部活動の団体数	112
7-3. ボランティア活動を行っている部活動の生徒数	113
7-4. ボランティア活動を行っている部活動の担当教員数	114
8. 連携団体	115
9. 今後連携したい団体	116
10. 具体的な連携内容	117
11. ボランティアコーディネーターの有無	119
12. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度および利用経験	120
13. 「ボラ市民ウェブ」の認知度および閲覧経験	121
14. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度および利用経験	122
15. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度および閲覧経験	123
16. 今後の取組意向	124
17. ボランティア活動に関して望む支援	125
2. 学校の概要について	126
18. 学校種別	126
19. 職員の総数	127
20. 設立からの経過年数	128
21. 生徒数	129

V. 町会自治会向け調査	131
1. 団体の活動について	133
1. 活動内容	133
2. 活動状況	134
3. 外国人の活動参加状況	135
4. 外国人の参加にあたり、妨げとなっていること	136
5. 活動を行うにあたっての課題	137
2. 他の団体との連携について	138
6. 連携団体	138
7-1. 連携した団体のボランティア募集の有無	139
7-2. 参加人数	140
7-3. 連携した団体との活動内容	141
8-1. 連携してよかった点	142
8-2. 連携した際の課題	143
9. 連携の妨げとなること	144
10. 今後連携したい団体	145
11. 今後連携して行いたい活動分野	146
12. 連携の継続に必要なこと	147
13. 地元ボランティアとの連携について	148
14. ボランティアコーディネーターの有無	149
3. その他の活動などについて	150
15. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度および利用経験	150
16. 「ボラ市民ウェブ」の認知度および閲覧経験	151
17. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度および利用経験	152
18. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度および閲覧経験	153
19. 今後の取組意向	154
4. 団体の概要について	156
20. 役員数	156
21. 加入世帯数	157
22. 加入率	158
23. 加入促進の取組	159
調査票	161

調査概要

1. 調査目的

東京都がボランティア活動等を推進する中で、各種団体におけるボランティア活動に関する取組状況等についての把握を行う。

2. 調査項目

[企業、NPO 法人、大学、中学高校]

(1) ボランティア活動について

[町会自治会]

(1) 団体の活動について

(2) 他の団体との連携について

(3) その他の活動などについて

3. 調査設計

(1) 調査対象

東京都の区域内に事務所又は事業所を有する法人又はその他の団体

(2) 対象者数

計 1,012 団体

(内訳：企業 800、NPO 法人 70、大学 30、中学高校 50、町会自治会 62)

(3) 標本抽出方法

[企業]

下記のとおり資本金別に層化し、無作為抽出により選定

大企業（資本金 5 億円以上）・・・・・・・・・・ 400 社

中小企業

資本金 1,000 万円未満・・・・・・・・・・ 100 社

資本金 1,000 万円以上 5,000 万円未満・・・・・・ 100 社

資本金 5,000 万円以上 1 億円未満・・・・・・ 100 社

資本金 1 億円以上 5 億円未満・・・・・・・・・・ 100 社

[NPO 法人]

都内の NPO 法人から特定非営利活動促進法第 2 条第 1 項別表に掲げる 20 分野を考慮して抽出

[大学]

都内に住所がある国立・公立及び私立大学（短期大学を除く）から無作為抽出

[中学高校]

都内の公立私立中学・高校、義務教育学校、中等教育学校及び特別支援学校（通信制を除く）から無作為抽出

[町会自治会]

東京都町会連合会に加盟する町会自治会連合会のある区市町村に抽出を依頼

(4) 調査方法：郵送配布、郵送または Web ページ上での回答

(5) 調査期間：令和 7 年 10 月 30 日～令和 7 年 12 月 5 日

4. 回収結果

回収数計 338 件。内訳は以下の通り。

	企 業	NPO 法人	大 学	中学高校	町会自治会	計
対象者数	800	70	30	50	62	1,012
回収数	187	33	22	42	54	338
回収率	23.4%	47.1%	73.3%	84.0%	87.1%	33.4%

5. 報告書の見方

- (1) 図表中に示してある「n」は回答者全体の人数であるが、設問によっては回答者を限定している場合があり、n の値は変動する。
- (2) 質問に対する回答は、1 つの場合（単一回答）やいくつでもよい場合（複数回答）などがあるが、複数回答の場合、回答割合の合計は通常 100% を超える。
- (3) 百分率は n を 100% として算出し、小数点以下第 2 位を四捨五入して第 1 位まで示した。このため、全ての選択肢の割合を合計しても 100% にならない場合がある。
- (4) 図表中の「-」は回答者が皆無であること、「0.0」は 0.05 未満の数値であること、空白は選択肢がないことを示している。

6. その他

自由記述の回答について、一部表記（誤記や固有名詞等）を適宜修正の上掲載している。

I. 企業向け調査

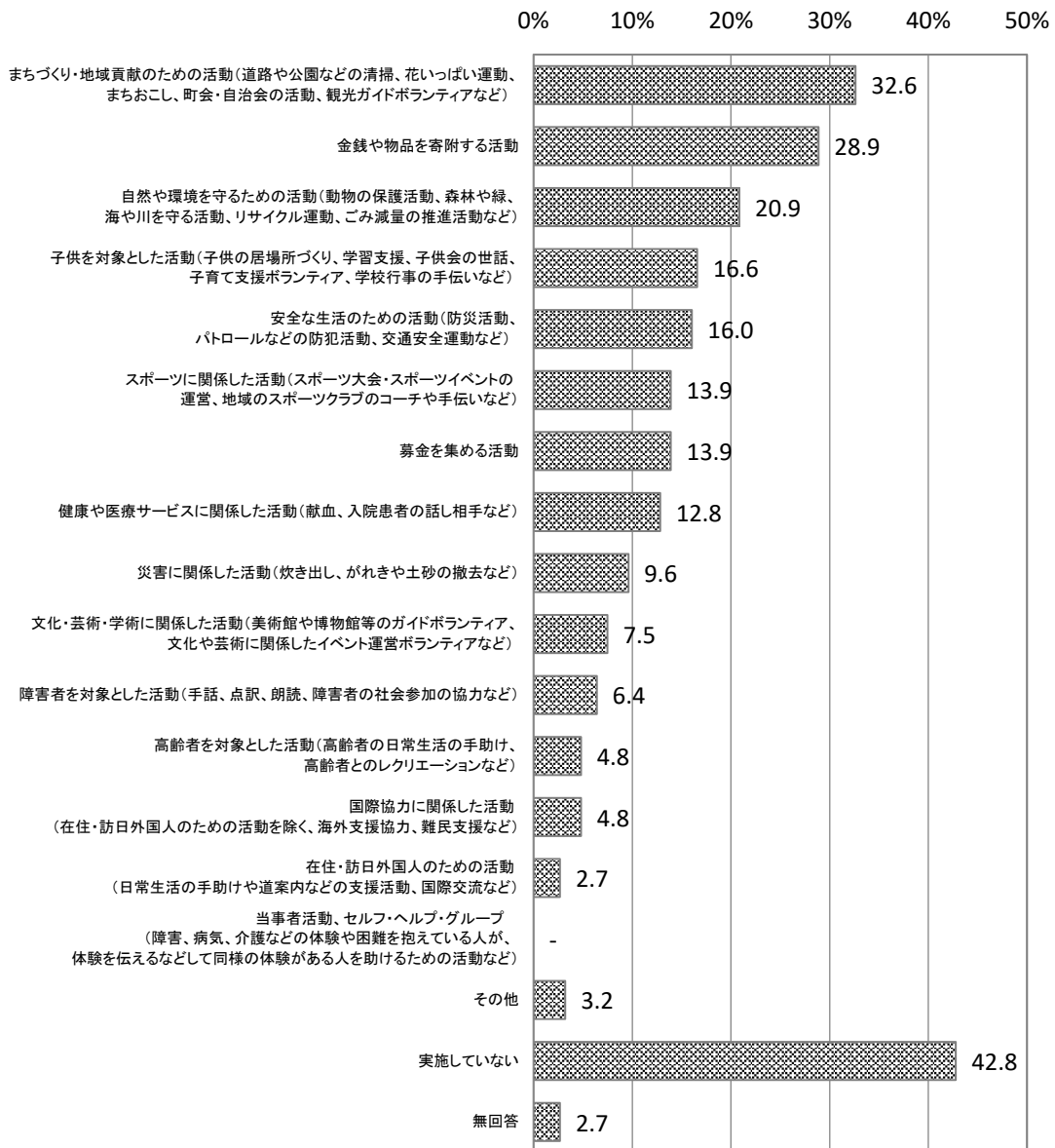
1. ボランティア活動について

1. 実施しているボランティア活動

Q 1. (すべての方)

貴社が社会貢献活動として実施しているボランティア活動等*で、当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

*名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください



n=187

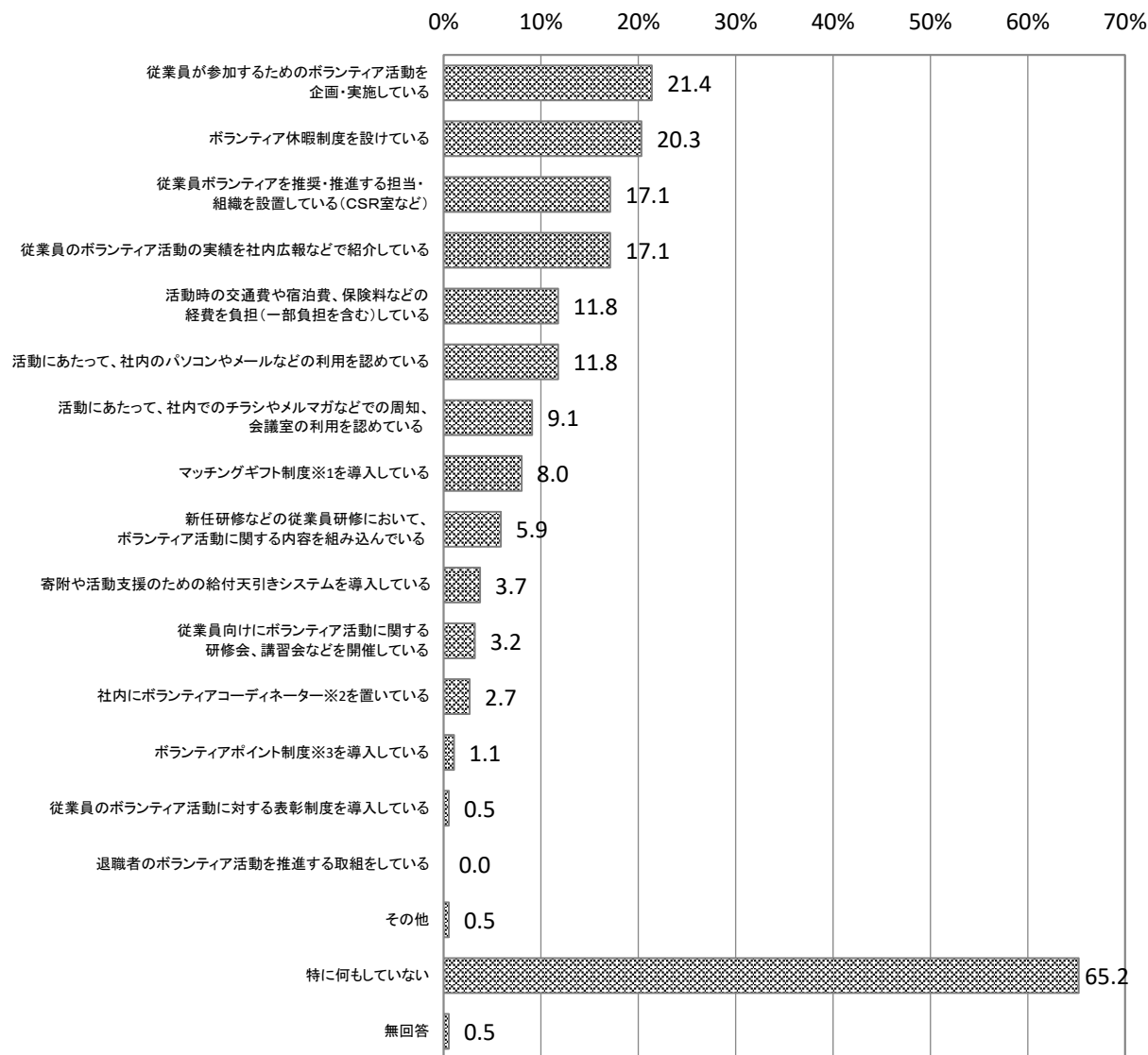
【実施しているボランティア活動】については、「まちづくり・地域貢献のための活動」が32.6%で最も高かった。次いで、「金銭や物品を寄附する活動」が28.9%であった。また、いずれかのボランティア活動を実施している企業の割合は54.5% (※) であった。

(※) 全体から「実施していない」と「無回答」の割合を引いた値

2. ボランティア活動の推奨・推進のためにしているもの

Q2. (すべての方)

従業員（常勤に限る）のボランティア活動を推奨・推進するためにしているもので、当てはまるものをお答えください。(複数回答)



n=187

※1 マッチングギフト制度：従業員による寄附などに、集まった金額の一定比率を上乗せして寄附する制度

※2 ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受入れ側とを調整する人材

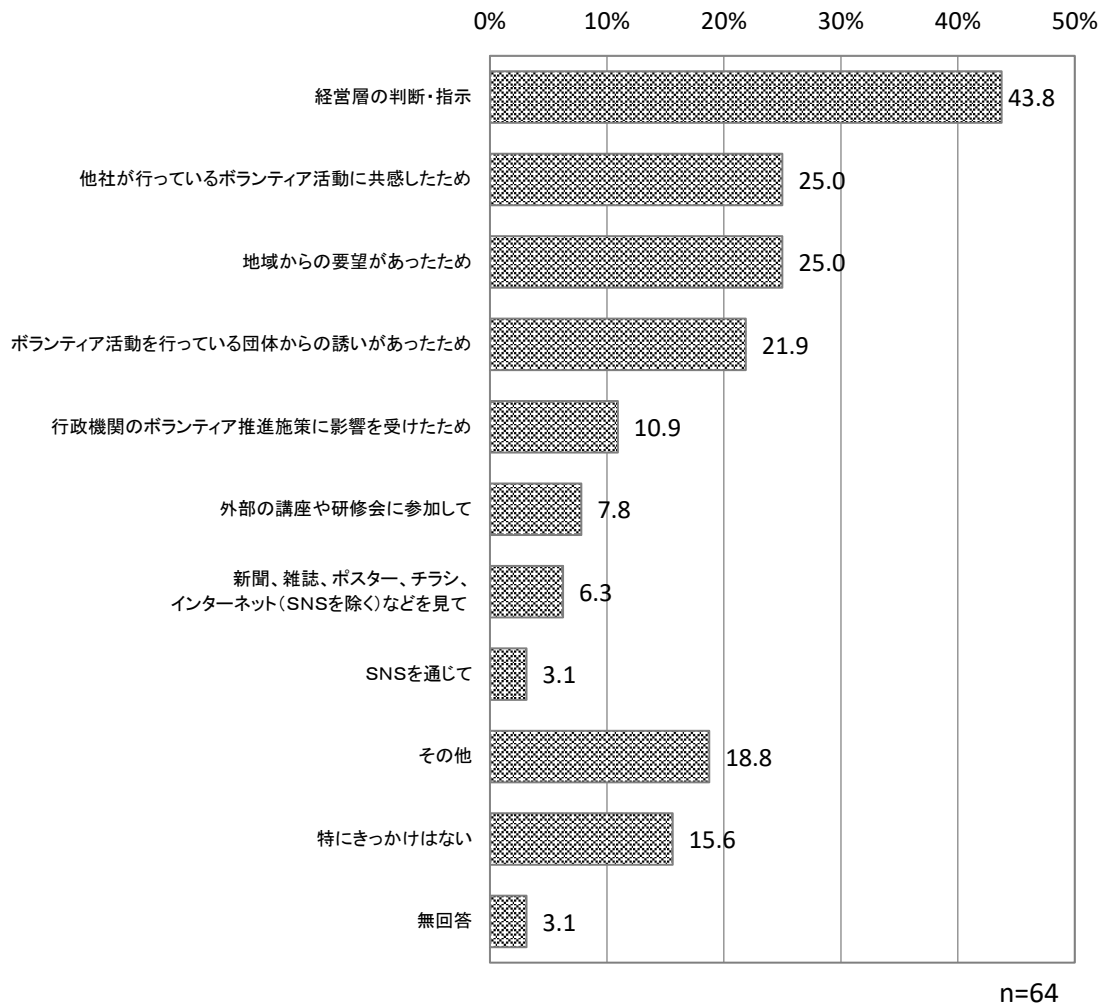
※3 ボランティアポイント制度：ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じた特典を受けられる制度

【ボランティア活動の推奨・推進のためにしているもの】については、「従業員が参加するためのボランティア活動を企画・実施している」が21.4%で最も高かった。次いで、「ボランティア休暇制度を設けている」が20.3%であった。また、「特に何もしていない」は65.2%であった。

3. ボランティア活動を推奨・推進する取組を始めたきっかけ

Q3. (Q2で1～16を回答した方)

従業員のボランティア活動を推奨・推進する取組を始めたきっかけについて、当てはまるものをお答えください。(複数回答)

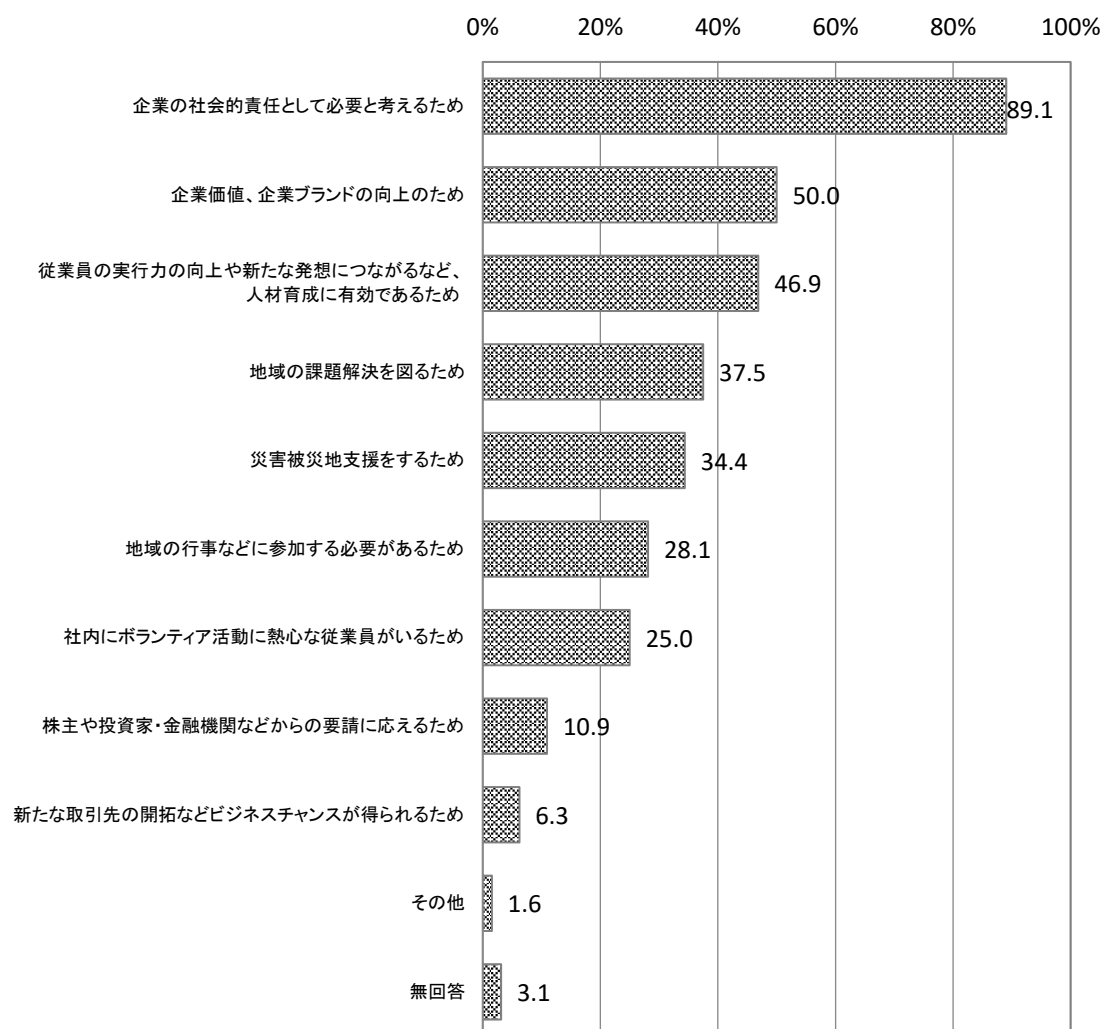


【ボランティア活動を推奨・推進する取組を始めたきっかけ】については、「経営層の判断・指示」が43.8%で最も高かった。次いで、「他社が行っているボランティア活動に共感したため」と「地域からの要望があったため」がいずれも25.0%、「ボランティア活動を行っている団体からの誘いがあったため」が21.9%であった。

4. ボランティア活動の推奨・推進に取り組む理由

Q4. (Q2で1～16を回答した方)

従業員のボランティア活動の推奨・推進に取り組んでいる理由について、当てはまるものをお答えください。(複数回答)



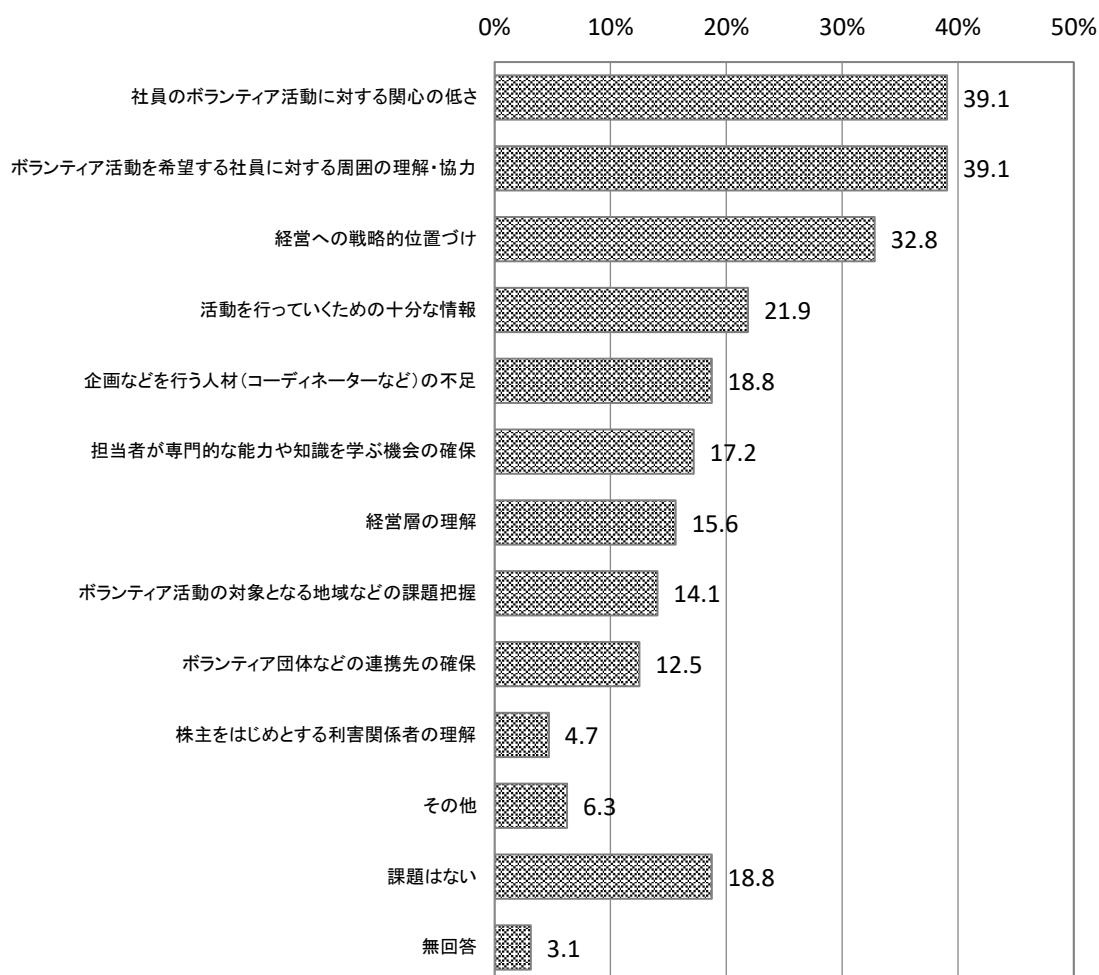
n=64

【ボランティア活動の推奨・推進に取り組む理由】については、「企業の社会的責任として必要と考えるため」が89.1%で最も高かった。次いで、「企業価値、企業ブランドの向上のため」が50.0%、「従業員の実行力の向上や新たな発想につながるなど、人材育成に有効であるため」が46.9%であった。

5. ボランティア活動を進める上での課題

Q5. (Q2で1～16を回答した方)

今後、従業員のボランティア活動を進めていくにあたり、課題と考えていることはありますか。次の中から当てはまるものをお答えください。(複数回答)



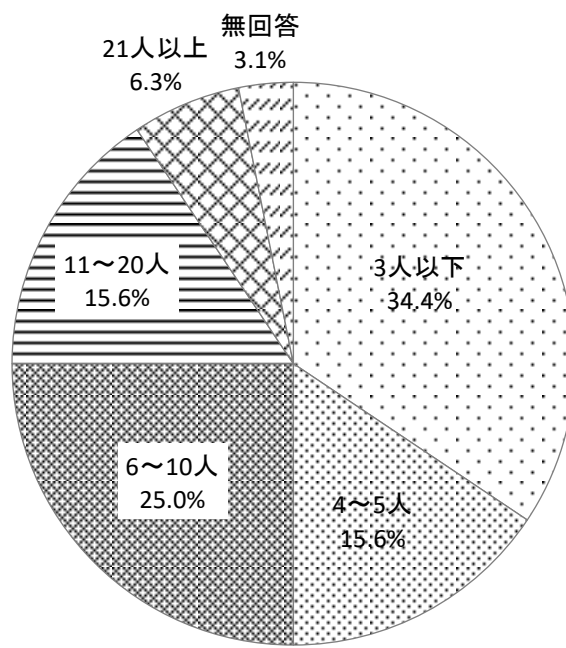
n=64

【ボランティア活動を進める上での課題】については、「社員のボランティア活動に対する関心の低さ」と「ボランティア活動を希望する社員に対する周囲の理解・協力」がいずれも39.1%で最も高かった。次いで、「経営への戦略的位置づけ」が32.8%、「活動を行っていくための十分な情報」が21.9%であった。

6-1. ボランティア活動を推奨・推進する組織の構成人数

Q6. (Q2で「1. 従業員ボランティアを推奨・推進する担当・組織を設置している (CSR室など)」を回答した方)

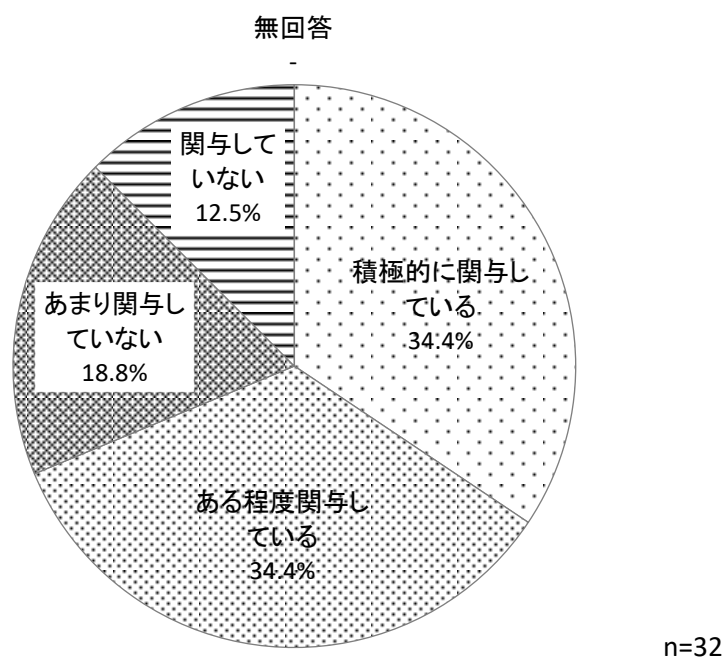
従業員のボランティア活動を推奨・推進する組織の構成人数と、当該組織などへの経営層 (担当役員など) の関与についてお答えください。(それぞれ単一回答)



n=32

【ボランティア活動を推奨・推進する組織の構成人数】については、「3人以下」が34.4%、「4~5人」が15.6%、「6~10人」が25.0%、「11~20人」が15.6%、「21人以上」が6.3%であった。

6-2. ボランティア活動を推奨・推進する組織などへの経営層の関与

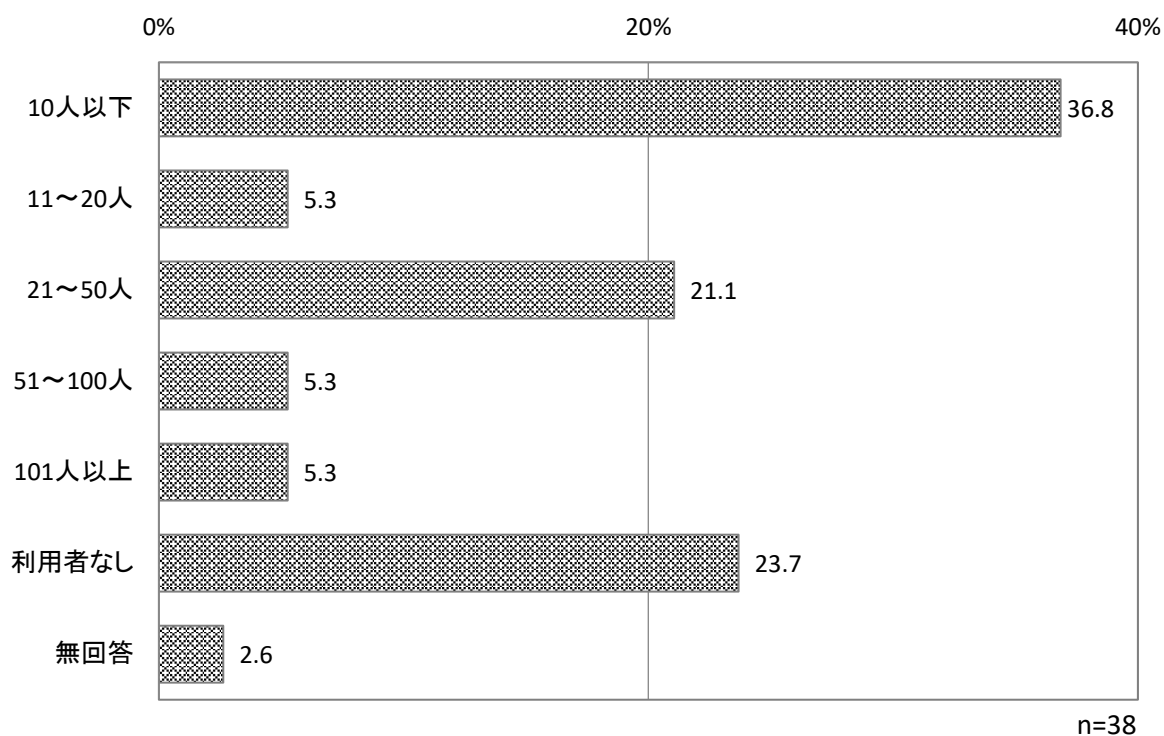


【ボランティア活動を推奨・推進する組織などへの経営層の関与】については、「積極的に関与している」と「ある程度関与している」がいずれも 34.4%、「あまり関与していない」が 18.8%、「関与していない」が 12.5%であった。

7. ボランティア休暇制度を利用した従業員数

Q 7. (Q 2で「2. ボランティア休暇制度を設けている」を回答した方)
ボランティア休暇制度を直近の1年間で利用したことがある従業員は何人ですか。(単一回答)

※直近で取りまとめた1年間の休暇利用状況であれば、期間はいつでも結構です。

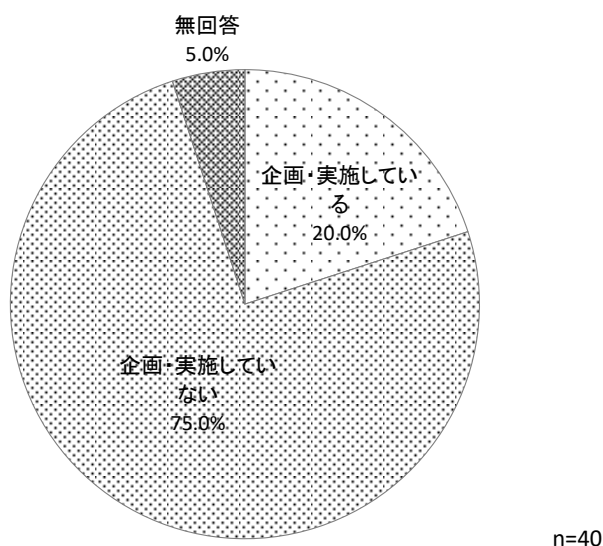


【ボランティア休暇制度を利用した従業員数】については、「10人以下」が36.8%、「11~20人」が5.3%、「21~50人」が21.1%、「51~100人」と「101人以上」がいずれも5.3%であった。また、「利用者なし」は23.7%であった。

8. プロボノの企画・実施の有無と実施している専門性

Q 8. (Q 2で「5. 従業員が参加するためのボランティア活動を企画・実施している」を回答した方)

従業員の専門性（職業を通じて培った技能や知識、経験など）を活かしたボランティア活動（プロボノ）を企画・実施していますか。（単一回答）



【プロボノの企画・実施の有無と実施している専門性】については、「企画・実施している」が 20.0%、「企画・実施していない」が 75.0%であった。

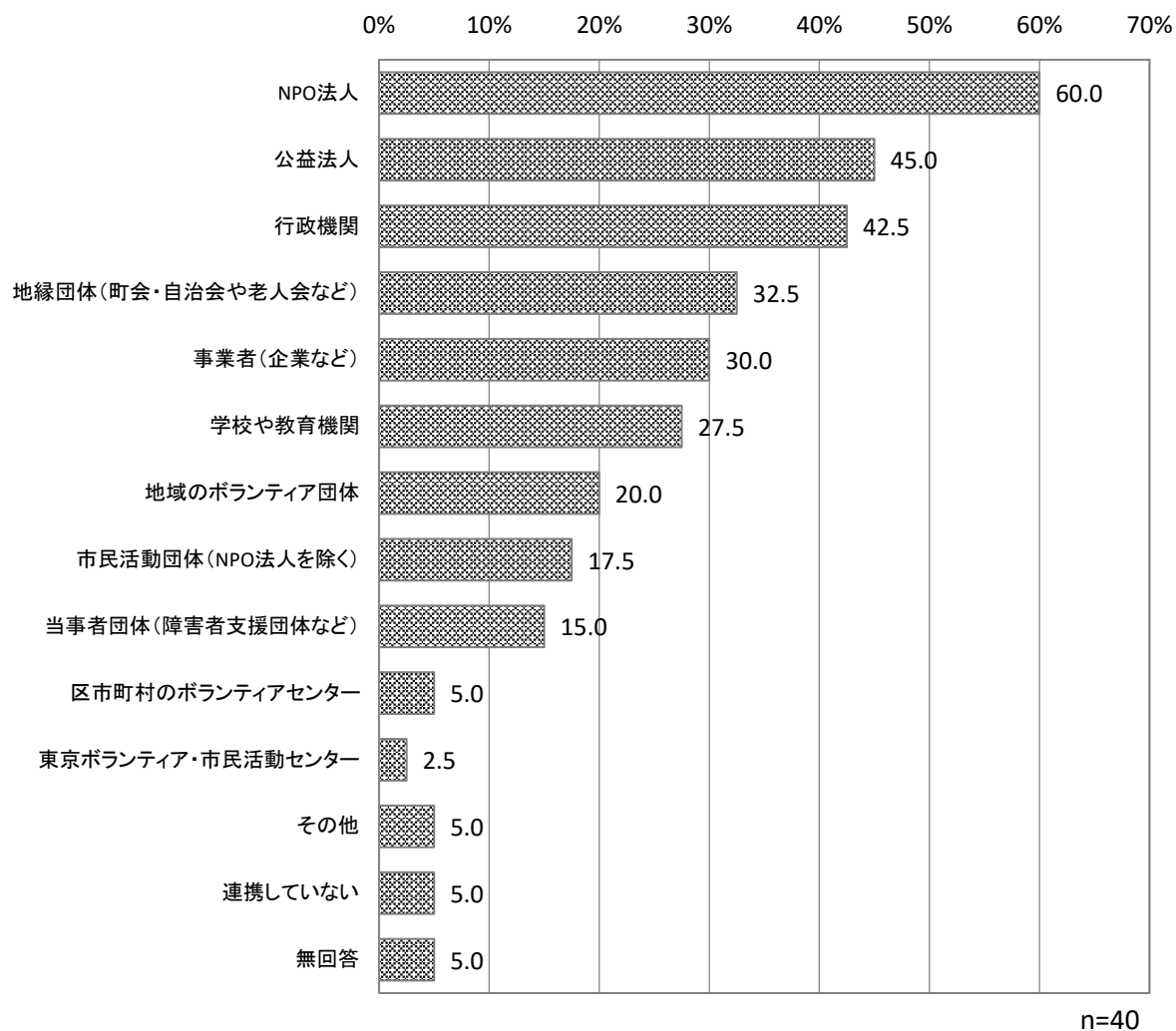
実施している団体の具体的な専門性は以下の通り。

記述内容
科学教育支援活動、理系学生向け教育支援活動、ボランティア研究員による科学教室の実施
会計士、コンサルタント、デジタルなどのスキルを活かしたボランティア
イベント制作や、広報事業のノウハウを地元区役所を通じて町会に提供。 SNSの発信の仕方や、イベントづくりの基礎などの講座を行うとともに、町会主催のお祭りなどのお手伝いを行っている。 また、ダウン症の理解促進を目的としたイベントへの協賛と、制作協力や重度障がい児童のためのスポーツイベントの企画制作などを行っている。
商品開発・研究の知見をいかした健康貢献プログラムの設計
社員による金融経済教育の出張授業の実施
プロボノプロジェクト（3か月、6か月）にて団体の組織基盤の強化や広報、ファンドレイズ等の課題解決に取り組んでいる。また、1 Dayプロボノ等も実施している。
金融リテラシー
金融・経済の知識を活かし、全国の地元の学校（小学校～大学）へ金融経済教育を実施している。

9. 連携団体

Q9. (Q2で「5. 従業員が参加するためのボランティア活動を企画・実施している」を回答した方)

ボランティア活動の企画・実施にあたって、連携して行っている団体があれば、当てはまるものをお答えください。(複数回答)



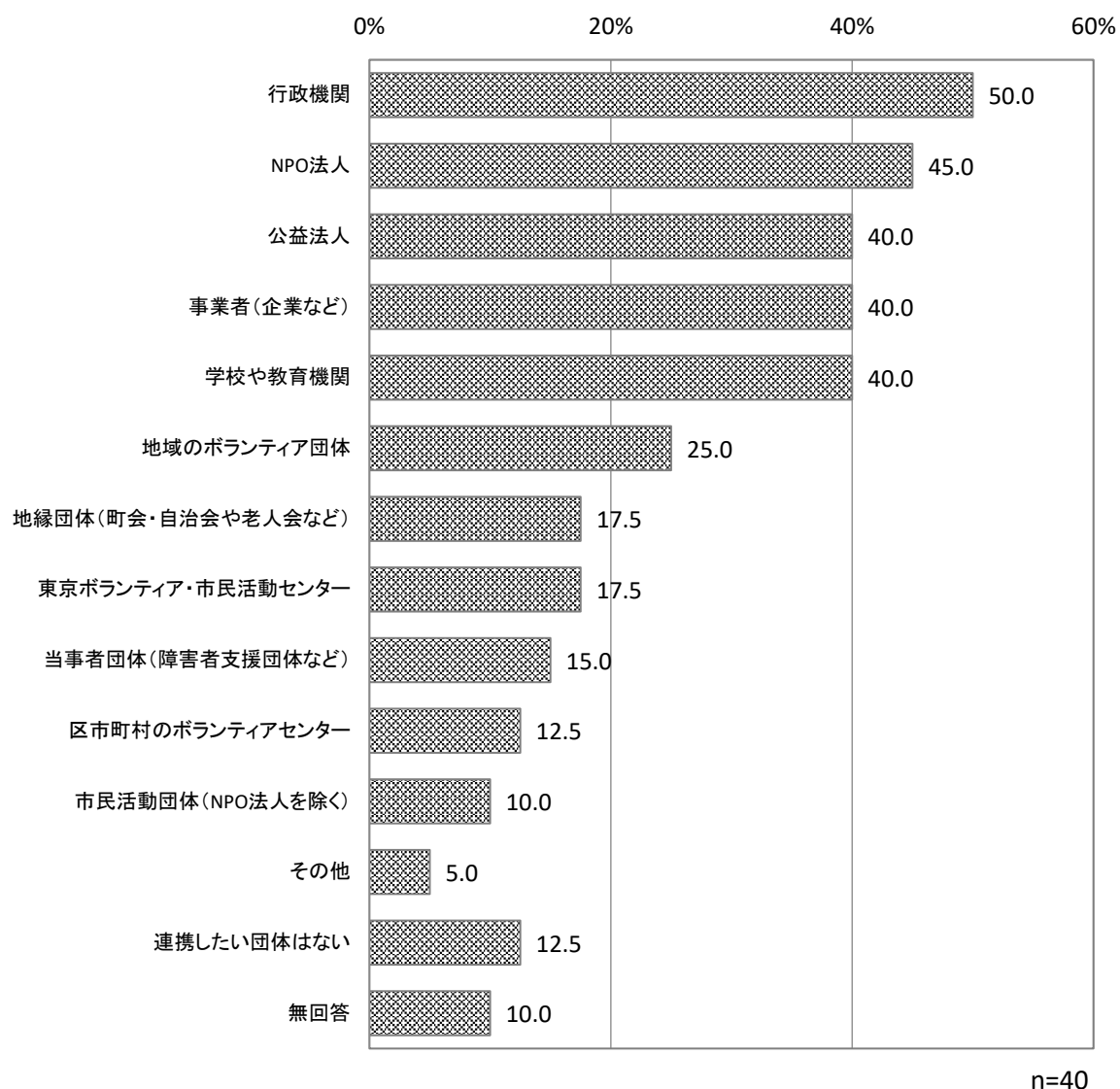
【連携団体】については、「NPO 法人」が 60.0%で最も高かった。次いで、「公益法人」が 45.0%、「行政機関」が 42.5%であった。

10. 今後連携したい団体

Q10. (Q2で「5. 従業員が参加するためのボランティア活動を企画・実施している」を回答した方)

ボランティア活動の企画・実施にあたって、今後連携したい団体があれば、当てはまるものをお答えください。(複数回答)

※現在、既に連携していて、今後も引き続き連携したい場合も含めてお答えください。



【今後連携したい団体】については、「行政機関」が50.0%で最も高かった。次いで、「NPO法人」が45.0%、「公益法人」と「事業者(企業など)」と「学校や教育機関」がいずれも40.0%であった。

1 1. 具体的な連携内容

Q 1 1. (Q 9 または Q 1 0 で 1 ~ 1 2 を回答した方)

現在、どのような連携をしていますか。または今後、どのような連携をしたいですか。具体的にお書きください。

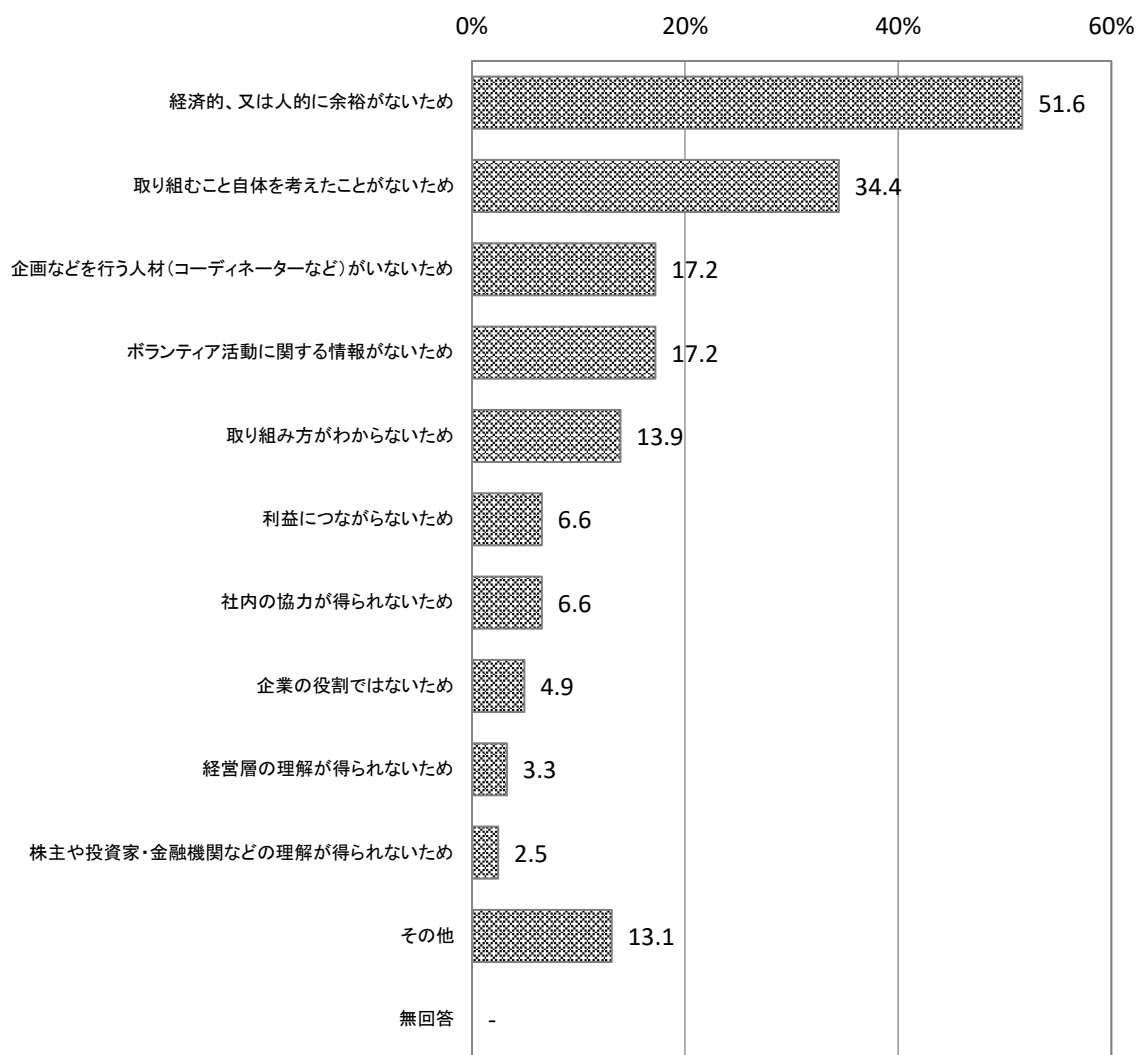
記述内容
ボランティア活動についての情報入手
支援団体として契約。入会費を期初に支払う他、団体と協同企画を実施。
子ども食堂でのオーラルヘルスケア習慣づくり
職員が単発で参加できるボランティアを開拓したいと考えております。
森林や水源地を守る
NPO 法人、事業者：寄付品の送付、寄付の返礼として感謝状や割引券の送付 行政機関：清掃活動にあたり参加申請、報告、備品の貸与、集めたゴミの回収依頼
複数の活動を行っていますが、いずれも単発に終わることなく継続して行えるよう、無理な運営にならないことを常に確認し、連携しています。
本社所在地である区役所の地域課さんに町会をご紹介いただき、イベント制作のノウハウの提供などを実施。また、弊社グループ企業十数社が参加し、地域清掃活動などを実施。
他県に協力をいただき、道普請活動を毎年実施。 本社の近隣にて、清掃活動の実施。 東日本でも、上記取組と同様の活動をしていきたい。
現在取り組んでいること：中間支援組織を通じた NPO 団体との連携、オフィス所在地の自治体、町会との連携 今後取り組みたいこと：企業間連携
社会貢献活動の各プログラム実施・運営のための連携（活動前に実施する活動の意義を学ぶためのセミナーを含む）ならびに情報収集
公益財団法人様と法人契約を結び、雑木林の保護に努めています。
支援団体を通じて、支援先のニーズを組んだ取り組みを実施。
自治体や地域との連携
NPO 法人については、①弊社の財団からの助成金の提供と実際の現場へのボランティアの派遣（2 団体のみ）、②イベントなどでの弊社社員のボランティア参加、弊社向けの活動の企画・運営、③学校の活動（P-TECH, キャリア教育）への社員の派遣、生徒訪問受け入れ、④本社のある自治体が主催する清掃活動への参加など。現在、比較的広範囲に十分な活動ができているのと、新たな連携を行う人員的余裕がないのが現状。
地域の団体と連携をとっていきたい。
それぞれの活動を運営している団体に協力している。
ボランティアマッチングサイトの導入、活用
団体のニーズに対してできることをしている。
マッチングギフト制度で支援している団体に、従業員のボランティア活動の受け入れにご協力いただいています。
行政と防災協定を締結しています。
資金的支援、協働でイベントを企画

記述内容
同じ建屋に入る事業者と開催日を合わせた清掃活動
依頼を受け活動に参加
市の社会福祉協議会や民間団体からのボランティア募集や要請に応じて活動している。
従業員が就業時間外でボランティア活動できるように、ボランティア活動募集をしている市民団体やNPOなどの情報を集約したポータルを運営している公益法人と連携している
団体や法人、事業者が主催するイベントの運営サポートや清掃活動などを実施している。今後も引き続き連携していきたい。
社員が業後に活動するボランティアイベント（絵本翻訳シールの貼付等）や被災地での子供の居場所運営サポート等を実施している。今後はボランティア初心者が参加しやすい内容のボランティアイベントを当社で実施できる団体と連携していきたい。
ボランティアプログラムの構築にあたって、一緒に活動したり、災害の現地で受け入れをしてくださる団体との連携関係を構築しています。
障がい者施設へのお祭り支援（物品購入し、販売を担当）。 海岸清掃団体への協賛および社員ボランティアの参画。 特別支援学校への体験型金融授業の実施。
支援団体を通じた寄付活動、地域の行事や美化活動への参加、学生を対象とした金融教育など
地域の各団体と全国の拠点が連携し、寄付・寄贈および社員の活動を通じて、課題解決にむけて取り組んでいる。
都立公園のプチボラに参加しました。
毎年一緒に活動してます。

12. ボランティア活動の推奨・推進に取り組んでいない理由

Q12. (Q2で「17. 特に何もしていない」と回答した方)

従業員のボランティア活動の推奨・推進に取り組んでいない理由について、当てはまるものをお答えください。(複数回答)



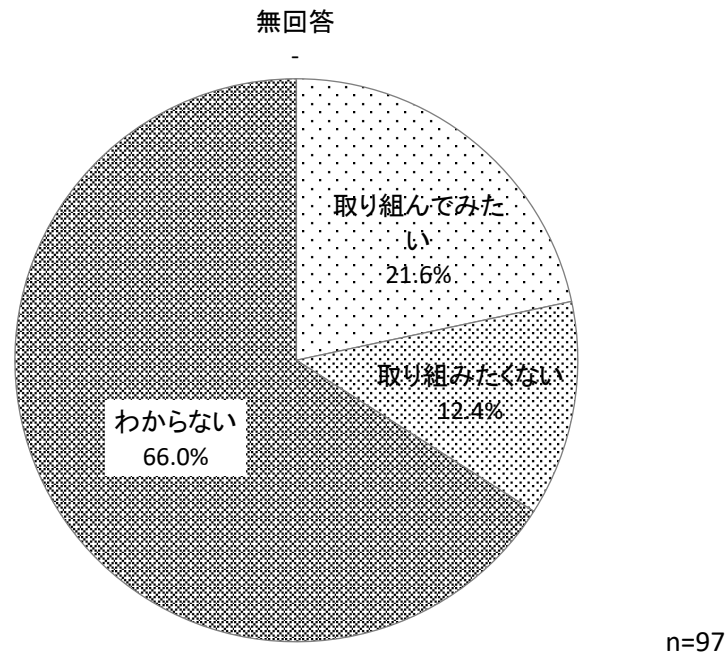
n=122

【ボランティア活動の推奨・推進に取り組んでいない理由】については、「経済的、又は人的に余裕がないため」が51.6%で最も高かった。次いで、「取り組むこと自体を考えたことがないため」が34.4%、「企画などを行う人材(コーディネーターなど)がないため」と「ボランティア活動に関する情報がないため」がいずれも17.2%であった。

13. 取り組んでいない理由が解決された時の取組意向

Q13. (Q12で3～11を回答した方)

Q12で回答した理由が解決されれば、従業員のボランティア活動の推奨・推進に取り組んでみたいと思いますか。(単一回答)

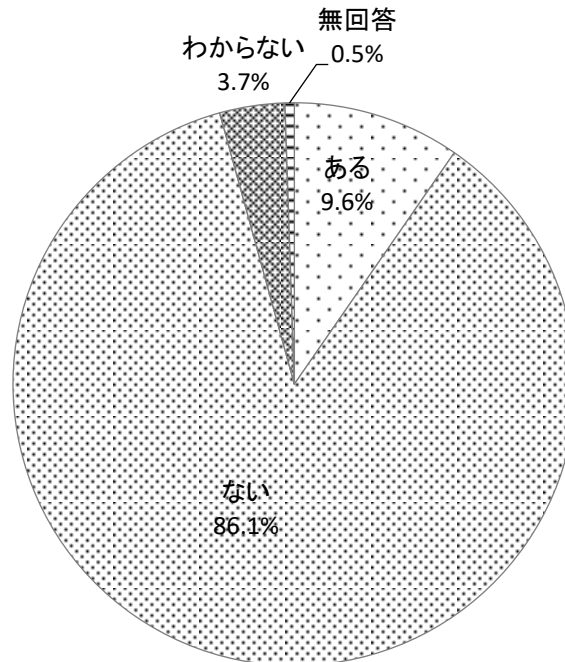


【取り組んでいない理由が解決された時の取組意向】については、「取り組んでみたい」が21.6%、「取り組みたくない」が12.4%、「わからない」が66.0%であった。

14. 従業員によるボランティア活動組織の有無

Q14. (すべての方)

貴社には、従業員によって設立・運営されているボランティア活動を行うための組織（サークルなど）がありますか。（単一回答）



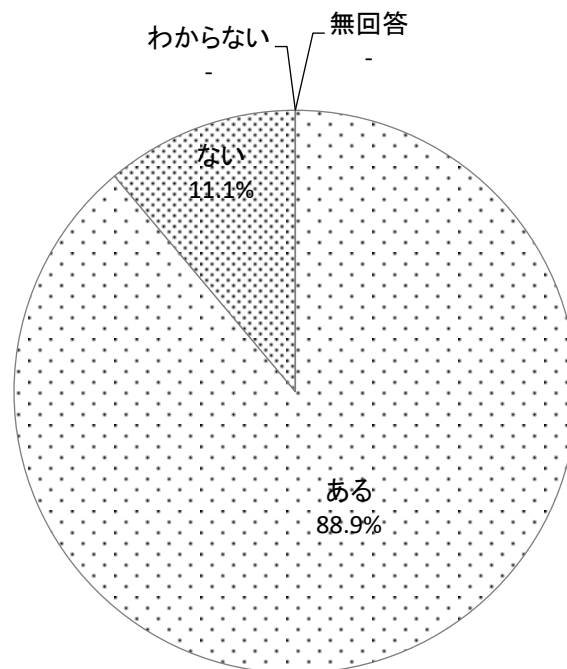
n=187

【従業員によるボランティア活動組織の有無】については、「ある」が 9.6%、「ない」が 86.1%、「わからない」が 3.7%であった。

15. 従業員によるボランティア活動組織への支援有無

Q15. (Q14で「1. ある」と回答した方)

貴社は、従業員によって設立・運営されているボランティア活動を行うための組織（サークルなど）の活動を支援していますか。（単一回答）



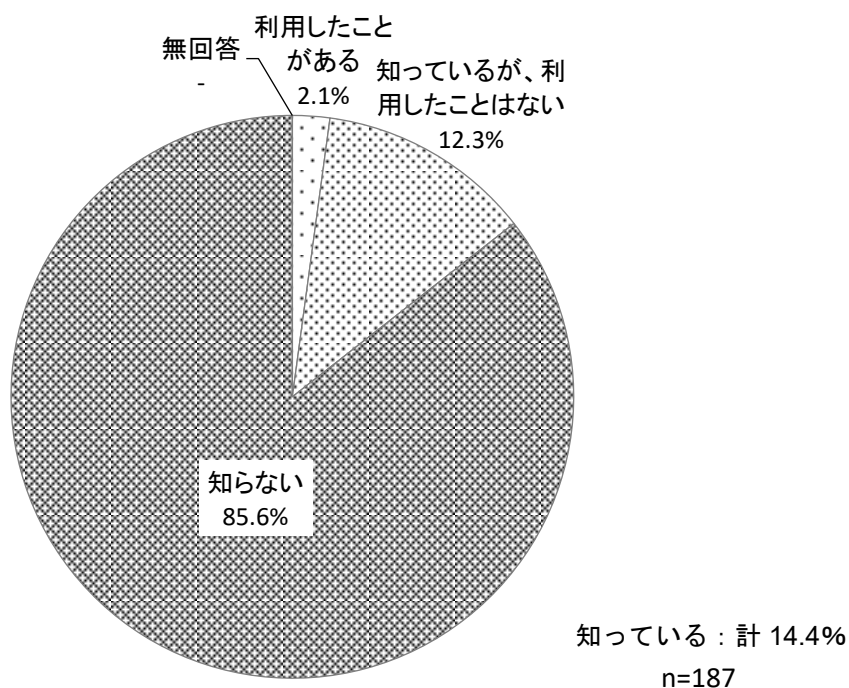
n=18

【従業員によるボランティア活動組織への支援有無】については、「ある」が 88.9%、「ない」が 11.1%であった。

16. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度および利用経験

Q16. (すべての方)

東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存じですか。また、利用したことはありますか。(単一回答)



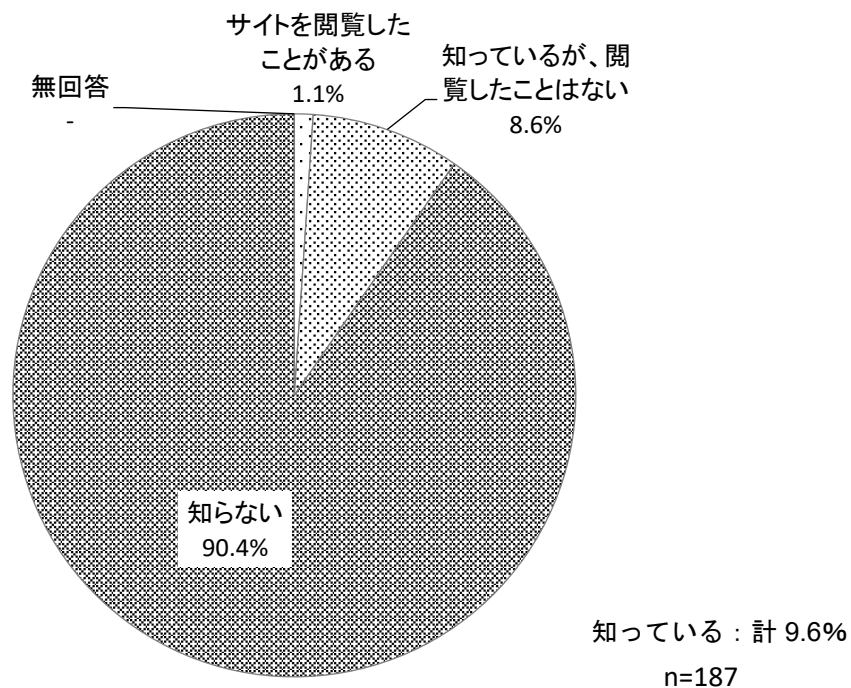
(注)【知っている : 計】は「利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」の合計

【東京ボランティア・市民活動センターの認知度および利用経験】については、「利用したことがある」が2.1%、「知っているが、利用したことはない」が12.3%、「知らない」が85.6%であった。

17. 「ボラ市民ウェブ」の認知度および閲覧経験

Q17. (すべての方)

東京ボランティア・市民活動センターのウェブサイト「ボラ市民ウェブ」はご存じですか。また、閲覧したことはありますか。(単一回答)



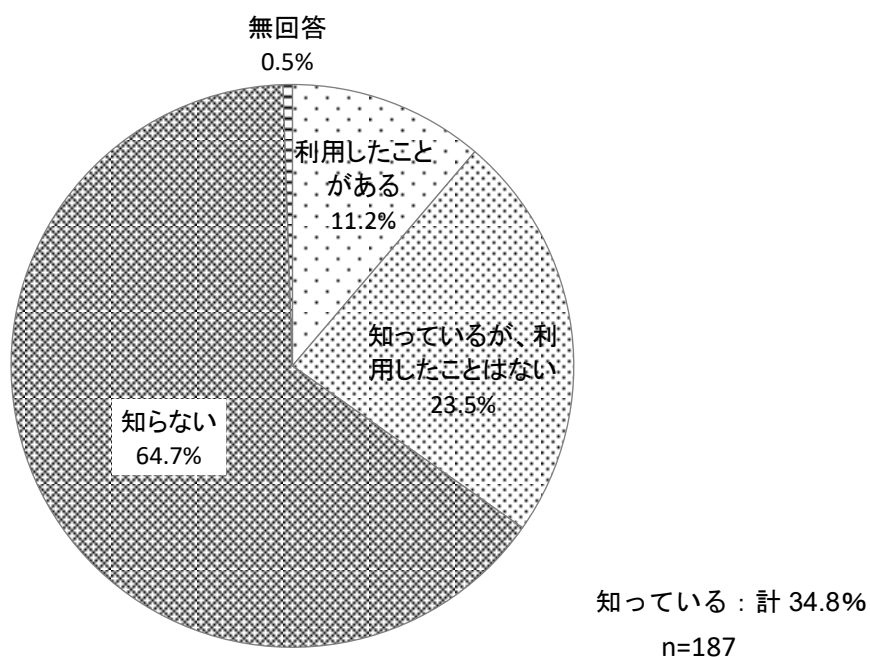
(注)【知っている：計】は「サイトを閲覧したことがある」「知っているが、閲覧したことはない」の合計

【「ボラ市民ウェブ」の認知度および閲覧経験】については、「サイトを閲覧したことがある」が1.1%、「知っているが、閲覧したことはない」が8.6%、「知らない」が90.4%であった。

18. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度および利用経験

Q18. (すべての方)

区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。(単一回答)



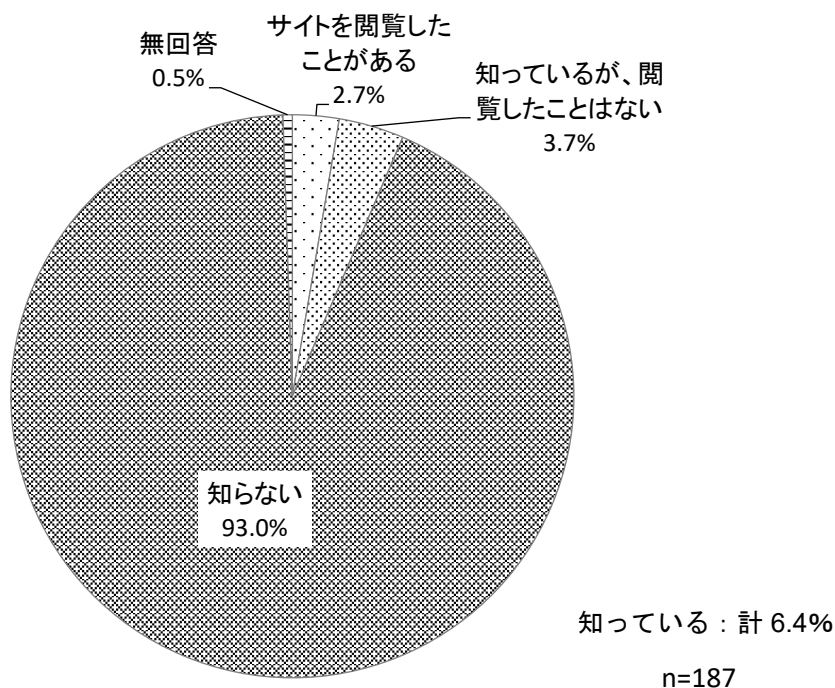
(注)【知っている：計】は「利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」の合計

【社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度および利用経験】については、「利用したことがある」が11.2%、「知っているが、利用したことはない」が23.5%、「知らない」が64.7%であった。

19. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度および閲覧経験

Q19. (すべての方)

東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。(単一回答)



(注)【知っている：計】は「サイトを閲覧したことがある」「知っているが、閲覧したことはない」の合計

【「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度および閲覧経験】については、「サイトを閲覧したことがある」が2.7%、「知っているが、閲覧したことはない」が3.7%、「知らない」が93.0%であった。

20. 今後の取組意向

Q20. (すべての方)

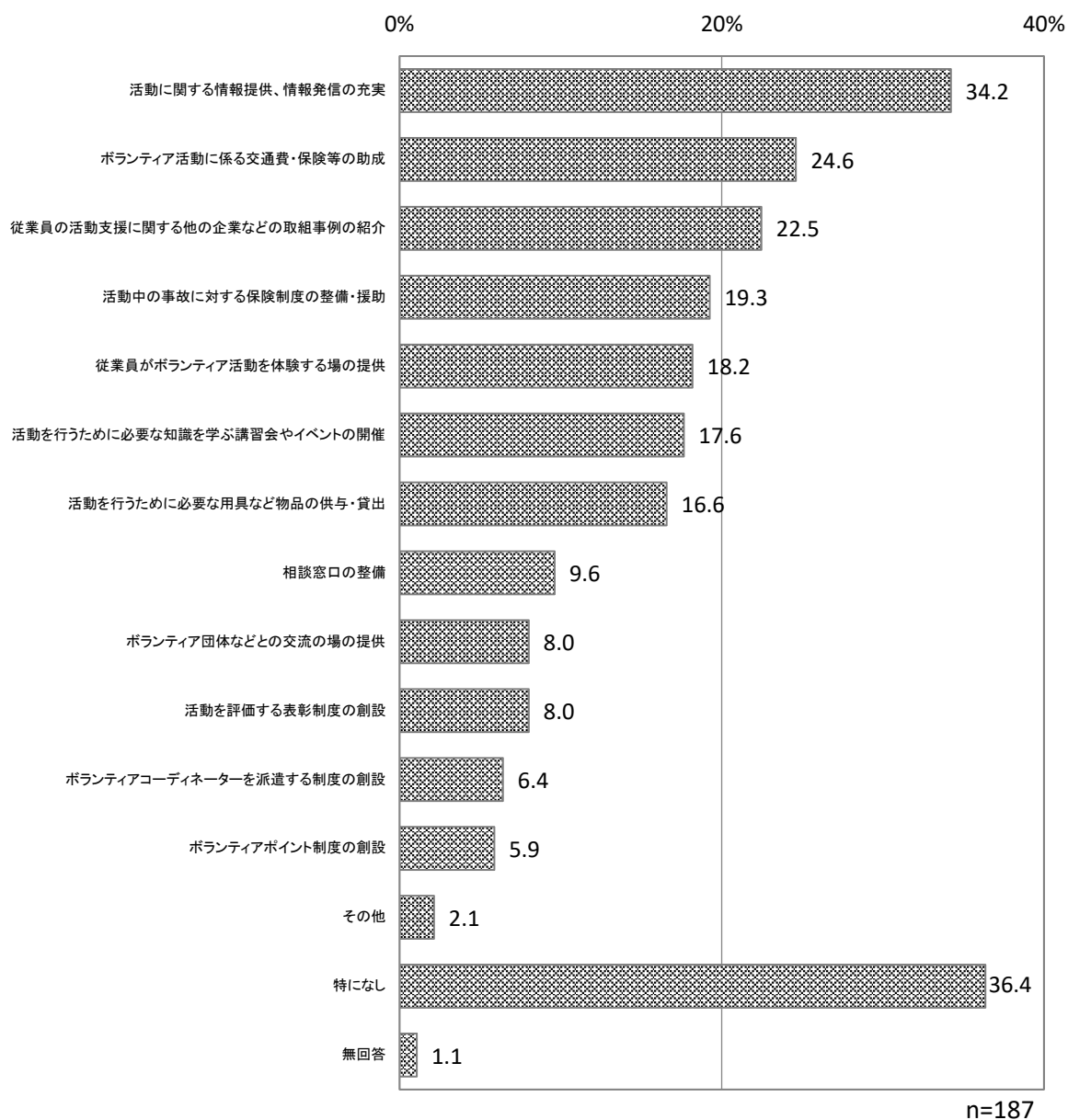
ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

記述内容
生産性向上が重要。
企業とは利益追求の場でありボランティア活動に取組む必要はないと思う。
忙しすぎてボランティアに費やす時間が取れません
現在実施している内容の継続
現在は、こども110番、教育委員会、警察署のステッカーを貼っている。会社として、社会貢献したいという思いは有るが、現状は人手不足、働きかた改革などで労働時間の短縮で零細企業としては、余裕が無い。
なかなか時間がとれず訪れることができておりませんでした。ぜひボラセンを訪問したいと考えています。
既存の活動をさらに活発にしつつ、新規活動の運用を検討している。特に当社、当社グループの行動指針でもある、環境問題への取り組みに関したボランティアを検討しており、廃棄物の減少、リサイクル、自然保護に注目した活動も考えている。
会社は営利目的、ボランティアは非営利ということで、会社で行う理由は社会的責任感から来る社会貢献でしょうか。企業のボランティア活動が盛んにならないのは、利益の出ていない会社がボランティアに力を注いでいる時間とお金の余裕がないのが1番の理由だと思います。結果として会社の取締役クラスが団体に所属してボランティア活動をするにとどまっているように思えます。従業員が粗利を月100万円稼ぐほどの体質を国として取り組むことが出来れば、心の余裕からボランティアに眼を向けることができるのではと考えます。
とにもかくにも、まずは利益を出せるよう今は努力するのみです。
トレイルランニングを核にレース出場と大会ボランティア(受付・エイド・コースマージャー・スイーパー)を継続。都内移動は自転車など低炭素を徹底します。月1回の“トレイル×クリーン”活動、初心者向け里山ラン講座、健康と環境の両面で地域に貢献します。
既存の活動における発展、深堀や地方拠点の巻き込み、災害ボランティア(社員派遣やマッチングギフト)の検討を行っていききたい。
ぜひ取り組んでいきたい。特に、海岸や河川敷など、水辺に関わること。
企業側、従業員側双方にとって、無理なく気軽に参加導入できるものから始められれば良いと思われま。ボランティアは「気軽に」が重要かと。海外に比べて日本は、ボランティアに対する気負いが、良い意味でも悪い意味でも重めなのでハードルが高くなっている傾向があるように思われます。
現在の活動は継続。社員の個人的なボランティア活動の申請があれば支援を検討する。
本社での対応は難しい
ソーシャルグッド活動休暇制度を積立休暇の活用として設けており、社員のボランティア参加を推奨していきます
グループ会社で行なっている活動もあるため、全社で検討していく。
弊社の事業活動にマッチするものについて検討したい。
経営者はしているが企業としては家族だけなので特に強制はしていない
支援団体を通じた継続的な寄付活動と、営業部支店における地域貢献活動を二本柱に取り組んでまいります。

2 1. ボランティア活動に関して望む支援

Q 2 1. (すべての方)

従業員のボランティア活動を推奨・推進するために、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

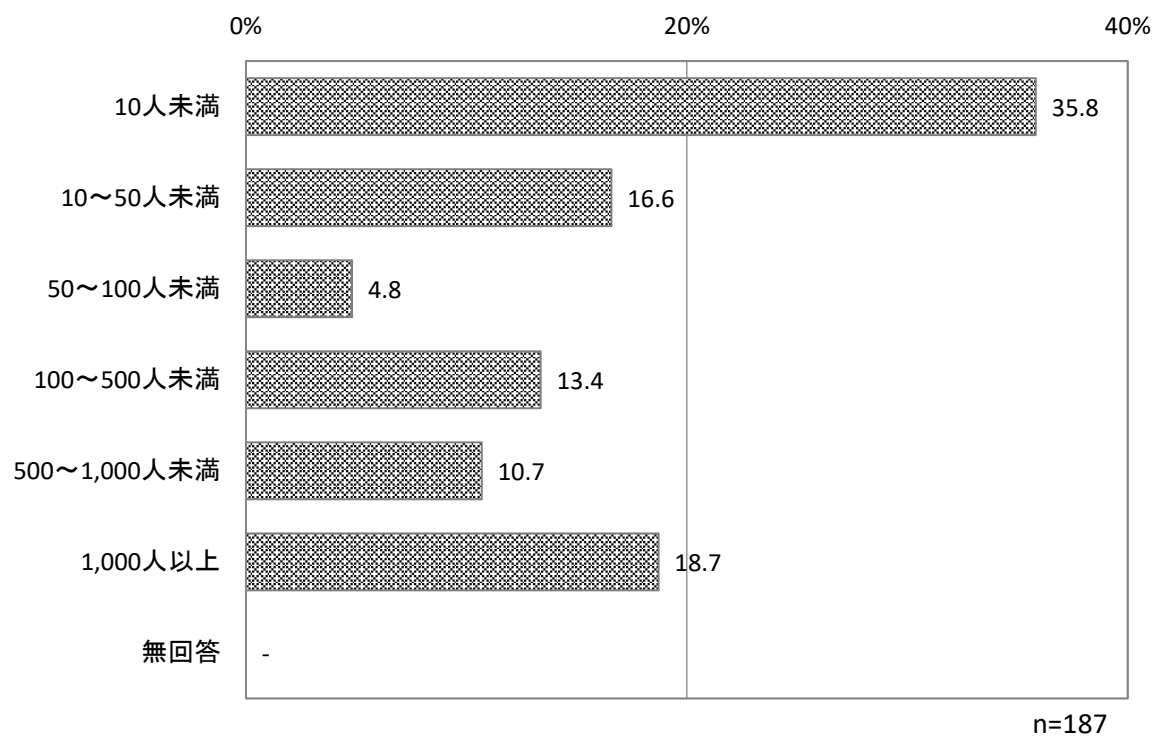


【ボランティア活動に関して望む支援】については、「活動に関する情報提供、情報発信の充実」が 34.2%、「ボランティア活動に係る交通費・保険等の助成」が 24.6%、「従業員の活動支援に関する他の企業などの取組事例の紹介」が 22.5%であった。

2. 会社の概要について

2.2. 総従業員数

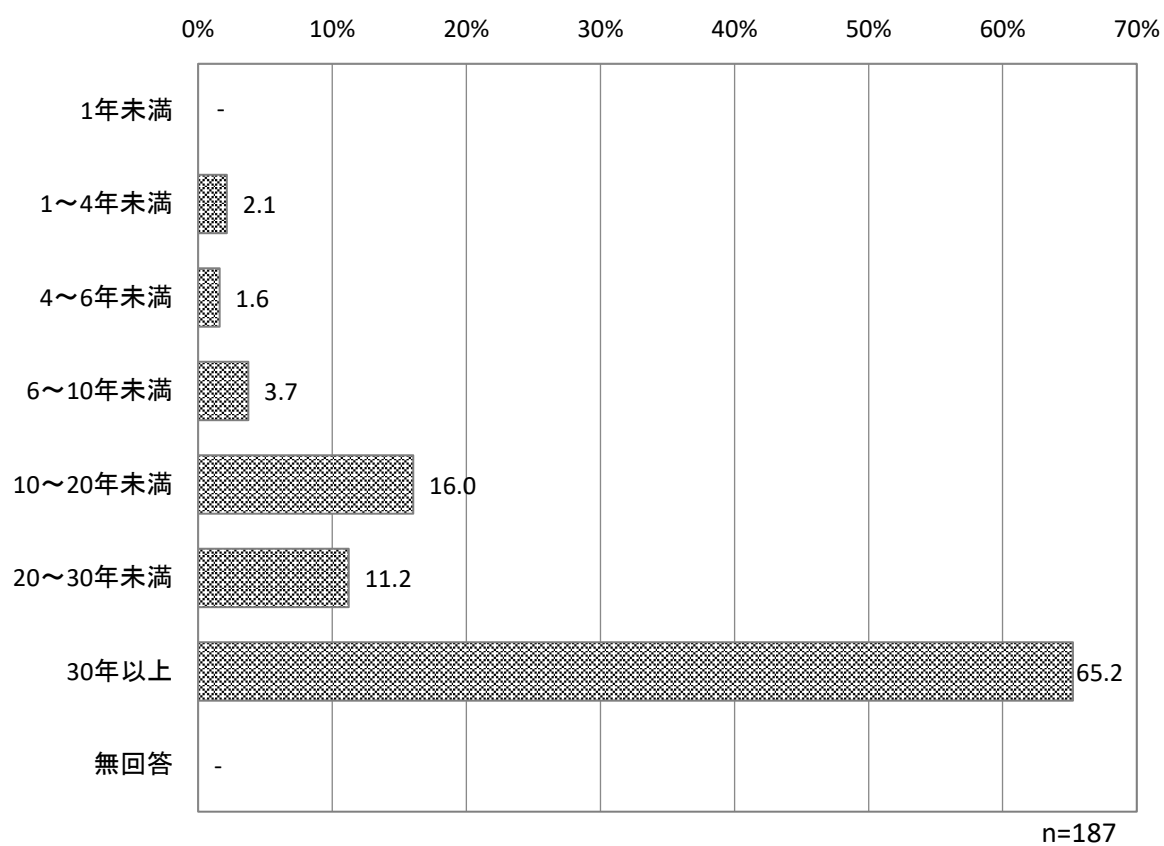
Q 2.2. 貴社の総従業員数は何人ですか。(単一回答)



【総従業員数】については、「10人未満」が35.8%、「10~50人未満」が16.6%、「50~100人未満」が4.8%、「100~500人未満」が13.4%、「500~1,000人未満」が10.7%、「1,000人以上」が18.7%であった。

23. 設立からの経過年数

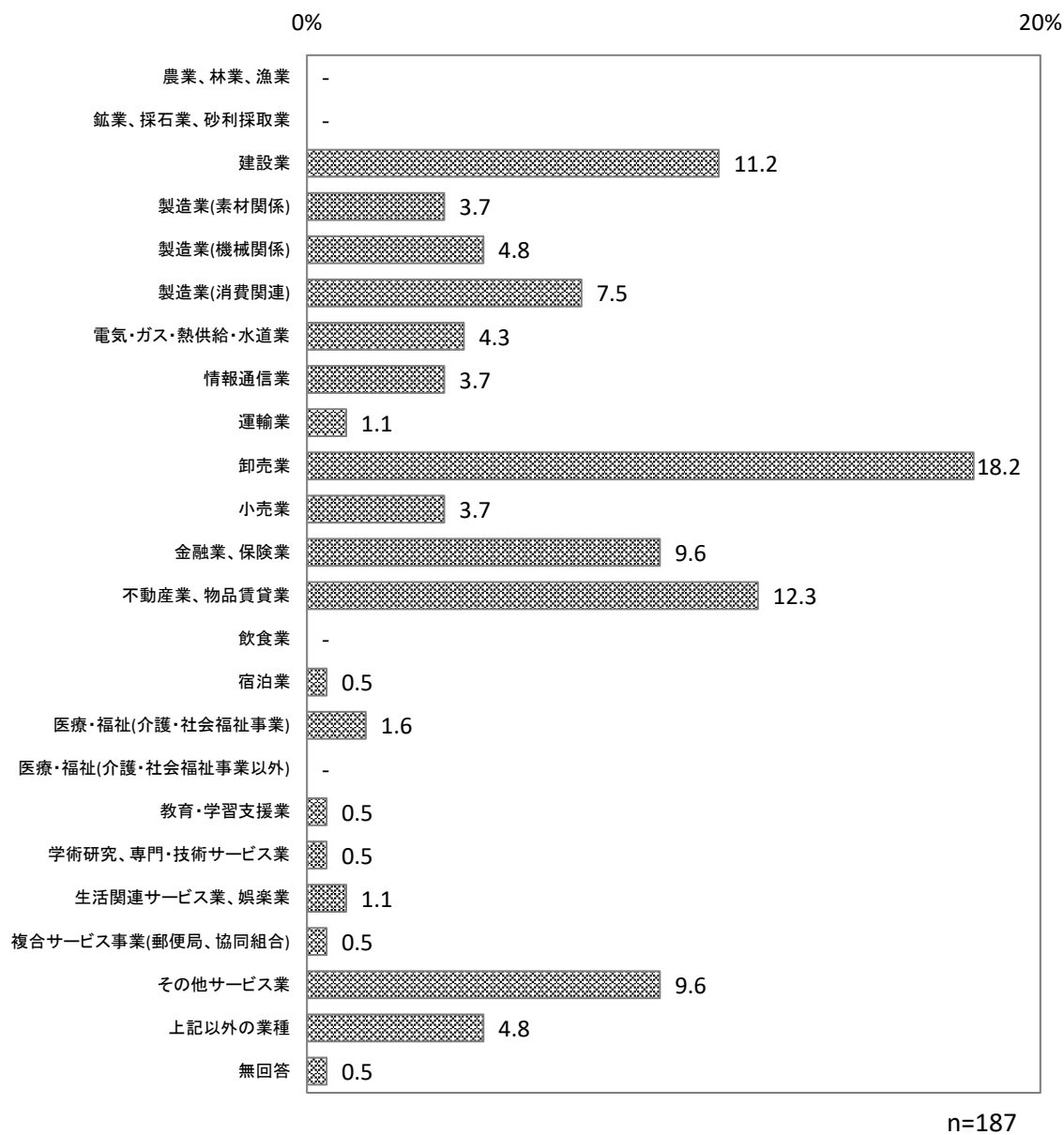
Q 23. 貴社は設立から何年経っていますか。(単一回答)



【設立からの経過年数】については、「1～4年未満」が2.1%、「4～6年未満」が1.6%、「6～10年未満」が3.7%、「10～20年未満」が16.0%、「20～30年未満」が11.2%、「30年以上」が65.2%であった。

24. 業種

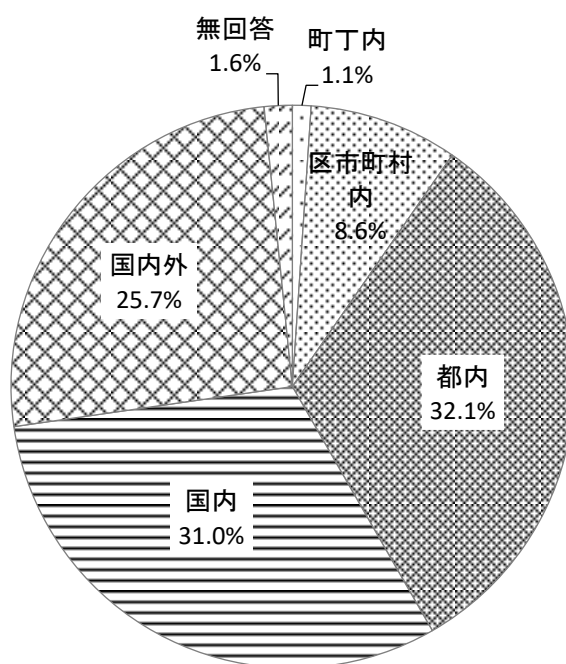
Q24. 貴社の業種は何ですか。複数該当する場合は、最も売上が大きいものについてお答えください。(単一回答)



【業種】については、「卸売業」が18.2%、「不動産業、物品賃貸業」が12.3%、「建設業」が11.2%であった。

25. 事業を行っている地域

Q25. 貴社が事業を行っている地域についてお答えください。(単一回答)

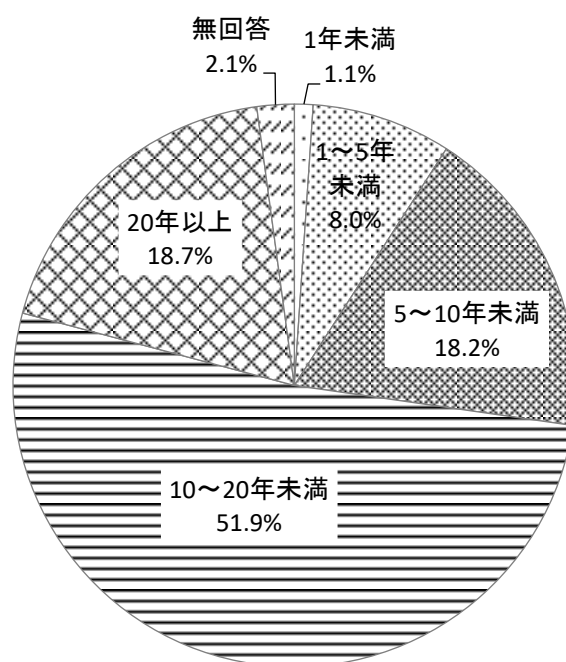


n=187

【事業を行っている地域】については、「町丁内」が1.1%、「区市町村内」が8.6%、「都内」が32.1%、「国内」が31.0%、「国内外」が25.7%であった。

26. 従業員の平均勤続年数

Q26. 貴社の従業員の平均勤続年数は何年ですか。(単一回答)

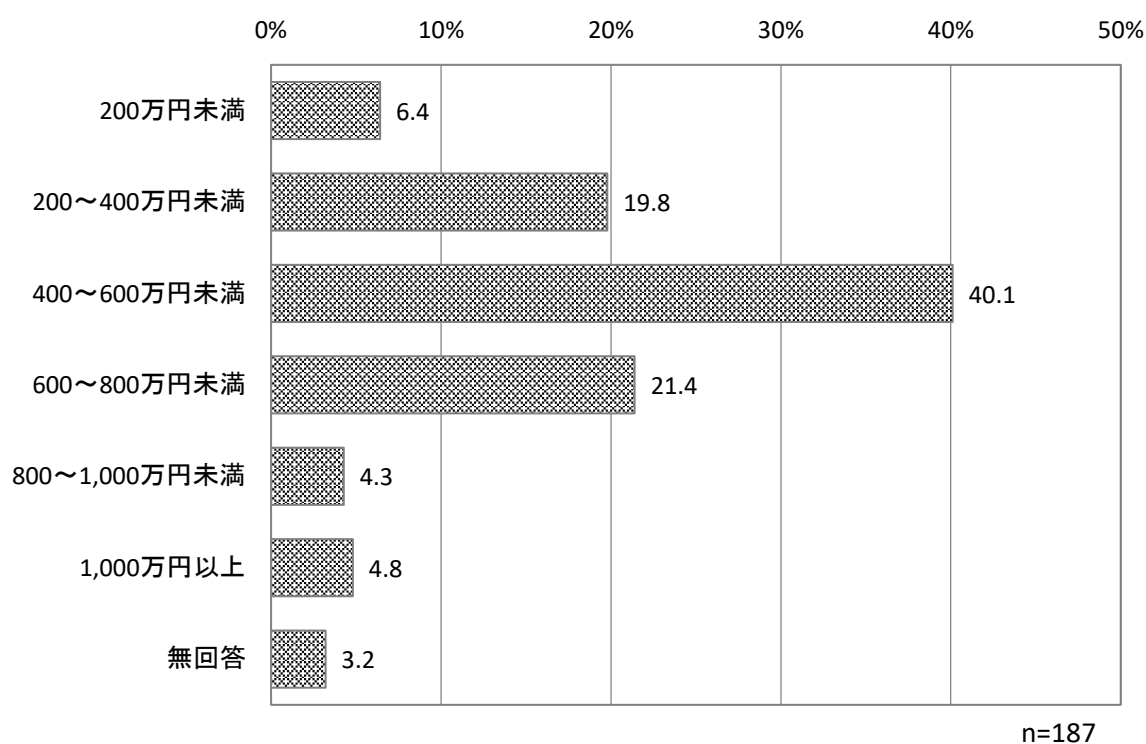


n=187

【従業員の平均勤続年数】については、「1年未満」が1.1%、「1~5年未満」が8.0%、「5~10年未満」が18.2%、「10~20年未満」が51.9%、「20年以上」が18.7%であった。

27. 従業員の平均賃金

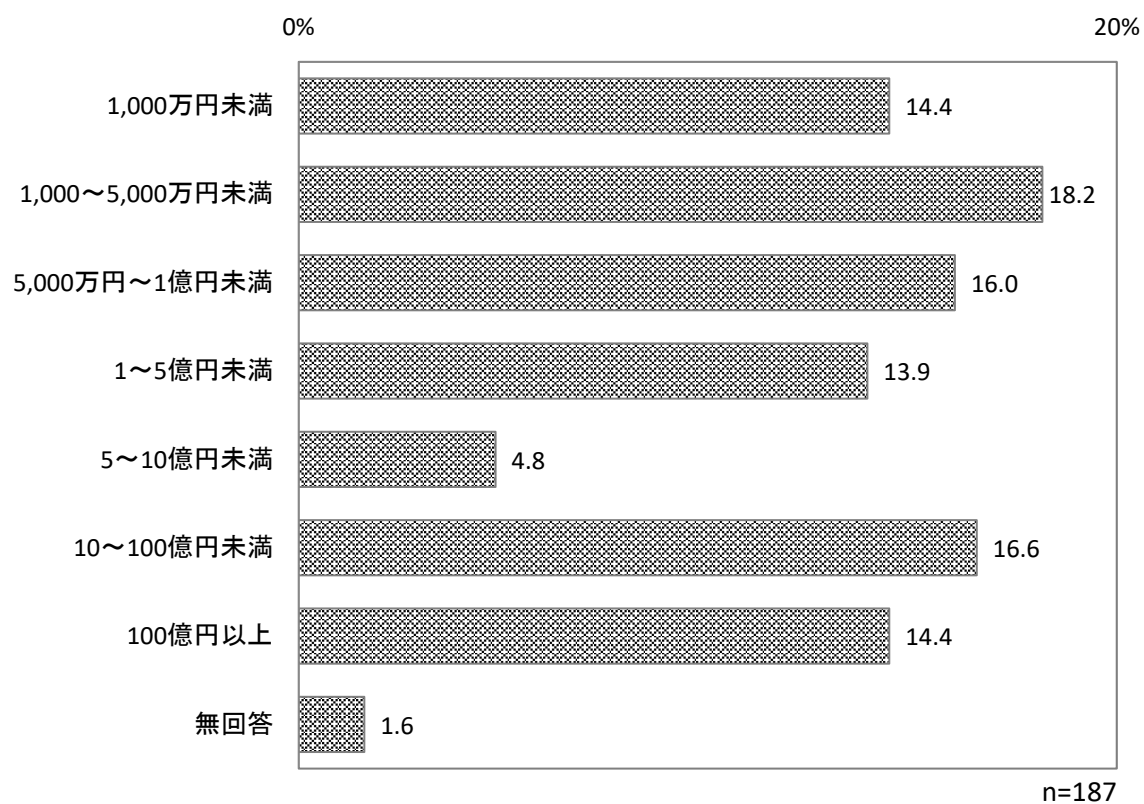
Q 27. 貴社の従業員の平均賃金はいくらですか。(単一回答)



【従業員の平均賃金】については、「200万円未満」が6.4%、「200~400万円未満」が19.8%、「400~600万円未満」が40.1%、「600~800万円未満」が21.4%、「800~1,000万円未満」が4.3%、「1,000万円以上」が4.8%であった。

28. 資本金

Q28. 貴社の資本金をお答えください。(単一回答)



【資本金】については、「1,000万円未満」が14.4%、「1,000～5,000万円未満」が18.2%、「5,000万円～1億円未満」が16.0%、「1～5億円未満」が13.9%、「5～10億円未満」が4.8%、「10～100億円未満」が16.6%、「100億円以上」が14.4%であった。

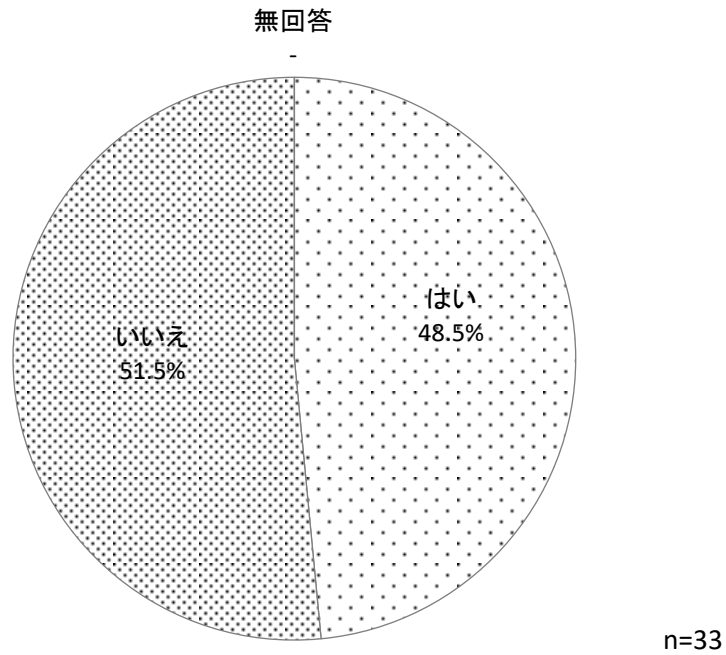
Ⅱ. NPO 法人向け調査

1. ボランティア活動について

1. ボランティアと共に取り組む事業の有無

Q 1. (すべての方)

ボランティアと一緒に取り組む事業を行っていますか。(単一回答)



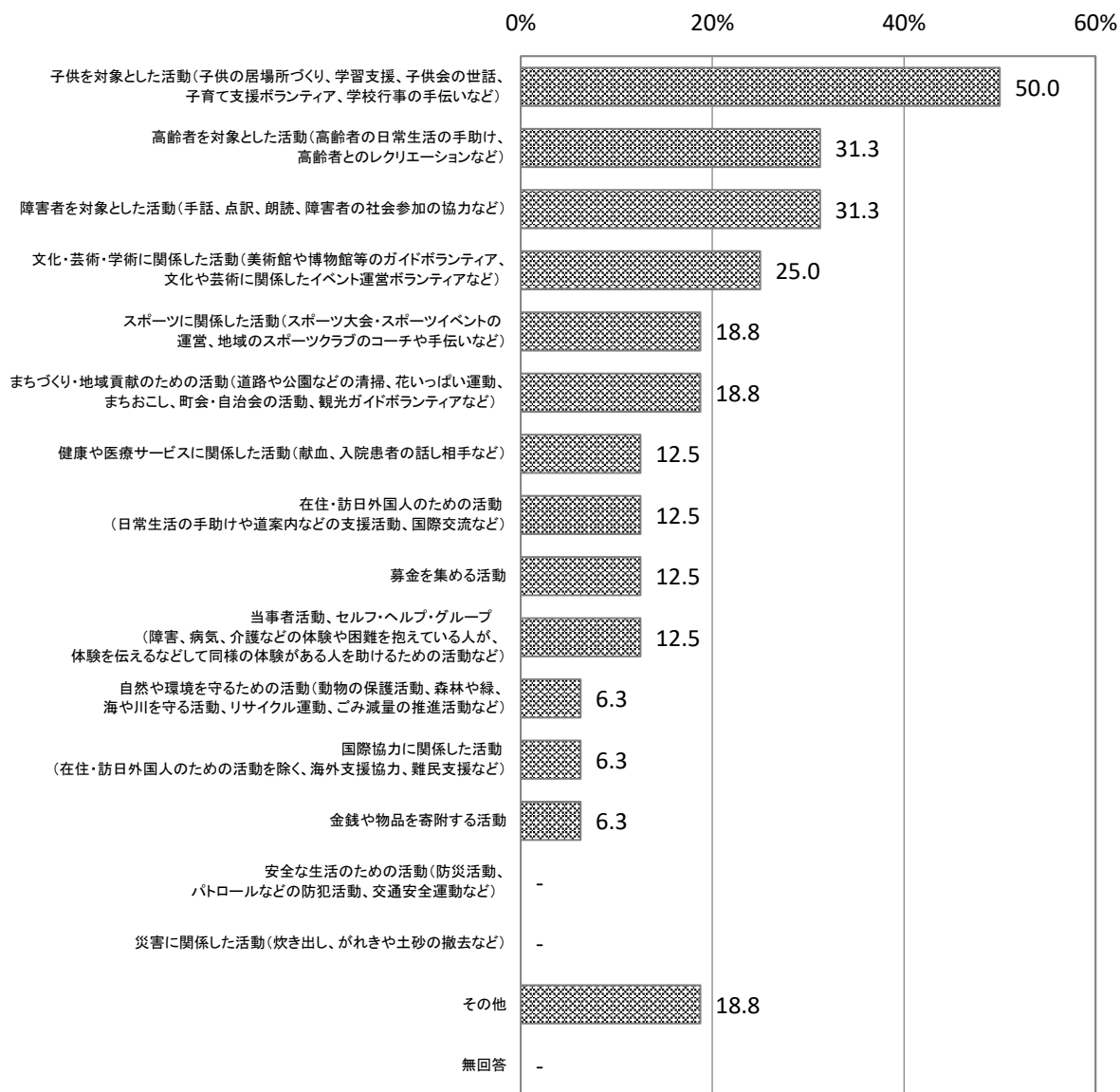
【ボランティアと共に取り組む事業の有無】については、「はい」が 48.5%、「いいえ」が 51.5%であった。

2. 企画・実施しているボランティア活動

Q2. (Q1で「1. はい」と回答した方)

貴団体が団体として企画・実施しているボランティア活動*で、当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

*名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください



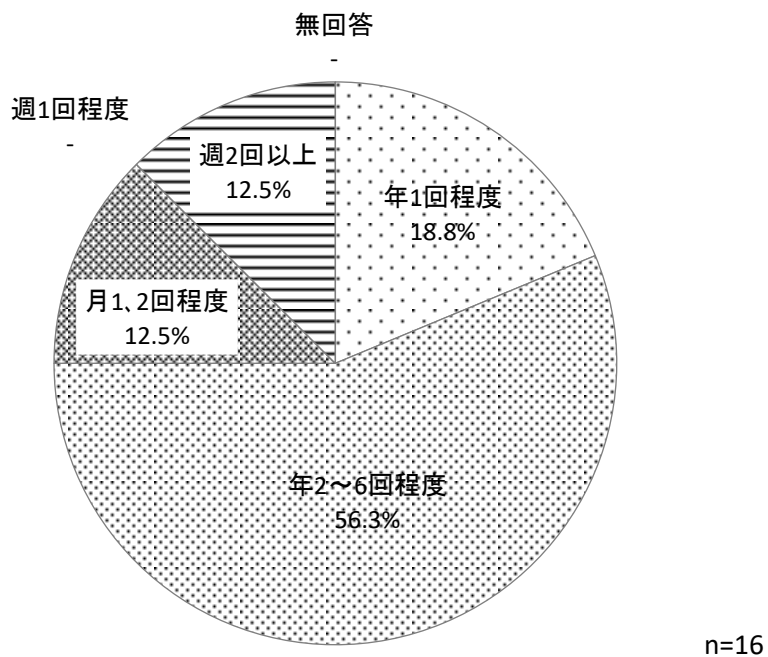
n=16

【企画・実施しているボランティア活動】については、「子供を対象とした活動」が50.0%で最も高かった。次いで、「高齢者を対象とした活動」と「障害者を対象とした活動」がいずれも31.3%、「文化・芸術・学術に関係した活動」25.0%であった。

3-1. ボランティアの年間活動頻度

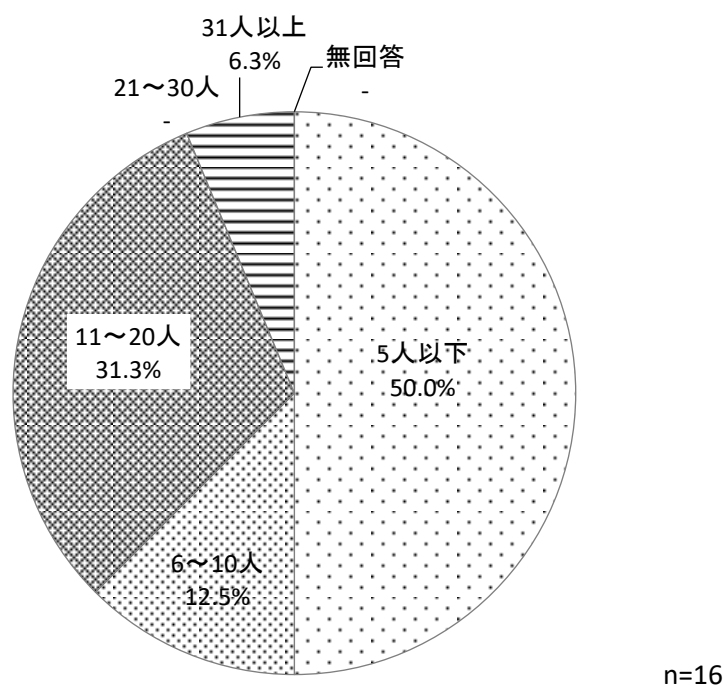
Q3. (Q1で「1. はい」と回答した方)

ボランティアが参加する活動について、年間の活動頻度及び1回あたりのボランティア活動人数・時間をお答えください。(複数の活動を企画・実施している場合は、そのうち中心的に行っている活動についてお答えください。)(それぞれ単一回答)



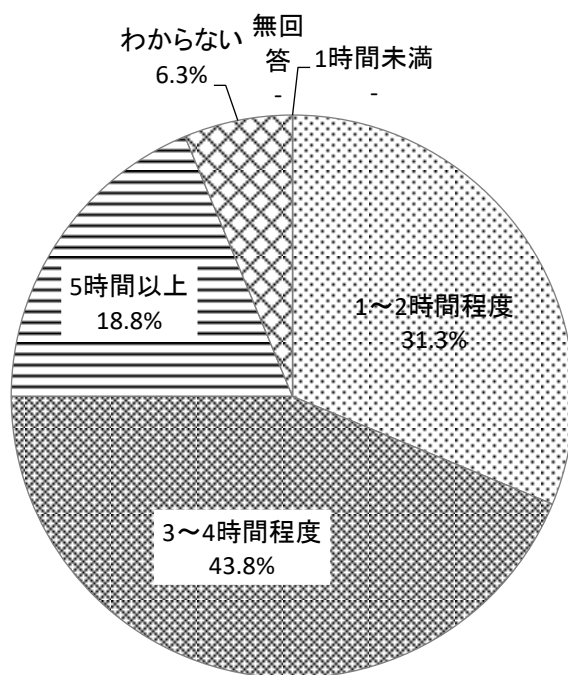
【ボランティアの年間活動頻度】については、「年1回程度」が18.8%、「年2~6回程度」が56.3%、「月1,2回程度」と「週2回以上」がいずれも12.5%であった。

3-2. ボランティアの1回あたりの活動人数



【ボランティアの1回あたりの活動人数】については、「5人以下」が50.0%、「6~10人」が12.5%、「11~20人」が31.3%、「31人以上」が6.3%であった。

3-3. ボランティアの1回あたりの平均活動時間



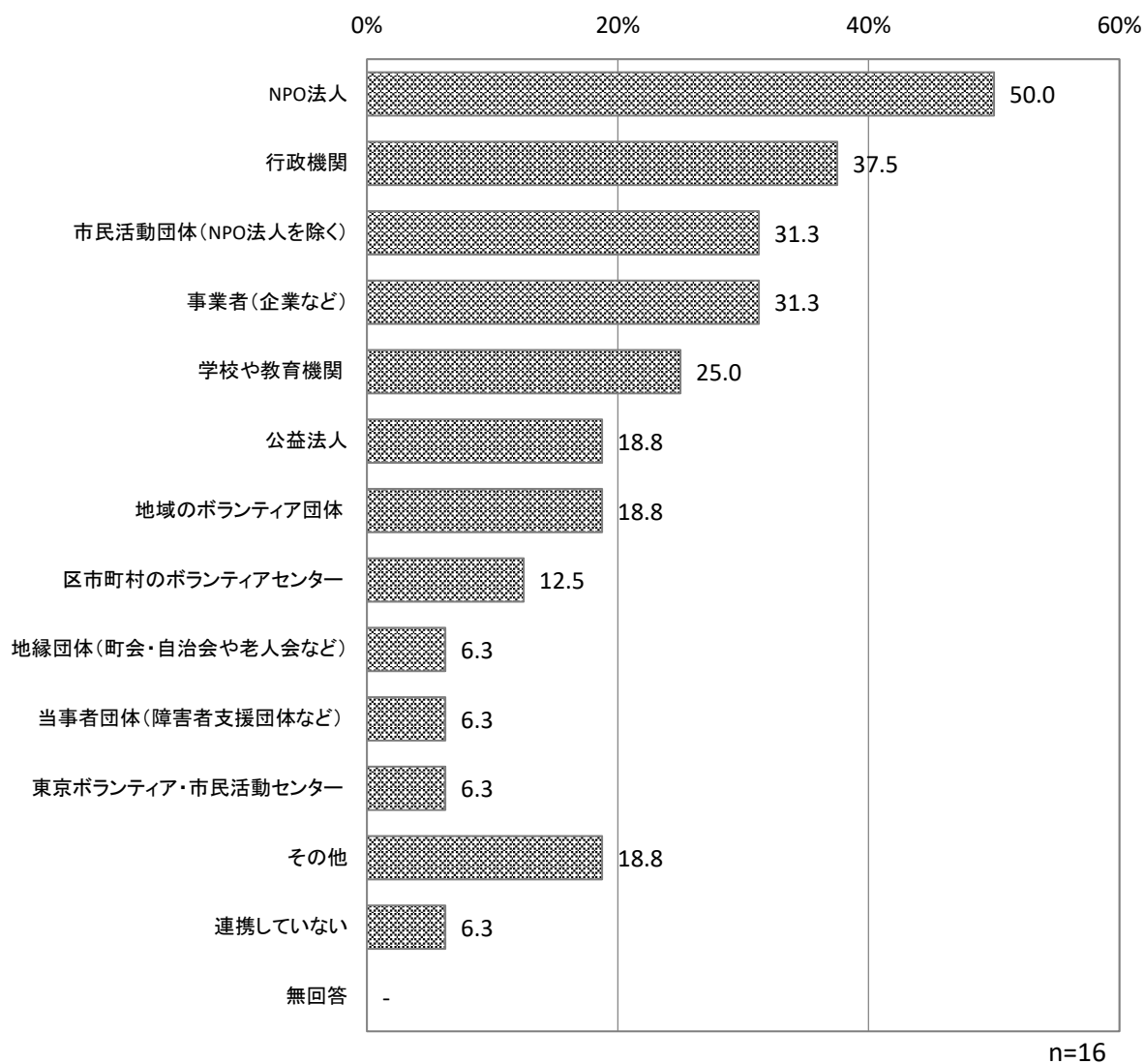
n=16

【ボランティアの1回あたりの平均活動時間】については、「1~2時間程度」が31.3%、「3~4時間程度」が43.8%、「5時間以上」が18.8%であった。

4. ボランティア活動の企画・実施にあたって、連携している団体

Q4. (Q1で「1. はい」と回答した方)

ボランティア活動（社会貢献活動）の企画・実施にあたって、連携している団体がありますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）

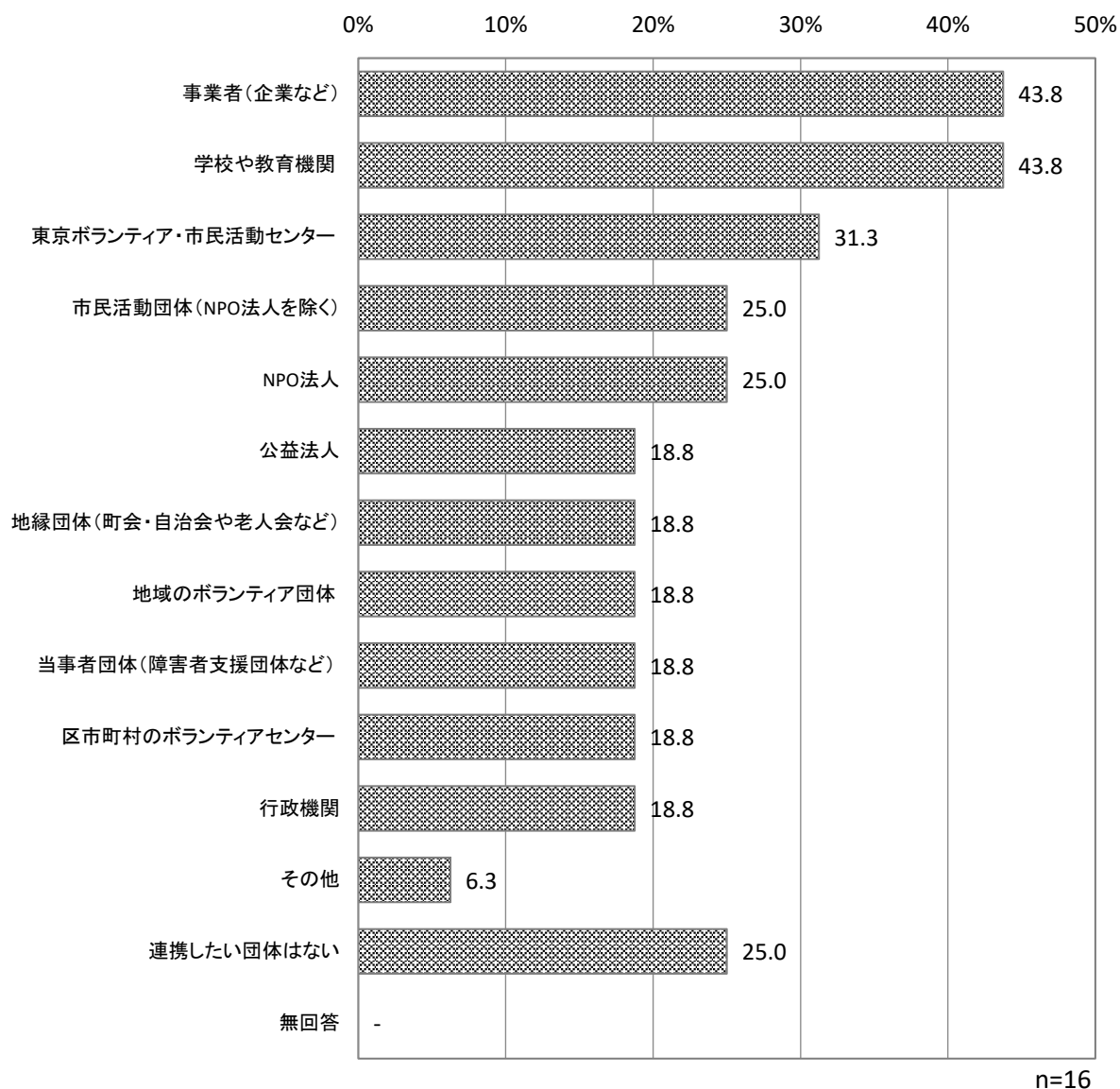


【ボランティア活動の企画・実施にあたって、連携している団体】については、「NPO法人」が50.0%で最も高かった。次いで、「行政機関」が37.5%、「市民活動団体(NPO法人を除く)」と「事業者(企業など)」がいずれも31.3%であった。

5. ボランティア活動の企画・実施にあたって、今後連携したい団体

Q5. (Q1で「1. はい」と回答した方)

ボランティア活動の企画・実施にあたって、今後連携したい団体があれば、当てはまるものをお答えください。(複数回答)



【ボランティア活動の企画・実施にあたって、今後連携したい団体】については、「事業者(企業など)」と「学校や教育機関」がいずれも43.8%で最も高かった。次いで、「東京ボランティア・市民活動センター」が31.3%、「市民活動団体(NPO法人を除く)」と「NPO法人」がいずれも25.0%であった。

6. 具体的な連携内容

Q6. (Q4またはQ5で1～12と回答した方)

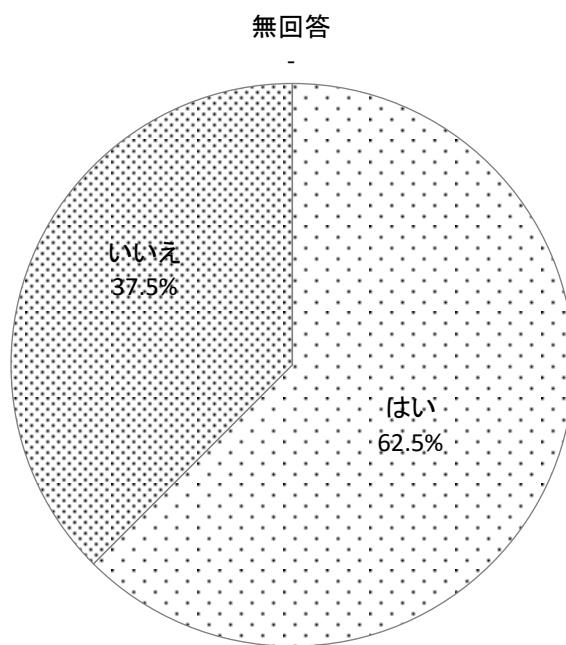
現在、どのような連携をしていますか。または今後、どのような連携をしたいですか。具体的にお書きください。

記述内容
配食活動など
主に他国の人材育成を行っています。短期間はありません、長い年月を掛け機が熟したところで実施しております。その為なかなか計画的には行えていません。
イベント運営、金銭物品の協賛
個人のボランティアの皆様に使われています。今後はもっと広げていけるように、事業者や行政機関にもご協力いただけたらと思っています。
施設提供、広報
他団体との共催行事。障害児者についての社会啓発活動と、当事者の積極的な社会参加の促進を目的としている。 行政への要望を、集約して提言。
近隣学校に案内を置かせてもらったり、施設を使えるとありがたい。
区役所の管轄する集会室を利用し活動を行います。
イベント、ファンレイジング
来日高校生グループの観光案内（東京、京都）
毎活動自体が様々なので、一概には言えないが、導線の誘導や子どもへのアプローチ、さらには運営スタッフとして携わってもらっております。
視覚障害者の歩行サポートや解説などの依頼をし、連携をしています
商店会とは年一度のお祭りを行う際に連携している

7. 現状のボランティアの参加人数は十分か

Q7. (Q1で「1. はい」と回答した方)

現状でボランティアの参加人数は十分だと考えますか。(単一回答)



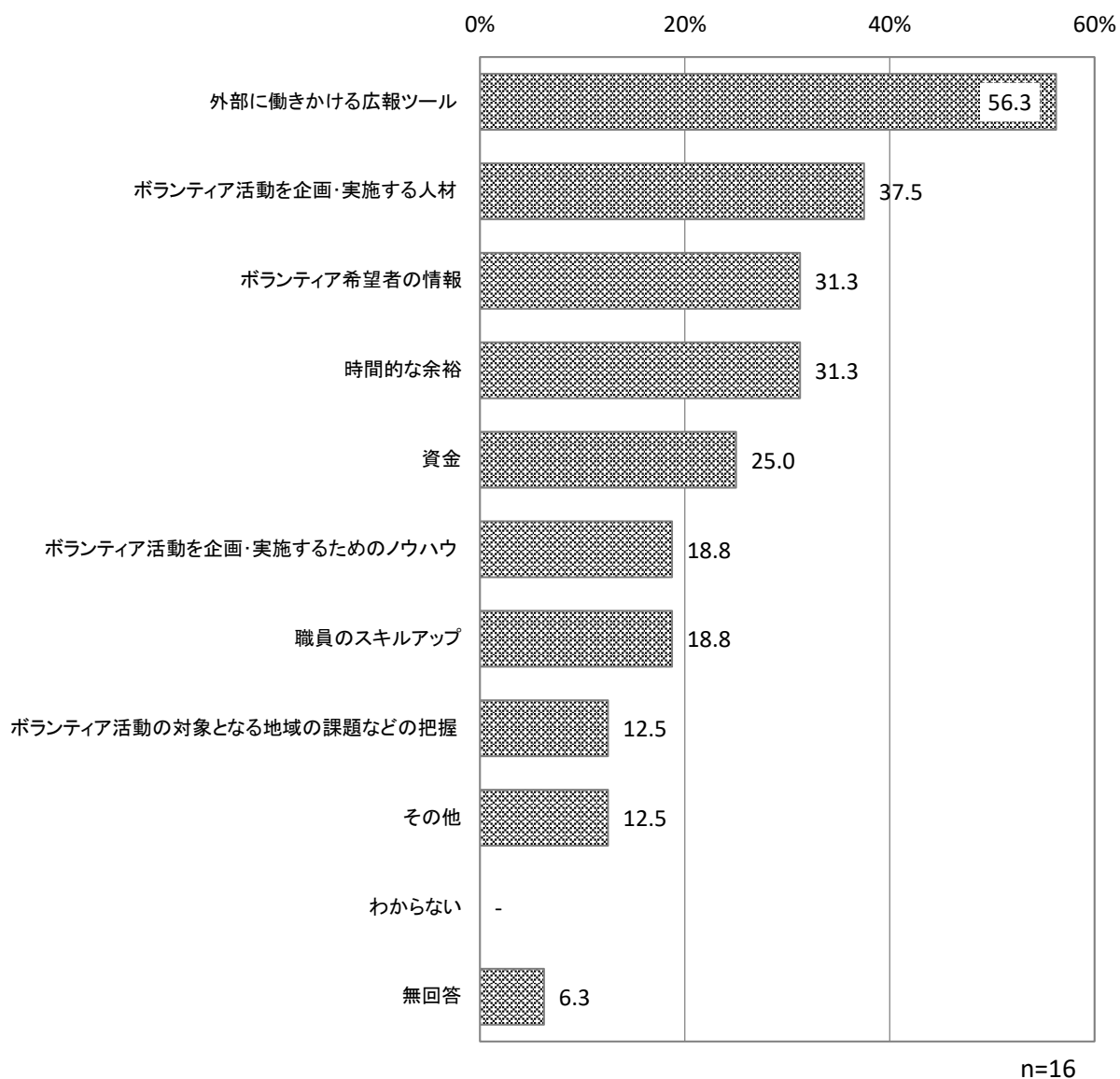
n=16

【現状のボランティアの参加人数は十分か】については、「はい」が 62.5%、「いいえ」が 37.5%であった。

8. ボランティアの参加人数を増やすために必要なこと

Q8. (Q1で「1. はい」と回答した方)

ボランティアの参加人数を増やしていくためにはどのようなことが必要ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

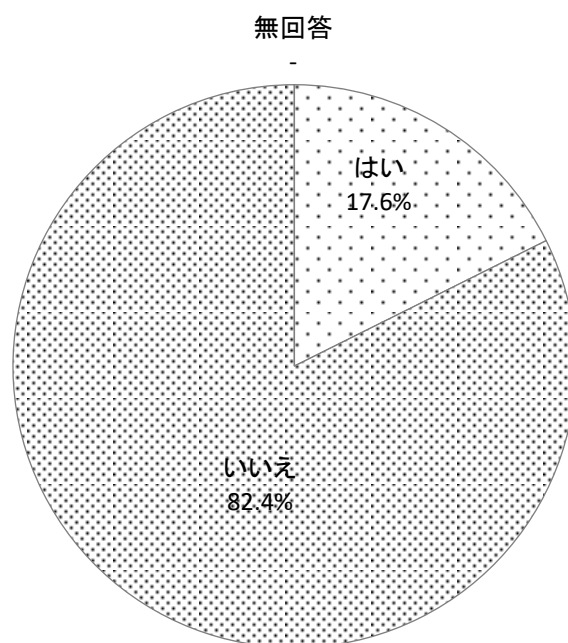


【ボランティアの参加人数を増やすために必要なこと】については、「外部に働きかける広報ツール」が 56.3%で最も高かった。次いで、「ボランティア活動を企画・実施する人材」が 37.5%、「ボランティア希望者の情報」と「時間的な余裕」がいずれも 31.3%であった。

9. ボランティアと共に取り組む事業を行いたいか

Q9. (Q1で「2. いいえ」と回答した方)

ボランティアと一緒に取り組む事業を行いたいですか。(単一回答)

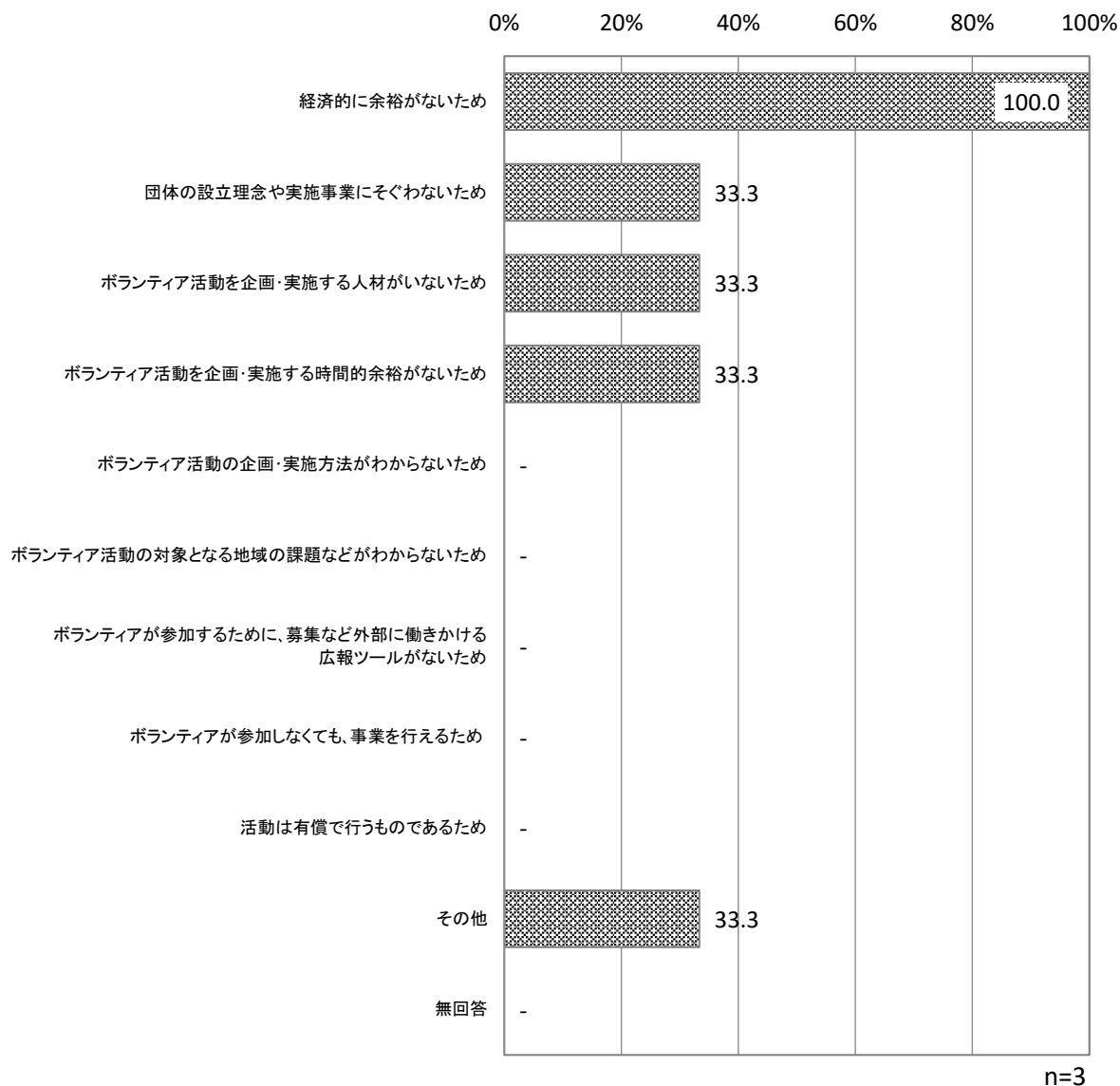


【ボランティアと共に取り組む事業を行いたいか】については、「はい」が 17.6%、「いいえ」が 82.4%であった。

10. ボランティアを募集した活動を実施できていない理由

Q10. (Q9で「1. はい」と回答した方)

ボランティアを募集した活動を行いたくてもできていない理由について、当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)



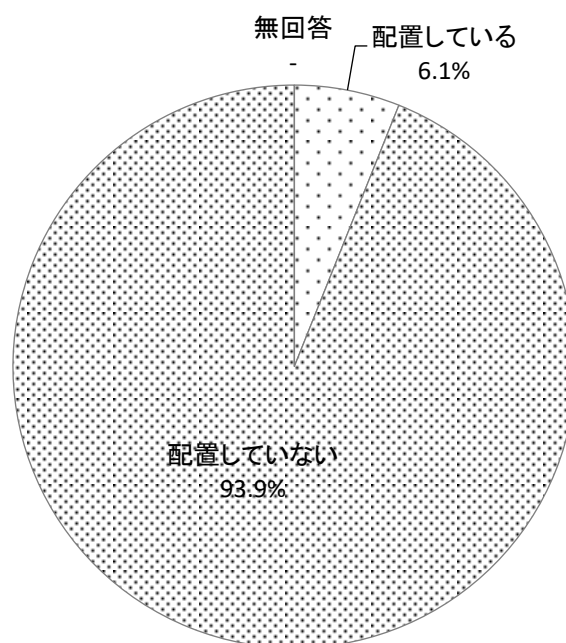
【ボランティアを募集した活動を実施できていない理由】については、「経済的に余裕がないため」が 100.0%で最も高かった。次いで、「団体の設立理念や実施事業にそぐわないため」と「ボランティア活動を企画・実施する人材がないため」と「ボランティア活動を企画・実施する時間的余裕がないため」、「その他」のいずれも 33.3%であった。

11. ボランティアコーディネーター配置の有無

Q11. (すべての方)

ボランティアコーディネーター*を配置していますか。(単一回答)

*ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受入れ側とを調整する人材



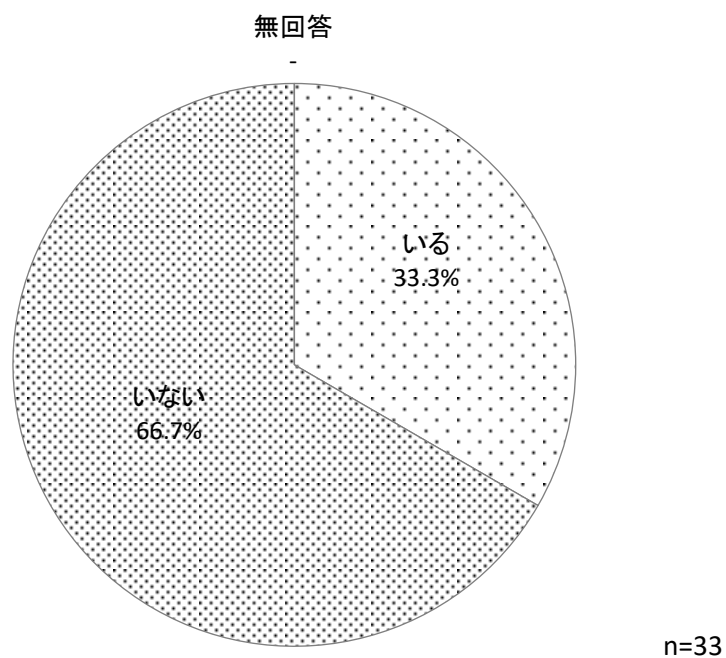
n=33

【ボランティアコーディネーター配置の有無】については、「配置している」が6.1%、「配置していない」が93.9%であった。

12. 運営にボランティアとして関わっている方の有無

Q12. (すべての方)

貴団体の運営にボランティアとして関わっている方はいますか。(単一回答)

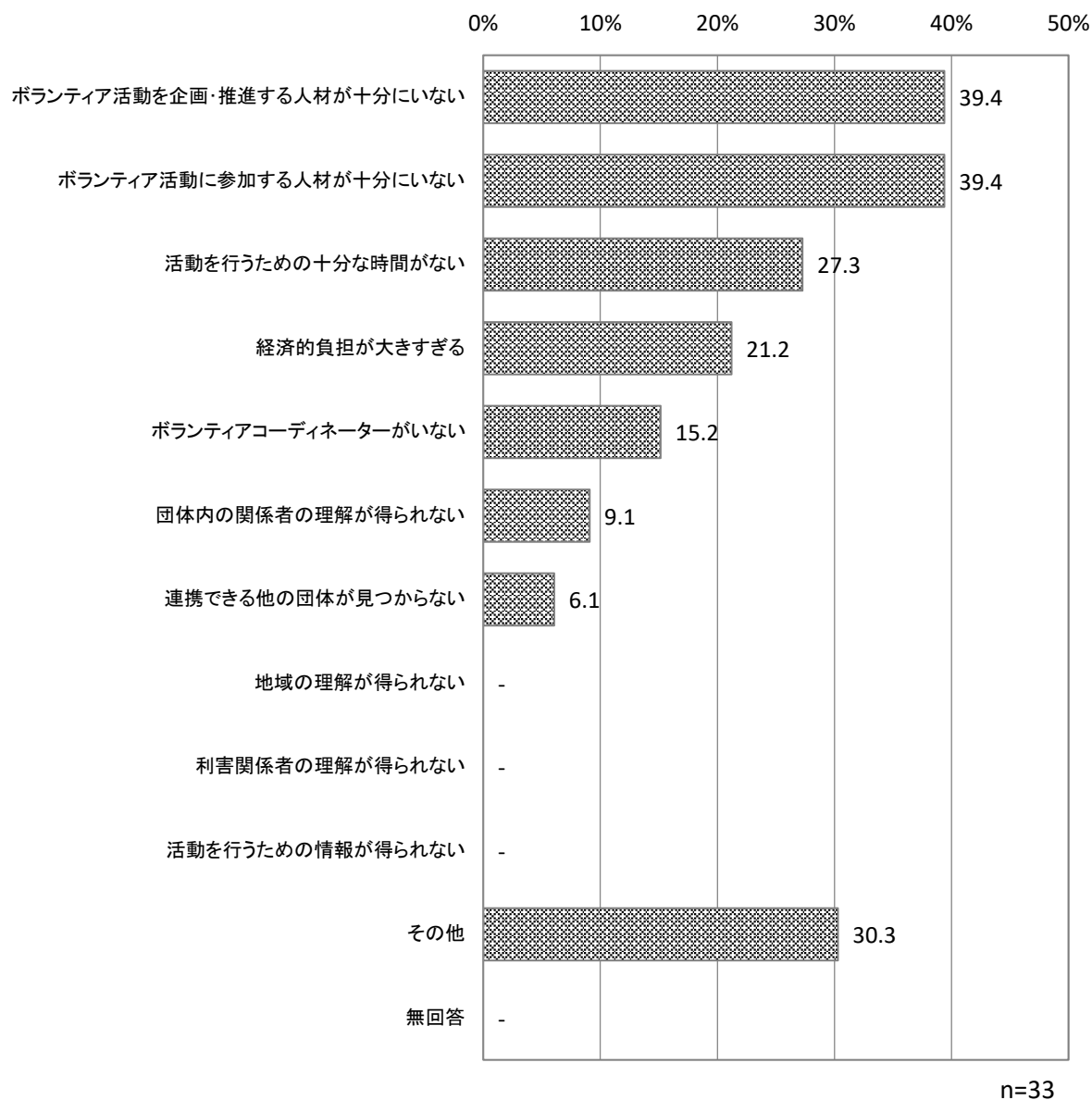


【運営にボランティアとして関わっている方の有無】については、「いる」が 33.3%、「いない」が 66.7%であった。

13. ボランティア活動を推進するにあたっての課題

Q13. (すべての方)

貴団体のボランティア活動（社会貢献活動）を推進するにあたっての課題をすべてお答えください。（複数回答）

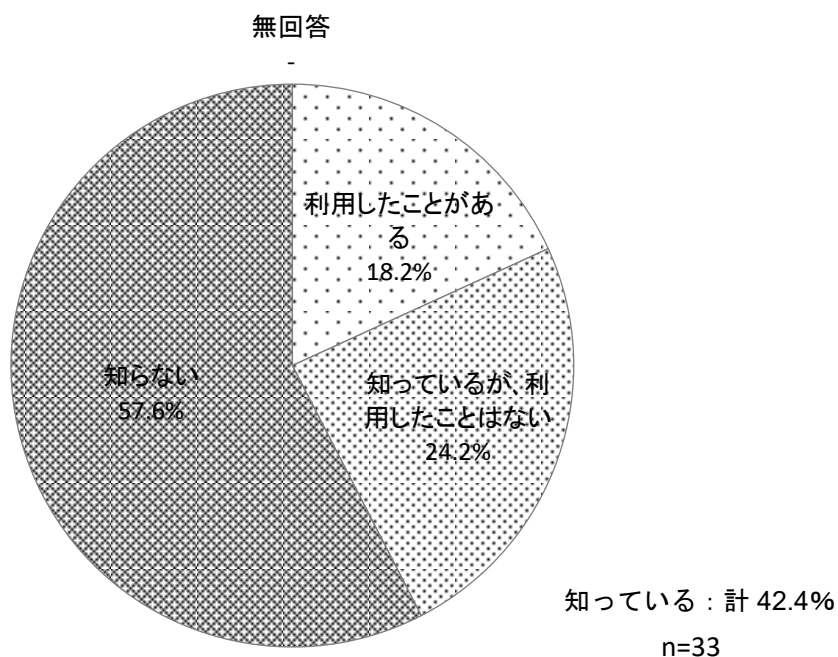


【ボランティア活動を推進するにあたっての課題】については、「ボランティア活動を企画・推進する人材が十分にいない」と「ボランティア活動に参加する人材が十分にいない」がいずれも 39.4%で最も高かった。次いで、「活動を行うための十分な時間がない」が 27.3%、「経済的負担が大きすぎる」が 21.2%であった。

14. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度および利用経験

Q14. (すべての方)

東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存じですか。また、利用したことはありますか。(単一回答)



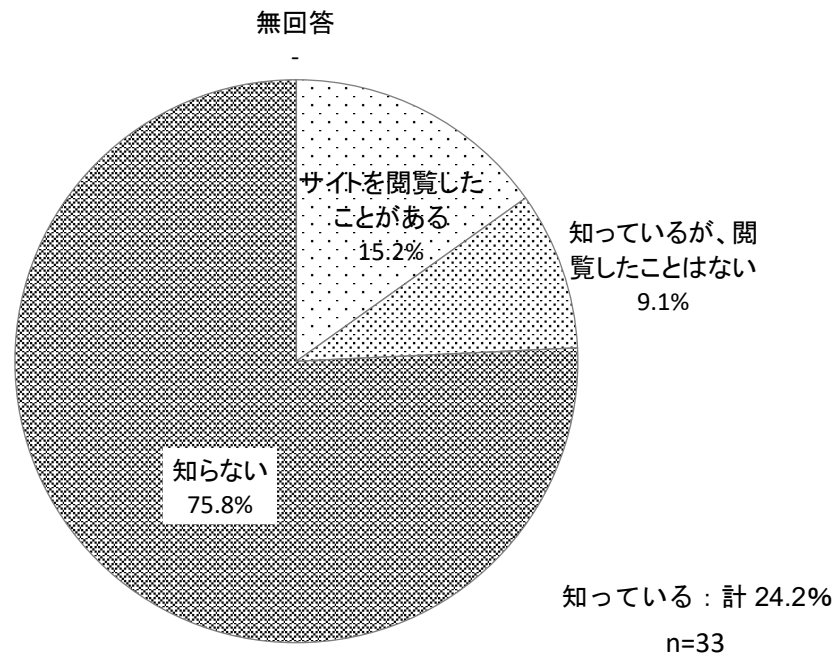
(注)【知っている：計】は「利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」の合計

【東京ボランティア・市民活動センターの認知度および利用経験】については、「利用したことがある」が18.2%、「知っているが、利用したことはない」が24.2%、「知らない」が57.6%であった。

15. 「ボラ市民ウェブ」の認知度および閲覧経験

Q15. (すべての方)

東京ボランティア・市民活動センターのウェブサイト「ボラ市民ウェブ」はご存じですか。また、閲覧したことはありますか。(単一回答)

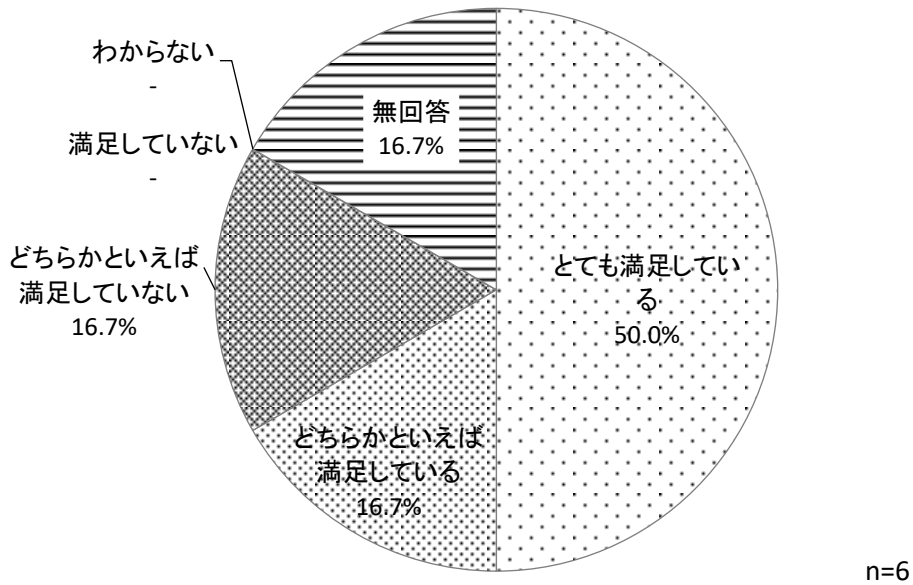


(注)【知っている：計】は「サイトを閲覧したことがある」「知っているが、閲覧したことはない」の合計

【「ボラ市民ウェブ」の認知度および閲覧経験】については、「サイトを閲覧したことがある」が15.2%、「知っているが、閲覧したことはない」が9.1%、「知らない」が75.8%であった。

16. 利用後の満足度

Q16. (Q14またはQ15で「1. 利用したことがある」と回答した方) 利用して、満足されましたか。(単一回答)

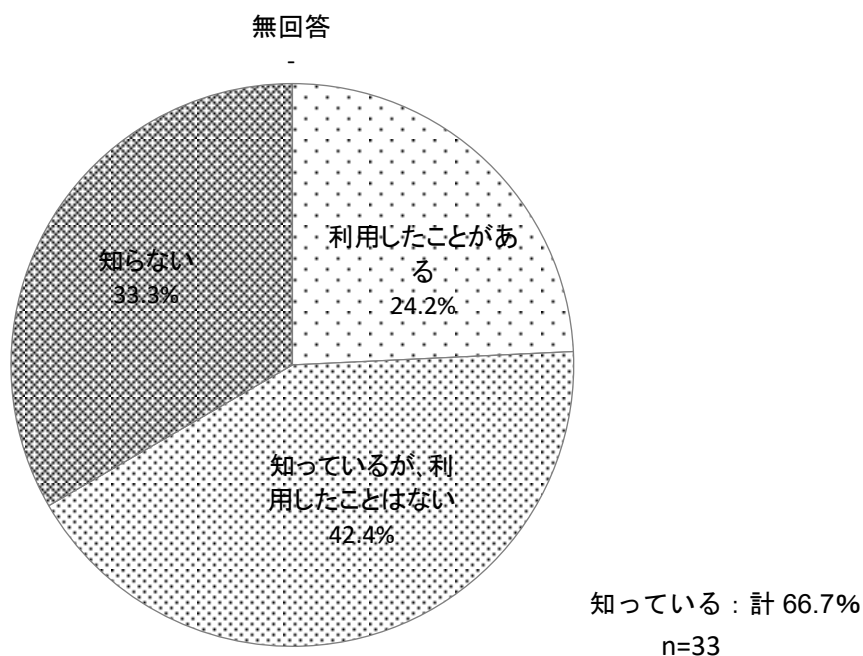


【利用後の満足度】については、「とても満足している」が 50.0%、「どちらかといえば満足している」と「どちらかといえば満足していない」がいずれも 16.7%であった。

17. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度および利用経験

Q17. (すべての方)

区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。(単一回答)



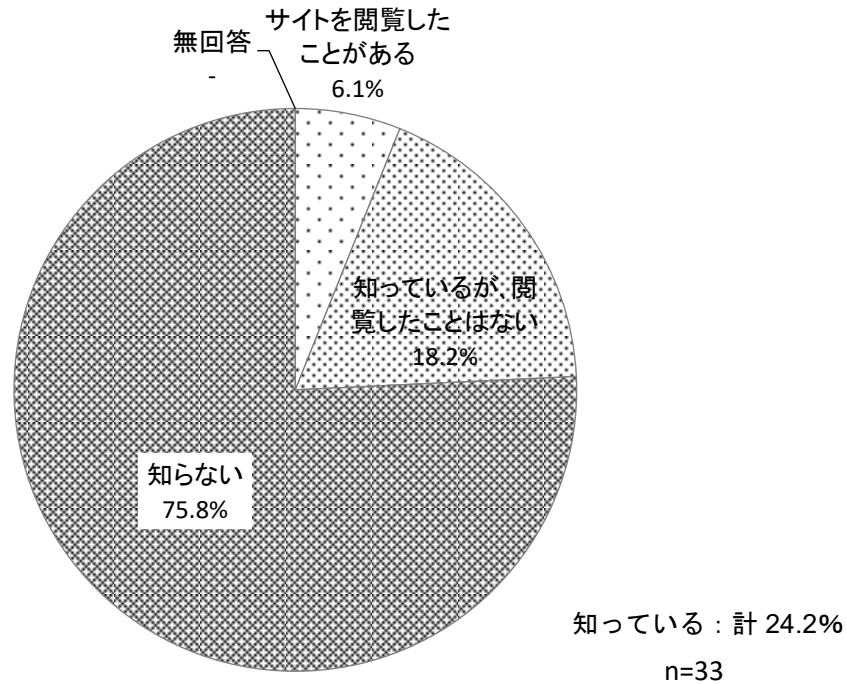
(注)【知っている：計】は「利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」の合計

【社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度および利用経験】については、「利用したことがある」が 24.2%、「知っているが、利用したことはない」が 42.4%、「知らない」が 33.3%であった。

18. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度および閲覧経験

Q18. (すべての方)

東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。(単一回答)



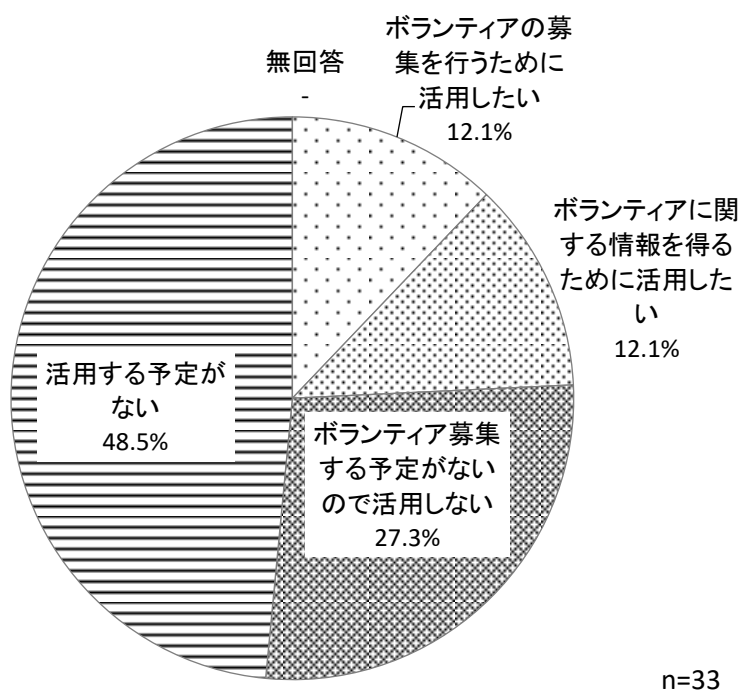
(注)【知っている：計】は「サイトを閲覧したことがある」「知っているが、閲覧したことはない」の合計

【「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度および閲覧経験】については、「サイトを閲覧したことがある」が6.1%、「知っているが、閲覧したことはない」が18.2%、「知らない」が75.8%であった。

19. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」を今後活用したいか

Q19. (すべての方)

「東京ボランティアレガシーネットワーク」を今後活用したいと思いますか。(単一回答)

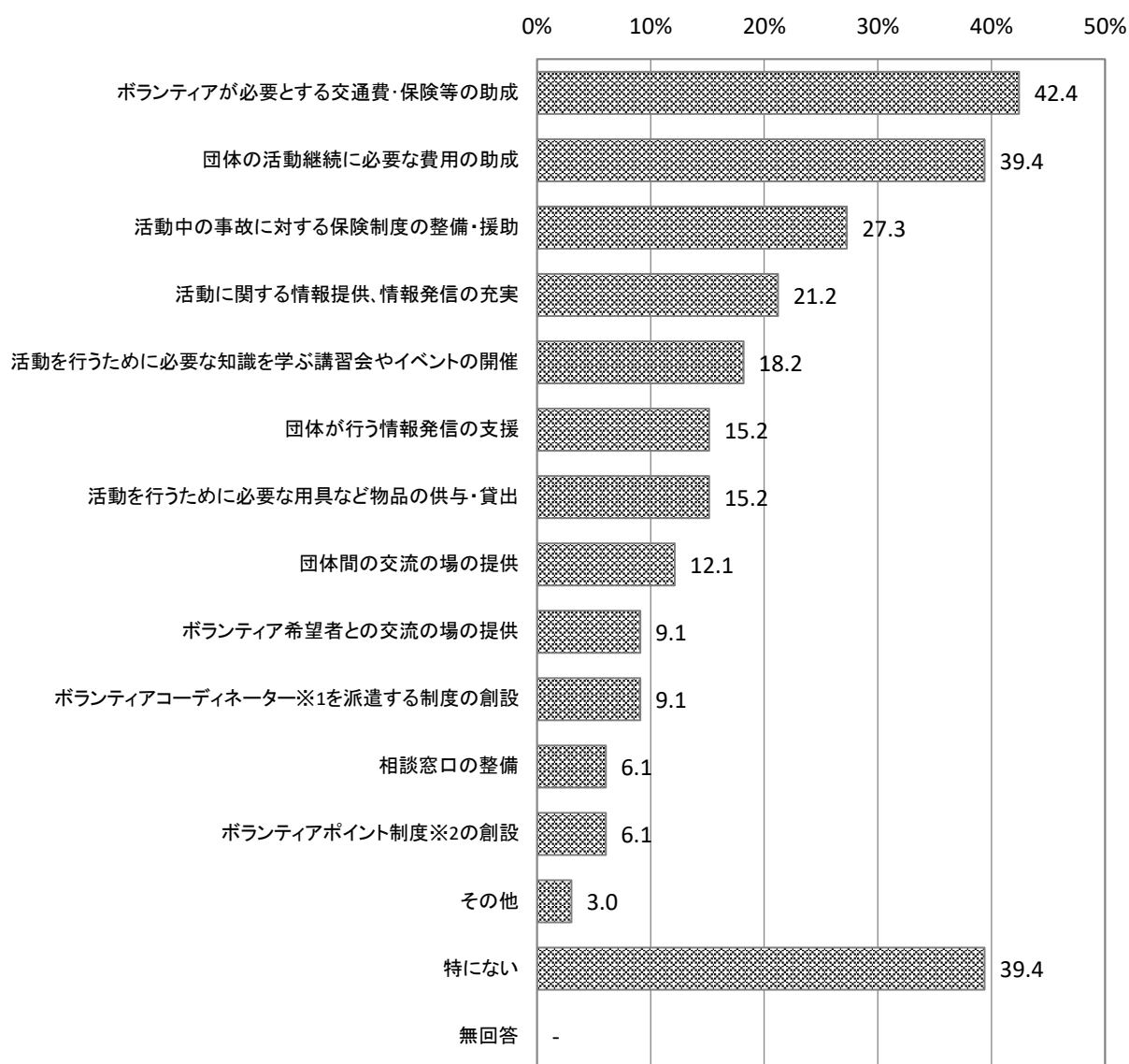


【「東京ボランティアレガシーネットワーク」を今後活用したいか】については、「ボランティアの募集を行うために活用したい」と「ボランティアに関する情報を得るために活用したい」がいずれも12.1%、「ボランティア募集する予定がないので活用しない」が27.3%、「活用する予定がない」が48.5%であった。

20. ボランティア活動に関して望む支援

Q20. (すべての方)

貴団体のボランティア活動に関して、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)



n=33

※1 ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側とを調整する人材

※2 ボランティアポイント制度：ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じた特典を受けられる制度

【ボランティア活動に関して望む支援】については、「ボランティアが必要とする交通費・保険等の助成」が42.4%で最も高かった。次いで、「団体の活動継続に必要な費用の助成」が39.4%、「活動中の事故に対する保険制度の整備・援助」が27.3%であった。また、「特にない」は39.4%であった。

2 1. 今後の取組意向

Q 2 1. (すべての方)

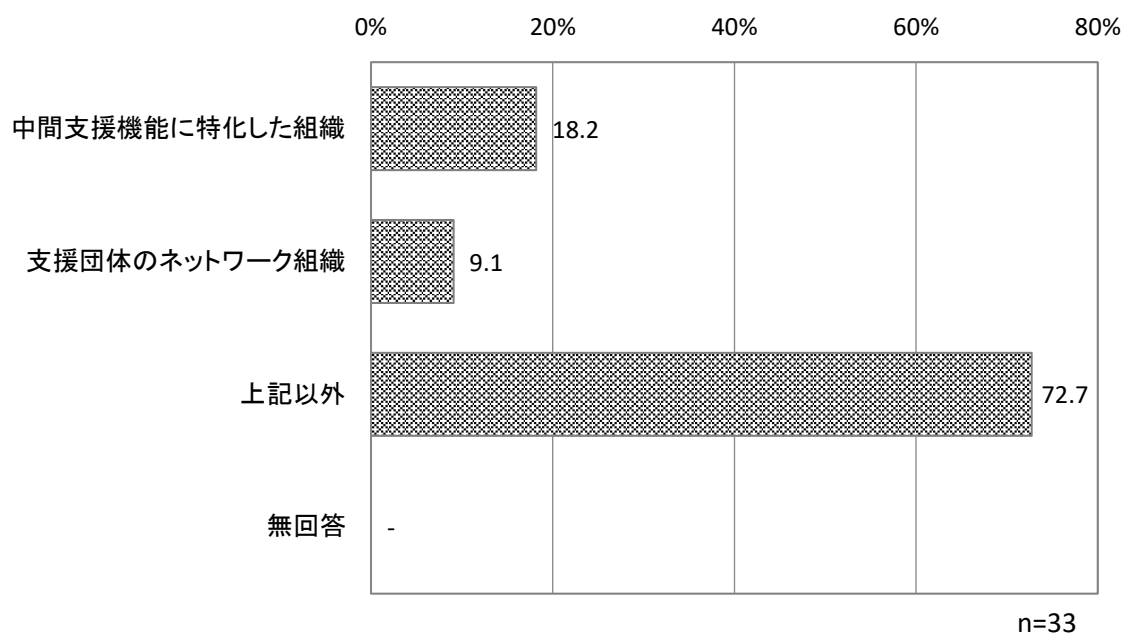
ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

記述内容
保育という仕事をボランティアにお願いする事に少し違和感を持っています。自分達がボランティアをするには人手に余力がありません。
こども食堂をしようとした際に相談窓口の方が威圧感のある話し方であったため、新参者にも優しい感じで対応してほしい。
以前、ボランティアの方が来ていた時があったが、園児に関わるケガ等があり責任の所在がむずかしかった。
法人の現業スタッフへの負担が非常に大きいのが現状なため、ボランティア活動を担うボランティアとコーディネーター、拠点等が必要と考える。
当 NPO 法人ですが人材不足で活動が出来てない状態です。どこかに良い相談窓口等がないかと思ってまして、なにか有りましたら相談させてください。よろしく願いいたします。
区をまたいで活動したいので、区の社会福祉協議会以外の支援団体が欲しいです。
弊団体がボランティアを必要とする活動が不定期なので、その都度の声掛けになってしまう現状があります。それでも理解してくださるボランティアが中心ですが、長年携わってくれているボランティアスタッフについては、なるべくボランティアという枠を超え、少しでも謝金を払ってあげられる制度を構築したいと思っております。
社会的に若者がもっとボランティアに興味をもつ社会になってほしいです！

2. 団体の概要について

2.2. 活動の性質

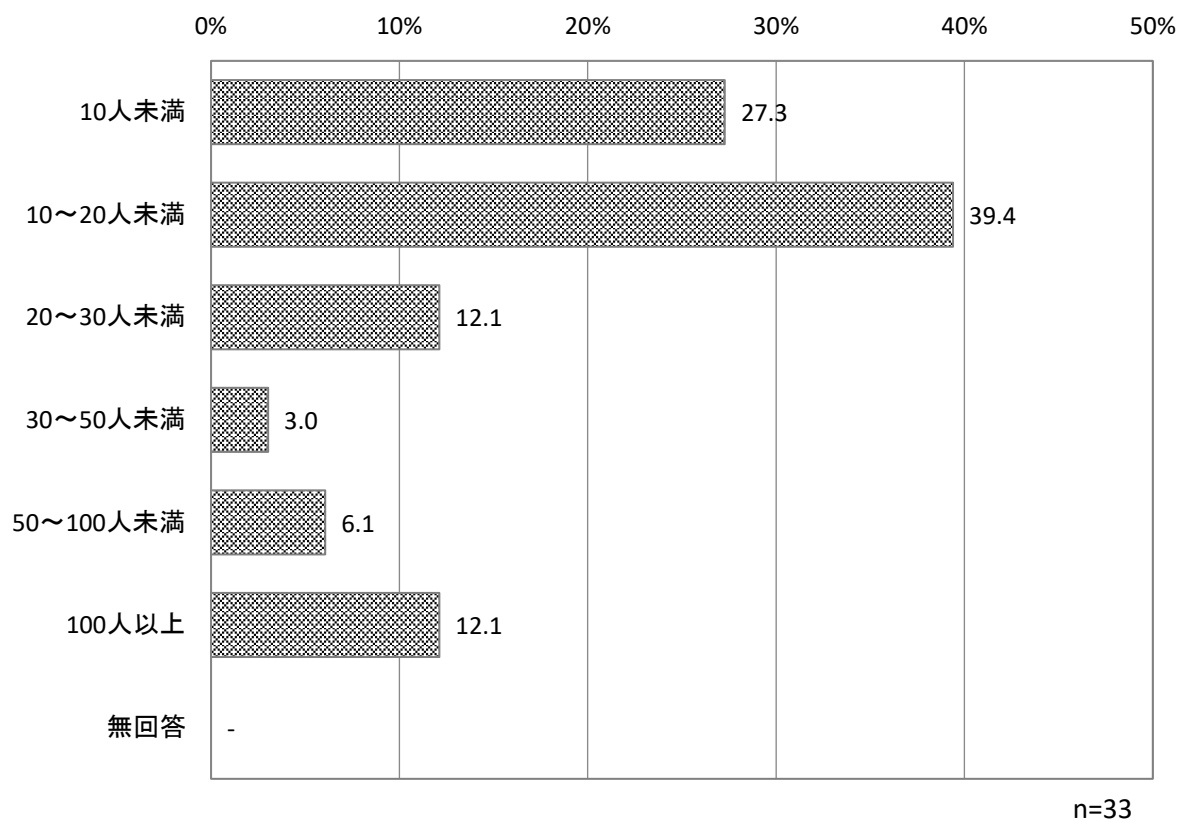
Q 2.2. 貴団体の活動の性質は次のどれにあたりますか。(複数回答可)



【活動の性質】については、「中間支援機能に特化した組織」が 18.2%、「支援団体のネットワーク組織」が 9.1%、「上記以外」が 72.7%であった。

2 3. 団体構成員の総数

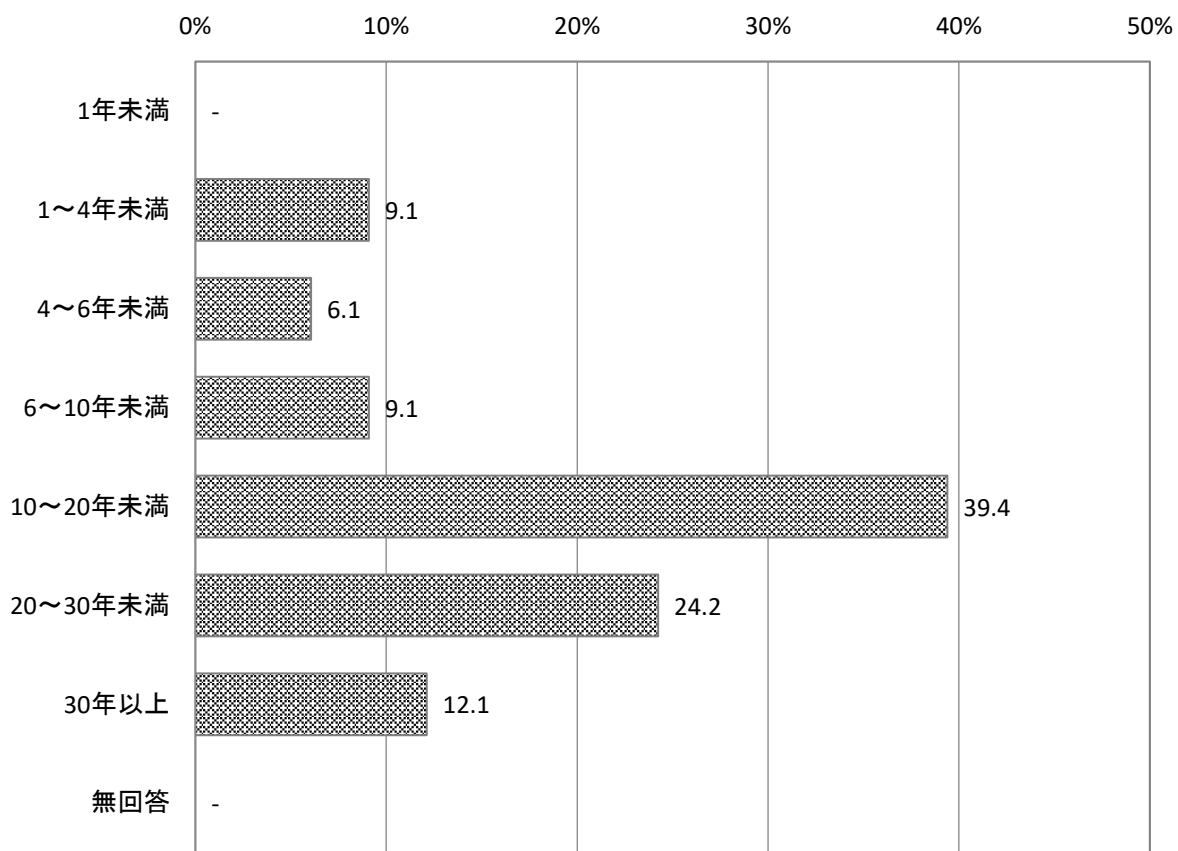
Q 2 3. 貴団体の団体構成員の総数は何人になりますか。(単一回答)



【団体構成員の総数】については、「10人未満」が27.3%、「10~20人未満」が39.4%、「20~30人未満」が12.1%、「30~50人未満」が3.0%、「50~100人未満」が6.1%、「100人以上」が12.1%であった。

2 4. 設立からの経過年数

Q 2 4. 貴団体は設立から何年経っていますか。(単一回答)

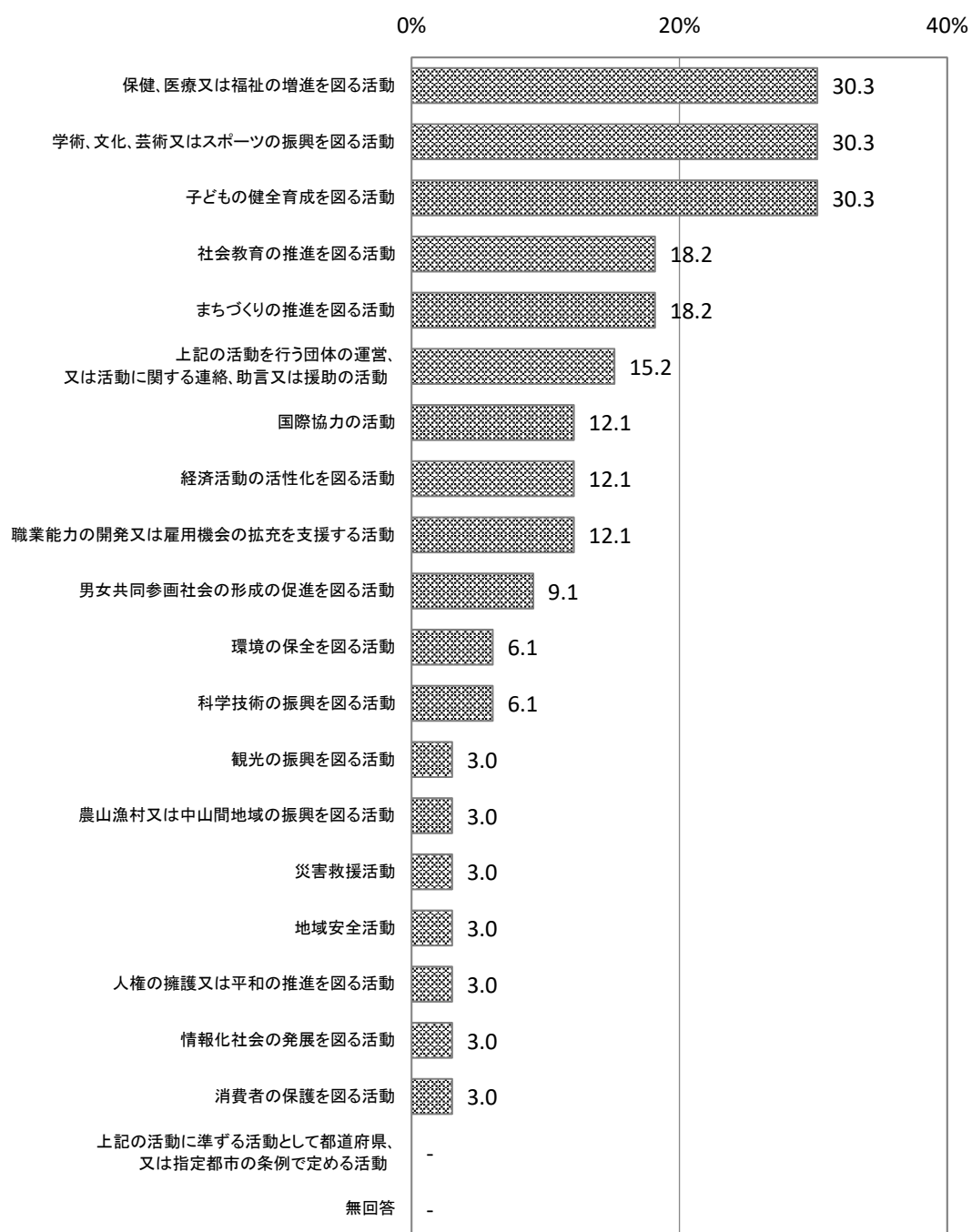


n=33

【設立からの経過年数】については、「1~4年未満」が9.1%、「4~6年未満」が6.1%、「6~10年未満」が9.1%、「10~20年未満」が39.4%、「20~30年未満」が24.2%、「30年以上」が12.1%であった。

25. 活動分野

Q25. 貴団体の活動分野は次のどれにあたりますか。(複数回答)

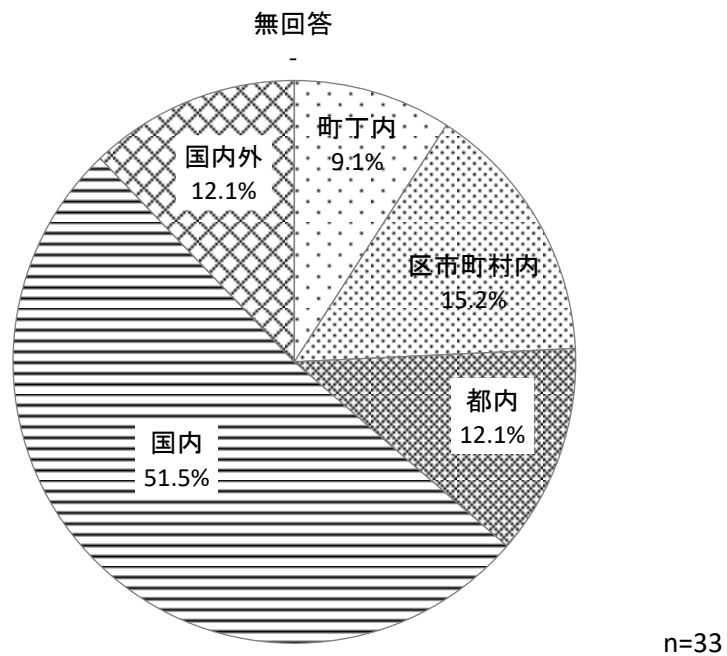


n=33

【活動分野】については、「保健、医療又は福祉の増進を図る活動」と「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」と「子どもの健全育成を図る活動」がいずれも 30.3%、「社会教育の推進を図る活動」と「まちづくりの推進を図る活動」が 18.2%、「上記の活動を行う団体の運営、又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動」が 15.2%であった。

26. 活動地域

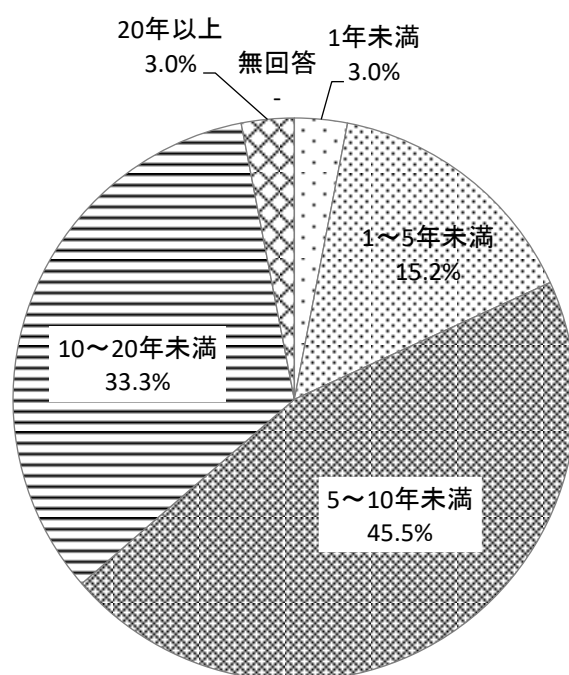
Q26. 貴団体の活動地域はどの程度の範囲ですか。(単一回答)



【活動地域】については、「町丁内」が9.1%、「区市町村内」が15.2%、「都内」が12.1%、「国内」が51.5%、「国内外」が12.1%であった。

27. 構成員の平均勤続年数

Q 27. 貴団体の構成員の平均勤続年数は何年ですか。(単一回答)

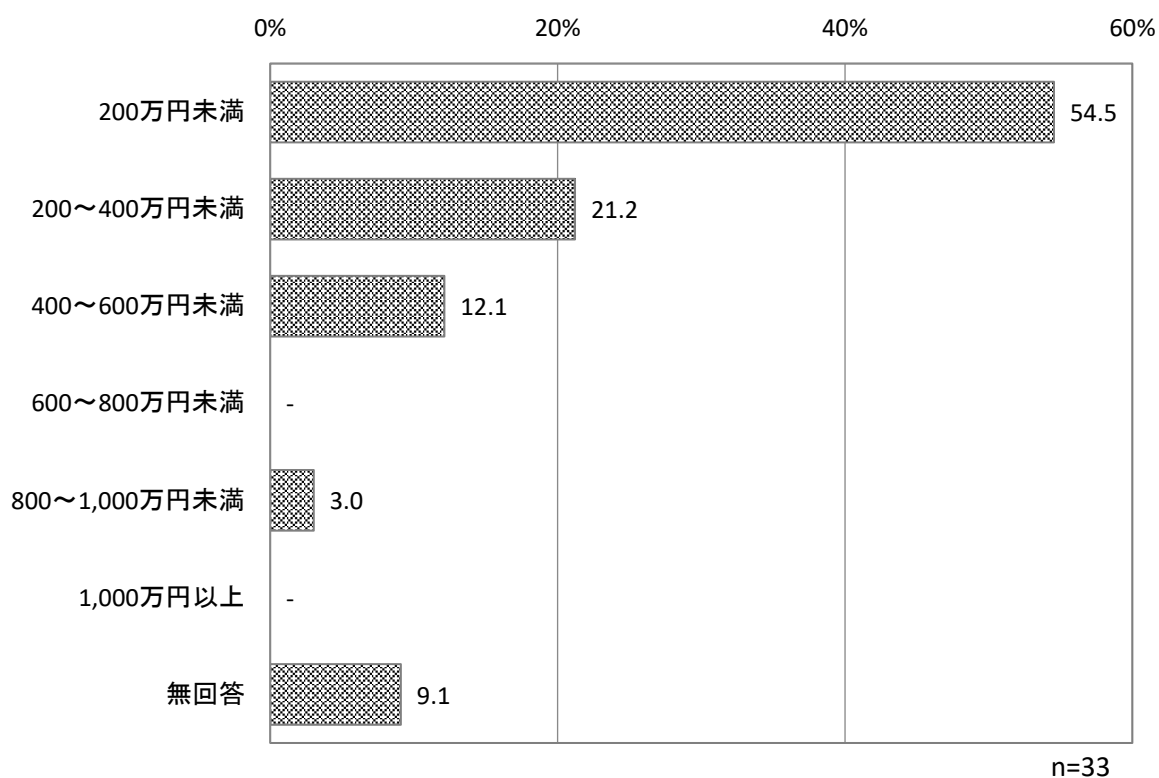


n=33

【構成員の平均勤続年数】については、「1年未満」が3.0%、「1~5年未満」が15.2%、「5~10年未満」が45.5%、「10~20年未満」が33.3%、「20年以上」が3.0%であった。

28. 構成員の平均賃金

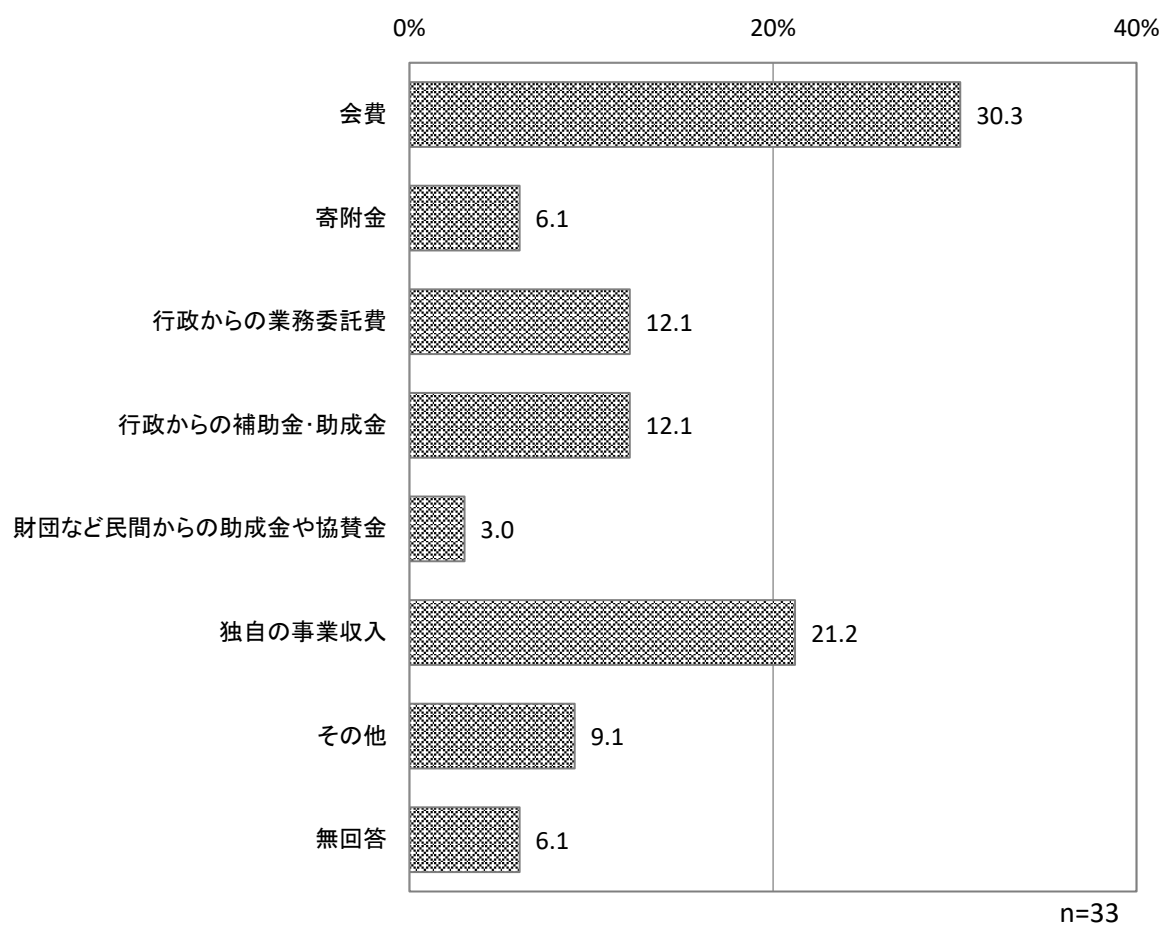
Q28. 貴団体の構成員の平均賃金はいくらですか。(単一回答)



【構成員の平均賃金】については、「200万円未満」が54.5%、「200~400万円未満」が21.2%、「400~600万円未満」が12.1%、「800~1,000万円未満」が3.0%であった。

29. 主な収入源

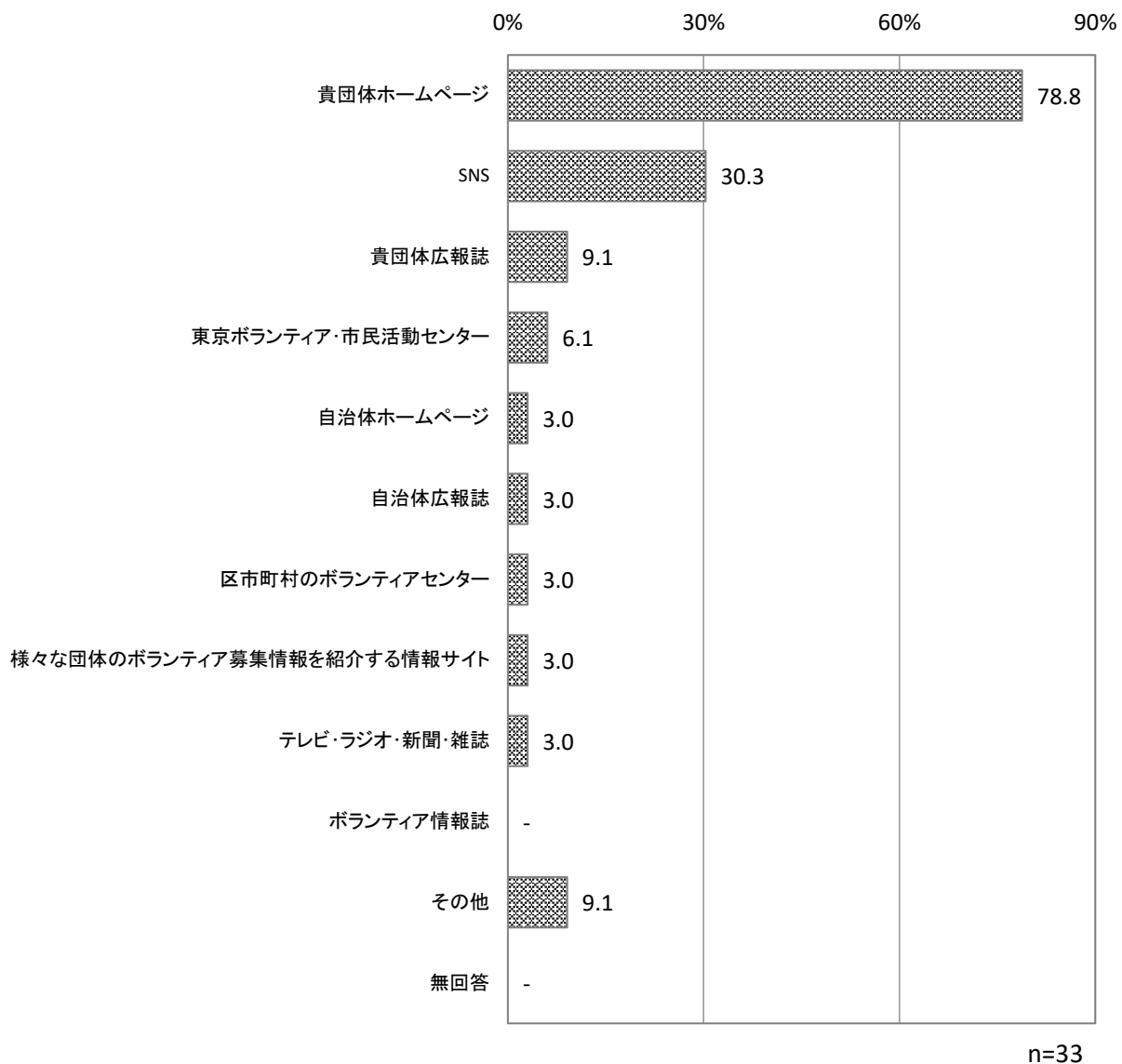
Q29. 貴団体の主な収入源は何ですか。(単一回答)



【主な収入源】については、「会費」が30.3%、「独自の事業収入」が21.2%、「行政からの業務委託費」と「行政からの補助金・助成金」がいずれも12.1%であった。

30. 情報発信の利用媒体

Q30. 貴団体の活動内容について情報発信する際に利用しているものとして、当てはまるものをお答えください。(複数回答)



【情報発信の利用媒体】については、「貴団体ホームページ」が78.8%で最も高かった。次いで、「SNS」が30.3%、「貴団体広報誌」が9.1%であった。

Ⅲ. 大学向け調査

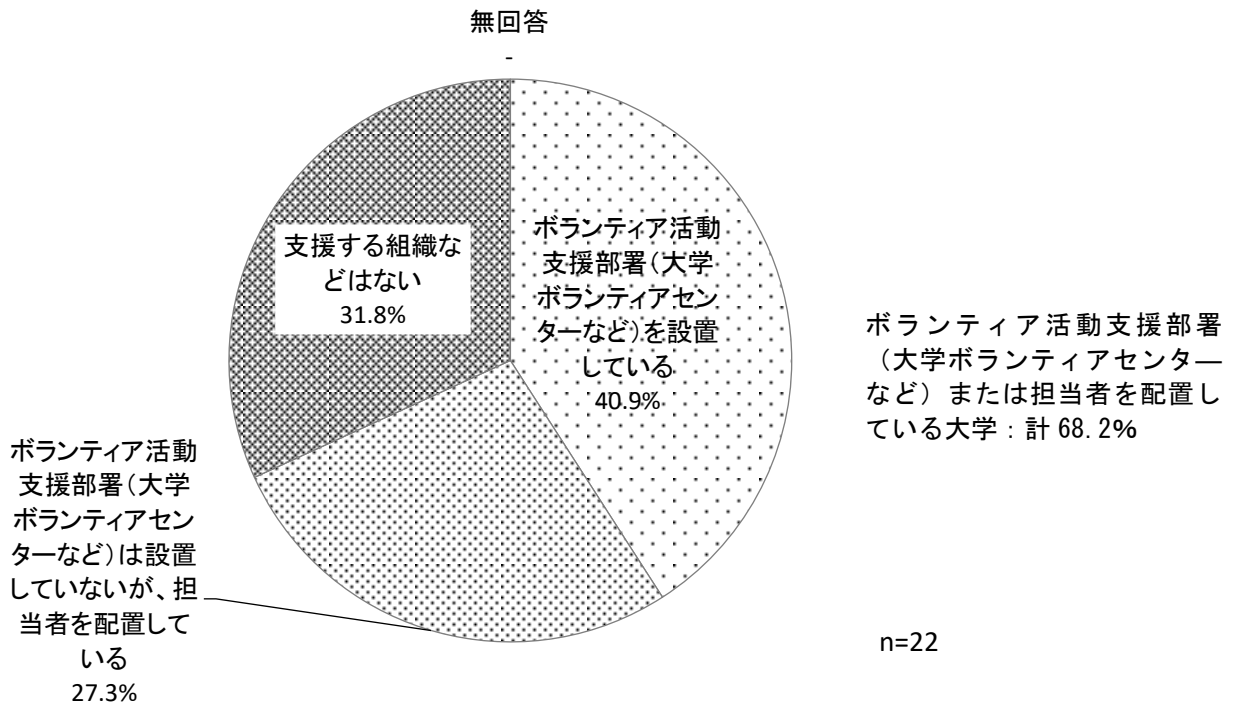
1. ボランティア活動について

1. 学生のボランティア活動の支援組織の有無

Q 1. (すべての方)

貴学には、学生のボランティア活動*を支援する組織などがありますか。(単一回答)

*名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください



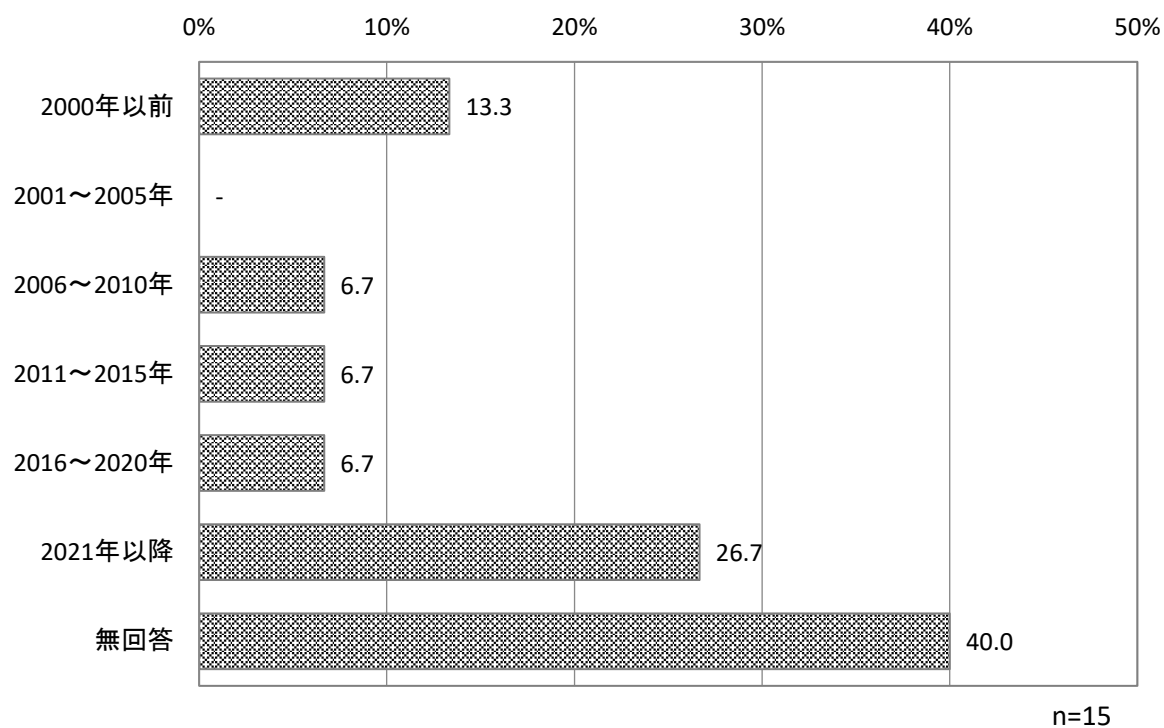
(注)【ボランティア活動支援部署(大学ボランティアセンターなど)または担当者を配置している大学・計】は「ボランティア活動支援部署(大学ボランティアセンターなど)を設置している」「ボランティア活動支援部署(大学ボランティアセンターなど)は設置していないが、担当者を配置している」の合計

【学生のボランティア活動の支援組織の有無】については、「ボランティア活動支援部署(大学ボランティアセンターなど)を設置している」が40.9%、「ボランティア活動支援部署(大学ボランティアセンターなど)は設置していないが、担当者を配置している」が27.3%、「支援する組織などはない」が31.8%であった。

2-1. ボランティア活動支援部署などの設置年度

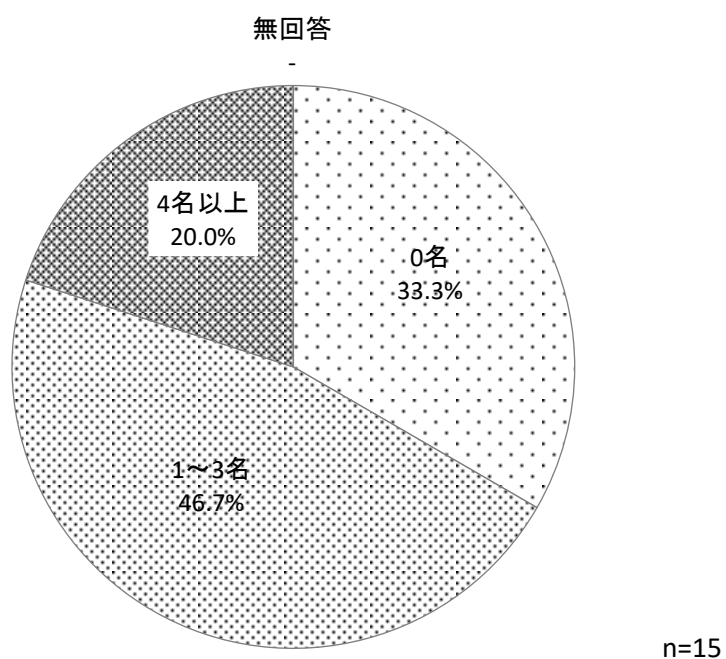
Q2. (Q1で1または2を回答した方)

設置しているボランティア活動支援部署(大学ボランティアセンター)などの名称・設置年度・職員数・設置したきっかけをお答えください。(Q1で2と答えた方は、職員数と配置したきっかけをお答えください。)



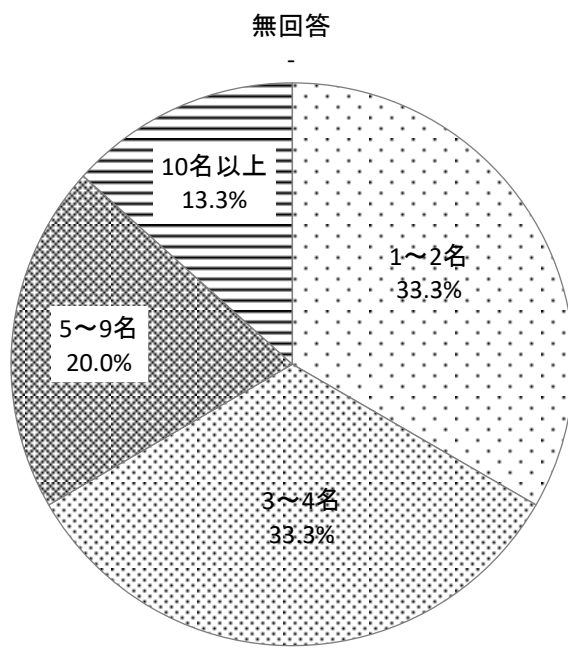
【ボランティア活動支援部署などの設置年度】については、「2000年以前」が13.3%、「2006～2010年」と「2011～2015年」と「2016～2020年」がいずれも6.7%、「2021年以降」が26.7%であった。

2-2. ボランティア活動支援部署などの教員数



【ボランティア活動支援部署などの教員数】については、「0名」が33.3%、「1~3名」が46.7%、「4名以上」が20.0%であった。

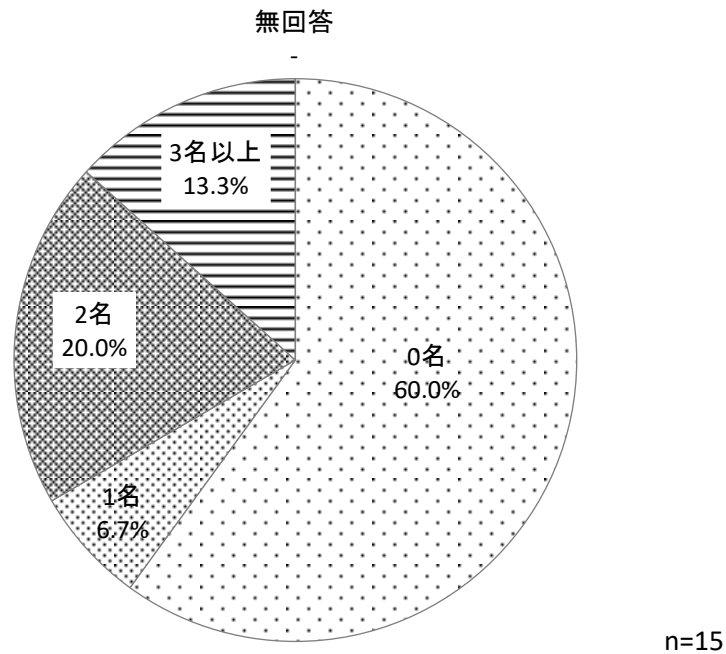
2-3. ボランティア活動支援部署などの事務職員数



【ボランティア活動支援部署などの事務職員数】については、「1～2名」と「3～4名」がいずれも33.3%、「5～9名」が20.0%、「10名以上」が13.3%であった。

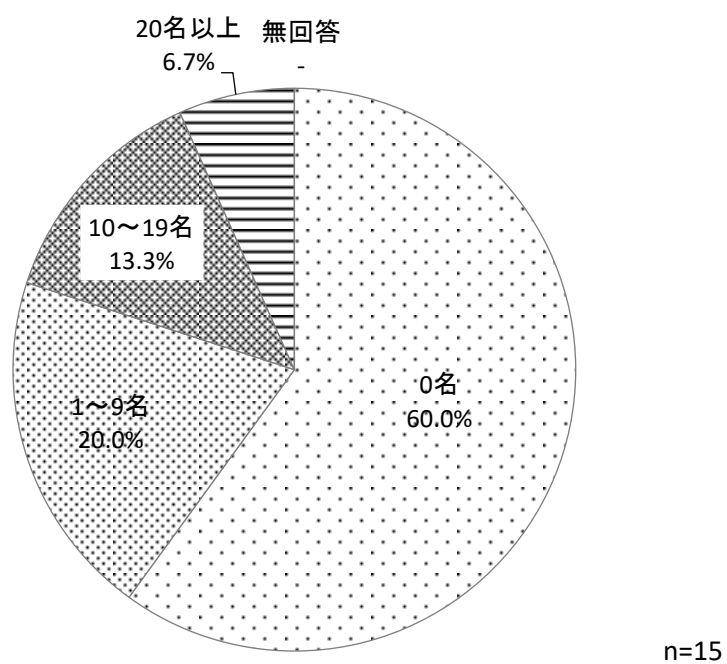
2-4. ボランティア活動支援部署などのボランティアコーディネーター*などの人数

*ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受入れ側を調整する人材



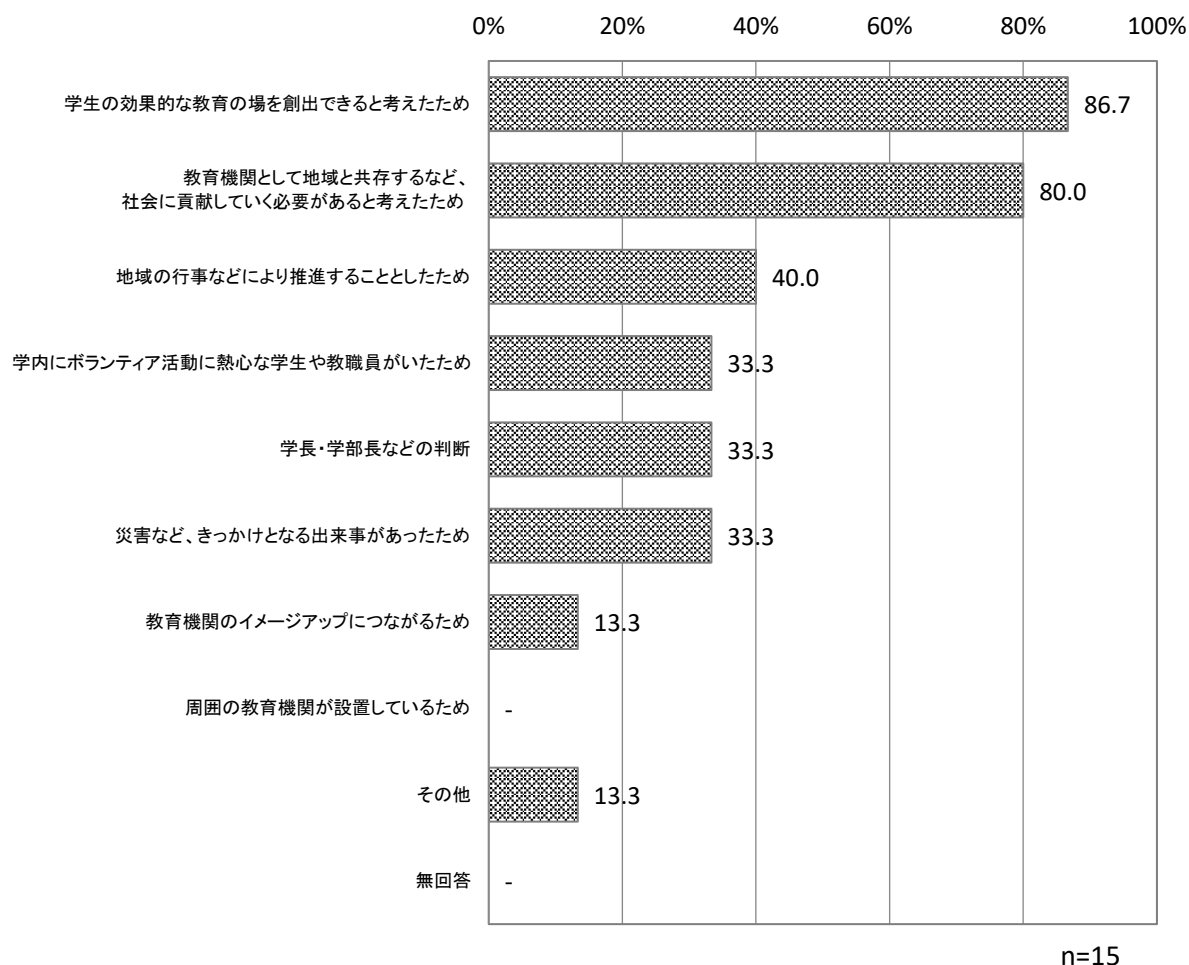
【ボランティア活動支援部署などのボランティアコーディネーターなどの人数】については、「0名」が60.0%、「1名」が6.7%、「2名」が20.0%、「3名以上」が13.3%であった。

2-5. ボランティア活動支援部署などの学生スタッフ数



【ボランティア活動支援部署などの学生スタッフ数】については、「0名」が60.0%、「1~9名」が20.0%、「10~19名」が13.3%、「20名以上」が6.7%であった。

2-6. ボランティア活動支援部署などを設置したきっかけ

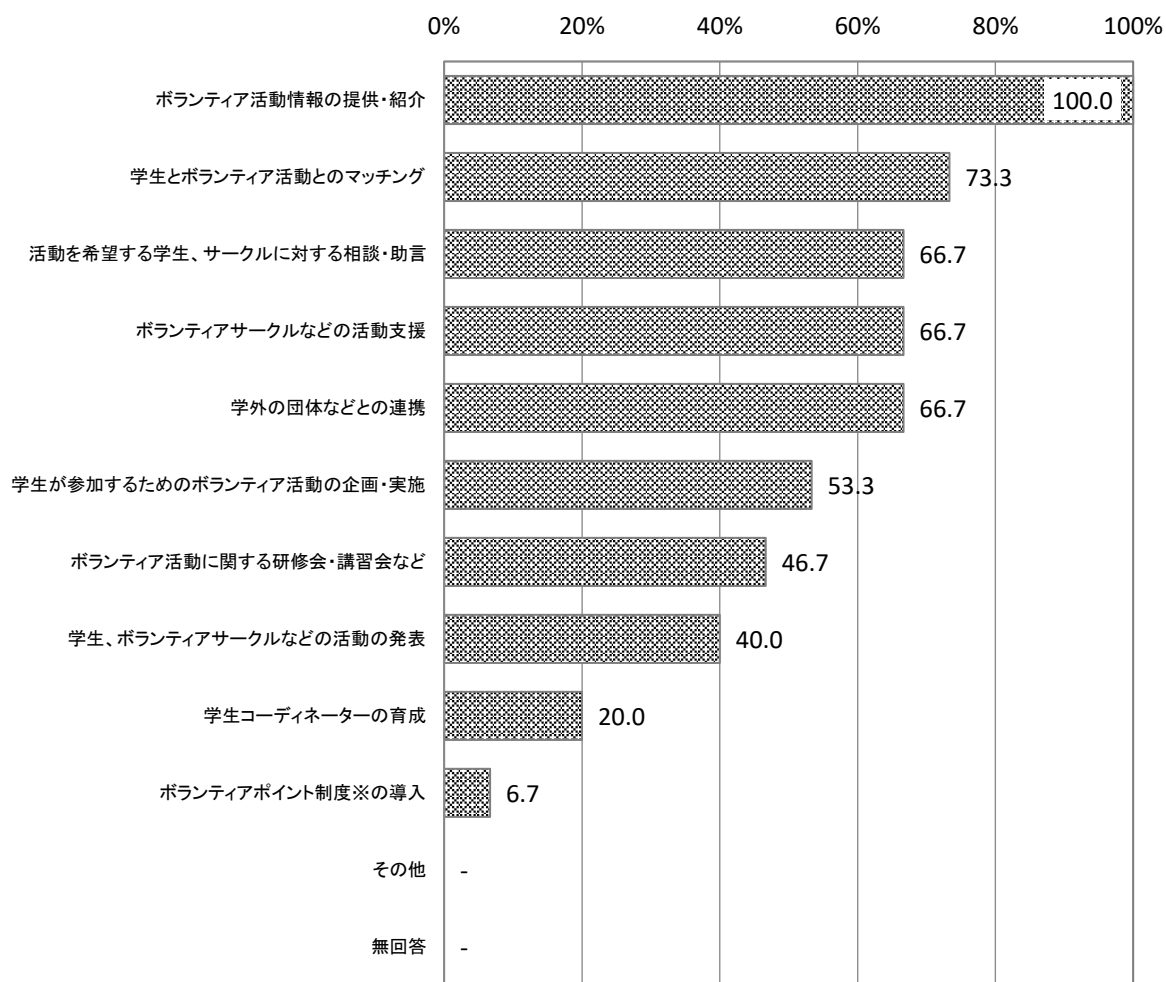


【ボランティア活動支援部署などを設置したきっかけ】については、「学生の効果的な教育の場を創出できると考えたため」が 86.7%、「教育機関として地域と共存するなど、社会に貢献していく必要があると考えたため」が 80.0%、「地域の行事などにより推進することとしたため」が 40.0%であった。

3. ボランティア活動支援部署などで行っている取組

Q3. (Q1で1または2を回答した方)

貴学のボランティア活動支援部署(大学ボランティアセンター)などで行っている取組のうち、当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)



n=15

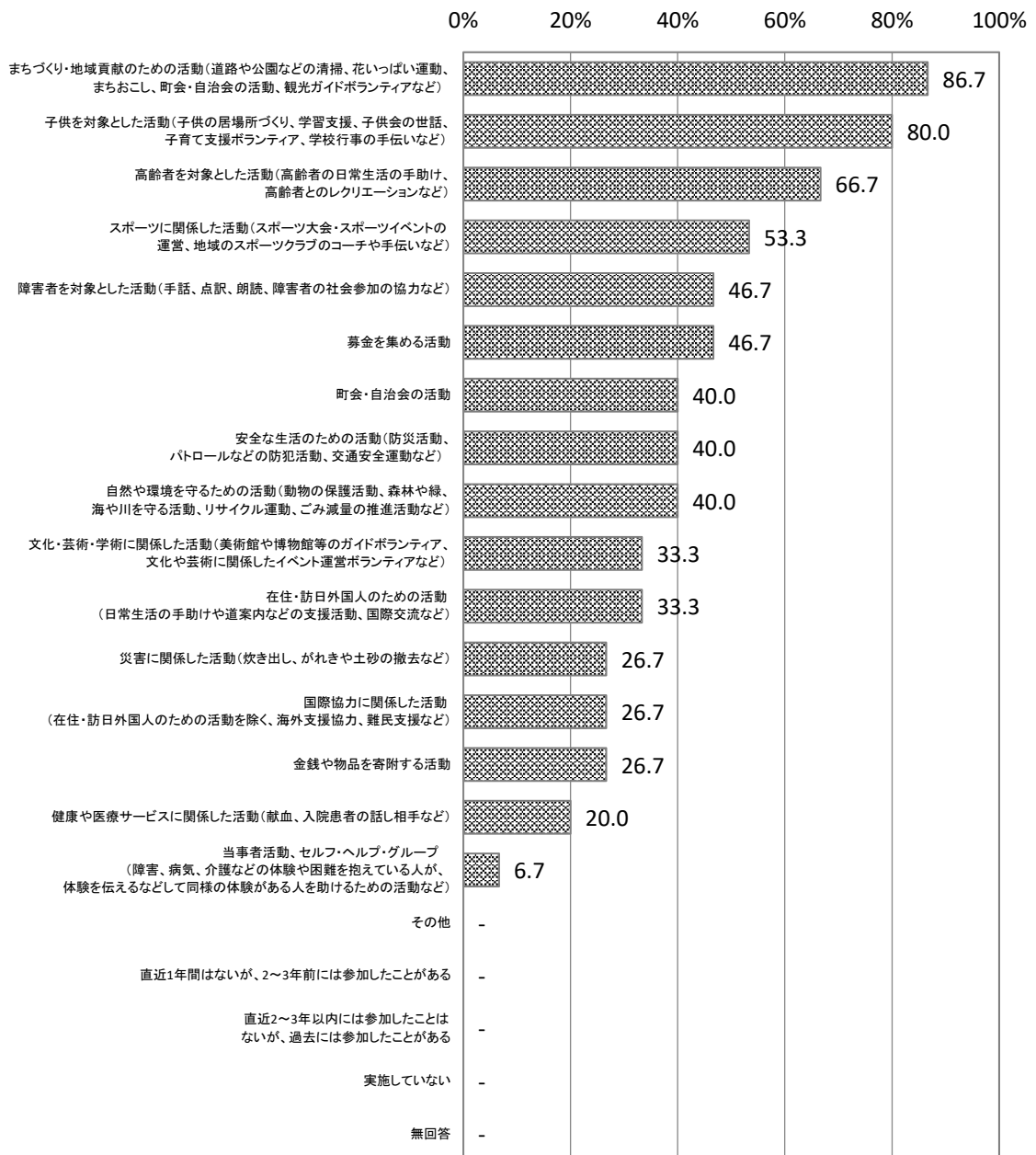
※ボランティアポイント制度： ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じて特典を受けられる制度

【ボランティア活動支援部署などで行っている取組】については、「ボランティア活動情報の提供・紹介」が100.0%で最も高かった。次いで、「学生とボランティア活動とのマッチング」が73.3%、「活動を希望する学生、サークルに対する相談・助言」と「ボランティアサークルなどの活動支援」と「学外の団体などとの連携」がいずれも66.7%であった。

4. 学生が参加したボランティア活動

Q4. (Q1で1または2を回答した方)

貴学において、直近1年間(令和6年10月1日から令和7年9月30日まで)にボランティア活動支援部署(大学ボランティアセンター)などが紹介・実施をして、実際に学生が参加したボランティア活動について、当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

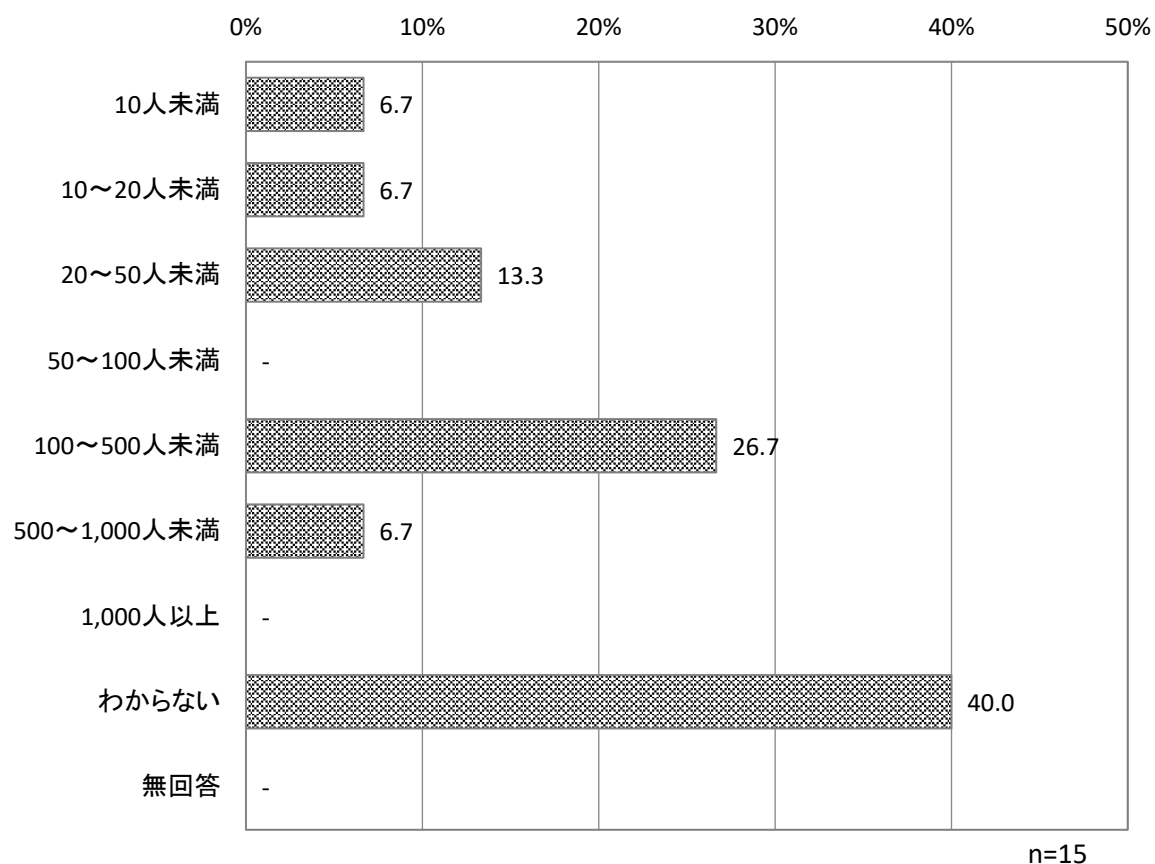


【学生が参加したボランティア活動】については、「まちづくり・地域貢献のための活動」が86.7%で最も高かった。次いで、「子供を対象とした活動」が80.0%、「高齢者を対象とした活動」が66.7%であった。

5. ボランティア活動に参加した学生数

Q5. (Q4で1～17を回答した方)

貴学のボランティア活動支援部署(大学ボランティアセンター)などが紹介・実施したボランティア活動(寄附関係を含まない)に直近1年間(令和6年10月1日から令和7年9月30日まで)で参加した学生数(延べ人数)は何人ですか。(単一回答)

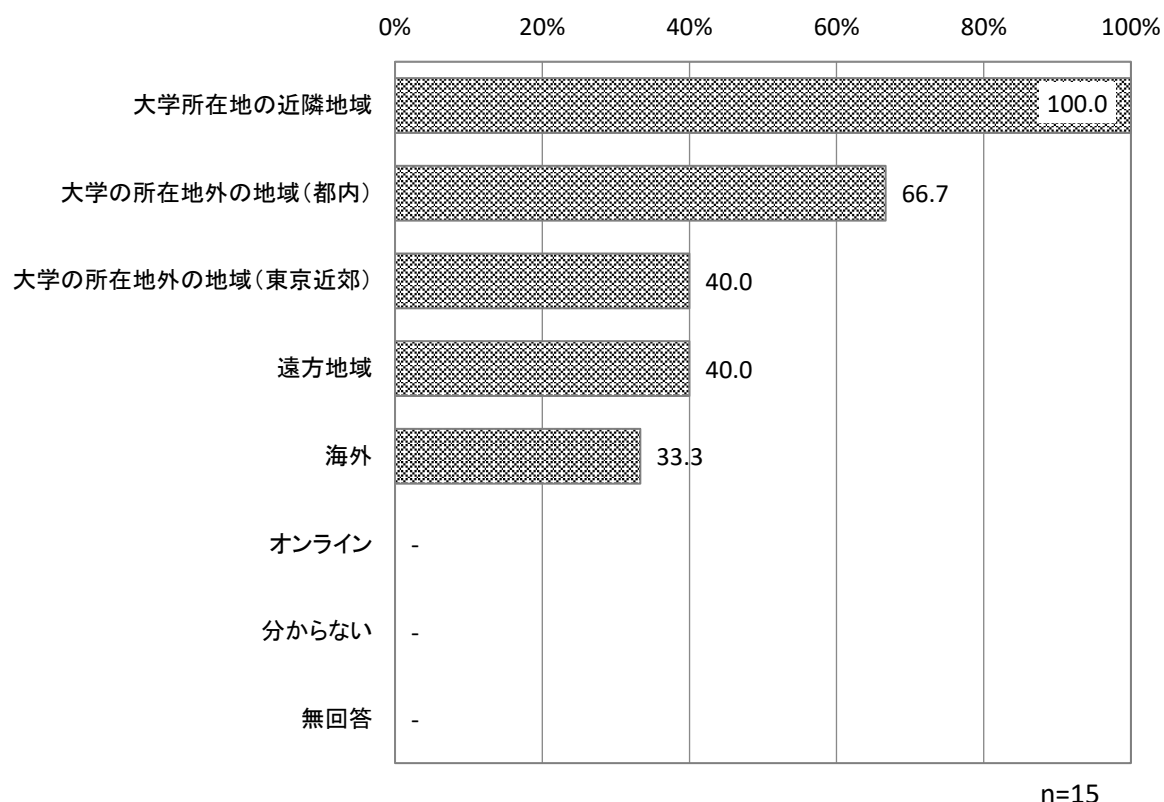


【ボランティア活動に参加した学生数】については、「10人未満」と「10～20人未満」が6.7%、「20～50人未満」が13.3%、「100～500人未満」が26.7%、「500～1,000人未満」が6.7%であった。また、「わからない」は40.0%であった。

6. 学生が参加したボランティア活動地域

Q 6. (Q 4 で 1 ~ 1 7 を回答した方)

貴学のボランティア活動支援部署 (大学ボランティアセンター) などが紹介・実施して実際に学生が参加したボランティア活動について、活動した地域はどこですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

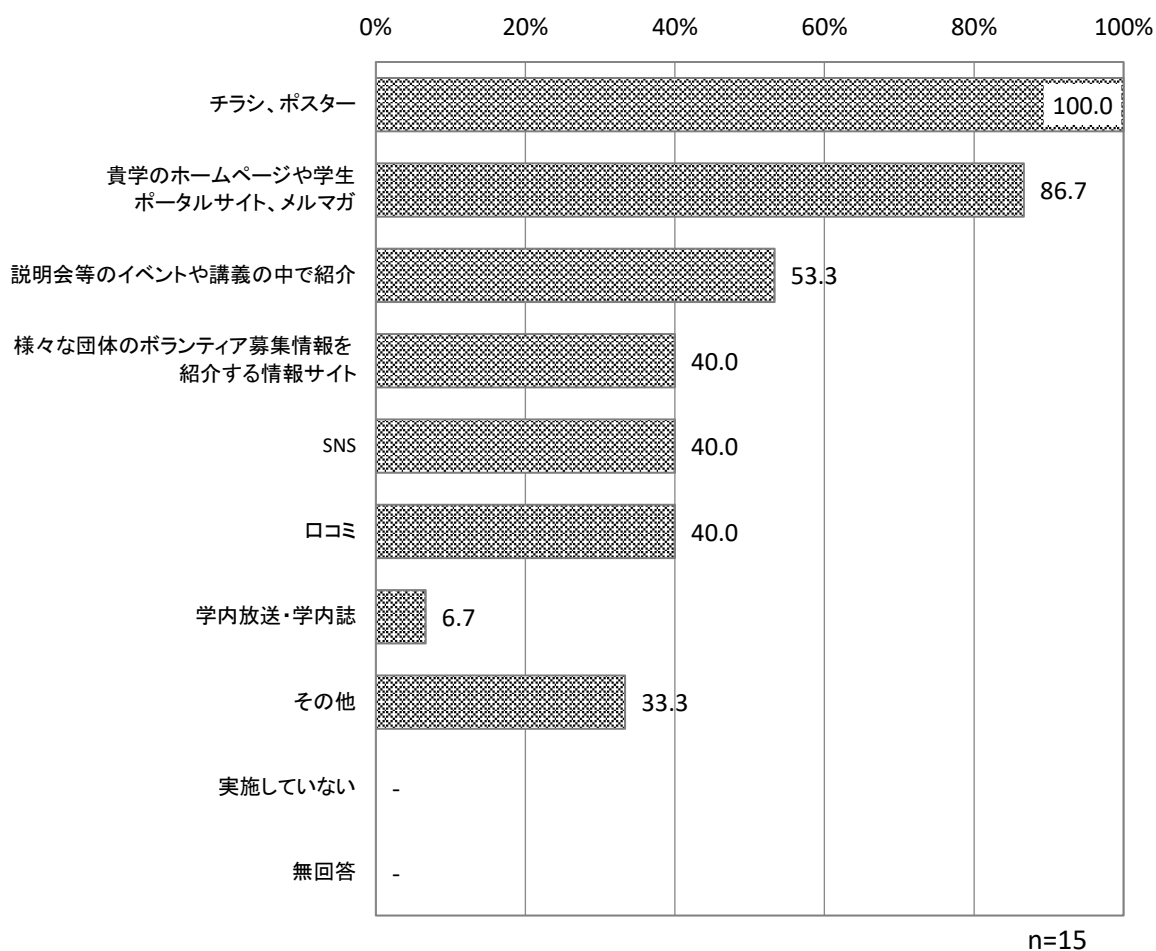


【学生が参加したボランティア活動地域】については、「大学所在地の近隣地域」が 100.0% で最も高かった。次いで、「大学の所在地外の地域 (都内)」が 66.7%、「大学の所在地外の地域 (東京近郊)」と「遠方地域」がいずれも 40.0%であった。

7. 学生へのボランティア情報の周知方法

Q7. (Q1で1または2を回答した方)

学生へのボランティア情報の周知方法について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

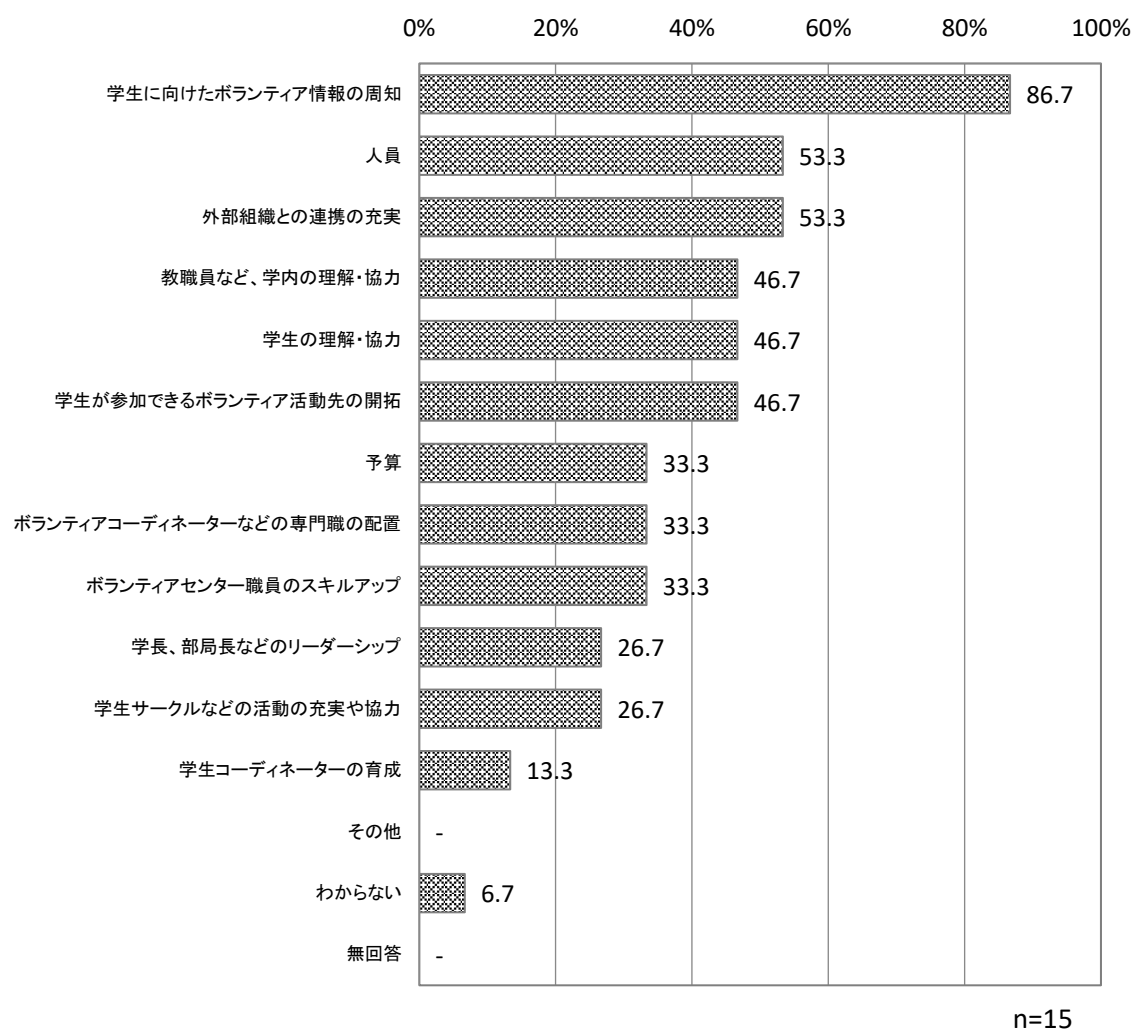


【学生へのボランティア情報の周知方法】については、「チラシ、ポスター」が 100.0%で最も高かった。次いで、「貴学のホームページや学生ポータルサイト、メルマガ」が 86.7%、「説明会等のイベントや講義の中で紹介」が 53.3%であった。

8. 学内ボランティア活動を充実させていくための課題

Q 8. (Q 1 で1または2を回答した方)

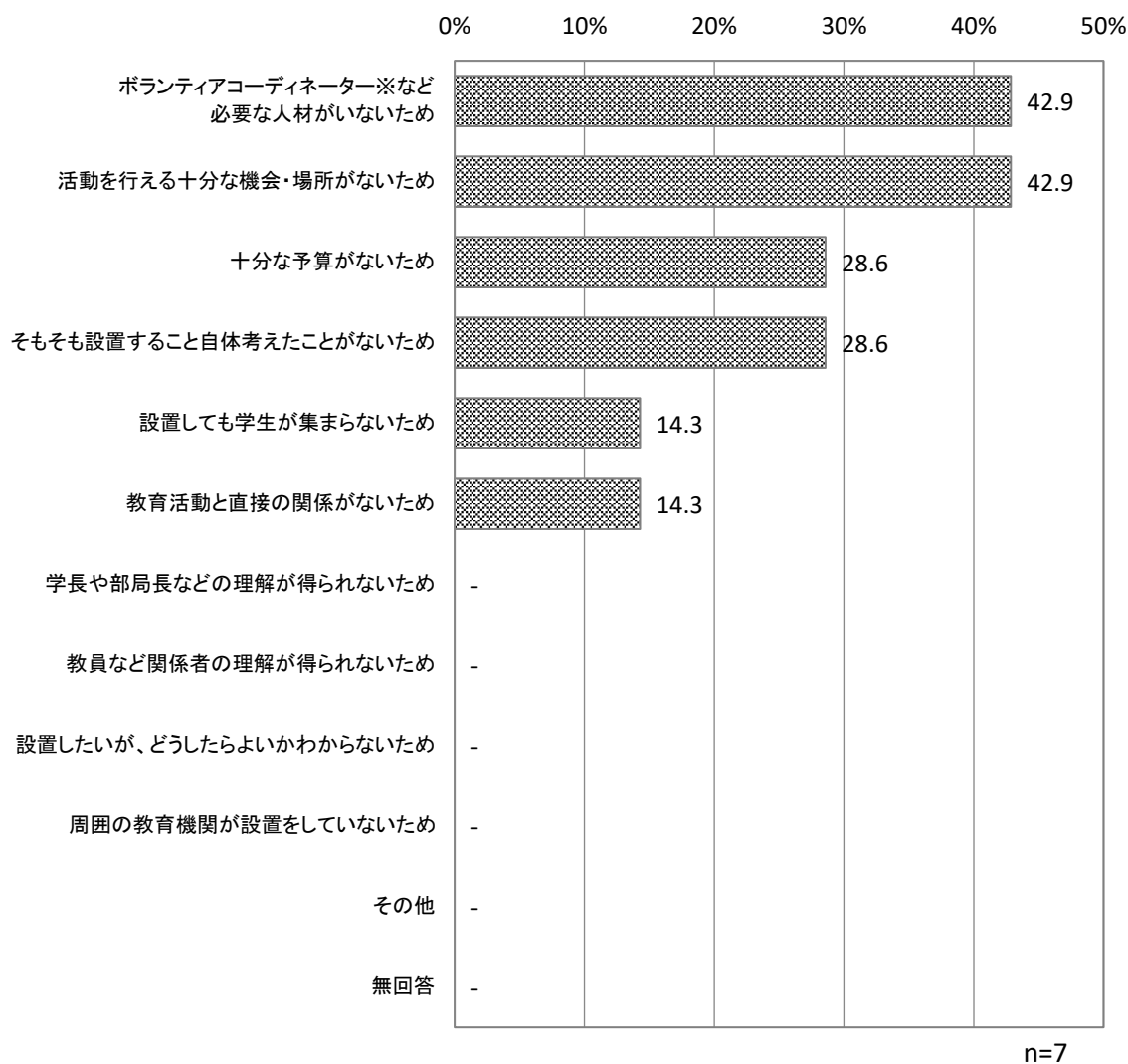
学内のボランティア活動を充実させていくための課題は何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)



【学内ボランティア活動を充実させていくための課題】については、「学生に向けたボランティア情報の周知」が86.7%で最も高かった。次いで、「人員」と「外部組織との連携の充実」が53.3%、「教職員など、学内の理解・協力」と「学生の理解・協力」と「学生が参加できるボランティア活動先の開拓」がいずれも46.7%であった。

9. ボランティア活動支援部署などを設置していない理由

Q9. (Q1で「3. 支援する組織などはない」と回答した方)
 ボランティア活動支援部署(大学ボランティアセンター)などを設置していない理由について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)



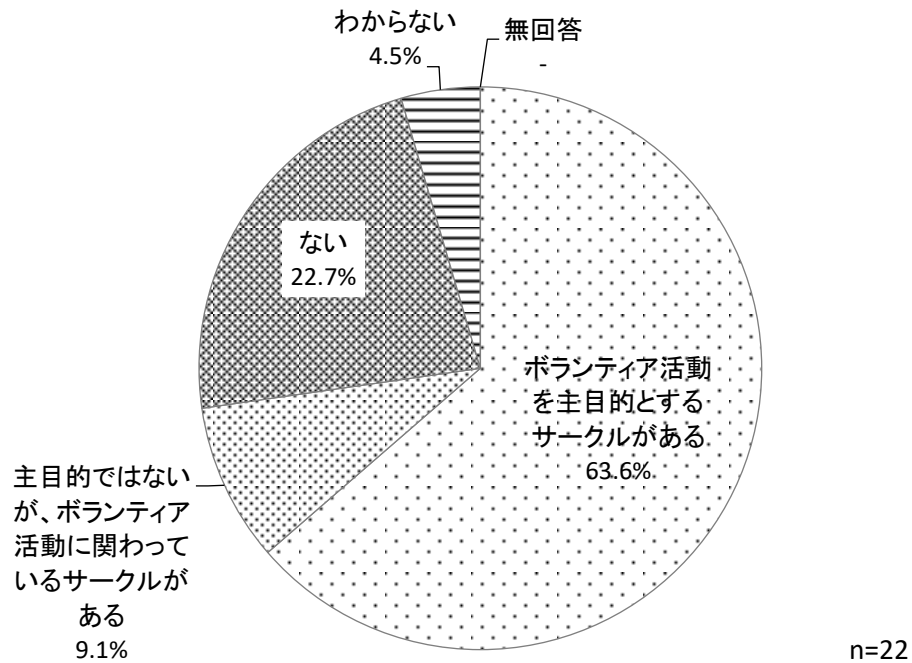
*ボランティアコーディネーター： ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側を調整する人材

【ボランティア活動支援部署などを設置していない理由】については、「ボランティアコーディネーターなど必要な人材がないため」と「活動を行える十分な機会・場所がないため」がいずれも42.9%で最も高かった。次いで、「十分な予算がないため」と「そもそも設置すること自体考えたことがないため」が28.6%、「設置しても学生が集まらないため」と「教育活動と直接の関係がないため」が14.3%であった。

10. 学生ボランティアサークルの有無

Q10. (すべての方)

貴学に学生のボランティアサークルなどがありますか。(単一回答)

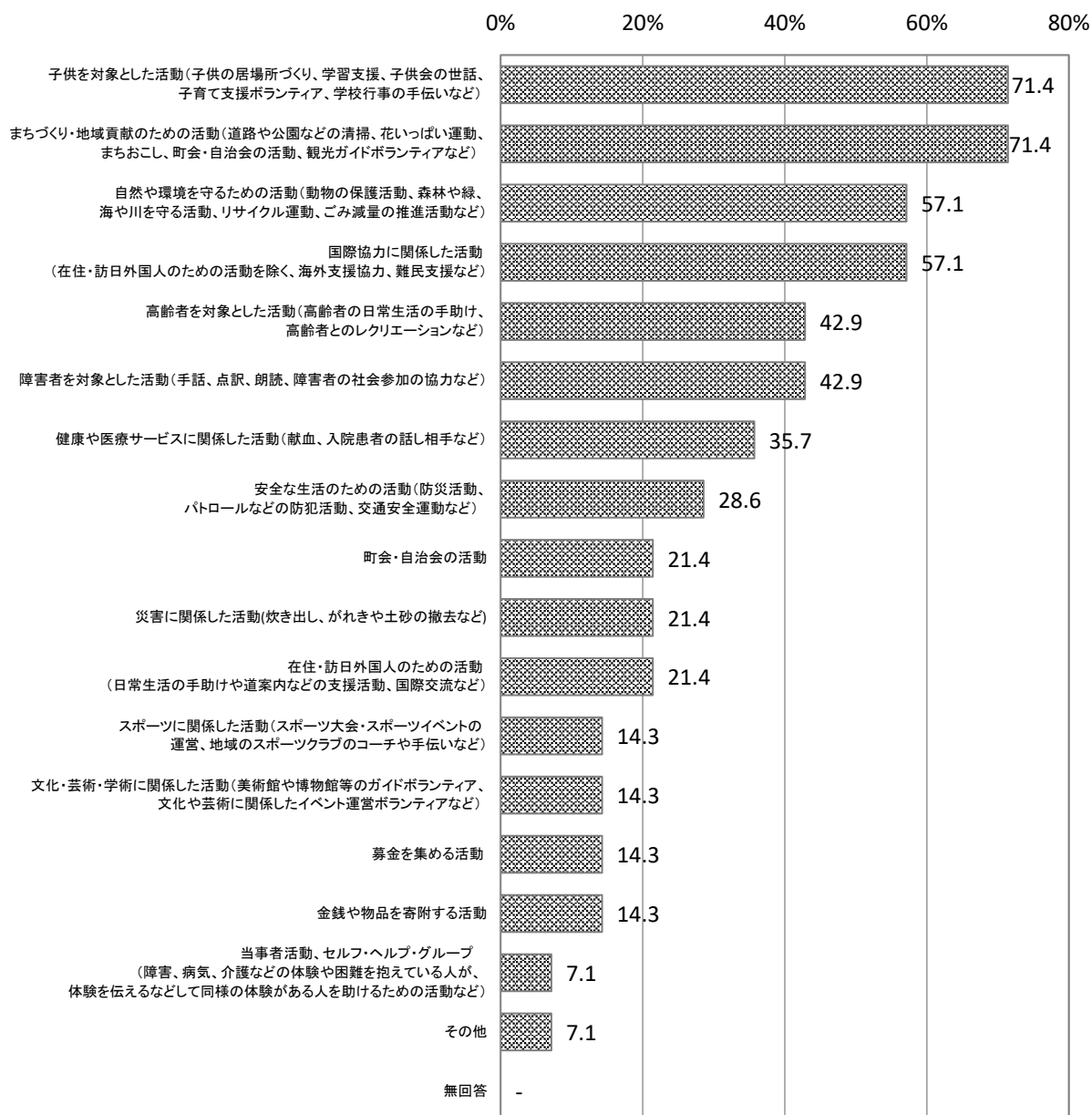


【学生ボランティアサークルの有無】については、「ボランティア活動を主目的とするサークルがある」が63.6%、「主目的ではないが、ボランティア活動に関わっているサークルがある」が9.1%、「ない」が22.7%であった。

11-1. ボランティア活動を主目的とするサークルなどの活動内容

Q11. (Q10で「1. ボランティア活動を主目的とするサークルがある」と回答した方)

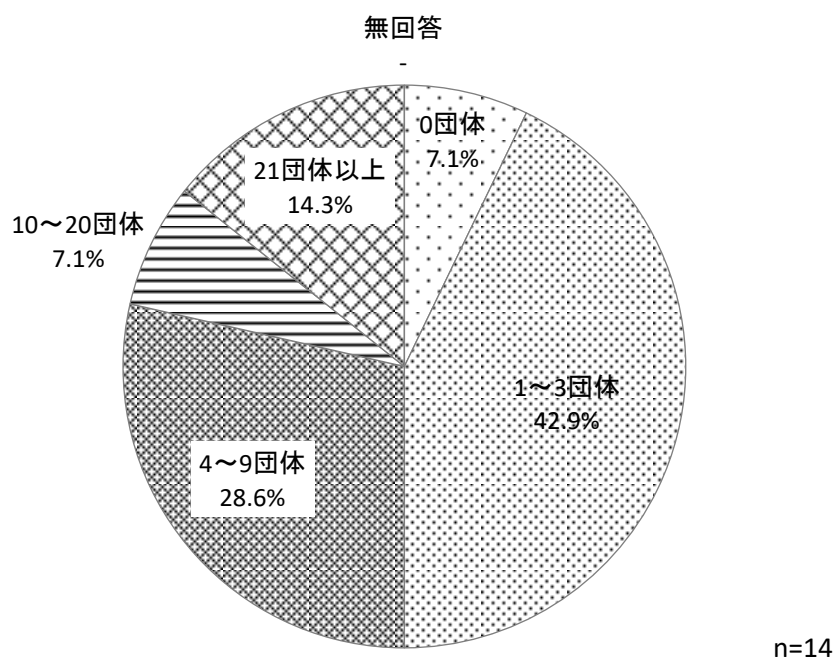
ボランティア活動を主目的とするサークルなどの活動内容、団体数、学生数をお答えください。(複数回答)



n=14

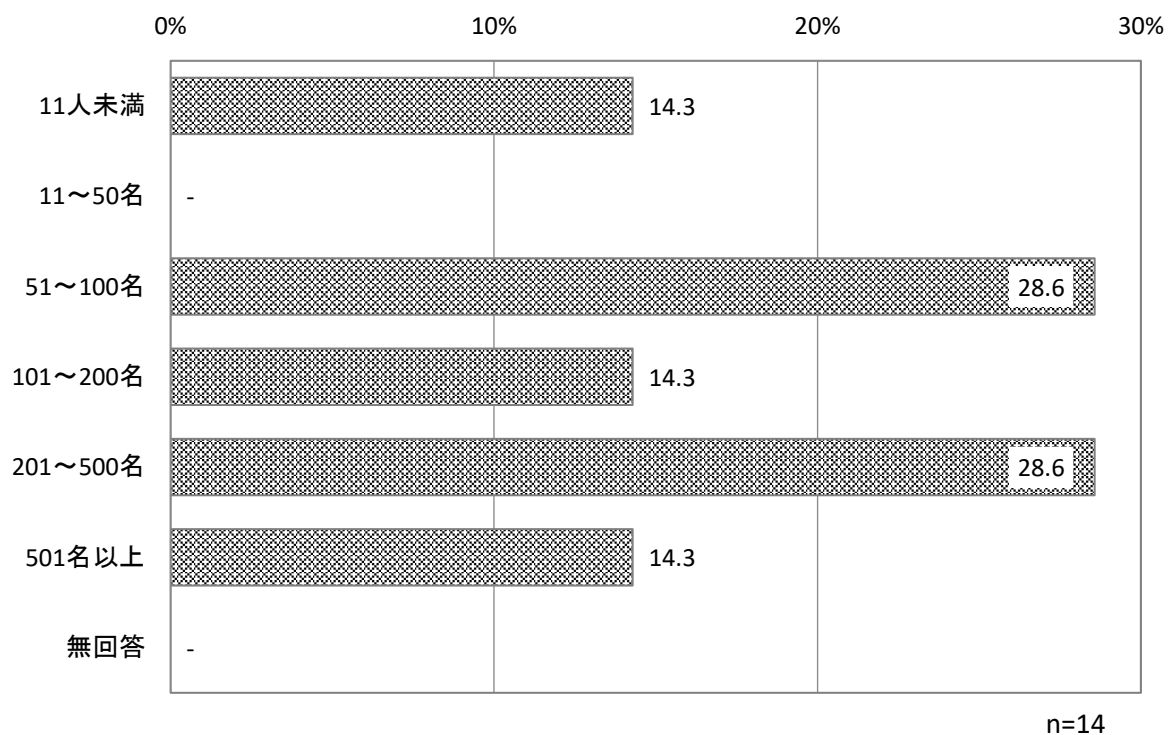
【ボランティア活動を主目的とするサークルなどの活動内容】については、「子供を対象とした活動」と「まちづくり・地域貢献のための活動」がいずれも 71.4%で最も高かった。次いで、「自然や環境を守るための活動」と「国際協力に関係した活動」が 57.1%、「高齢者を対象とした活動」と「障害者を対象とした活動」が 42.9%であった。

11-2. ボランティア活動を主目的とするサークルなどの団体数



【ボランティア活動を主目的とするサークルなどの団体数】については、「0 団体」が 7.1%、「1~3 団体」が 42.9%、「4~9 団体」が 28.6%、「10~20 団体」が 7.1%、「21 団体以上」が 14.3%であった。

11-3. ボランティア活動を主目的とするサークルなどの学生数

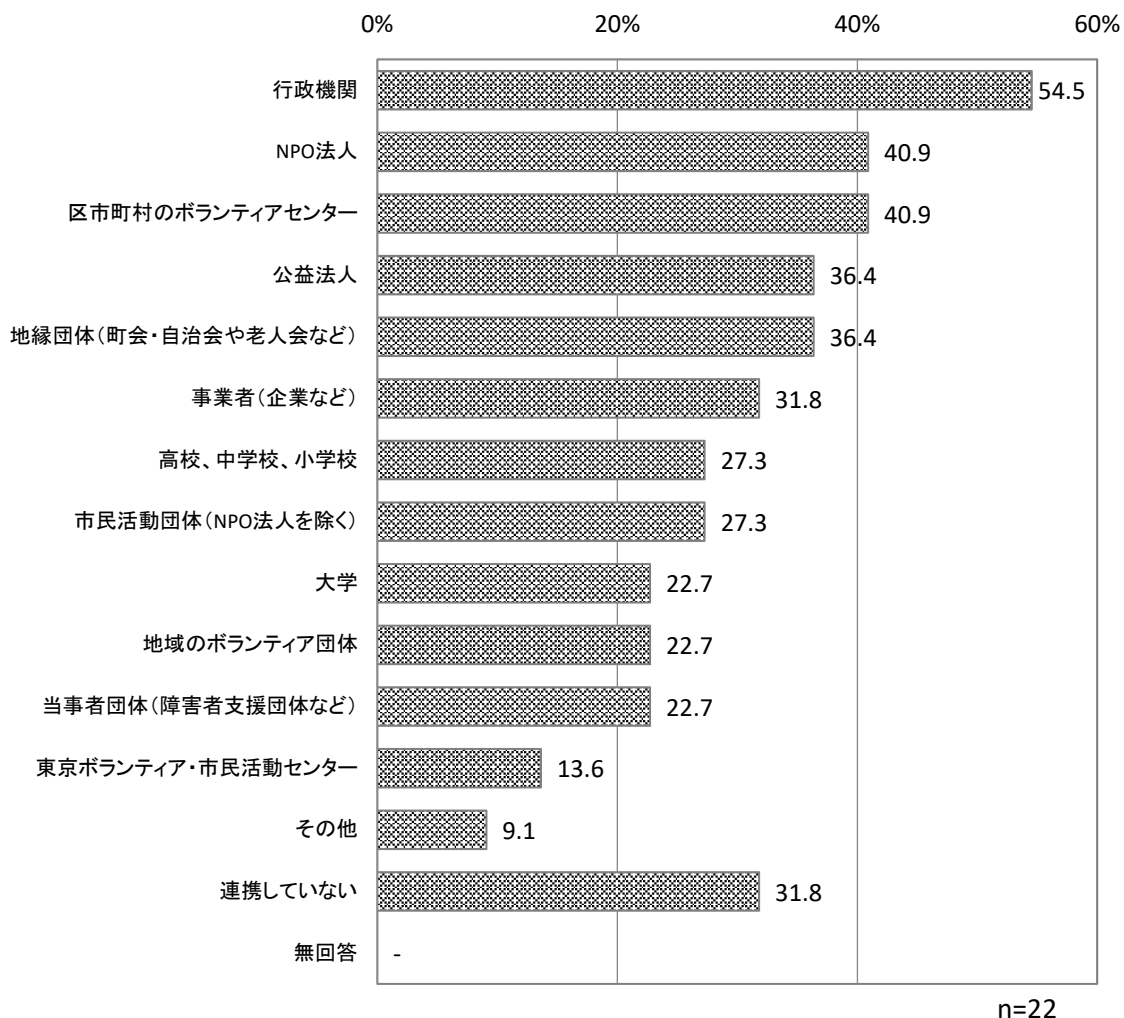


【ボランティア活動を主目的とするサークルなどの学生数】については、「11人未満」が14.3%、「51～100名」が28.6%、「101～200名」が14.3%、「201～500名」が28.6%、「501名以上」が14.3%であった。

12. 連携団体

Q12. (すべての方)

ボランティア活動の企画・実施にあたって、連携している団体はありますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

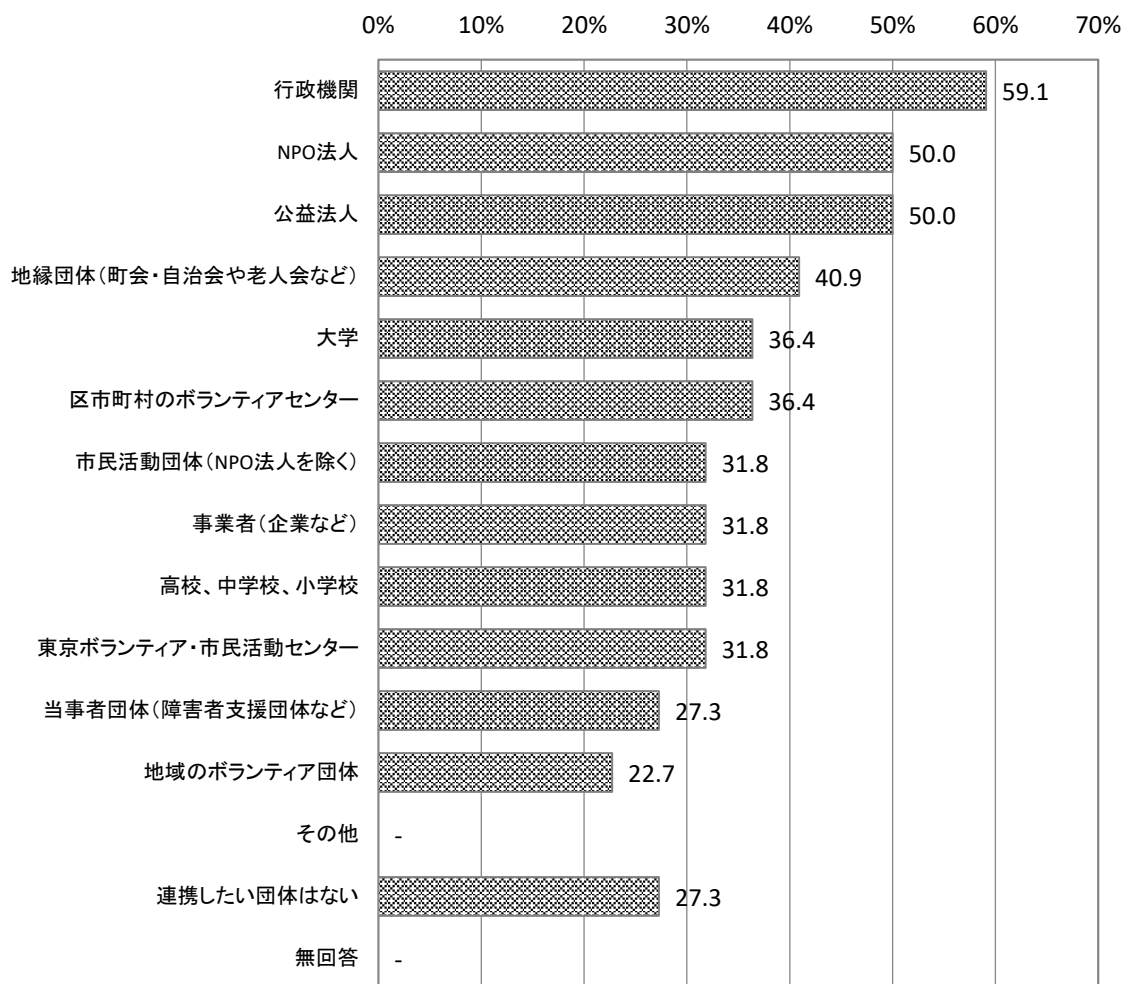


【連携団体】については、「行政機関」が54.5%で最も高かった。次いで、「NPO法人」と「区市町村のボランティアセンター」がいずれも40.9%、「公益法人」と「地縁団体(町会・自治会や老人会など)」が36.4%であった。

13. 今後連携したい団体

Q13. (すべての方)

ボランティア活動の企画・実施にあたって、今後連携したい団体があれば、当てはまるものをすべてお答えください。現在、既に連携していて、今後も引き続き連携したい場合も含めてお答えください。(複数回答)



n=22

【今後連携したい団体】については、「行政機関」が59.1%で最も高かった。次いで、「NPO法人」と「公益法人」がいずれも50.0%、「地縁団体(町会・自治会や老人会など)」が40.9%であった。

14. 具体的な連携内容

Q14. (Q12またはQ13で1～13を回答した方)

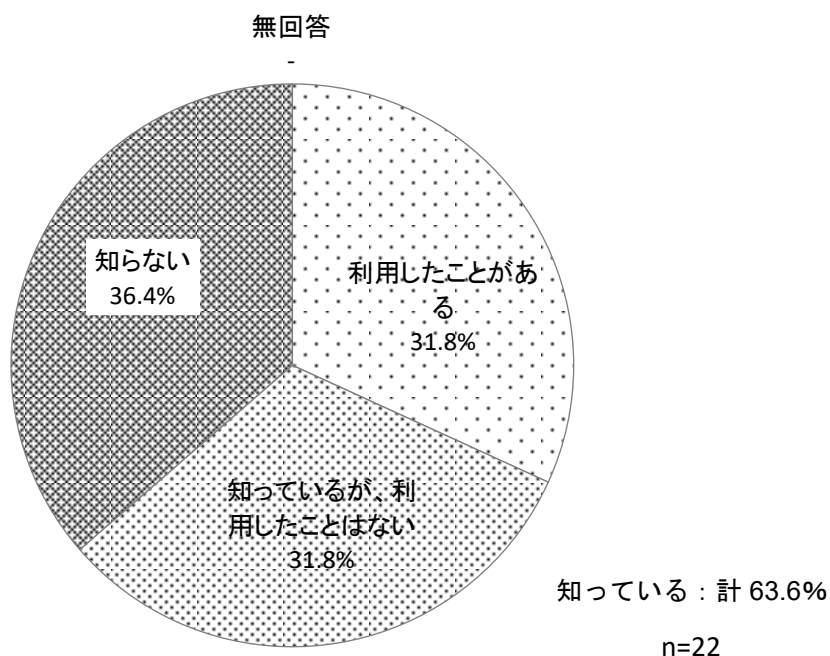
現在、どのような連携をしていますか。または今後、どのような連携をしたいですか。具体的にお書きください。

記述内容
介護、小学校での学習支援
学生ボランティアの派遣・受け入れ 団体が行う事業の運営、協力・協働
プログラムを行う上での協力、実施、広報での連携など
防災訓練、各種イベントへの参加
行政と大学または大学間の意見交換、情報共有
ボランティアの受け入れ、ボランティア情報の共有
外部団体や地域の方からお電話やメールにて依頼があればその都度対応しております
地域の祭り、小学校・中学校との国際交流、スポーツ推進活動、高齢者お困り事解決、高齢者福祉、障がい者福祉、戦没者遺骨収集活動
ボランティアプログラム実施によって連携
社会連携
ボランティア情報の収集、学生ボランティアの派遣、活動の合同企画など
共催事業の実施
学生が参加できる活動の周知協力
区ボランティアセンターとの共催講座、区主催事業への参加協力、近隣地域大学との共催。他大学図書館関連学生との交流、地域図書館等施設での読み聞かせ、展示。近隣大学との連携で学生ボランティア座談会を実施し、各大学での取り組みや活動について話し合った。産官学連携事業で商品開発やデザインなどを行っている。
情報交換、出張講座。ボランティア養成に関わる連携
今後、ボランティア情報の収集をしていきたいです。
地縁団体、行政機関より学生派遣依頼を受けると、学生にポスター掲示やMicrosoft Teamsにて声かけを行う。 専属の職員がいる訳ではないため、現状で手一杯なところはある。

15. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度および利用経験

Q15. (すべての方)

東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存じですか。また、利用したことはありますか。(単一回答)



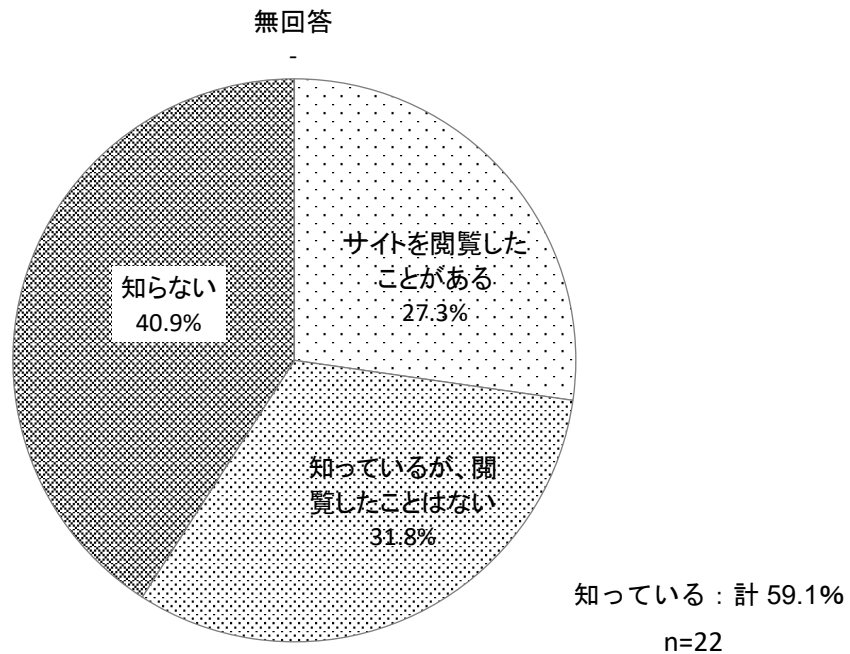
(注)【知っている：計】は「利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」の合計

【東京ボランティア・市民活動センターの認知度および利用経験】については、「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」がいずれも 31.8%、「知らない」が 36.4%であった。

16. 「ボラ市民ウェブ」の認知度および閲覧経験

Q16. (すべての方)

東京ボランティア・市民活動センターのウェブサイト「ボラ市民ウェブ」はご存じですか。また、閲覧したことはありますか。(単一回答)



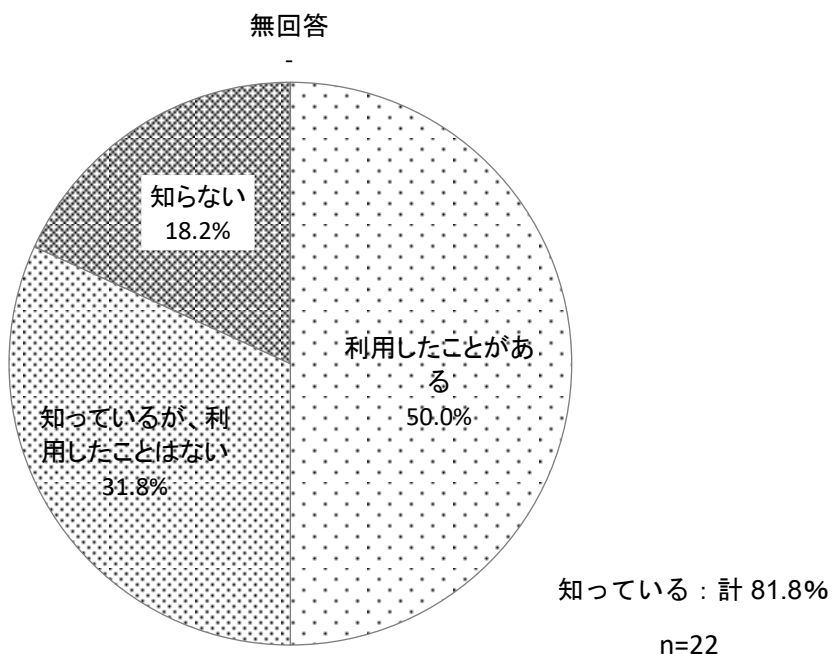
(注)【知っている：計】は「サイトを閲覧したことがある」「知っているが、閲覧したことはない」の合計

【「ボラ市民ウェブ」の認知度および閲覧経験】については、「サイトを閲覧したことがある」が27.3%、「知っているが、閲覧したことはない」が31.8%、「知らない」が40.9%であった。

17. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度および利用経験

Q17. (すべての方)

区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。(単一回答)



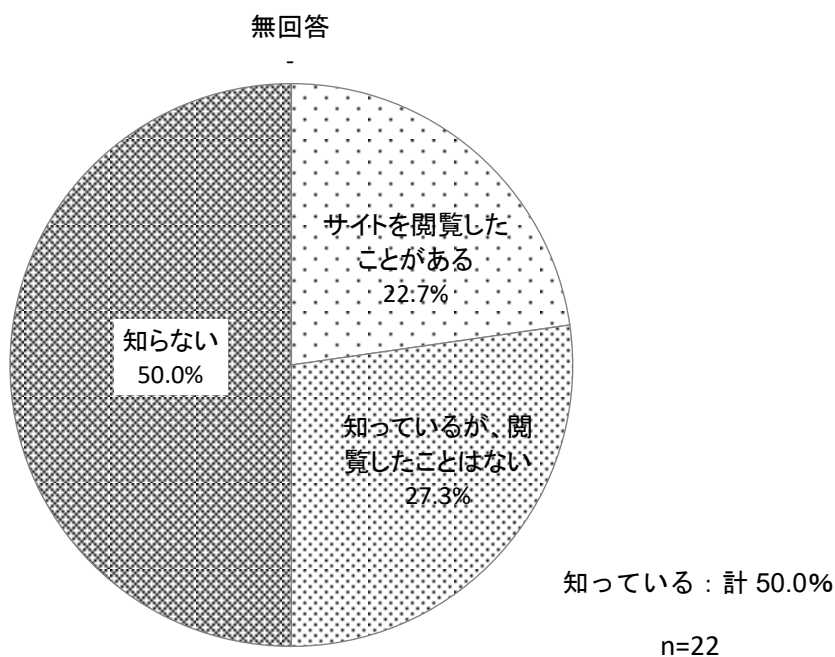
(注)【知っている：計】は「利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」の合計

【社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度および利用経験】については、「利用したことがある」が50.0%、「知っているが、利用したことはない」が31.8%、「知らない」が18.2%であった。

18. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度および閲覧経験

Q18. (すべての方)

東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア活動情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。(単一回答)



(注)【知っている : 計】は「サイトを閲覧したことがある」「知っているが、閲覧したことはない」の合計

【「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度および閲覧経験】については、「サイトを閲覧したことがある」が22.7%、「知っているが、閲覧したことはない」が27.3%、「知らない」が50.0%であった。

19. 今後の取組意向

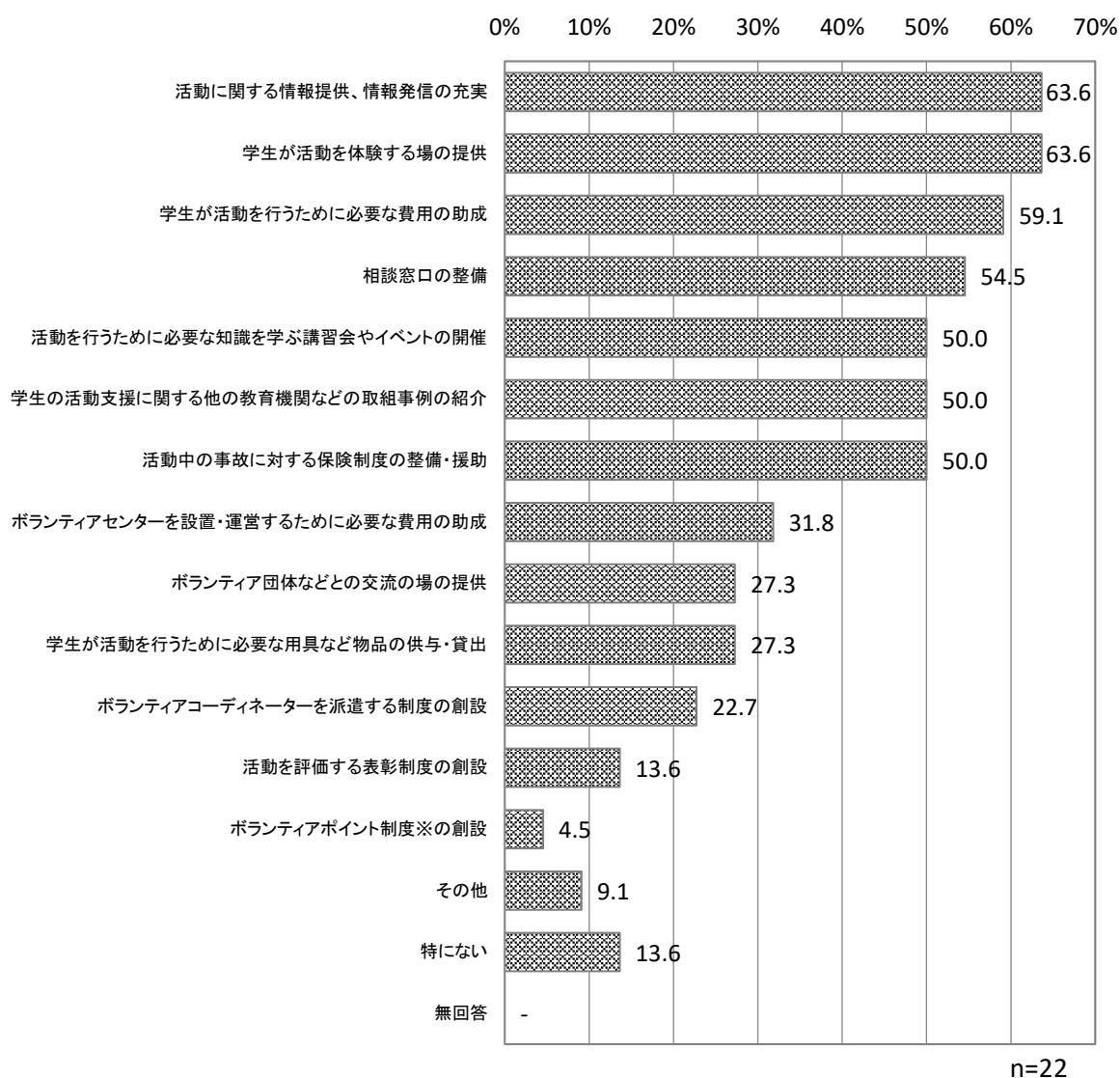
Q19. (すべての方) ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

記述内容
ボランティア教育の推進 学外・海外ボランティアの促進
関心はあるけれどもまだ行動していない層に向けて、ボランティアの魅力を伝えてより背中を押していきたい。
ボランティア活動における教育効果が学生の人間的成長につながると考えております。少人数ながら効果のある活動を行い、学生の成長と共に、地域から愛される大学となるよう活動を継続していきます。
多様な分野のボランティアの機会を学生に提供したい。 ボランティア活動の事前・事後のフォローアップを丁寧に実施したい。
ボランティアという言葉の使われ方が広くボランティアと呼べない（アルバイトに近い報酬がある）ものもボランティアの募集とくるため「ボランティア」の言葉の使用範囲を行政が中心となって定義づけてもらいたい。 これまで大学の中核を狙い得ない分野であったと思うが、少子化が進む今、大学が社会的な存在意義を持つためには教育・研究に並び立つべき分野として展開や体制を考えるべき局面だと思う。
ボランティアに関わる前のマインドの養成。そのためのサービス・ラーニング型への移行。

20. ボランティア活動に関して望む支援

Q20. (すべての方)

ボランティア活動に関して、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)



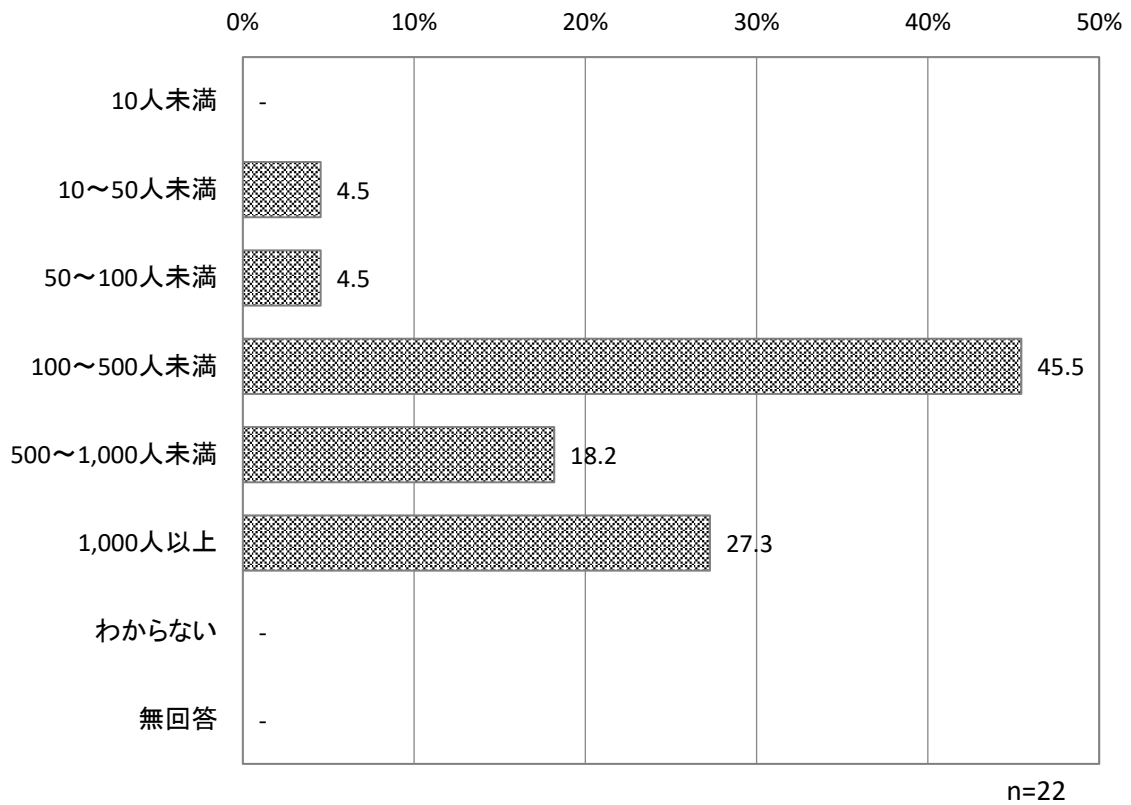
※ボランティアポイント制度：ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じて特典を受けられる制度

【ボランティア活動に関して望む支援】については、「活動に関する情報提供、情報発信の充実」と「学生が活動を体験する場の提供」がいずれも 63.6%で最も高かった。次いで、「学生が活動を行うために必要な費用の助成」が 59.1%、「相談窓口の整備」が 54.5%であった。

2. 学校の概要について

2.1. 職員の総数

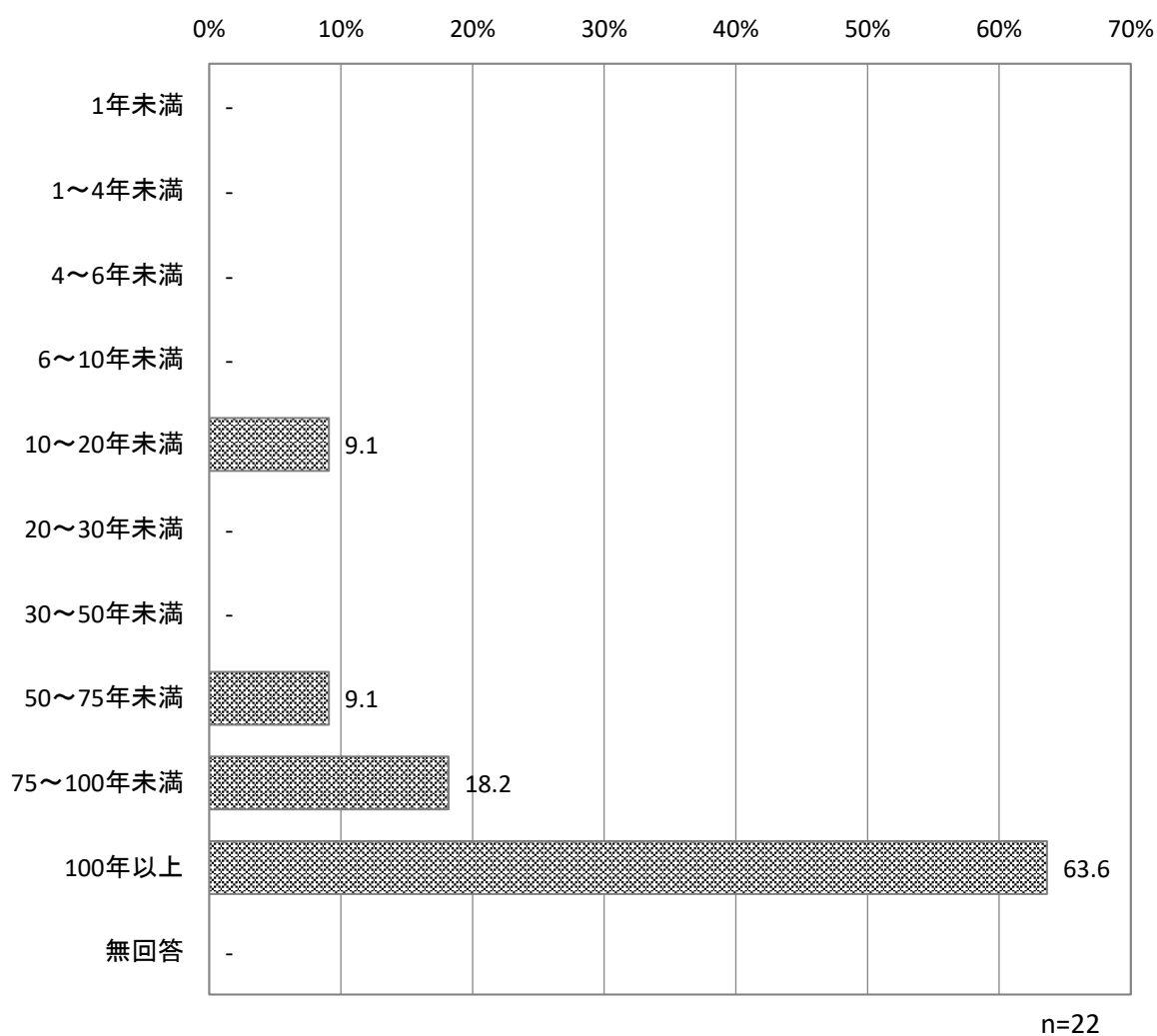
Q 2 1. 貴学の職員（教授など含む）の総数は何人ですか。（単一回答）



【職員の総数】については、「10~50人未満」と「50~100人未満」がいずれも4.5%、「100~500人未満」が45.5%、「500~1,000人未満」が18.2%、「1,000人以上」が27.3%であった。

2.2. 設立からの経過年数

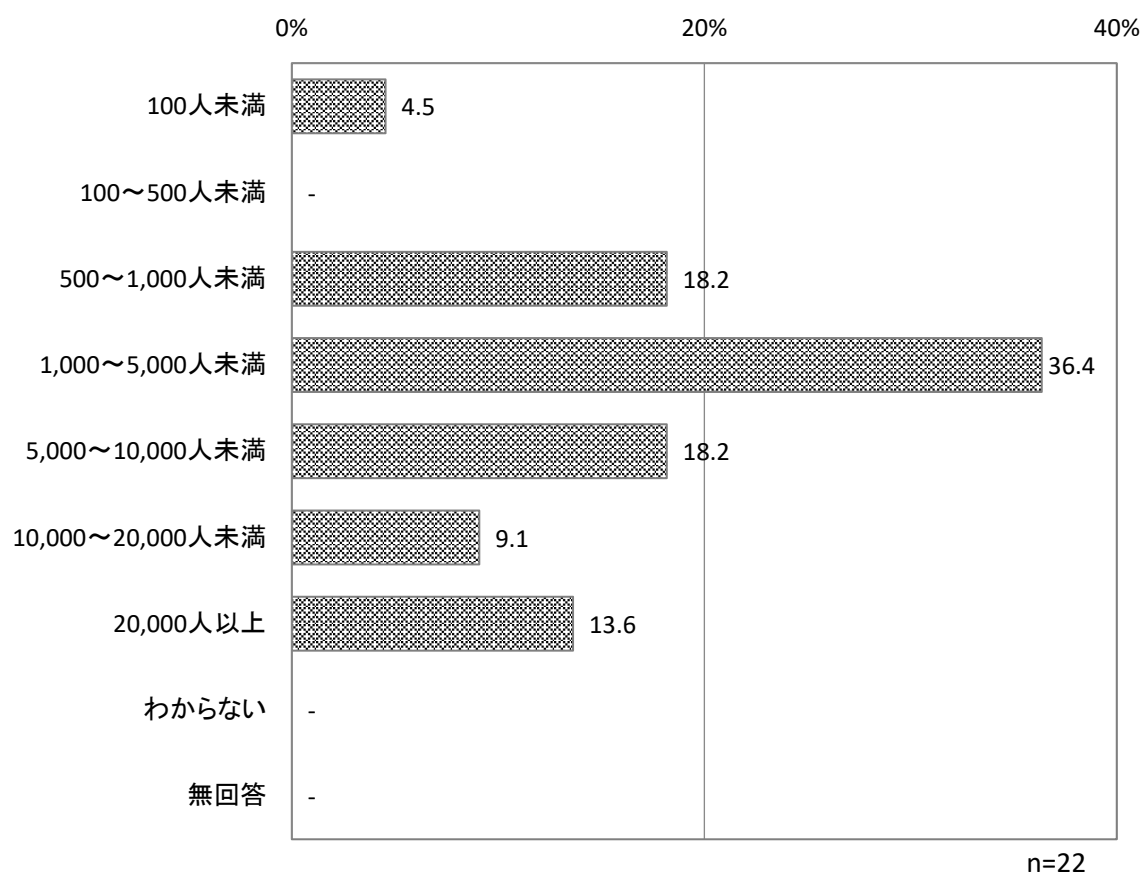
Q 2.2. 貴学は設立から何年経っていますか。(単一回答)



【設立からの経過年数】については、「10~20年未満」と「50~75年未満」がいずれも9.1%、「75~100年未満」が18.2%、「100年以上」が63.6%であった。

23. 学生数

Q23. 貴学の学生数は何人ですか。(単一回答)



【学生数】については、「100人未満」が4.5%、「500~1,000人未満」が18.2%、「1,000~5,000人未満」が36.4%、「5,000~10,000人未満」が18.2%、「10,000~20,000人未満」が9.1%、「20,000人以上」が13.6%であった。

IV. 中学高校向け調査

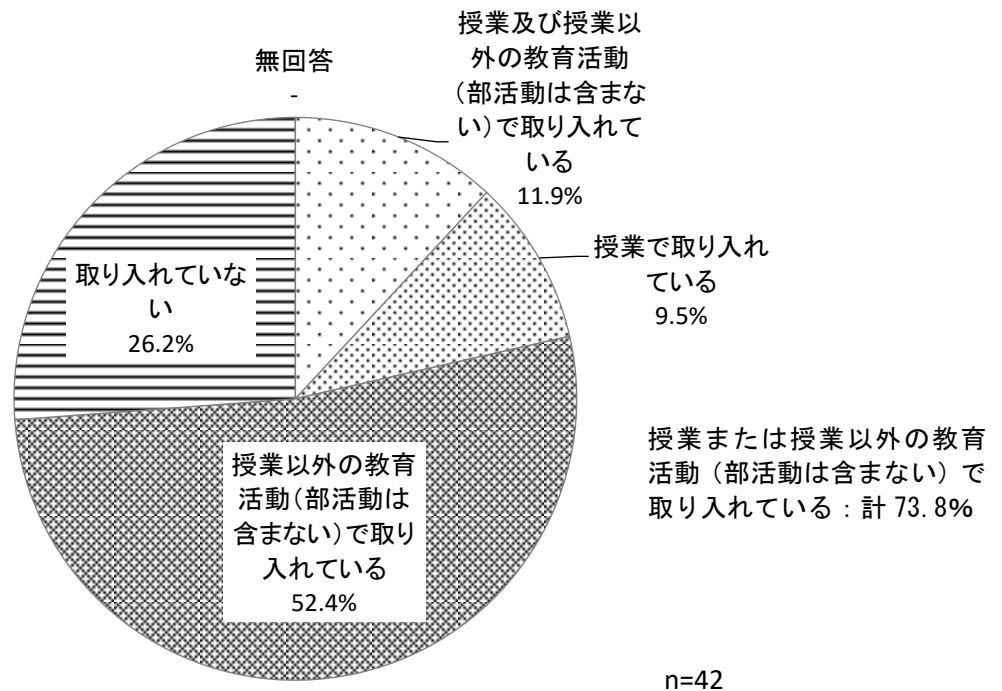
1. ボランティア活動について

1. ボランティア活動の取り入れ状況

Q1. (すべての方)

貴校では、教育活動の一環としてボランティア活動*を取り入れていますか。(単一回答)

*名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください



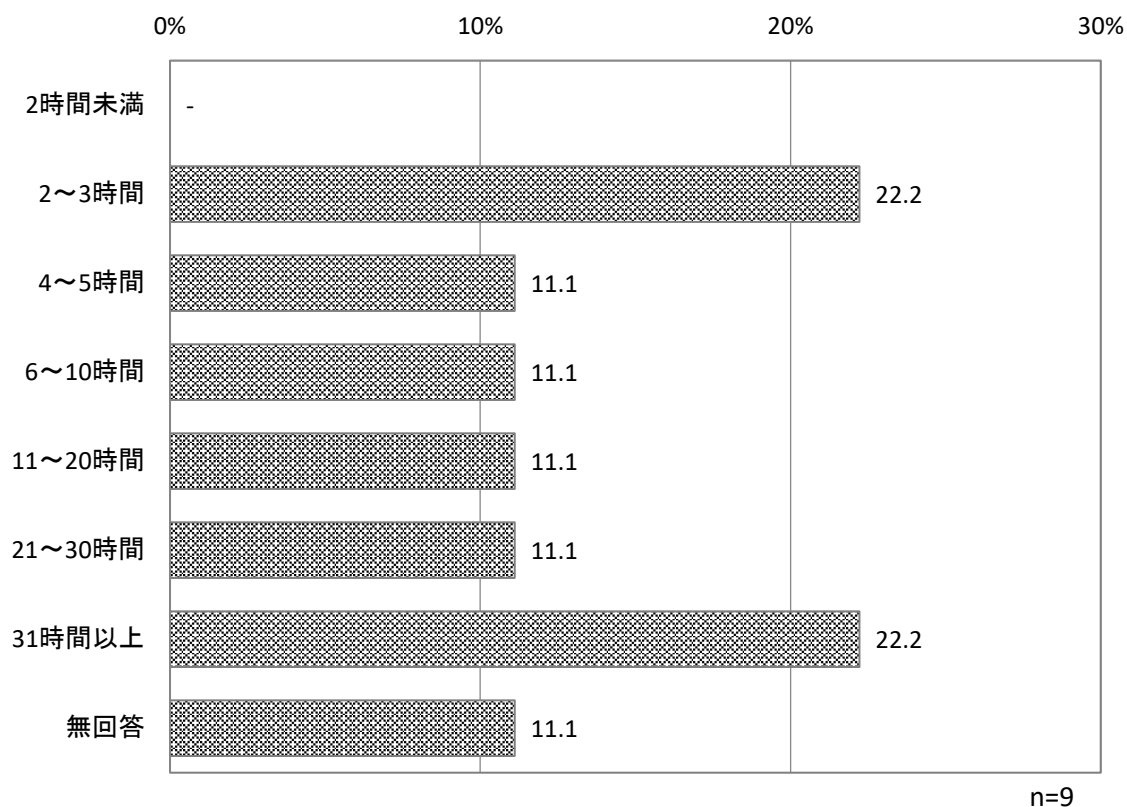
(注)【授業または授業以外の教育活動(部活動は含まない)で取り入れている・計】は「授業及び授業以外の教育活動(部活動は含まない)で取り入れている」「授業で取り入れている」「授業以外の教育活動(部活動は含まない)で取り入れている」の合計

【ボランティア活動の取り入れ状況】については、「授業及び授業以外の教育活動(部活動は含まない)で取り入れている」が11.9%、「授業で取り入れている」が9.5%、「授業以外の教育活動(部活動は含まない)で取り入れている」が52.4%、「取り入れていない」が26.2%であった。

2. 授業に取り入れたボランティア活動の年間時間数及び教科名

Q2. (Q1で1～2を回答した方)

授業に取り入れたボランティア活動の年間時間数及び教科を教えてください。



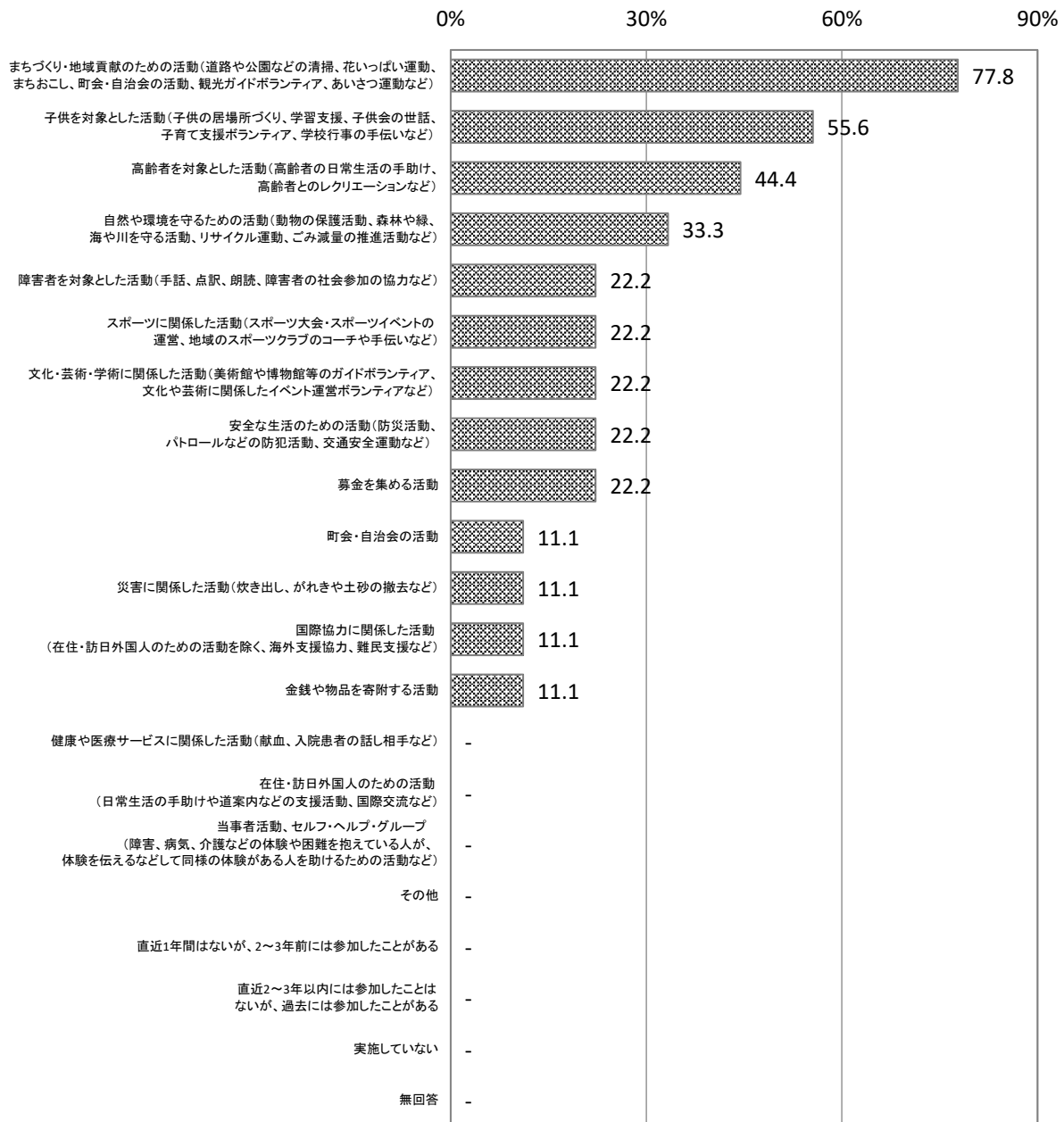
【授業に取り入れたボランティア活動の年間時間数】については、「2～3時間」が22.2%、「4～5時間」と「6～10時間」、「11～20時間」と「21～30時間」がいずれも11.1%、「31時間以上」が22.2%であった。

授業に取り入れたボランティア活動の教科名
総合的な探究の時間
総合的な探求の時間、特別活動
作業学習、生活単元学習
人間と社会（総合的な探究の時間）
草花、野菜
宗教、探究
職業（知的障害学級） 自立活動（情緒障害学級）
総合的な探究の時間
人間と社会

3. 授業で生徒が参加したボランティア活動

Q3. (Q1で1~2を回答した方)

直近1年間(令和6年10月1日から令和7年9月30日まで)に授業で実際に生徒が参加したボランティア活動がある場合、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。
(複数回答)



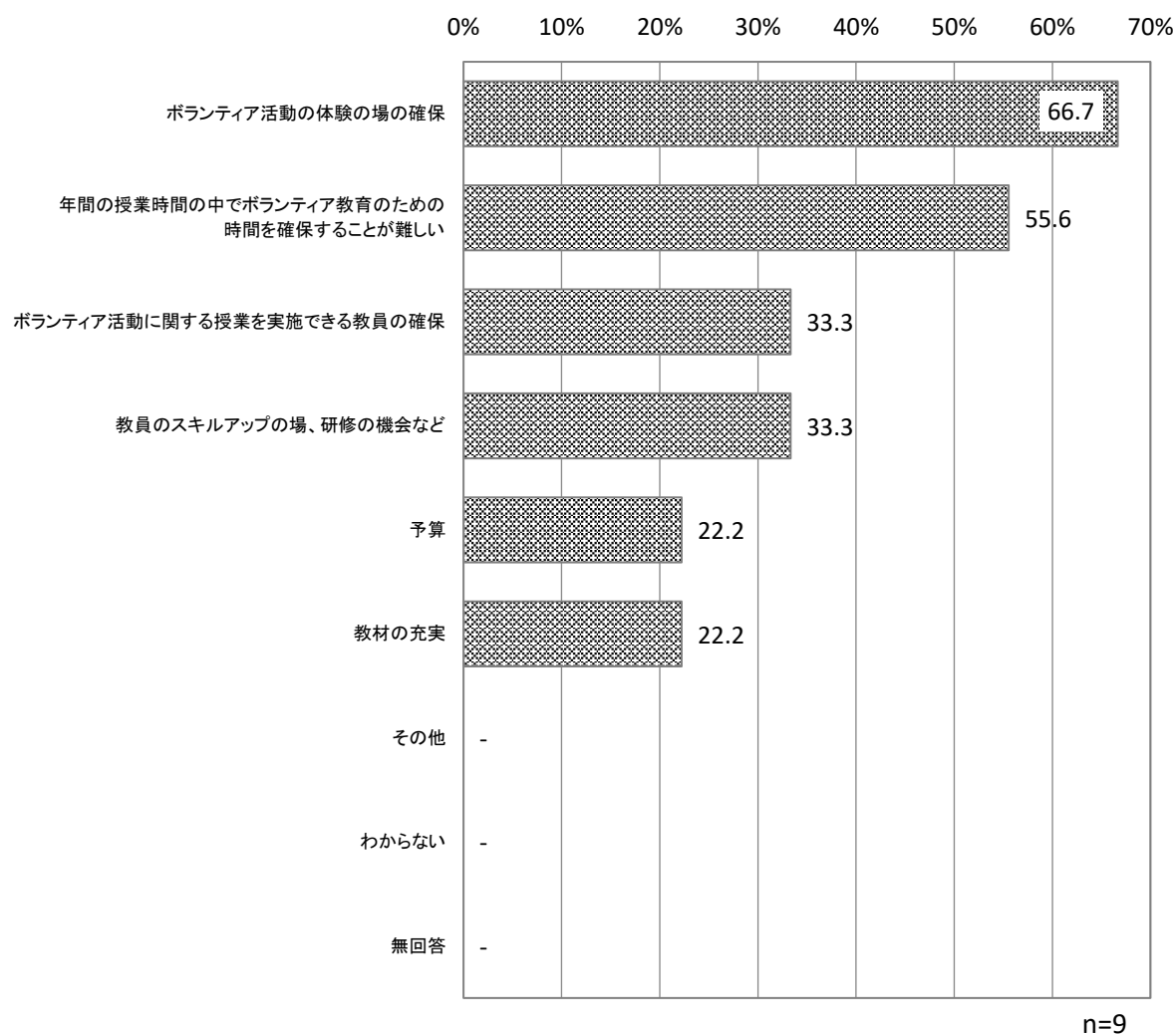
n=9

【授業で生徒が参加したボランティア活動】については、「まちづくり・地域貢献のための活動」が77.8%で最も高かった。次いで、「子供を対象とした活動」が55.6%、「高齢者を対象とした活動」が44.4%であった。

4. 授業でボランティア活動を取り入れるための課題

Q4. (Q1で1~2を回答した方)

授業でボランティア活動を取り入れていくための課題(授業を行っていく上での課題)は何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

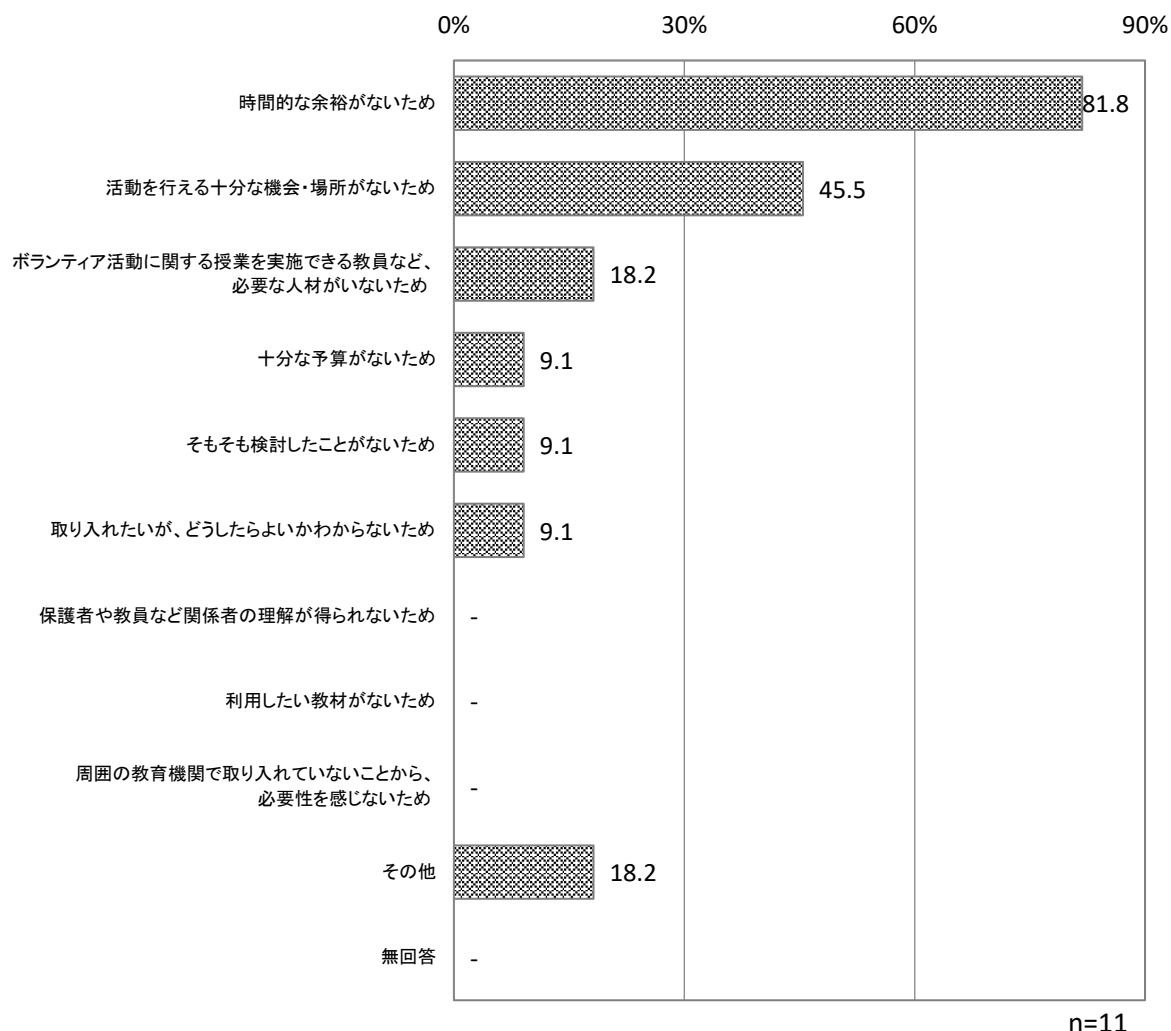


【授業でボランティア活動を取り入れるための課題】については、「ボランティア活動の体験の場の確保」が66.7%で最も高かった。次いで、「年間の授業時間の中でボランティア教育のための時間を確保することが難しい」が55.6%、「ボランティア活動に関する授業を実施できる教員の確保」と「教員のスキルアップの場、研修の機会など」がいずれも33.3%であった。

5. ボランティア活動を取り入れていない理由

Q 5. (Q 1で「4. 取り入れていない」を回答した方)

貴校にボランティア活動を取り入れていない理由について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

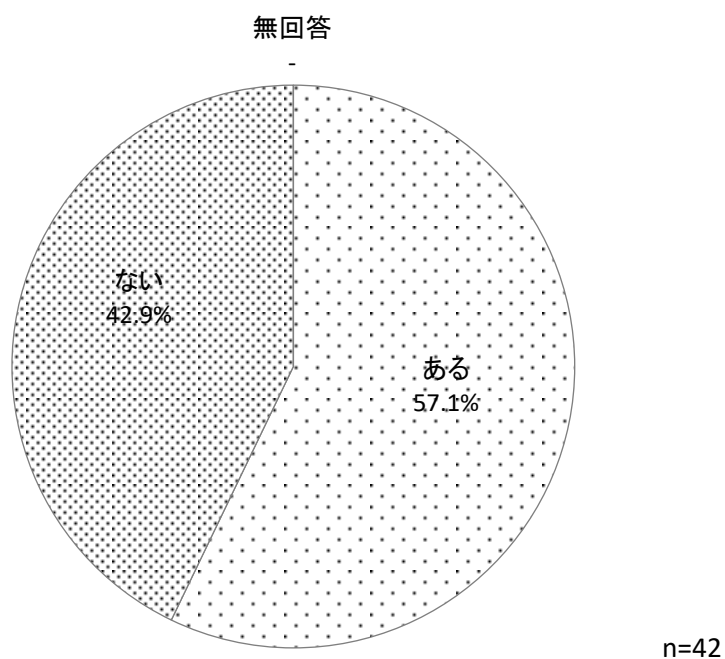


【ボランティア活動を取り入れていない理由】については、「時間的な余裕がないため」が81.8%で最も高かった。次いで、「活動を行える十分な機会・場所がないため」が45.5%、「ボランティア活動に関する授業を実施できる教員など、必要な人材がないため」が18.2%であった。

6. ボランティア活動を行う部活動の有無

Q 6. (すべての方)

ボランティア活動を行っている部活動などがありますか。(単一回答)

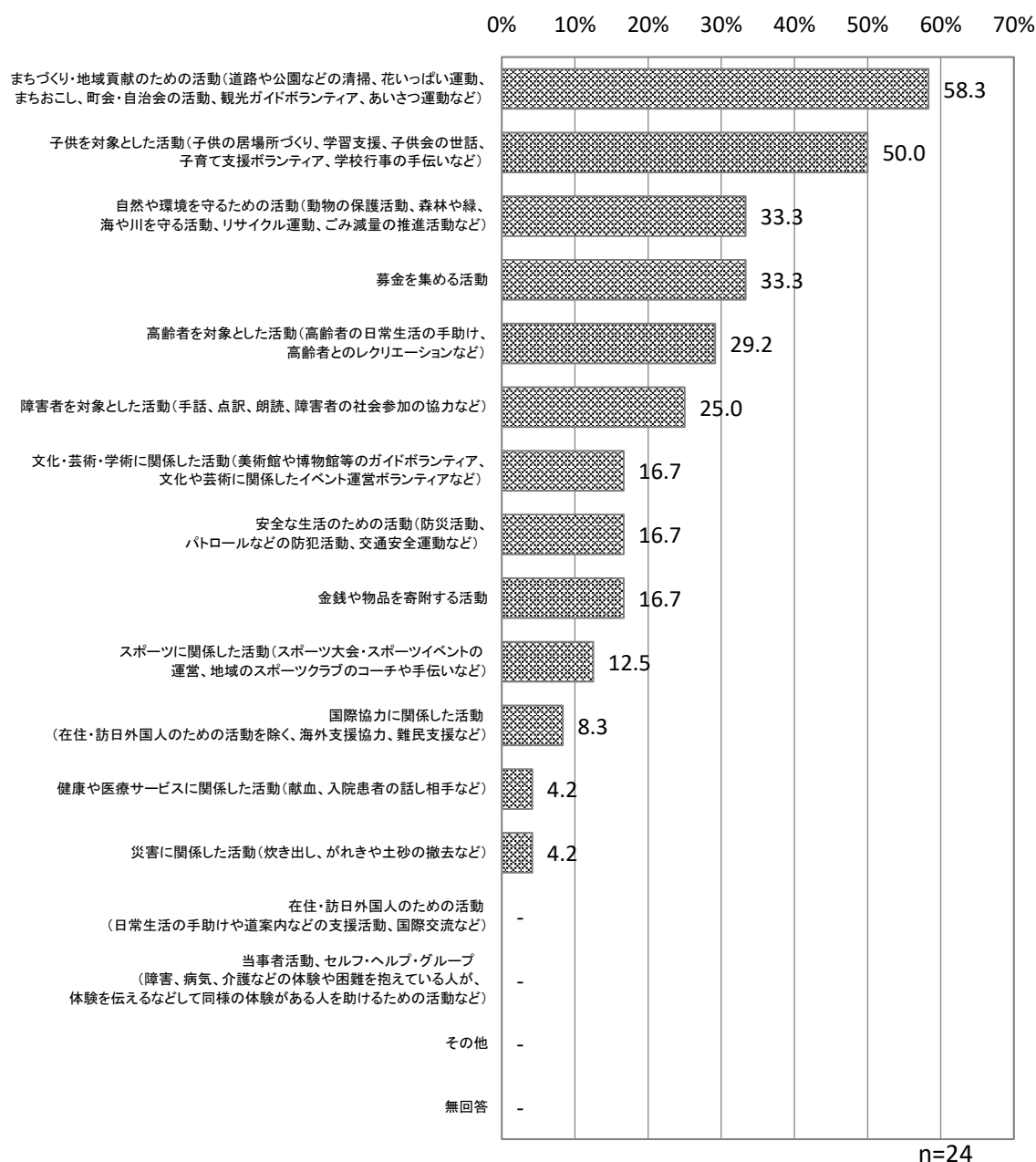


【ボランティア活動を行う部活動の有無】については、「ある」が 57.1%、「ない」が 42.9%であった。

7-1. ボランティア活動を行っている部活動の活動内容

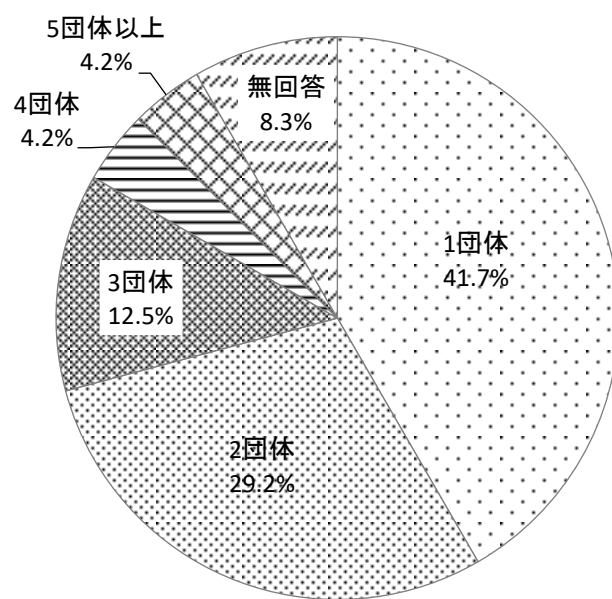
Q7. (Q6で「1. ある」を回答した方)

ボランティア活動を行っている部活動などの活動内容、団体数、生徒数、担当教員数をお答えください。



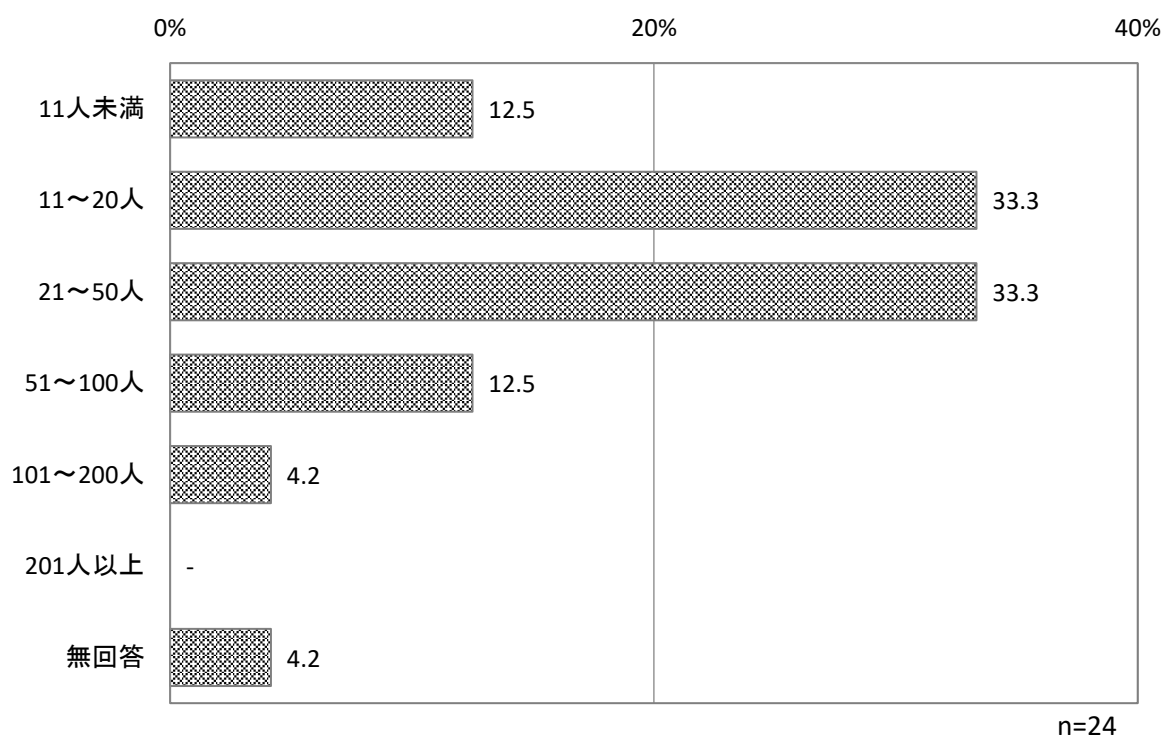
【ボランティア活動を行っている部活動の活動内容】については、「まちづくり・地域貢献のための活動」が 58.3%、「子供を対象とした活動」が 50.0%、「自然や環境を守るための活動」と「募金を集める活動」がいずれも 33.3%であった。

7-2. ボランティア活動を行っている部活動の団体数



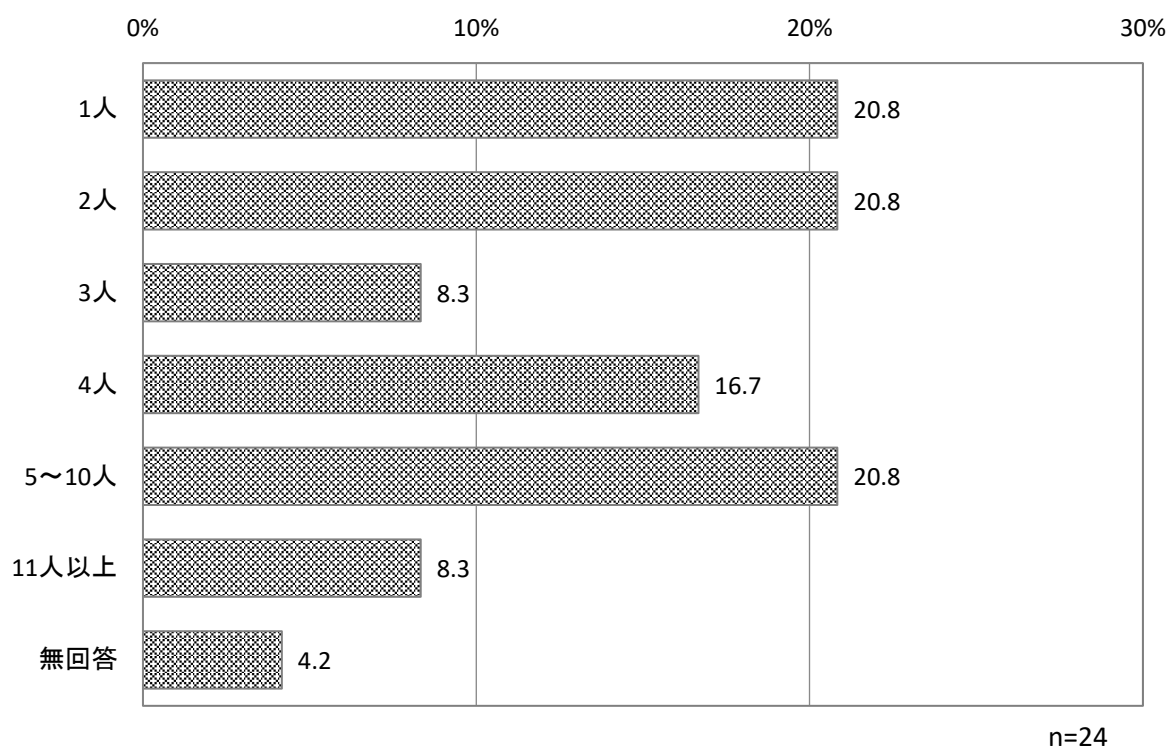
【ボランティア活動を行っている部活動の団体数】については、「1団体」が41.7%、「2団体」が29.2%、「3団体」が12.5%、「4団体」と「5団体以上」がいずれも4.2%であった。

7-3. ボランティア活動を行っている部活動の生徒数



【ボランティア活動を行っている部活動の生徒数】については、「11人未満」が12.5%、「11~20人」と「21~50人」がいずれも33.3%、「51~100人」が12.5%、「101~200人」が4.2%であった。

7-4. ボランティア活動を行っている部活動の担当教員数

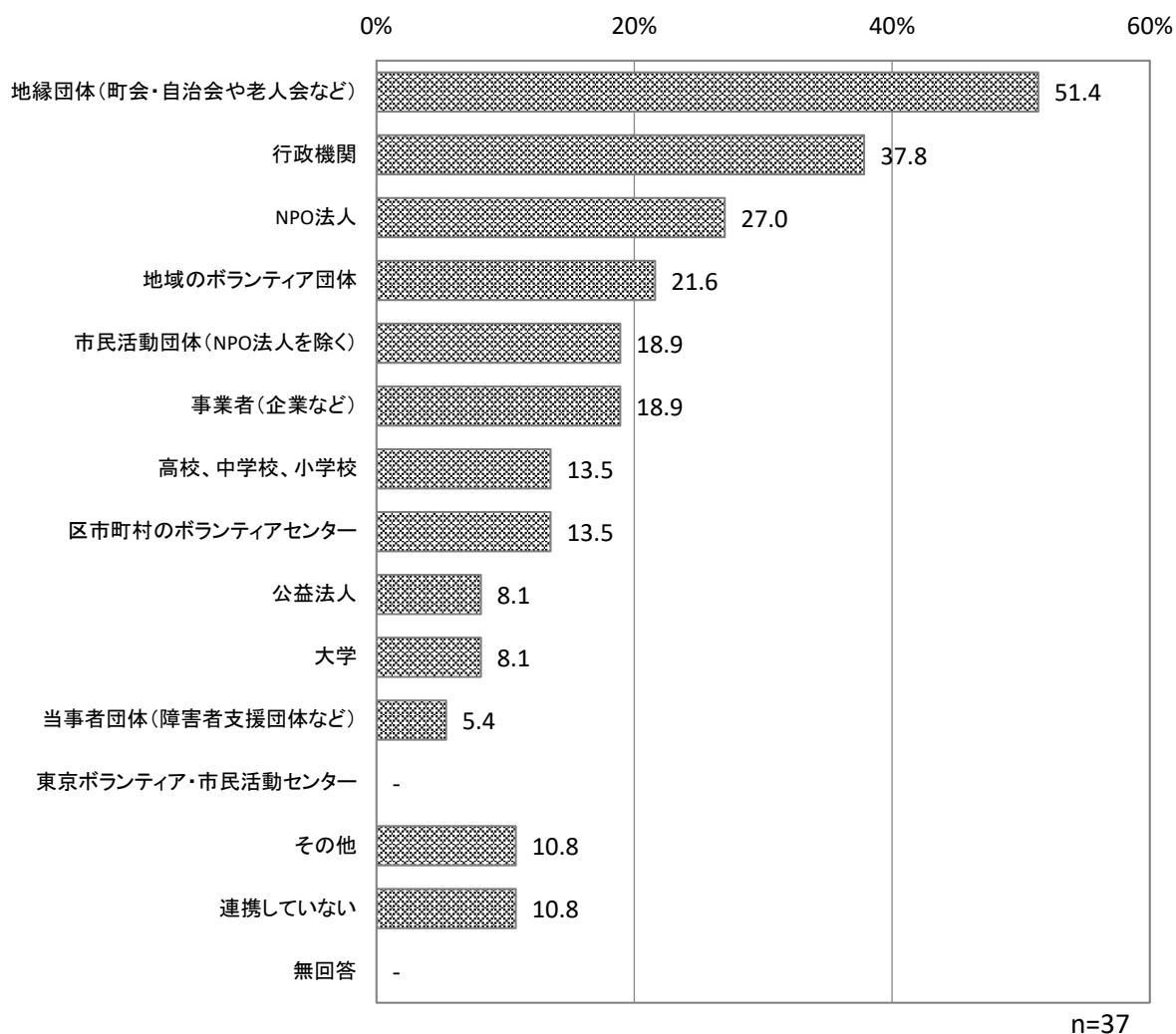


【ボランティア活動を行っている部活動の担当教員数】については、「1人」と「2人」がいずれも20.8%、「3人」が8.3%、「4人」が16.7%、「5~10人」が20.8%、「11人」が8.3%であった。

8. 連携団体

Q8. (Q1で1~3、またはQ6で1を回答した方)

ボランティア活動を行っている授業や部活動などは、活動にあたり外部の団体と連携していますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

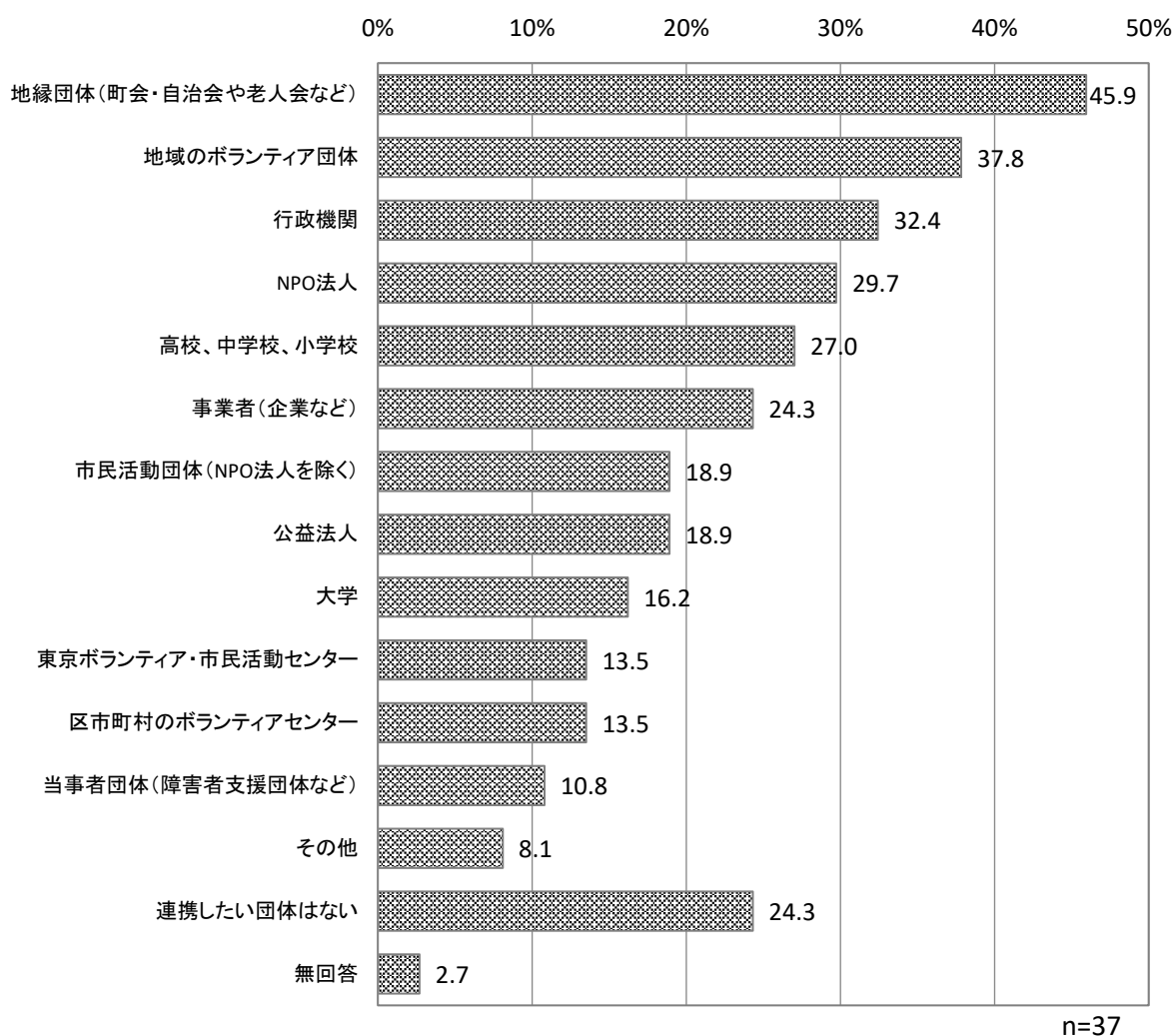


【連携団体】については、「地縁団体(町会・自治会や老人会など)」が51.4%で最も高かった。次いで、「行政機関」が37.8%、「NPO法人」が27.0%であった。

9. 今後連携したい団体

Q9. (Q1で1~3、またはQ6で1を回答した方)

ボランティア活動を行っている授業や部活動などにおいて、今後連携したい団体があれば、当てはまるものをすべてお答えください。現在、既に連携していて、今後も引き続き連携したい場合も含めてお答えください。(複数回答)



【今後連携したい団体】については、「地縁団体(町会・自治会や老人会など)」が45.9%で最も高かった。次いで、「地域のボランティア団体」が37.8%、「行政機関」が32.4%であった。

10. 具体的な連携内容

Q 10. (Q8またはQ9で1～13を回答した方)

現在、どのような連携をしていますか。または今後、どのような連携をしたいですか。具体的にお書きください。(複数選択可)

記述内容
特別支援学校との連携
レクリエーション活動をする場の提供。 本校のみの活動ではなく、共同して行う活動。
社会福祉法人である高齢者施設訪問、公益財団法人で清掃などの手伝い、献血ルームの手伝い、被災地支援と防災活動、途上国支援のNPOでの事務作業の手伝い
法人およびボランティアセンターと連携をとっている。両団体が主催するイベントに参加している。しかし地域の活動にも参加したいと考えており、高齢者や障害者の施設でボランティア活動を行ってみたいと思っている。
高校や大学と連携した活動
活動場所の提供や合同での実施
清掃活動およびイベント等での実技(実演)披露等を行っている。
小学生が本校にどんぐりを拾いに来る。近くの小学校へ行き、落ち葉を拾い回収している。けやきの再生、桜の再生。保育園での苗の定植、園児との交流。
ひまわりの種を送ってもらい、育て、種を送るボランティア
近隣の老人ホームでの演奏、NPO団体へのぬいぐるみ・おもちゃを回収して寄附、子どもの活動支援、キワニスドールづくり、など。
学区域にある滝の周辺清掃、地域の祭りのゴミ拾い
警察・区・JRなどと連携して、痴漢撲滅キャンペーンに参加し、啓発活動を行っている。法人主催のイベントに参加。
現在、候補日時を伺い、訪問させていただいている。
近隣の緑地公園の維持にあたり、生徒への技術指導をいただいている。
コンタクトレンズの回収、ペットボトルのフタの回収など
地域活動での連携
生徒ボランティアの募集及び斡旋
地域の民生委員さんや市のボランティアセンター等にご協力をいただき、本校から徒歩圏内でボランティアができる高齢者施設や保育園などに放課後の時間に行ってボランティアを行っている。また、地域のお祭りやイベント、募金活動などの依頼を受け、週末などにもボランティア活動を行っている。
地域の行事への参加や地域貢献

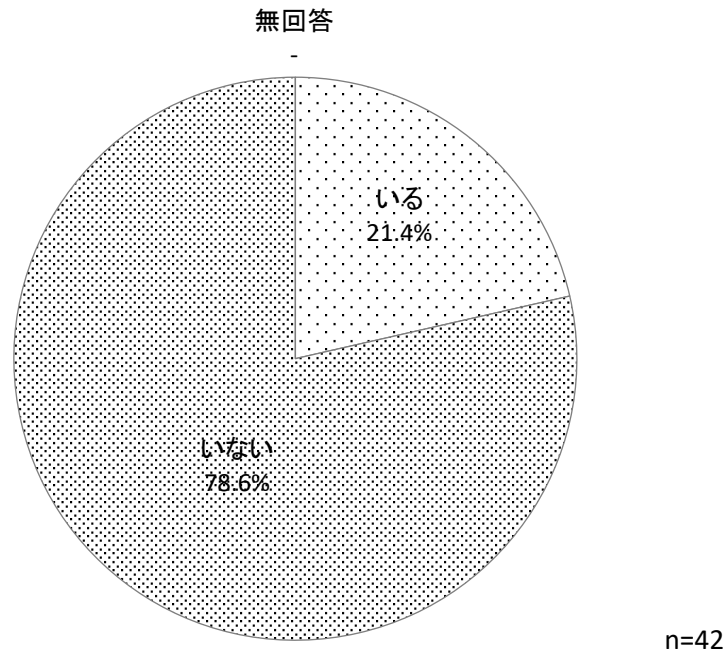
記述内容
町会の祭りやイベントへの参加や運営の手伝い
地域の夏祭りの運営補助をしている。
法人と本校の JRC 部。活動は募金活動、フードロス活動。 都内、神奈川県内の高齢者介護施設に、本校の合唱部、フルート部が訪問。活動は慰労訪問での演奏。 公園での迷子対応活動。毎年のゴールデンウィーク期間に希望者が参加。
現在地域の児童館や養護老人ホームなどの施設に定期的に訪問し、活動させていただいている。その他、地域のイベント（夏祭り、花火大会、クリスマスなど）に希望者を募り、参加させていただいている。路上生活者への物資支援への協力などを行っている。クリスマスカードを作成し、刑務所へ配布していただいている。その他、震災などが生じた場合、臨時で募金活動を行い支援している。今後は、企業や支援団体と協力いただき、一緒に社会問題などの解決に向けて活動できる機会があると生徒たちの学びになると考えています。
本校では生徒主体の SDGs などの啓発活動を中心とした課外活動が盛んに行われている。その際、地域団体や企業、市役所や省庁などと連携して活動を行っている。
当日までの準備や当日の運営などの連携
お互いに行事に出る。 今後も継続していきたい（教員が変わっても）
本校独自の地域の清掃活動を地元の事業所と連携して行なっている 値域の代表者と連携しながらイベントに参加している これからもこのような連携を継続していきたい。
年に1回、川の清掃活動に参加している。
小学校の行事の手伝い（運営補助、吹奏楽部の演奏） 地域のイベントの手伝い（運営補助、吹奏楽部の演奏）
地域との連携を強化していきたいので、開かれた学校づくり協議会との活動を増やしたり充実したものにしていきたい。
地域活性化の一環での活動や、地域イベントへの出店や参加
地域の警察、大学との連携。 NPO法人障害者のスポーツ大会運営補佐。 募金活動。 フードバンクへの寄付。 ペットボトルキャップ回収等。
夏の体験活動

11. ボランティアコーディネーターの有無

Q11. (すべての方)

ボランティアコーディネーター*として活動できる人はいますか。(単一回答)

*ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側を調整する人材

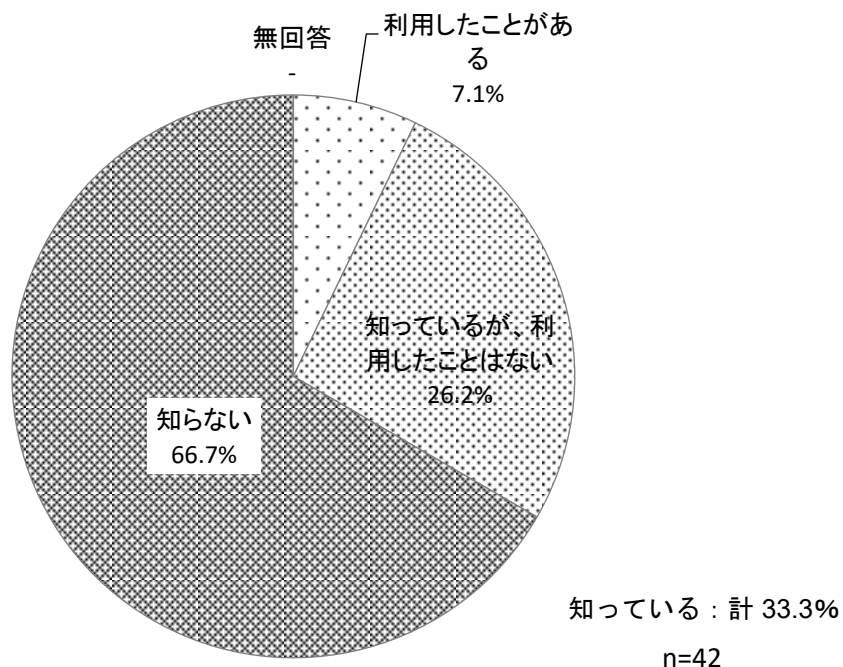


【ボランティアコーディネーターの有無】については、「いる」が21.4%、「いない」が78.6%であった。

12. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度および利用経験

Q12. (すべての方)

東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存知ですか。また、利用したことはありますか。(単一回答)



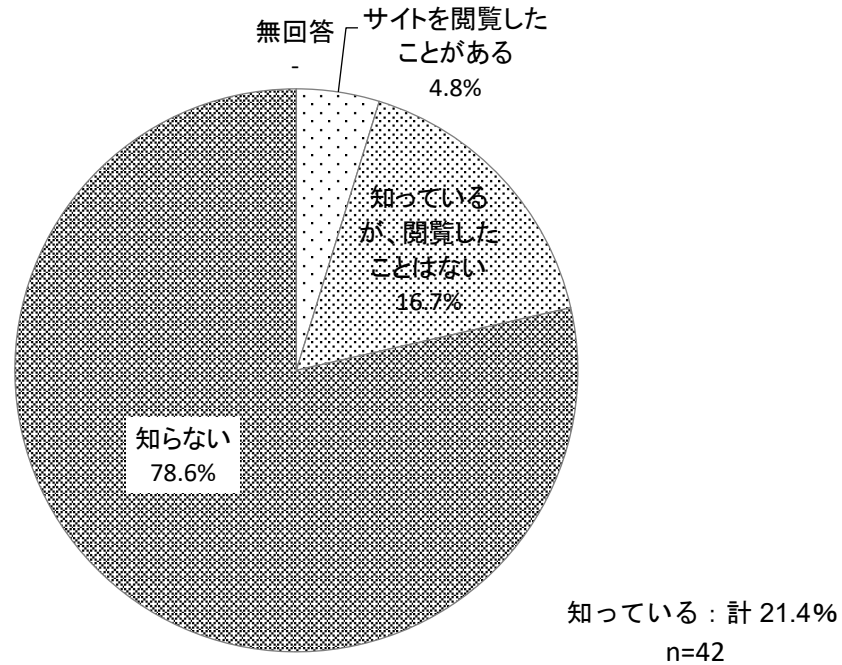
(注) 【知っている：計】は「利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」の合計

【東京ボランティア・市民活動センターの認知度および利用経験】については、「利用したことがある」が7.1%、「知っているが、利用したことはない」が26.2%、「知らない」が66.7%であった。

13. 「ボラ市民ウェブ」の認知度および閲覧経験

Q13. (すべての方)

東京ボランティア・市民活動センターのウェブサイト「ボラ市民ウェブ」はご存知ですか。また、閲覧したことはありますか。(単一回答)



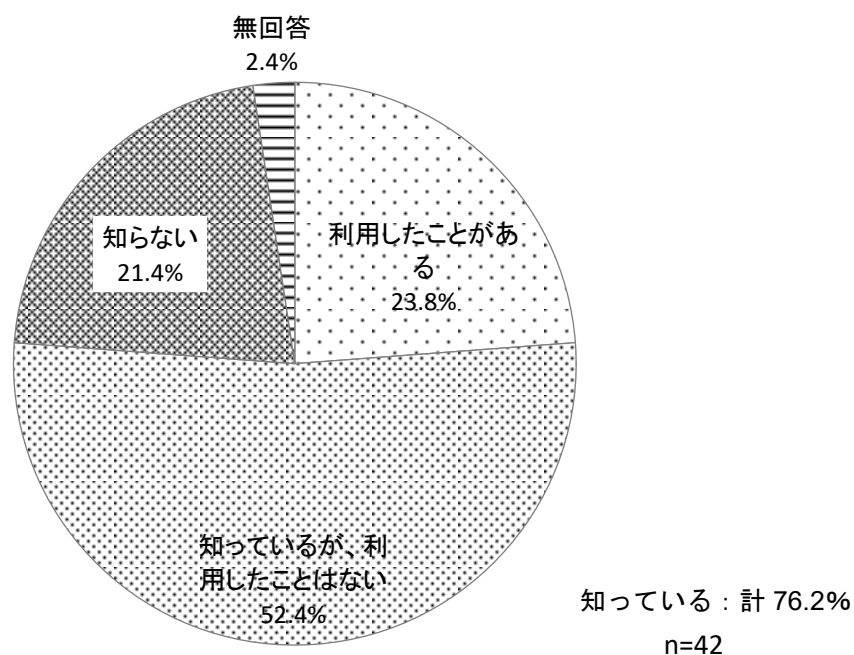
(注)【知っている：計】は「サイトを閲覧したことがある」「知っているが、閲覧したことはない」の合計

【「ボラ市民ウェブ」の認知度および閲覧経験】については、「サイトを閲覧したことがある」が4.8%、「知っているが、閲覧したことはない」が16.7%、「知らない」が78.6%であった。

14. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度および利用経験

Q14. (すべての方)

区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。(単一回答)



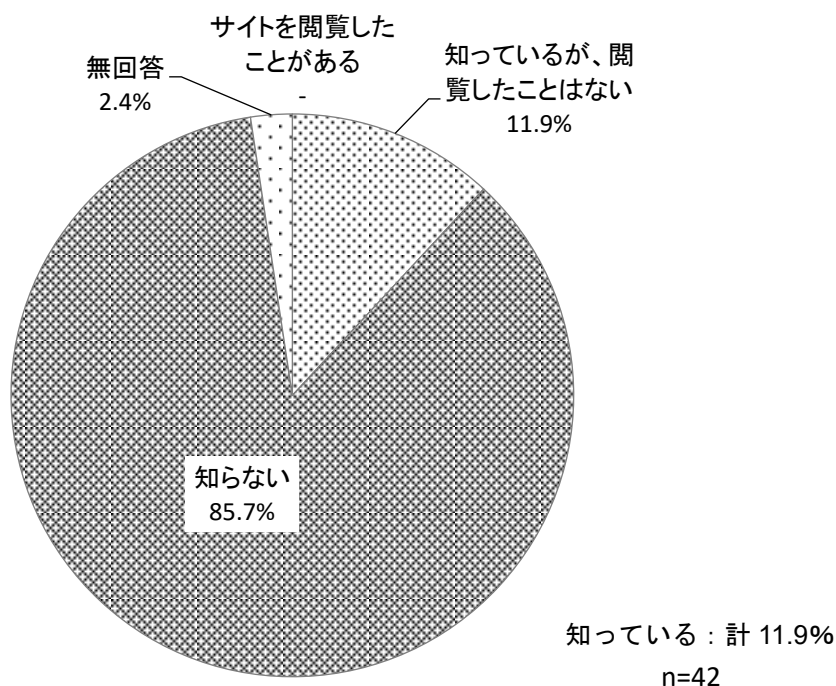
(注)【知っている：計】は「利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」の合計

【社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度および利用経験】については、「利用したことがある」が23.8%、「知っているが、利用したことはない」が52.4%、「知らない」が21.4%であった。

15. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度および閲覧経験

Q15. (すべての方)

東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア活動情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存知ですか。また、閲覧したことはありますか。(単一回答)



(注)【知っている：計】は「サイトを閲覧したことがある」「知っているが、閲覧したことはない」の合計

【「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度および閲覧経験】については、「知っているが、閲覧したことはない」が 11.9% 「知らない」が 85.7%であった。

16. 今後の取組意向

Q16. (すべての方)

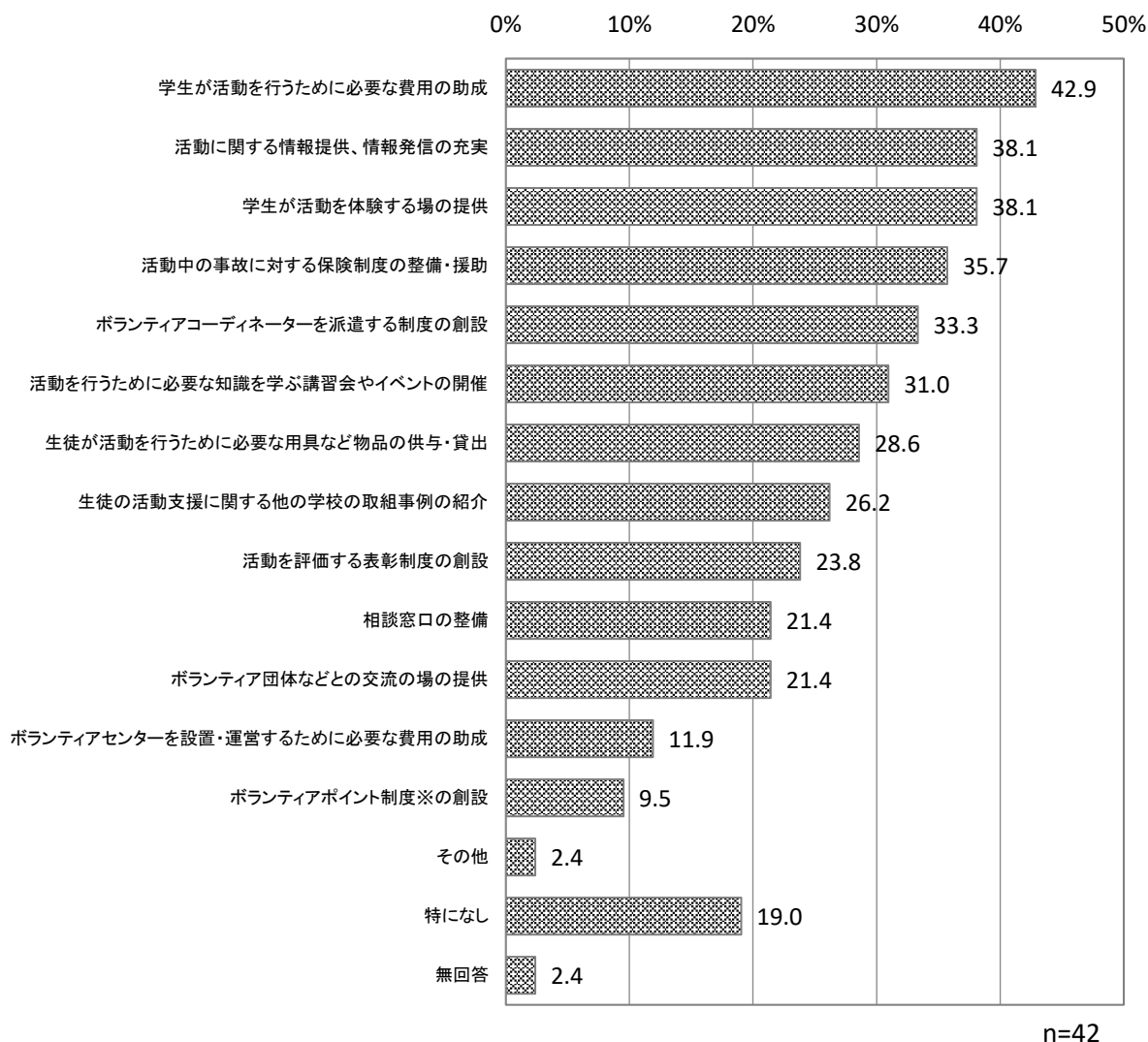
ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

記述内容
法人およびボランティアセンターと連携をとっている。両団体が主催するイベントに参加している。しかし地域の活動にも参加したいと考えており、高齢者や障害者の施設でボランティア活動を行ってみたいと思っている。
現状の取組の継続と質の向上
現状のままで良いと思います。
できるだけ行っていきたい。
様々な種類のボランティア活動を行いたい。
引き続き活動を続けていく。
引き続き、企業や官庁と連携して活動を拡大していきたい。
教員の無理のない範囲で協力できる部分は協力して続けられるようにしていく。
地域とのつながりを大切にしていきたい。
今日まで取り組んできたボランティア活動を今後も継続していきたい。

17. ボランティア活動に関して望む支援

Q17. (すべての方)

ボランティア活動に関して、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

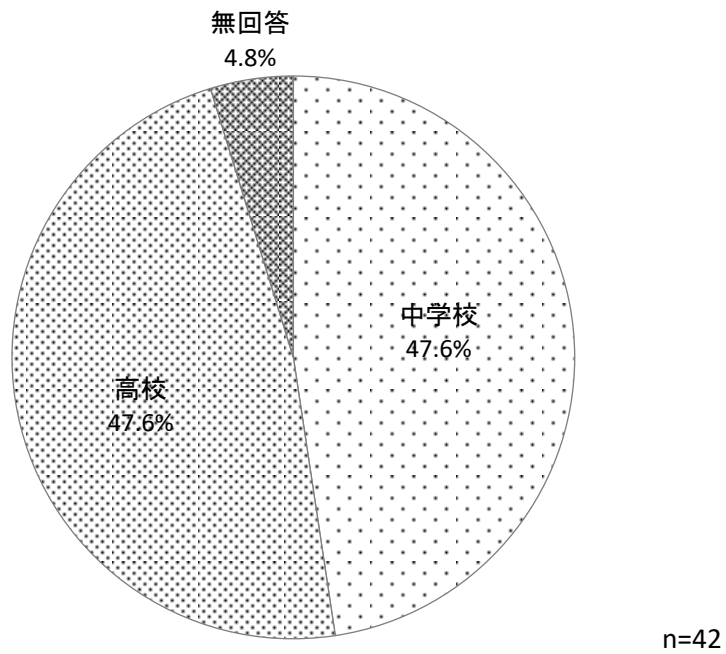


【ボランティア活動に関して望む支援】については、「学生が活動を行うために必要な費用の助成」が42.9%で最も高かった。次いで、「活動に関する情報提供、情報発信の充実」と「学生が活動を体験する場の提供」がいずれも38.1%、「活動中の事故に対する保険制度の整備・援助」が35.7%であった。

2. 学校の概要について

18. 学校種別

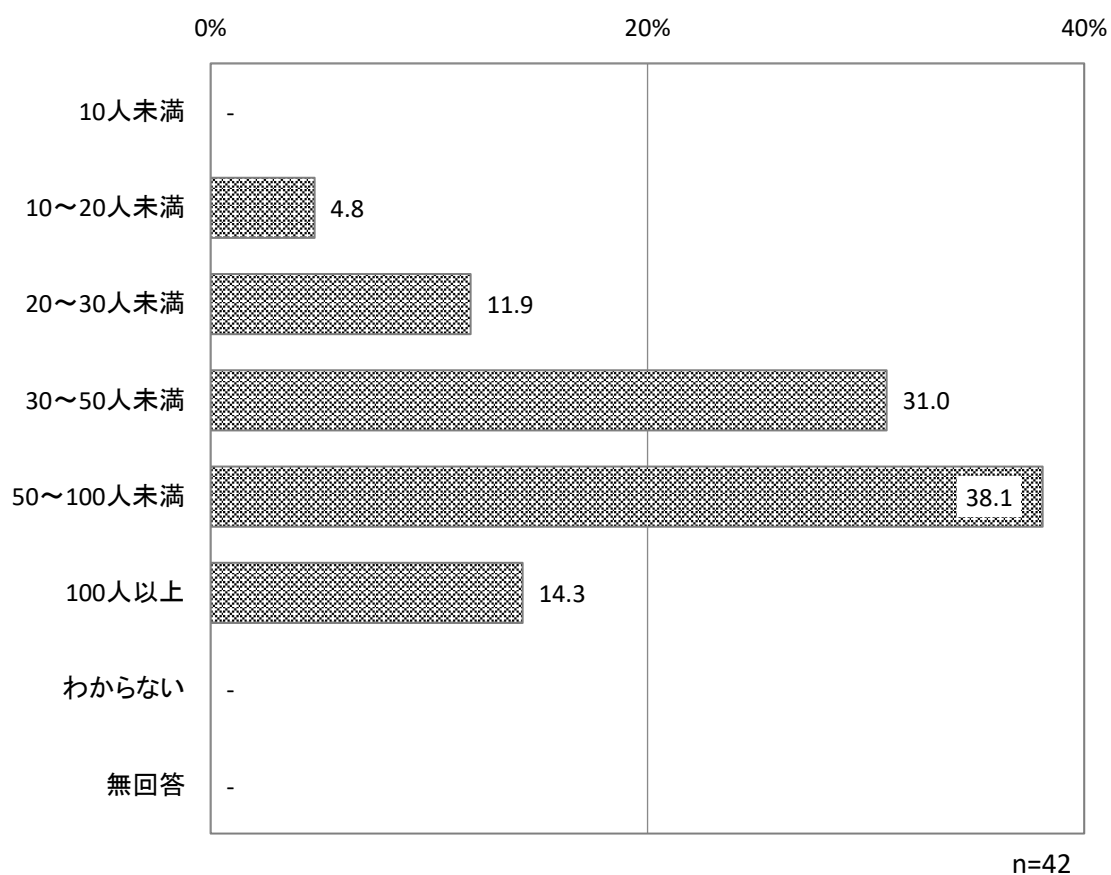
Q18. 貴校の学校種別についてお答えください。(単一回答)



【学校種別】については、「中学校」が47.6%、「高校」が47.6%であった。

19. 職員の総数

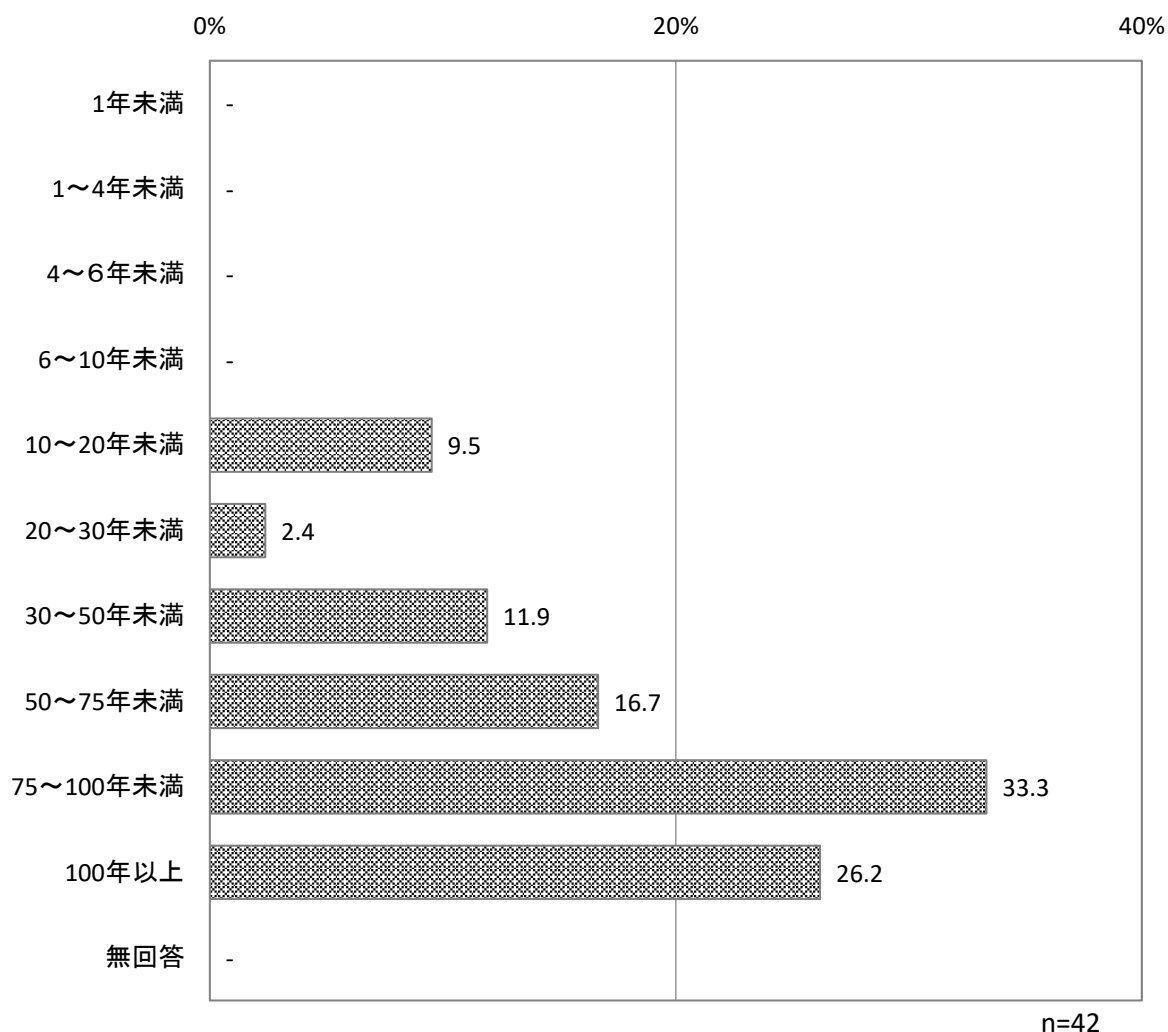
Q19. 貴校の職員（教職員など含む）の総数は何人ですか。（単一回答）



【職員の総数】については、「10~20人未満」が4.8%、「20~30人未満」が11.9%、「30~50人未満」が31.0%、「50~100人未満」が38.1%、「100人以上」が14.3%であった。

20. 設立からの経過年数

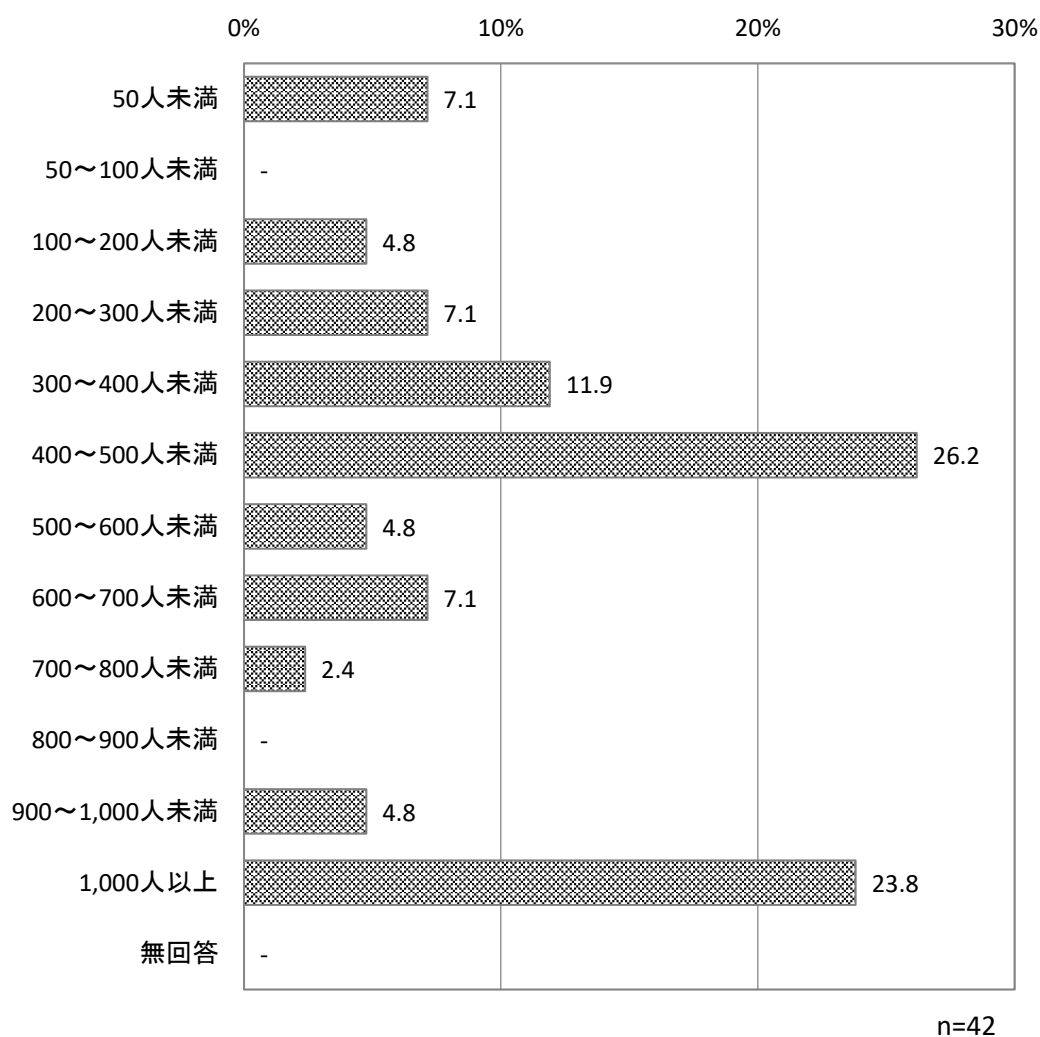
Q20. 貴校は設立から何年経っていますか。(単一回答)



【設立からの経過年数】については、「10~20年未満」が9.5%、「20~30年未満」が2.4%、「30~50年未満」が11.9%、「50~75年未満」が16.7%、「75~100年未満」が33.3%、「100年以上」が26.2%であった。

2 1. 生徒数

Q 2 1. 貴校の生徒数は何人ですか。(単一回答)



【生徒数】については、「50人未満」が7.1%、「100~200人未満」が4.8%、「200~300人未満」が7.1%、「300~400人未満」が11.9%、「400~500人未満」が26.2%、「500~600人未満」が4.8%、「600~700人未満」が7.1%、「700~800人未満」が2.4%、「900~1,000人未満」が4.8%、「1,000人以上」が23.8%であった。

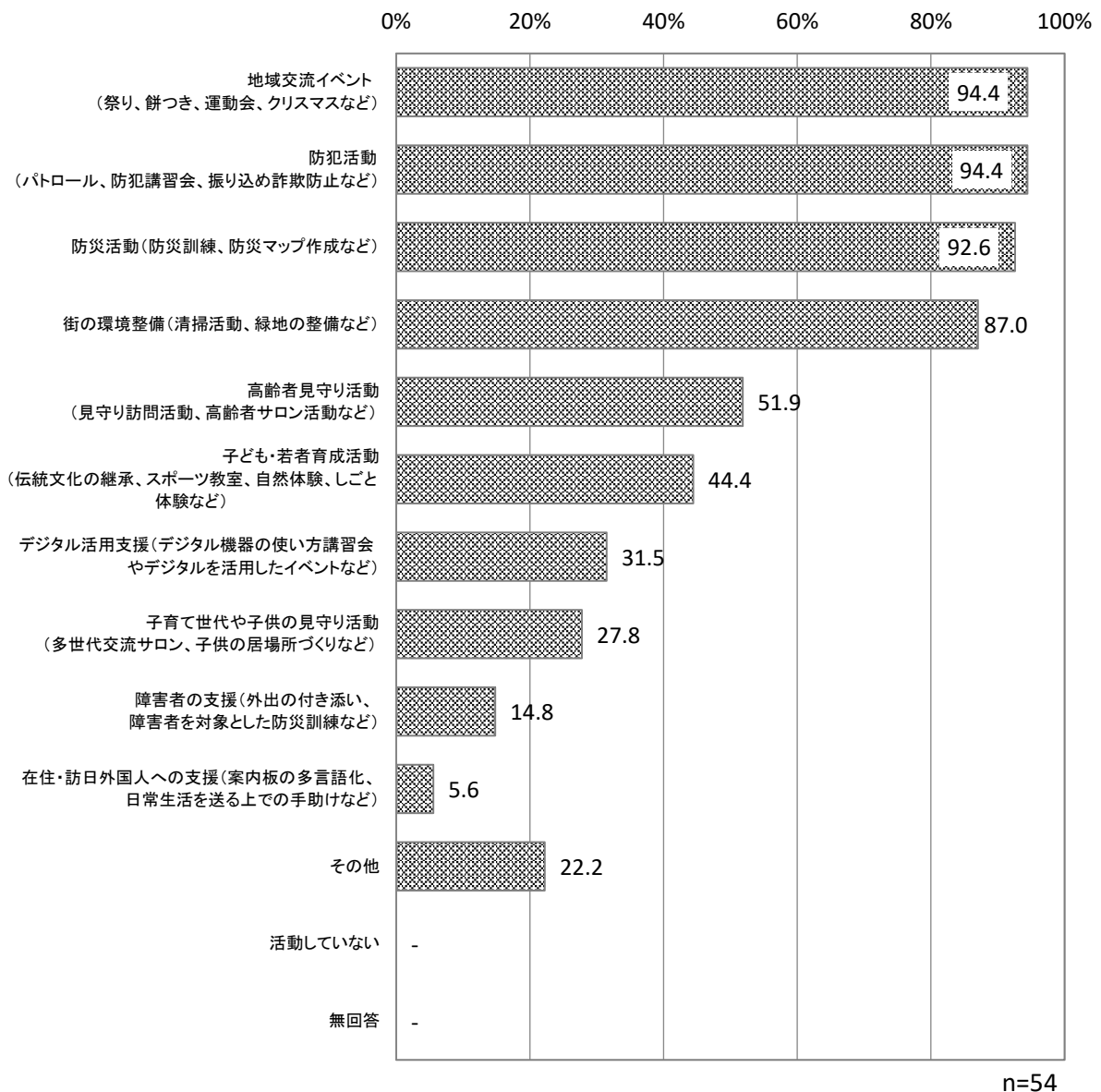
V. 町会自治会向け調査

1. 団体の活動について

1. 活動内容

Q 1. (すべての方)

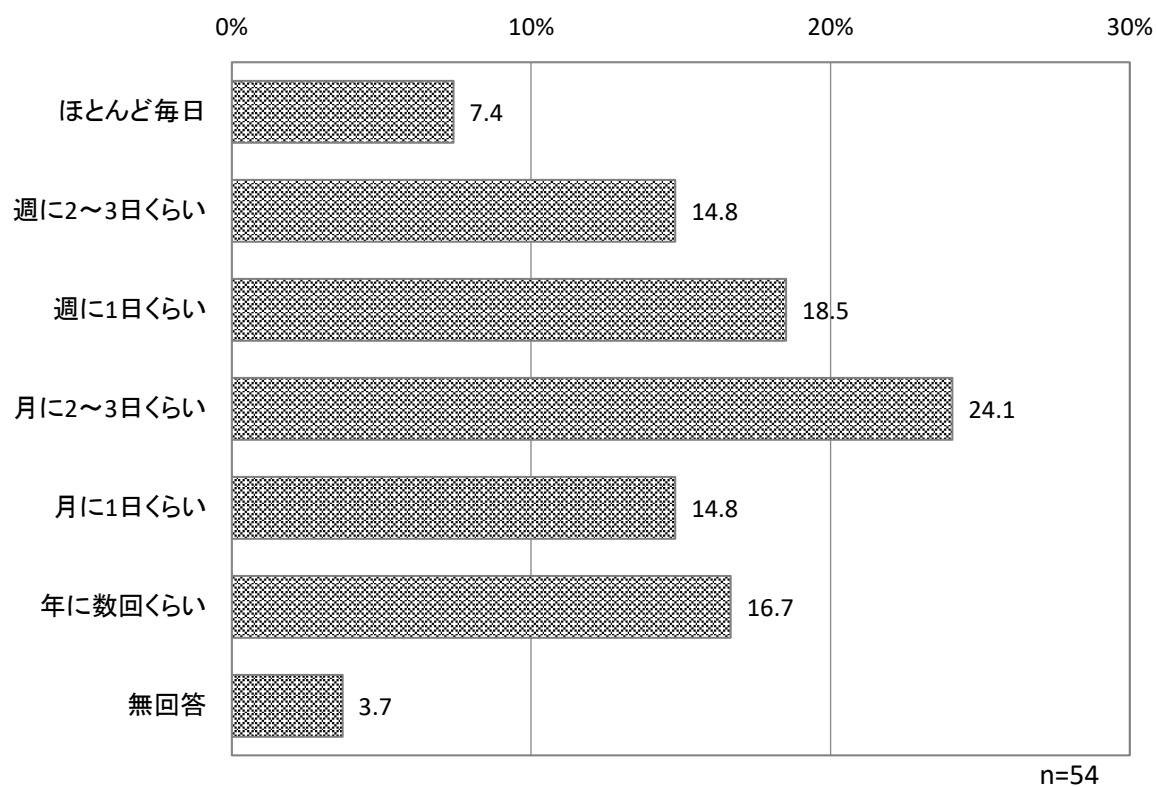
貴団体の活動内容について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)



【活動内容】については、「地域交流イベント」と「防犯活動」がいずれも 94.4%で最も高かった。次いで、「防災活動」が 92.6%、「街の環境整備」が 87.0%であった。

2. 活動状況

Q2. (Q1で1~11を回答した方)
貴団体の活動状況についてお答えください。(単一回答)

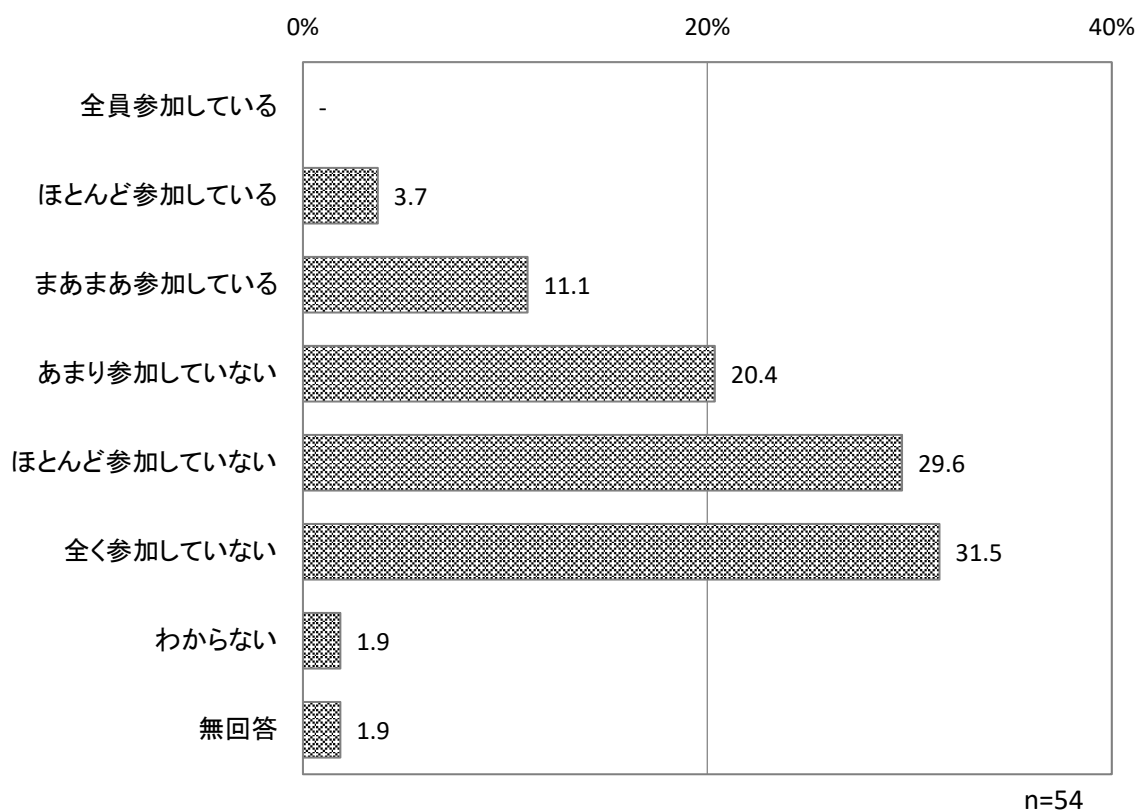


【活動状況】については、「月に2~3日くらい」が24.1%で最も高かった。次いで、「週に1日くらい」が18.5%、「年に数回くらい」が16.7%であった。

3. 外国人の活動参加状況

Q3. (Q1で1~11を回答した方)

貴団体区域内に住んでいる外国人の活動参加状況についてお答えください。(単一回答)

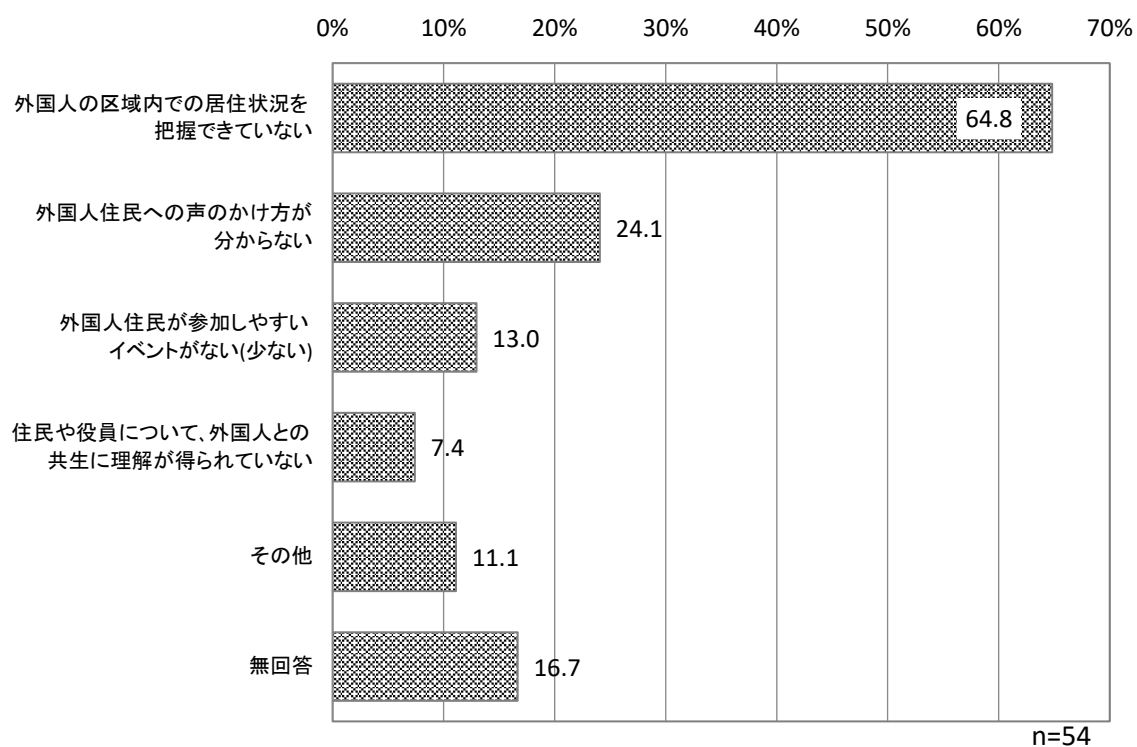


【外国人の活動参加状況】については、「全く参加していない」が31.5%で最も高かった。次いで、「ほとんど参加していない」が29.6%、「あまり参加していない」が20.4%であった。

4. 外国人の参加にあたり、妨げとなっていること

Q4. (Q3で4～6を回答した方)

外国人の貴団体活動への参加にあたり、妨げとなっていることについて、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

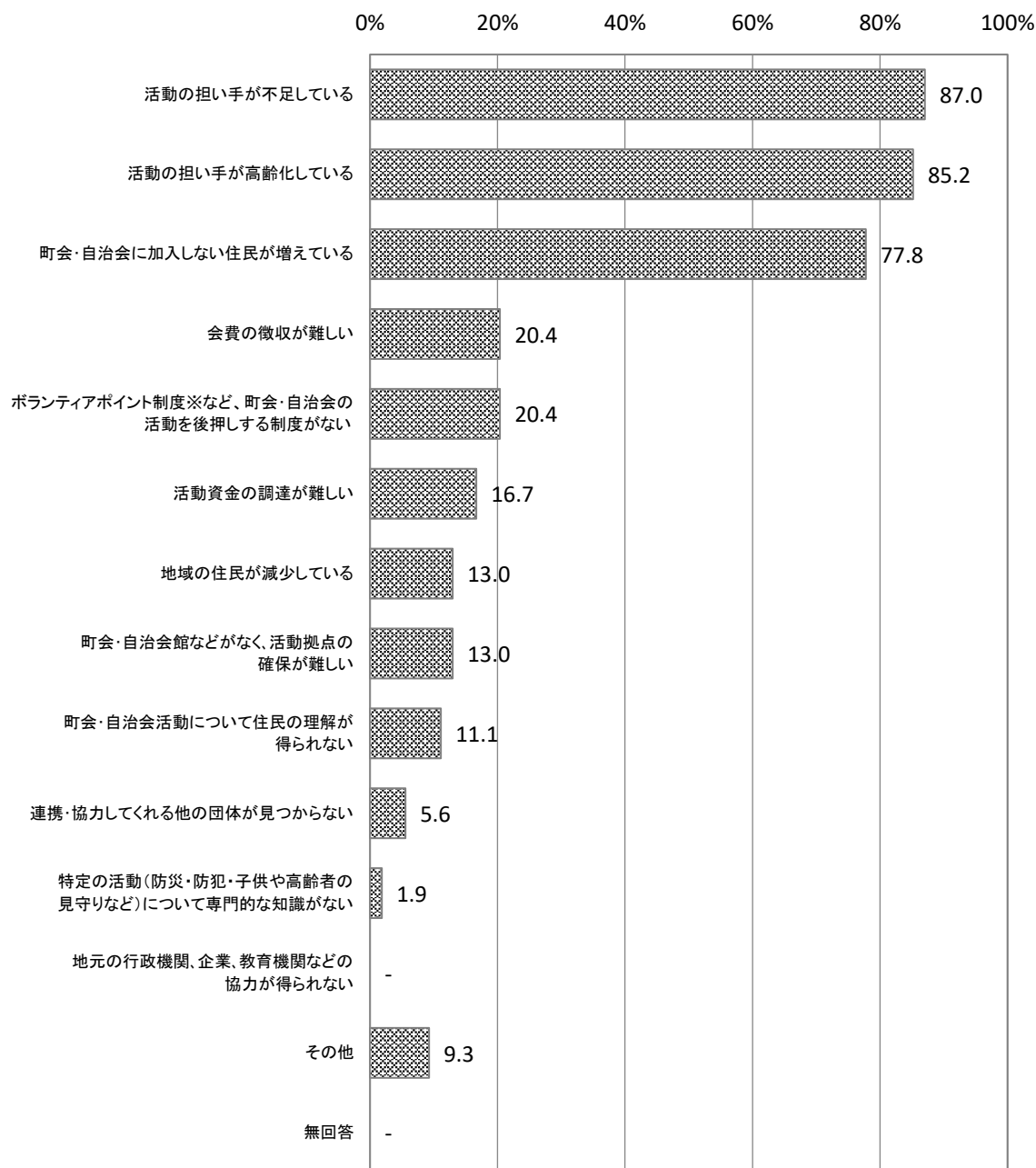


【外国人の参加にあたり、妨げとなっていること】については、「外国人の区域内での居住状況を把握できていない」が64.8%で最も高かった。次いで、「外国人住民への声のかけ方が分からない」が24.1%、「外国人住民が参加しやすいイベントがない(少ない)」が13.0%であった。

5. 活動を行うにあたっての課題

Q 5. (すべての方)

団体として活動を行うにあたっての課題について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)



n=54

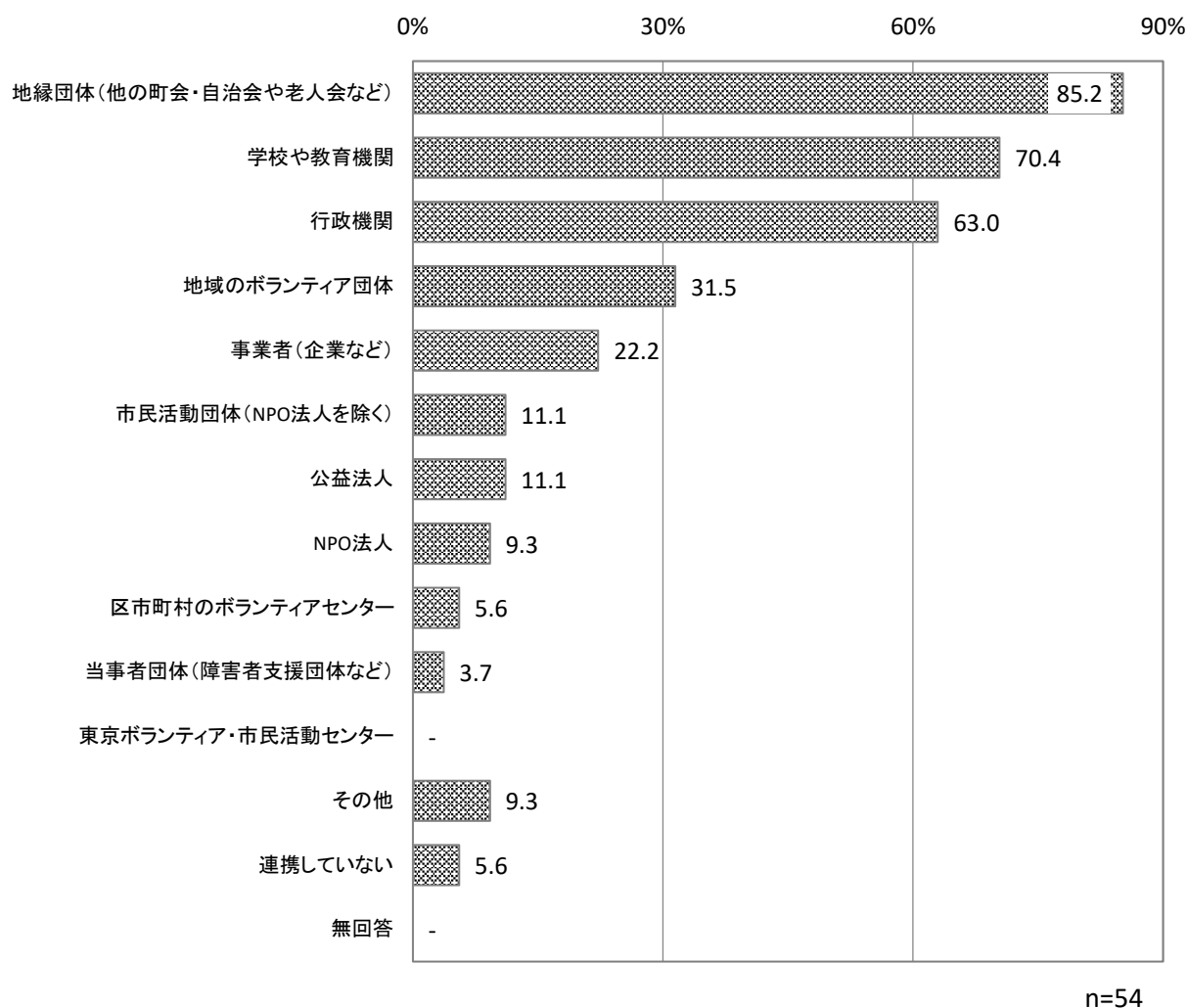
【活動を行うにあたっての課題】については、「活動の担い手が不足している」が 87.0%で最も高かった。次いで、「活動の担い手が高齢化している」が 85.2%、「町会・自治会に加入しない住民が増えている」が 77.8%であった。

2. 他の団体との連携について

6. 連携団体

Q 6. (すべての方)

貴団体の活動の企画や実施にあたって、連携している団体はありますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

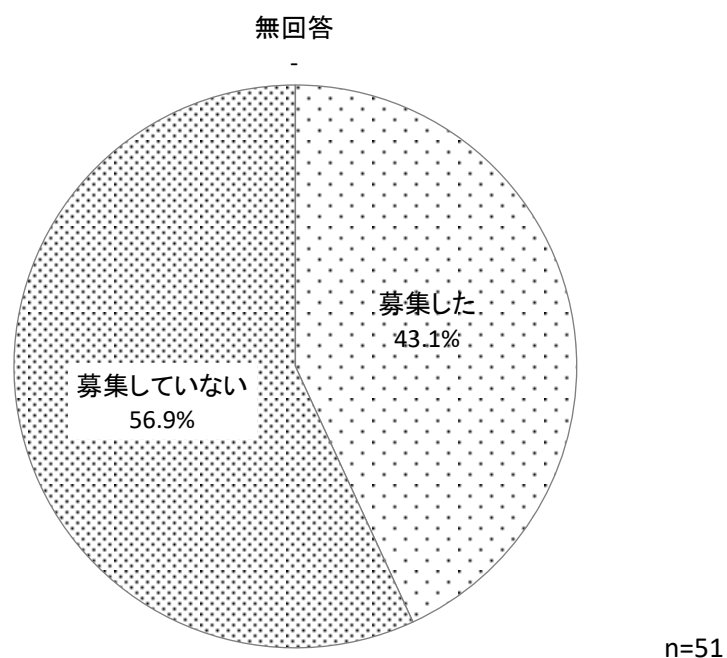


【連携団体】については、「地縁団体(他の町会・自治会や老人会など)」が85.2%で最も高かった。次いで、「学校や教育機関」が70.4%、「行政機関」が63.0%であった。

7-1. 連携した団体のボランティア募集の有無

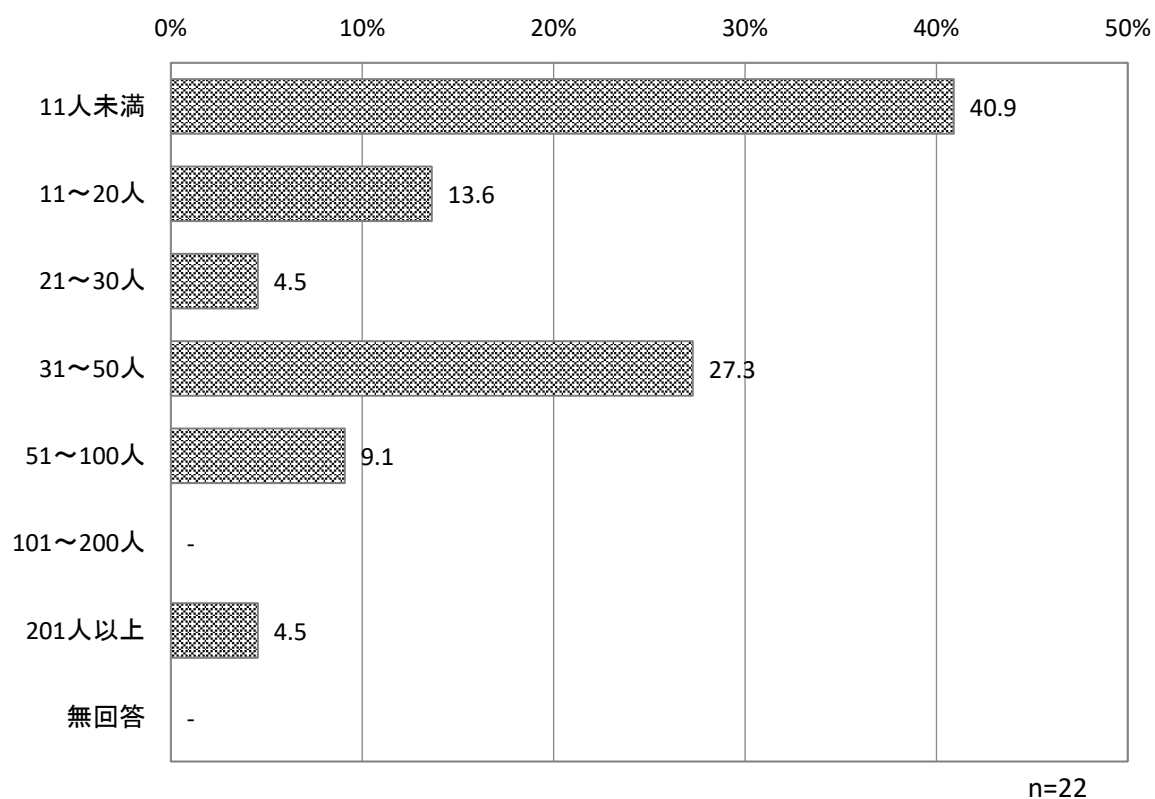
Q7. (Q6で1~12を回答した方)

他の団体と連携した活動において、連携した団体はボランティアの募集を行いましたか。行った場合は、おおよその参加人数及び活動内容をお答えください。



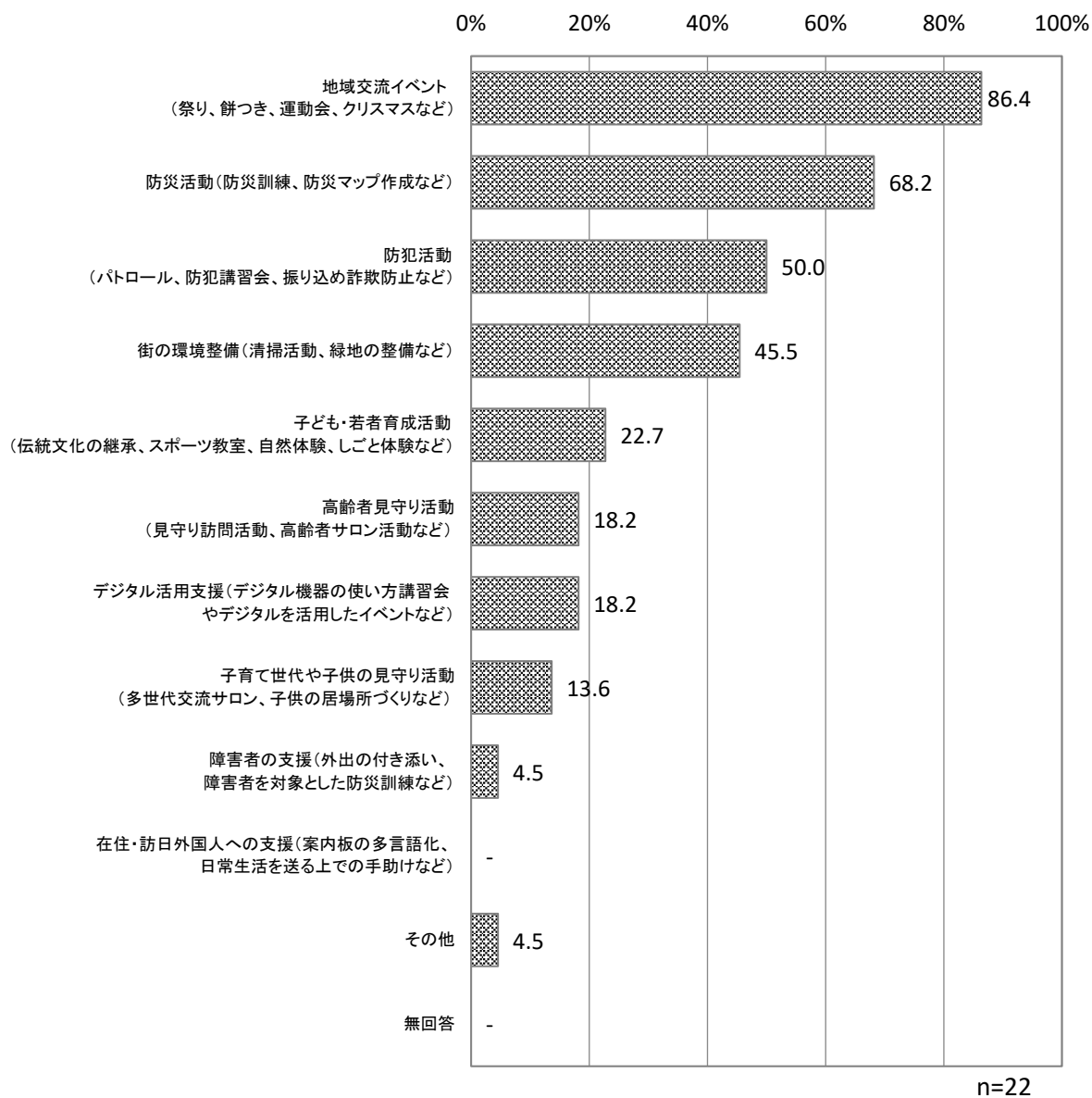
【連携した団体のボランティア募集の有無】については、募集していない」が 56.9%、「募集した」が 43.1%であった。

7-2. 参加人数



【参加人数】については、「11人未満」が40.9%、「11~20人」が13.6%、「21~30人」が4.5%、「31~50人」が27.3%、「51~100人」が9.1%、「201人以上」が4.5%であった。

7-3. 連携した団体との活動内容

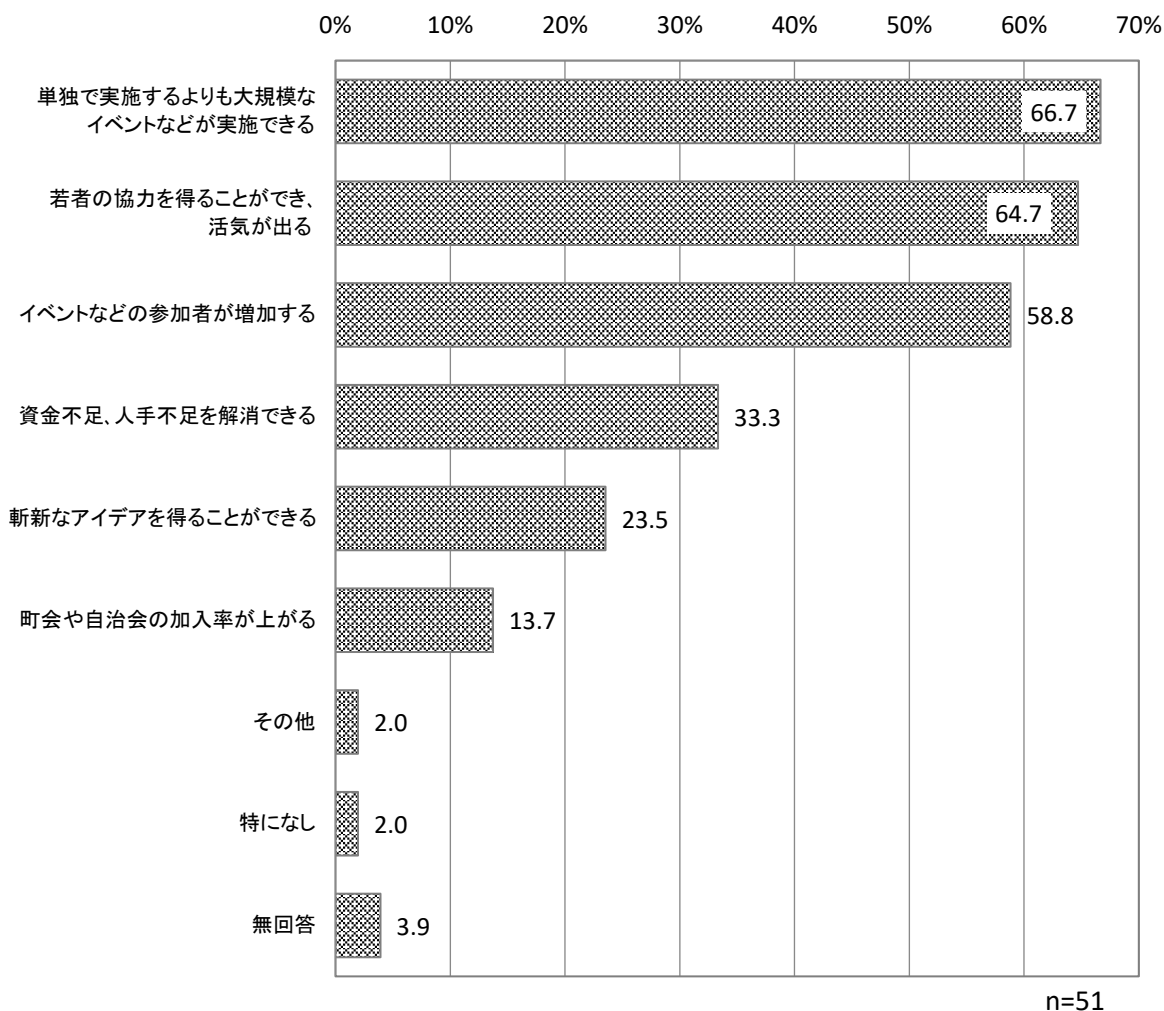


【連携した団体との活動内容】については、「地域交流イベント」が 86.4%で最も高かった。次いで、「防災活動」が 68.2%、「防犯活動」が 50.0%であった。

8-1. 連携してよかった点

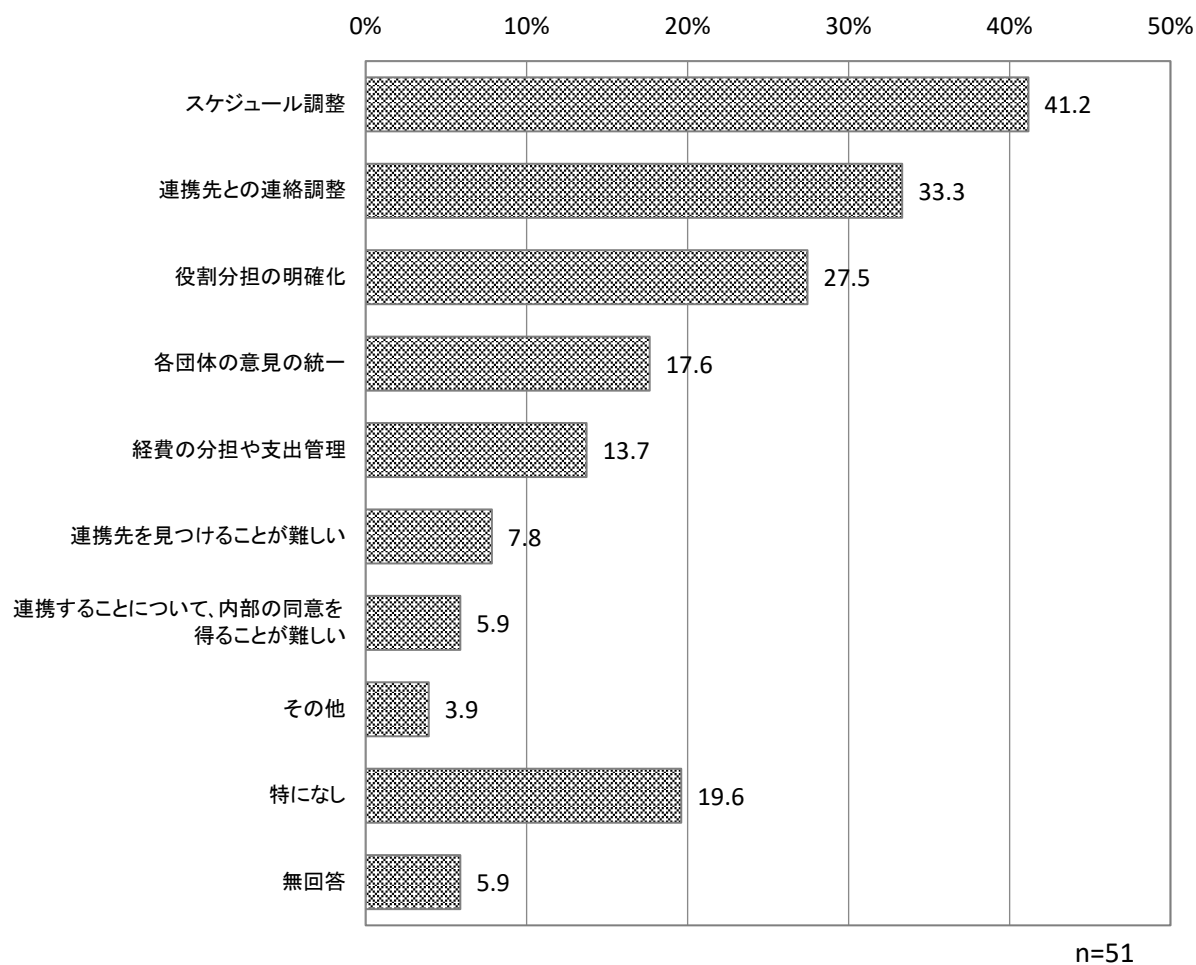
Q8. (Q6で1~12を回答した方)

他の団体と連携してよかった点や課題について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。



【連携してよかった点】については、「単独で実施するよりも大規模なイベントなどが実施できる」が 66.7%で最も高かった。次いで、「若者の協力を得ることができ、活気が出る」が 64.7%、「イベントなどの参加者が増加する」が 58.8%であった。

8-2. 連携した際の課題

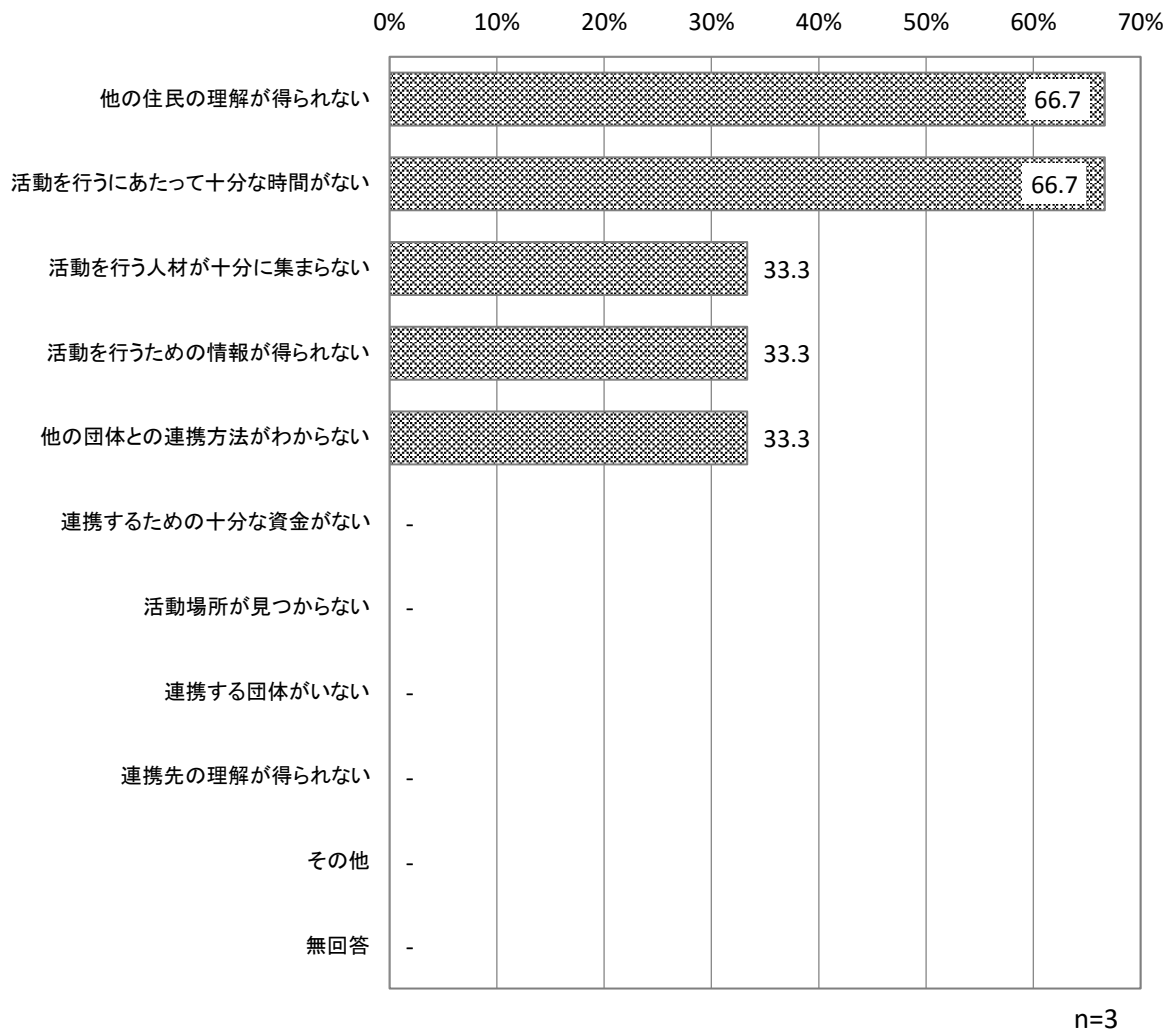


【連携した際の課題】については、「スケジュール調整」が41.2%で最も高かった。次いで、「連携先との連絡調整」が33.3%、「役割分担の明確化」が27.5%であった。

9. 連携の妨げとなること

Q9. (Q6で「13. 連携していない」と回答した方)

今後他の団体と連携して活動を行うとした場合、妨げとなることは何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

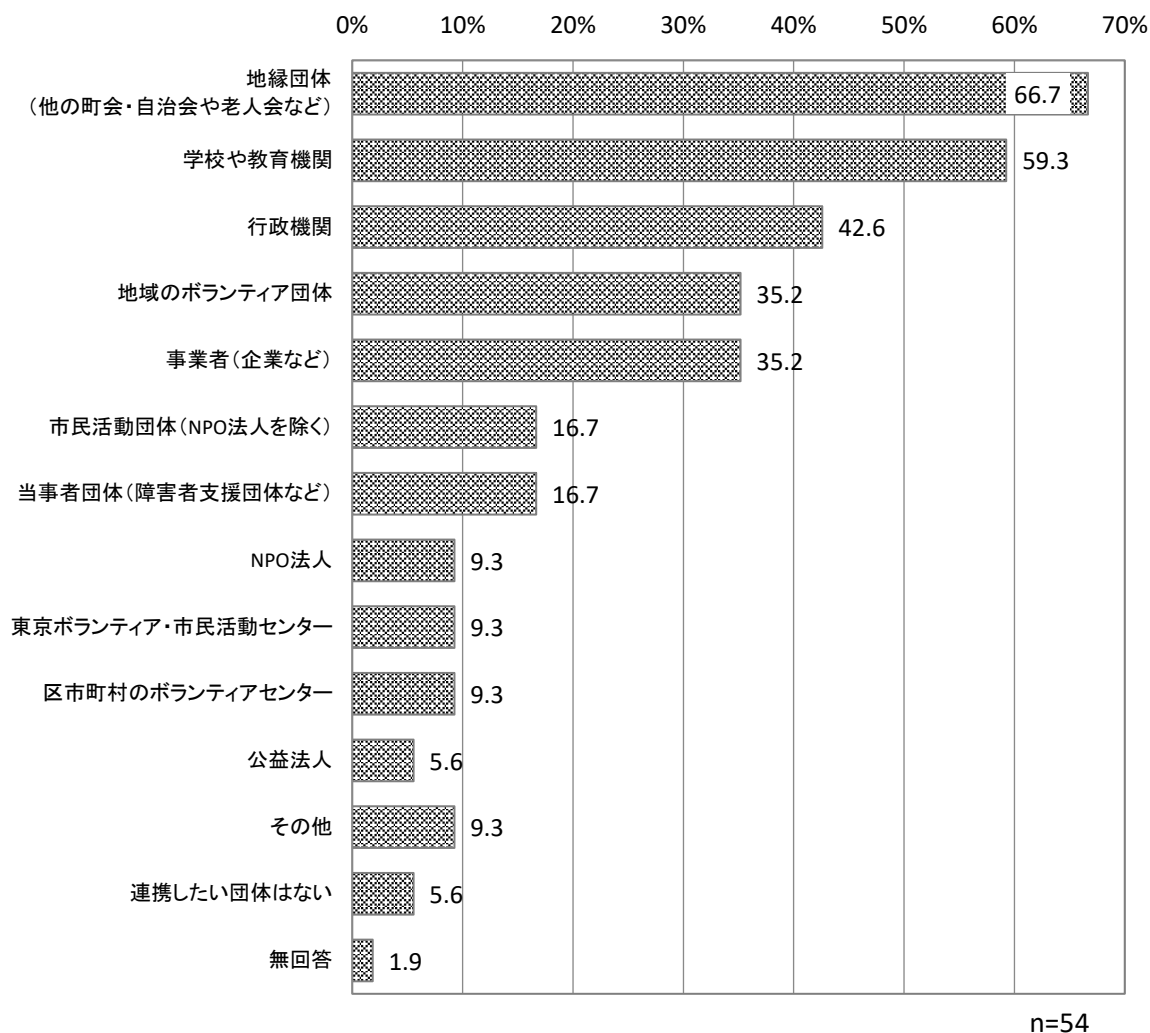


【連携の妨げとなること】については、「他の住民の理解が得られない」と「活動を行うにあたって十分な時間がない」が66.7%で最も高かった。次いで、「活動を行う人材が十分に集まらない」と「活動を行うための情報が得られない」と「他の団体との連携方法がわからない」がいずれも33.3%であった。

10. 今後連携したい団体

Q10. (すべての方)

貴団体の活動の企画・実施にあたって、今後連携したい団体があれば、当てはまるものをお答えください。(複数回答)

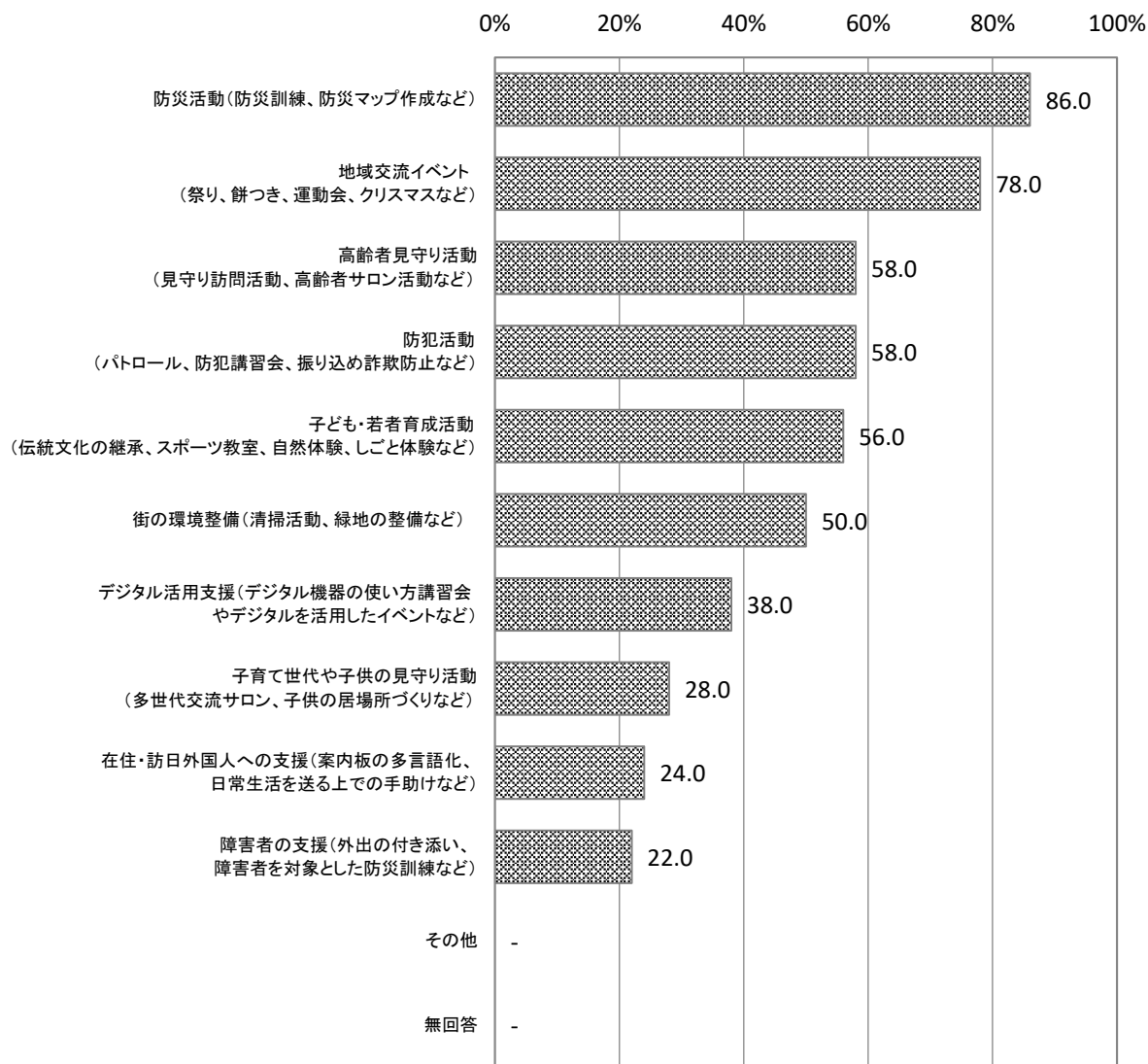


【今後連携したい団体】については、「地縁団体(他の町会・自治会や老人会など)」が66.7%で最も高かった。次いで、「学校や教育機関」が59.3%、「行政機関」が42.6%であった。

11. 今後連携して行いたい活動分野

Q11. (Q10で1~12を回答した方)

今後どのような分野で他の団体と連携して活動を行ってみたいですか。(複数回答)



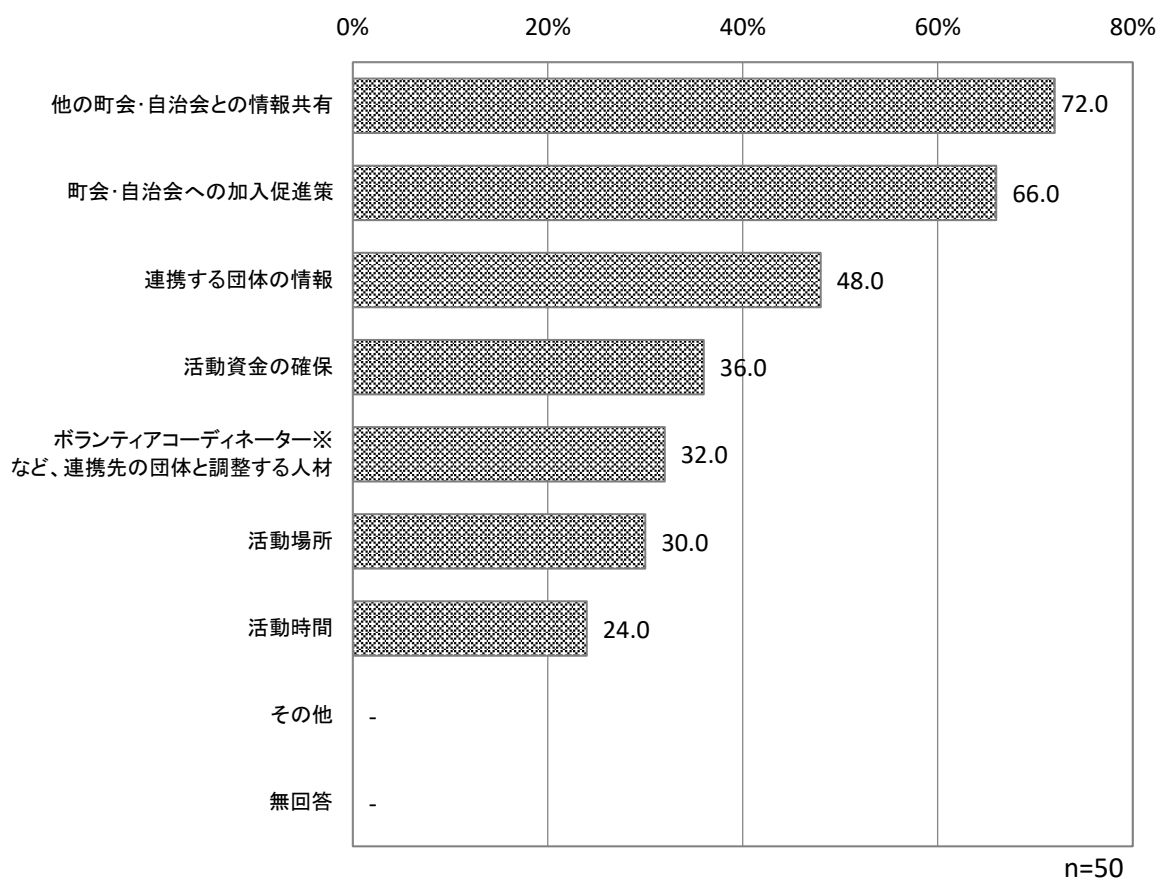
n=50

【今後連携して行いたい活動分野】については、「防災活動」が86.0%で最も高かった。次いで、「地域交流イベント」が78.0%、「高齢者見守り活動」と「防犯活動」がいずれも58.0%であった。

12. 連携の継続に必要なこと

Q12. (Q10で1~12を回答した方)

他の団体との連携を継続していく(充実していく)ために必要なことは何だと思いませんか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)

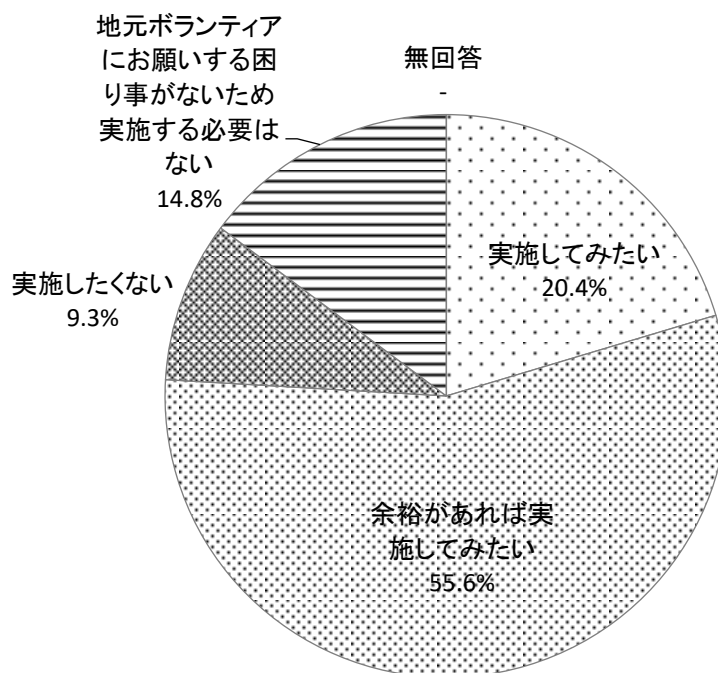


【連携の継続に必要なこと】については、「他の町会・自治会との情報共有」が72.0%で最も高かった。次いで、「町会・自治会への加入促進策」が66.0%、「連携する団体の情報」が48.0%であった。

13. 地元ボランティアとの連携について

Q13. (すべての方)

東京都では、“ちょっとした困りごと”を抱える町会・自治会と、それをお手伝いする地元ボランティアとを区市町村がコーディネーターとなつてつなげる取組を一部の区市と連携して実施しています。このような取組を実施してみたいですか。現在、既に連携している場合は、今後についてお答えください。(単一回答)



n=54

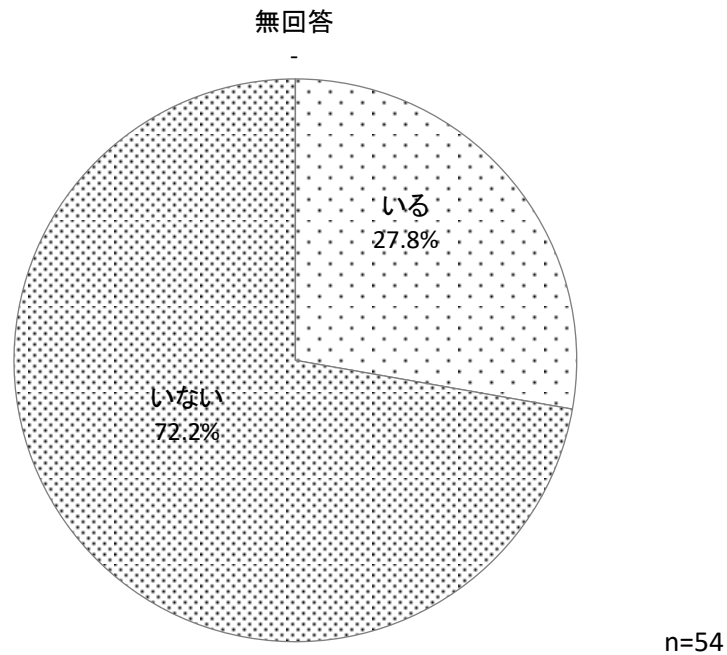
【地元ボランティアとの連携について】については、「実施してみたい」が20.4%、「余裕があれば実施してみたい」が55.6%、「地元ボランティアにお願いする困り事がないため実施する必要はない」が14.8%であった。また、「実施したくない」は9.3%であった。

14. ボランティアコーディネーターの有無

Q14. (すべての方)

ボランティアコーディネーター*として活動できる人はいますか。(単一回答)

*ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側を調整する人材



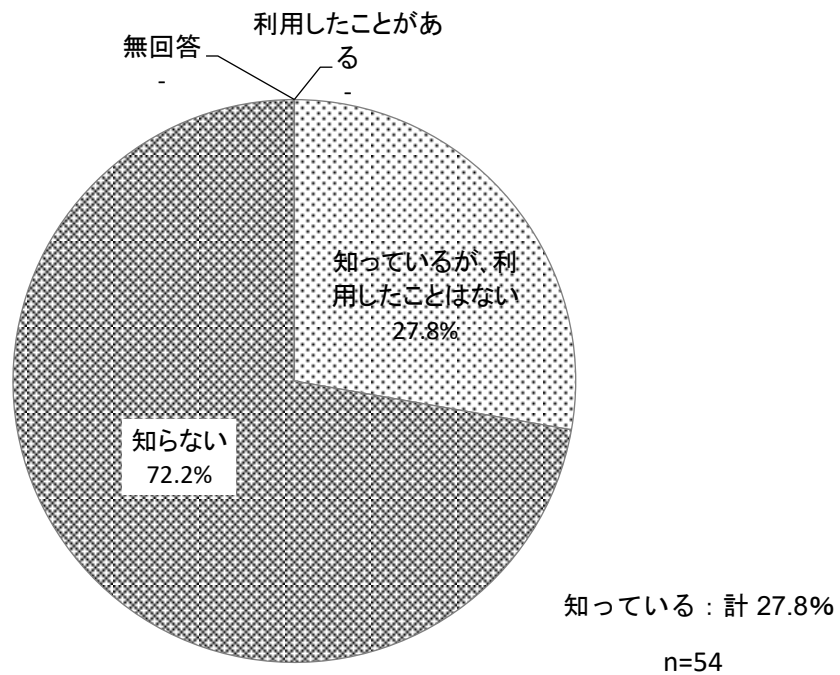
【ボランティアコーディネーターの有無】については、「いる」が27.8%、「いない」が72.2%であった。

3. その他の活動などについて

15. 東京ボランティア・市民活動センターの認知度および利用経験

Q15. (すべての方)

東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋セントラルプラザ内）をご存知ですか。また、利用したことはありますか。（単一回答）



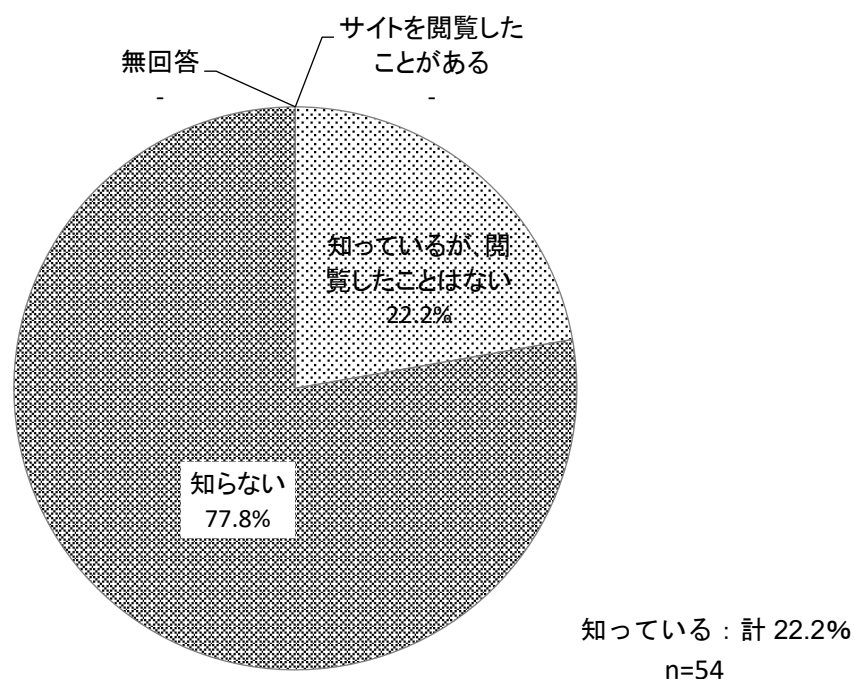
(注)【知っている：計】は「利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」の合計

【東京ボランティア・市民活動センターの認知度および利用経験】については、「知っているが、利用したことはない」が27.8%、「知らない」が72.2%であった。

16. 「ボラ市民ウェブ」の認知度および閲覧経験

Q16. (すべての方)

東京ボランティア・市民活動センターのウェブサイト「ボラ市民ウェブ」はご存知ですか。また、閲覧したことはありますか。(単一回答)



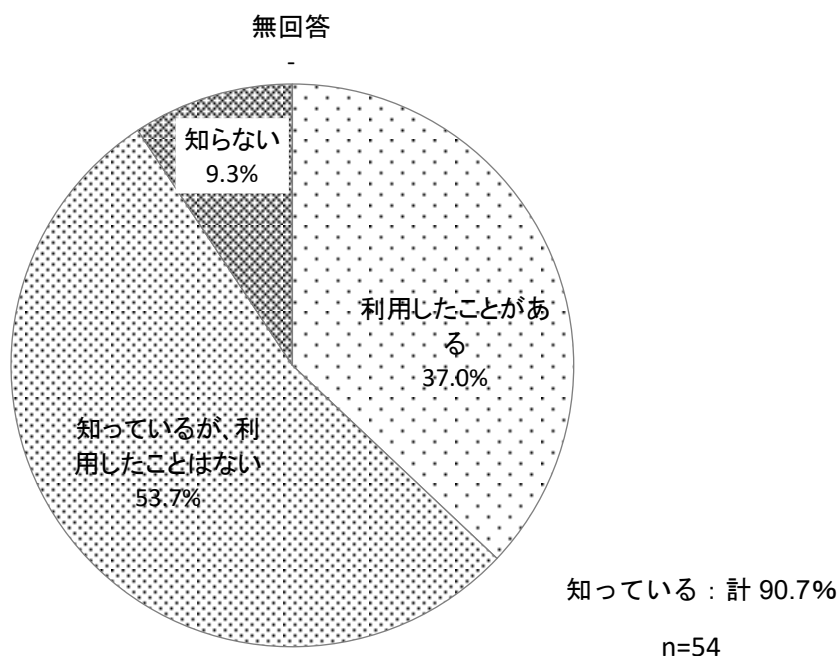
(注)【知っている：計】は「サイトを閲覧したことがある」「知っているが、閲覧したことはない」の合計

【「ボラ市民ウェブ」の認知度および閲覧経験】については、「知っているが、閲覧したことはない」が22.2%、「知らない」が77.8%であった。

17. 社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度および利用経験

Q17. (すべての方)

区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。(単一回答)



(注)【知っている：計】は「利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」の合計

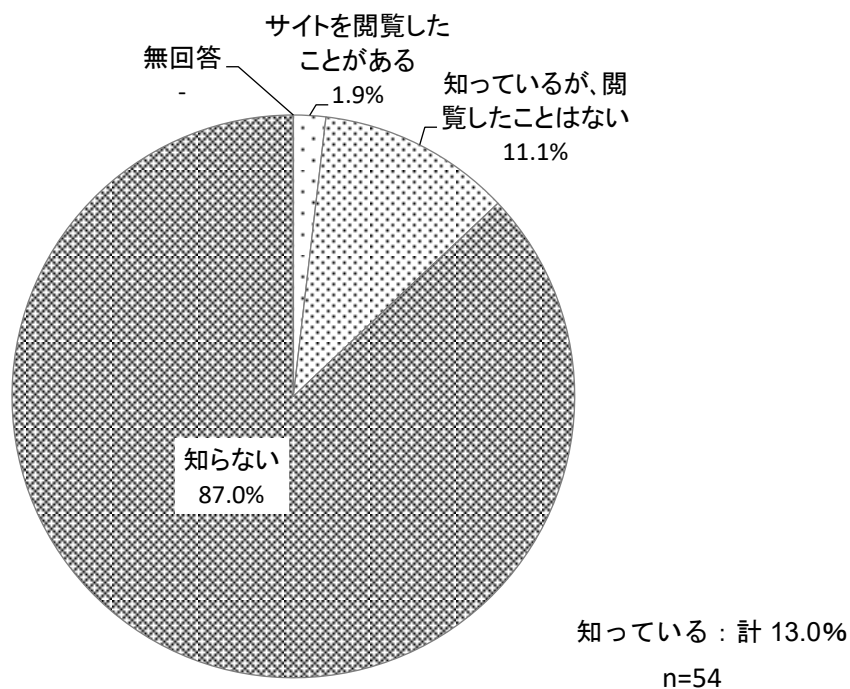
【社会福祉協議会やボランティアセンターの認知度および利用経験】については、「利用したことがある」が37.0%、「知っているが、利用したことはない」が53.7%、「知らない」が9.3%であった。

18. 「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度および閲覧経験

Q18. (すべての方)

東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア活動情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。

「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存知ですか。また、閲覧したことはありますか。(1つに○)



(注)【知っている：計】は「サイトを閲覧したことがある」「知っているが、閲覧したことはない」の合計

【「東京ボランティアレガシーネットワーク」の認知度および閲覧経験】については、「サイトを閲覧したことがある」が 1.9%、「知っているが、閲覧したことはない」が 11.1%、「知らない」が 87.0%であった。

19. 今後の取組意向

Q19. (すべての方)

ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

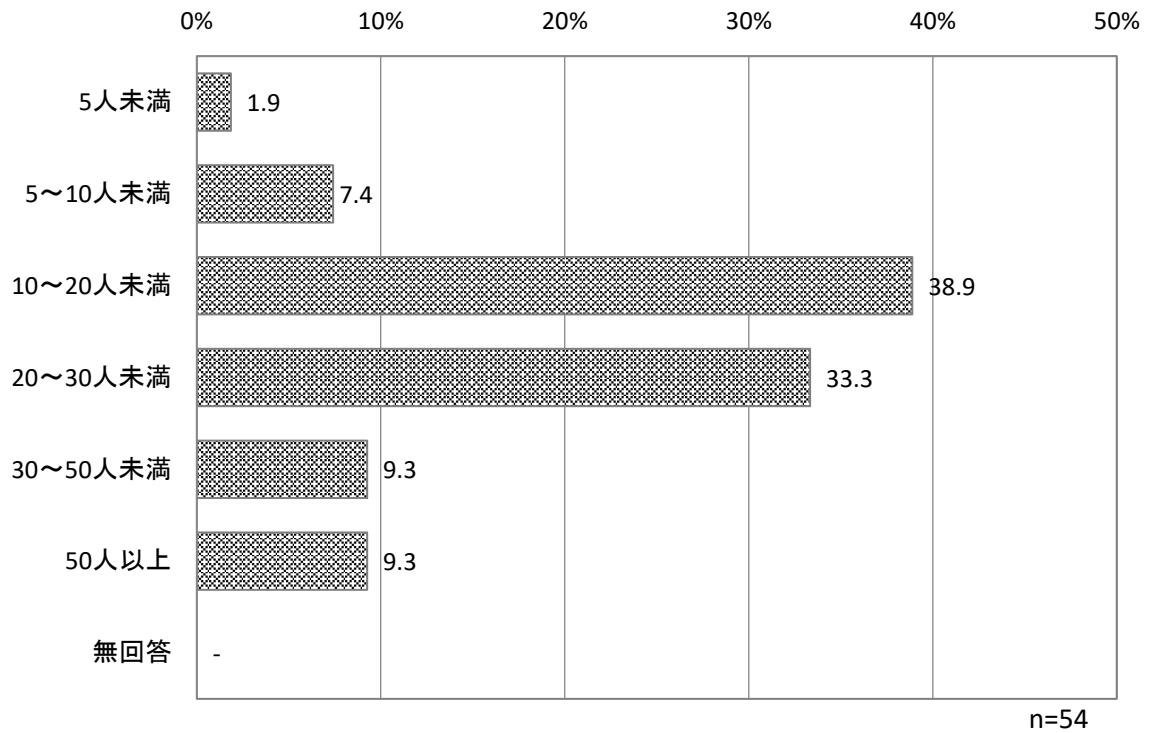
記述内容
住民と事業者、特に事業者を町会活動にいかに参加してもらうかが課題です。
町会費の改定、多世代交流サロンの充実、要支援者対策の推進
高齢化が進み、早く若い人達に町会加入・役員をお願いをインターネットを利用して、地域の活性化を進めていきたい。年に数回、若い人達・町会に新しく引越して来た人達と、懇親・飲み会を開催し、情報交換会をしている。
日赤・社協・警察・消防等、各ボランティア活動も、町会役員が分担して行っている状況。
住民に関心のあるイベント企画（防災防犯）を実施する時に募集したい。若者・退職者など。
自治会加入者の減少、高齢化による自治会役員の回避
講習会、イベント等を計画することが会員同志の情報交換の場となり、災害時などでスムーズな活動が出来ると思うが、あまり人が集まらず計画側と町会員の思いに隔たりがあり全てのところを埋める活動をしていく必要がある。
若い世代の自治会加入及び中心となって活動する人材の育成を最重点課題として取り組んでいる。（IT対応及びイベント活動支援など）
有料ボランティア必要性あり。
地域内の小・中・高校との自治会活動の参加を促したい。又、地域内の大学・及び学生とのマッチングボランティアをさぐりたい。
各自治会、町会は高齢化が進んでいるのと人手不足で困っているのが現状です。行政機関からの依頼事項が多すぎるので、これ以上増やさないで下さい。
町会としてイベント、祭礼（縁日）、もちつき大会を毎年実施しているが、企画がマンネリ化していて新たな発想の企画を見つけない。 毎月最終日曜日を町内一斉清掃日として活動しているが、参加するメンバーが決まってしまう傾向にあり（新しい）「企画力」が欲しい。
たまたま大学が近くに移転してきたので、大いに助かっている。ボランティア組織もしっかりしていて大いに助かる。今後も仲良くつきあって良好な関係をもちたい。学生は変わっていくが引継ぎをうまくやっていく、お互いに。
今までの事業展開の継続が出来れば良い。
町会では高齢者多いため若い人の参加をいかにするか検討
Q12であったが、町会活動を良く知っている近隣の町会との共同が普段の町会活動の担い手不足を解消するのに役立つのでは。
マンション居住者のセキュリティ化により心の疎通がしにくい事が問題化している。 町会員相互および役員との情報共有をスムーズに行える仕組みづくり。特にマンション内および戸建て町会員との相互のコミュニケーションを図る仕組み。 後継者の育成。

記述内容
住民間のつながりづくり、安心安全なまちづくり、居場所としてのまちづくりのための世代間を超えたすべての人が対象になるイベント開催
自治会活動は基本的に地域地域内の活動であるが故、あまり広げてまで活動をし続けることには無理があると考えられます。
町会内に集合住宅（ワンルーム）6～12世帯多く建てられ男女青年が増えました。ほとんどの集合住宅はオートロック施設があり接触できない状況です、そこで加入促進する良い方法等をご教授願います。
町会組織率の増加、町会活動者の増員
災害時のボランティア活動について、社会福祉協議会との連携強化
現在は他団体と協力してボランティア活動をしているが、自治会員の増加には結びついていないため、自治会の役割などを説明し、ご理解を頂いて会員増につなげたい。
役員会の若返り。地域コミュニティの再構築。（向こう三軒両隣り、隣りは何をする人ぞではあまりにも寂しい）
防災防犯や地域コミュニティ醸成のための絆づくりイベントなど町会活動がボランティア活動そのものとする。 町会員が集うさまざまなイベントを月1回行うことを目標に実行している。

4. 団体の概要について

20. 役員数

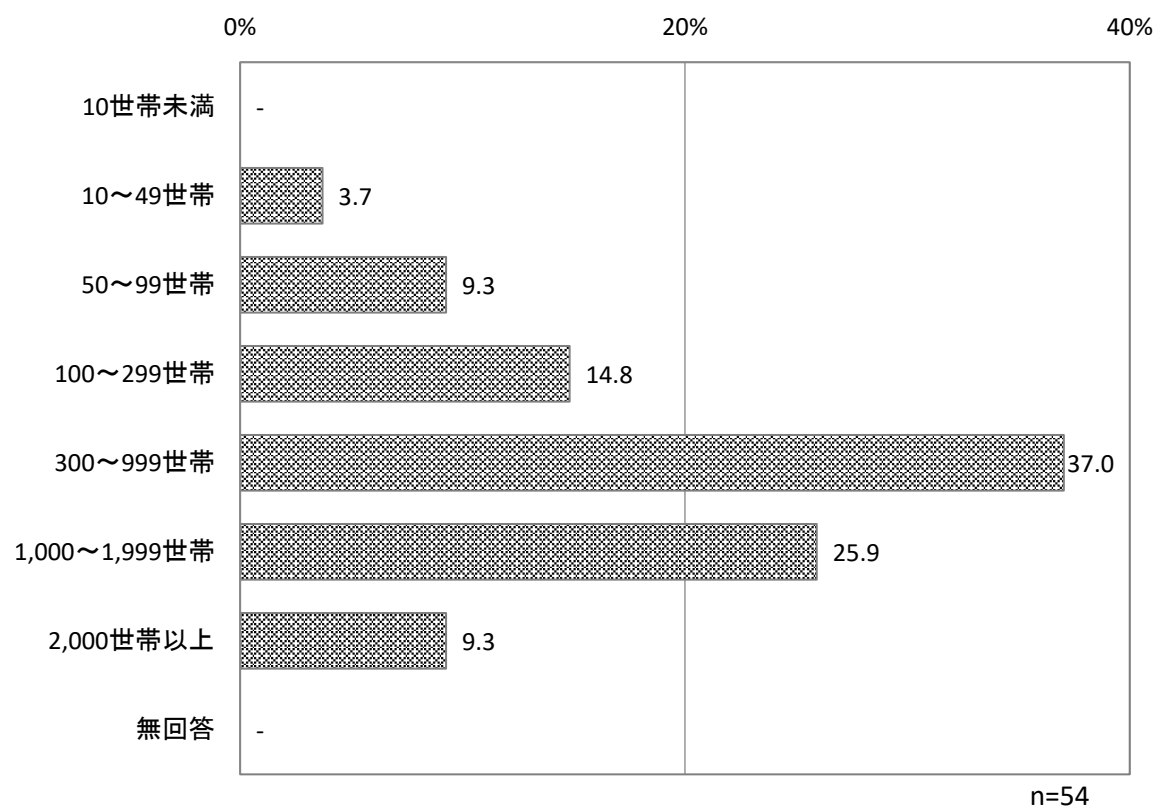
Q 20. 貴団体の役員数は何人ですか。(単一回答)



【役員数】については、「5人未満」が1.9%、「5~10人未満」が7.4%、「10~20人未満」が38.9%、「20~30人未満」が33.3%、「30~50人未満」と「50人以上」がいずれも9.3%であった。

2 1. 加入世帯数

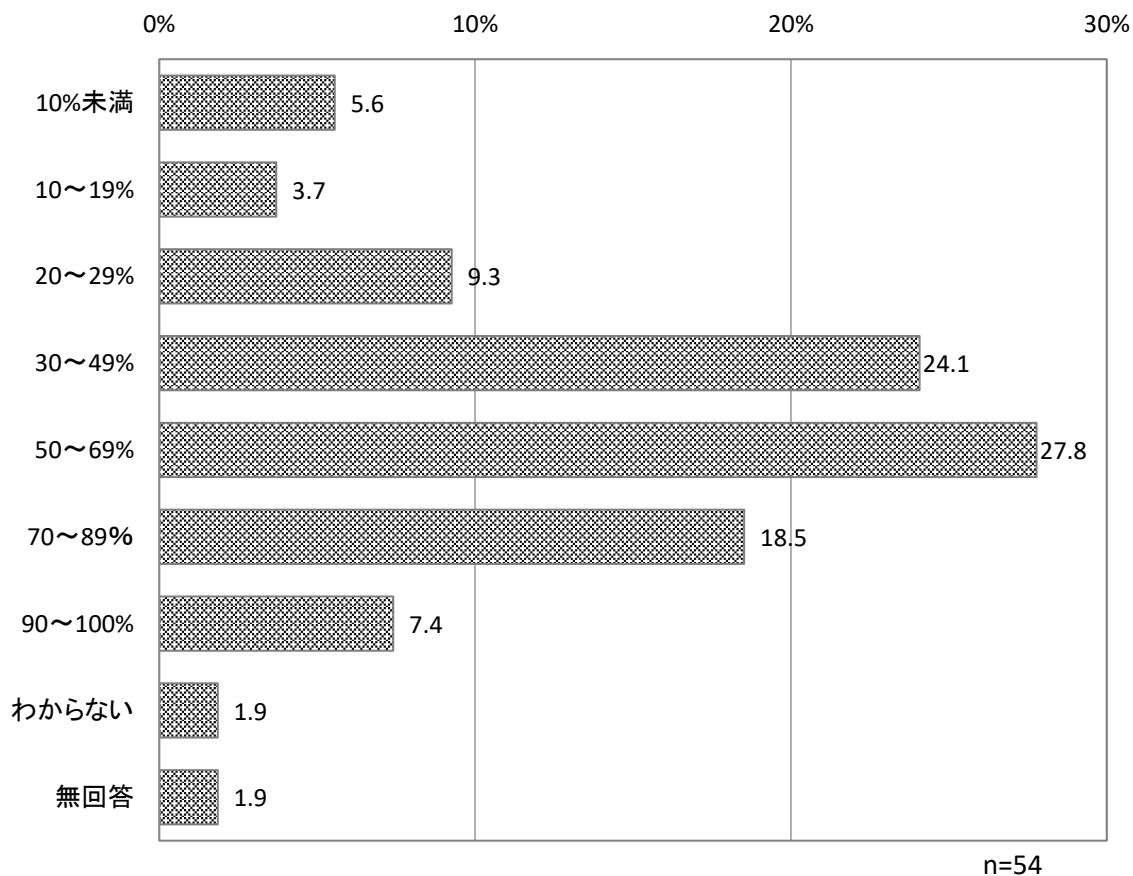
Q 2 1. 貴団体に加入している世帯数はどのくらいですか。(単一回答)



【加入世帯数】については、「10～49世帯」が3.7%、「50～99世帯」が9.3%、「100～299世帯」が14.8%、「300～999世帯」が37.0%、「1,000～1,999世帯」が25.9%、「2,000世帯以上」が9.3%であった。

2.2. 加入率

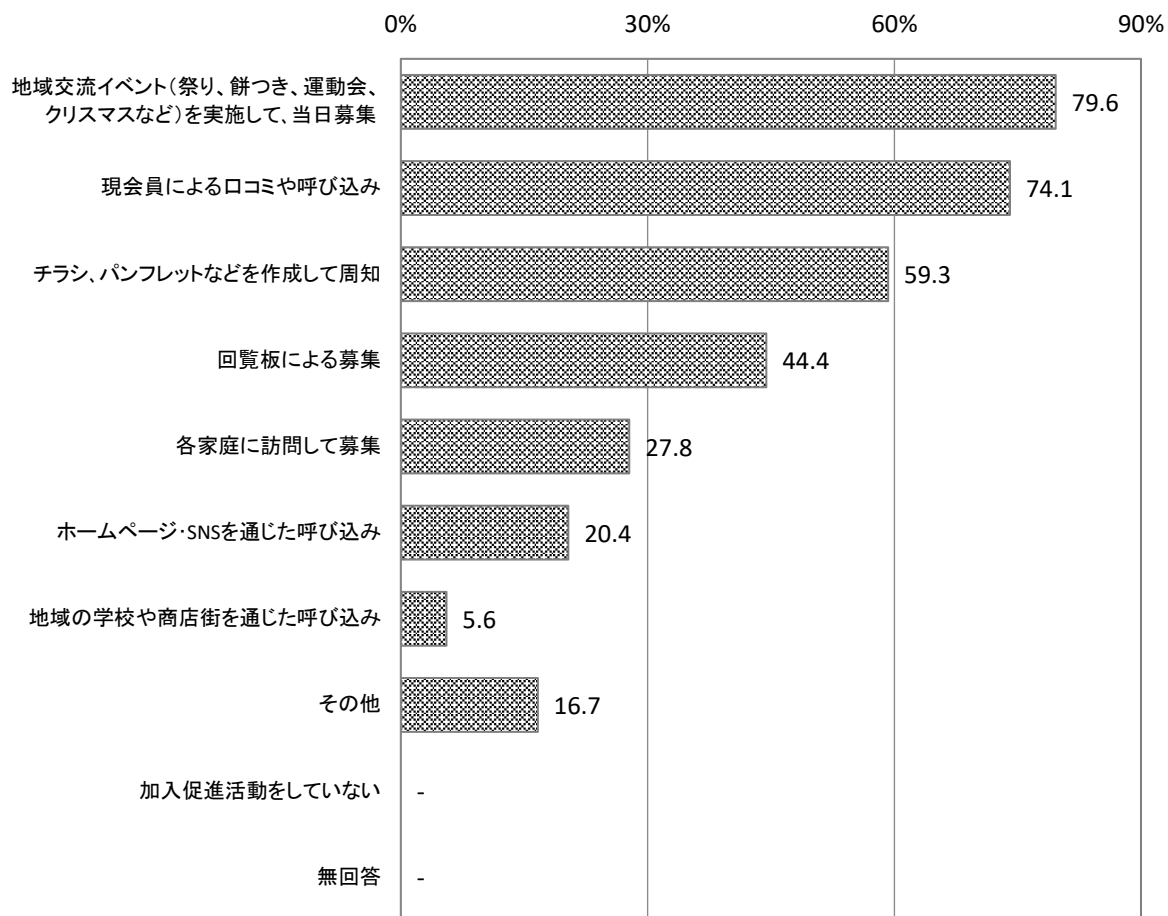
Q 2 2. 住民の貴団体への加入率はどのくらいですか。(単一回答)



【加入率】については、「10%未満」が5.6%、「10~19%」が3.7%、「20~29%」が9.3%、「30~49%」が24.1%、「50~69%」が27.8%、「70~89%」が18.5%、「90~100%」が7.4%であった。また、「わからない」は1.9%であった。

23. 加入促進の取組

Q23. 貴団体は加入促進のためにどのような取組を行っていますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答)



n=54

【加入促進の取組】については、「地域交流イベント（祭り、餅つき、運動会、クリスマスなど）を実施して、当日募集」が 79.6%、「現会員による口コミや呼び込み」が 74.1%、「チラシ、パンフレットなどを作成して周知」が 59.3%であった。

調查票

令和7年度団体のボランティア活動等に関する実態調査（企業）

それぞれの質問について、当てはまる選択肢の番号に○を記入してください。

1. ボランティア活動について

Q1. (すべての方) 貴社が社会貢献活動として実施しているボランティア活動等*で、当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

※名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください

1. 健康や医療サービスに関係した活動(献血、入院患者の話し相手など)
2. 高齢者を対象とした活動(高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど)
3. 障害者を対象とした活動(手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など)
4. 子供を対象とした活動(子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど)
5. スポーツに関係した活動(スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど)
6. 文化・芸術・学術に関係した活動(美術館や博物館等のガイドボランティア、文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど)
7. まちづくり・地域貢献のための活動(道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、町会・自治会の活動、観光ガイドボランティアなど)
8. 安全な生活のための活動(防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など)
9. 自然や環境を守るための活動(動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など)
10. 災害に関係した活動(炊き出し、がれきや土砂の撤去など)
11. 在住・訪日外国人のための活動(日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など)
12. 国際協力に関係した活動(在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など)
13. 募金を集める活動
14. 金銭や物品を寄附する活動
15. 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ(障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など)
16. その他(具体的に: _____)
17. 実施していない

Q2. (すべての方)従業員(常勤に限る)のボランティア活動を推奨・推進するために行っているもので、当てはまるものをお答えください。(複数選択可)

1. 従業員ボランティアを推奨・推進する担当・組織を設置している(CSR室など)
2. ボランティア休暇制度を設けている
3. 従業員のボランティア活動の実績を社内広報などで紹介している
4. 社内にボランティアコーディネーター^{※1}を置いている
5. 従業員が参加するためのボランティア活動を企画・実施している
6. 従業員向けにボランティア活動に関する研修会、講習会などを開催している
7. 活動時の交通費や宿泊費、保険料などの経費を負担(一部負担を含む)している
8. 従業員のボランティア活動に対する表彰制度を導入している
9. ボランティアポイント制度^{※2}を導入している
10. 寄附や活動支援のための給付天引きシステムを導入している
11. マッチングギフト制度^{※3}を導入している
12. 退職者のボランティア活動を推進する取組をしている
13. 新任研修などの従業員研修において、ボランティア活動に関する内容を組み込んでいる
14. 活動にあたって、社内でのチラシやメルマガなどでの周知、会議室の利用を認めている
15. 活動にあたって、社内のパソコンやメールなどの利用を認めている
16. その他(具体的に: _____)
17. 特に何もしていない → Q12 へお進みください

^{※1} ボランティアコーディネーター:ボランティア活動について、活動する側と受入れ側とを調整する人材

^{※2} ボランティアポイント制度:ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じた特典を受けられる制度

^{※3} マッチングギフト制度:従業員による寄附などに、集まった金額の一定比率を上乗せして寄附する制度

Q3. (Q2で1~16を回答した方)従業員のボランティア活動を推奨・推進する取組を始めたきっかけについて、当てはまるものをお答えください。(複数選択可)

1. 他社が行っているボランティア活動に共感したため
2. 行政機関のボランティア推進施策に影響を受けたため
3. 地域からの要望があったため
4. ボランティア活動を行っている団体からの誘いがあったため
5. 外部の講座や研修会に参加して
6. SNSを通じて
7. 新聞、雑誌、ポスター、チラシ、インターネット(SNSを除く)などを見て
8. 経営層の判断・指示
9. その他(具体的に: _____)
10. 特にきっかけはない

Q4. (Q2で1～16を回答した方)従業員のボランティア活動の推奨・推進に取り組んでいる理由について、当てはまるものをお答えください。(複数選択可)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業の社会的責任として必要と考えるため 2. 企業価値、企業ブランドの向上のため 3. 新たな取引先の開拓などビジネスチャンスが得られるため 4. 株主や投資家・金融機関などからの要請に応えるため 5. 社内にボランティア活動に熱心な従業員がいるため 6. 従業員の実行力の向上や新たな発想につながるなど、人材育成に有効であるため 7. 災害被災地支援をするため 8. 地域の課題解決を図るため 9. 地域の行事などに参加する必要があるため 10. その他(具体的に: _____) |
|--|

Q5. (Q2で1～16を回答した方)今後、従業員のボランティア活動を進めていくにあたり、課題と考えていることはありますか。次の中から当てはまるものをお答えください。(複数選択可)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 企画などを行う人材(コーディネーターなど)の不足 2. 担当者が専門的な能力や知識を学ぶ機会の確保 3. 経営への戦略的位置づけ 4. 経営層の理解 5. 社員のボランティア活動に対する関心の低さ 6. ボランティア活動を希望する社員に対する周囲の理解・協力 7. 株主をはじめとする利害関係者の理解 8. 活動を行っていくための十分な情報 9. ボランティア活動の対象となる地域などの課題把握 10. ボランティア団体などの連携先の確保 11. その他(具体的に: _____) 12. 課題はない |
|---|

Q6. (Q2で「1. 従業員ボランティアを推奨・推進する担当・組織を設置している(CSR室など)」を回答した方)従業員のボランティア活動を推奨・推進する組織の構成人数と、当該組織などへの経営層(担当役員など)の関与についてお答えください。(それぞれ1つずつに○)

構成人数	1. 3人以下	2. 4～5人	3. 6～10人
	4. 11～20人	5. 21人以上	
経営層の関与	1. 積極的に関与している	2. ある程度関与している	
	3. あまり関与していない	4. 関与していない	

Q7. (Q2で「2. ボランティア休暇制度を設けている」を回答した方)ボランティア休暇制度を直近の1年間で利用したことがある従業員は何人ですか。(1つに○)

※直近で取りまとめた1年間の休暇利用状況であれば、期間はいつでも結構です。

- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| 1. 10人以下 | 2. 11～20人 | 3. 21～50人 |
| 4. 51～100人 | 5. 101人以上 | 6. 利用者なし |

Q8. (Q2で「5. 従業員が参加するためのボランティア活動を企画・実施している」を回答した方)従業員の専門性(職業を通じて培った技能や知識、経験など)を活かしたボランティア活動(プロボノ)を企画・実施していますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. <u>企画・実施している</u> | 2. 企画・実施していない → Q9へ |
|---------------------|---------------------|

どのような専門性か、具体的にお書きください。

Q9. (Q2で「5. 従業員が参加するためのボランティア活動を企画・実施している」を回答した方)ボランティア活動の企画・実施にあたって、連携して行っている団体があれば、当てはまるものをお答えください。(複数選択可)

- | |
|------------------------|
| 1. 市民活動団体 (NPO 法人を除く) |
| 2. NPO 法人 |
| 3. 公益法人 |
| 4. 地縁団体 (町会・自治会や老人会など) |
| 5. 地域のボランティア団体 |
| 6. 当事者団体 (障害者支援団体など) |
| 7. 事業者 (企業など) |
| 8. 学校や教育機関 |
| 9. 東京ボランティア・市民活動センター |
| 10. 区市町村のボランティアセンター |
| 11. 行政機関 |
| 12. その他 (具体的に： _____) |
| 13. 連携していない |

Q10. (Q2で「5. 従業員が参加するためのボランティア活動を企画・実施している」を回答した方)
ボランティア活動の企画・実施にあたって、今後連携したい団体があれば、当てはまるものをお答えください。(複数選択可)
※現在、既に連携していて、今後も引き続き連携したい場合も含めてお答えください。

1. 市民活動団体 (NPO 法人を除く)
2. NPO 法人
3. 公益法人
4. 地縁団体 (町会・自治会や老人会など)
5. 地域のボランティア団体
6. 当事者団体 (障害者支援団体など)
7. 事業者 (企業など)
8. 学校や教育機関
9. 東京ボランティア・市民活動センター
10. 区市町村のボランティアセンター
11. 行政機関
12. その他 (具体的に：)
13. 連携したい団体はない

Q11. (Q9またはQ10で1～12を回答した方)現在、どのような連携をしていますか。または今後、どのような連携をしたいですか。具体的にお書きください。

Q12 (Q2で「17. 特に何もしていない」と回答した方)従業員のボランティア活動の推奨・推進に取り組んでいない理由について、当てはまるものをお答えください。(複数選択可)

1. 企業の役割ではないため
2. 取り組むこと自体を考えたことがないため
3. 利益につながらないため
4. 経済的、又は人的に余裕がないため
5. 取り組み方がわからないため
6. 企画などを行う人材 (コーディネーターなど) がいないため
7. ボランティア活動に関する情報がないため
8. 経営層の理解が得られないため
9. 社内の協力が得られないため
10. 株主や投資家・金融機関などの理解が得られないため
11. その他 (具体的に：)

Q13. (Q12で3～11を回答した方)Q12で回答した理由が解決されれば、従業員のボランティア活動の推奨・推進に取り組んでみたいと思いますか。(1つに○)

1. 取り組んでみたい 2. 取り組みたくない 3. わからない

Q14. (すべての方)貴社には、従業員によって設立・運営されているボランティア活動を行うための組織(サークルなど)がありますか。(1つに○)

1. ある 2. ない 3. わからない

Q15. (Q14で「1. ある」と回答した方)貴社は、従業員によって設立・運営されているボランティア活動を行うための組織(サークルなど)の活動を支援していますか。(1つに○)

1. ある 2. ない 3. わからない

Q16. (すべての方)東京ボランティア・市民活動センター(飯田橋セントラルプラザ内)をご存じですか。また、利用したことはありますか。(1つに○)

1. 利用したことがある 2. 知っているが、利用したことはない 3. 知らない

Q17. (すべての方)東京ボランティア・市民活動センターのウェブサイト「ボラ市民ウェブ」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。(1つに○)

1. サイトを閲覧したことがある 2. 知っているが、閲覧したことはない 3. 知らない

※東京ボランティア・市民活動センターの「ボラ市民ウェブ」はこちら

URL:<https://www.tvac.or.jp/>



Q18. (すべての方)区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。(1つに○)

1. 利用したことがある 2. 知っているが、利用したことはない 3. 知らない

Q19. (すべての方)東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。(1つに○)

1. サイトを閲覧したことがある 2. 知っているが、閲覧したことはない 3. 知らない

※「東京ボランティアレガシーネットワーク」はこちら

URL: <https://www.vln.metro.tokyo.lg.jp/>



Q20. (すべての方)ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

Q21. (すべての方)従業員ボランティア活動を推奨・推進するために、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 活動に関する情報提供、情報発信の充実 |
| 2. 相談窓口の整備 |
| 3. 活動を行うために必要な知識を学ぶ講習会やイベントの開催 |
| 4. 従業員の活動支援に関する他の企業などの取組事例の紹介 |
| 5. ボランティア団体などとの交流の場の提供 |
| 6. 従業員がボランティア活動を体験する場の提供 |
| 7. ボランティア活動に係る交通費・保険等の助成 |
| 8. 活動を行うために必要な用具など物品の供与・貸出 |
| 9. 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助 |
| 10. ボランティアコーディネーターを派遣する制度の創設 |
| 11. 活動を評価する表彰制度の創設 |
| 12. ボランティアポイント制度の創設 |
| 13. その他(具体的に: _____) |
| 14. 特になし |

2. 貴社について ※すべての方がご回答ください

Q22. 貴社の総従業員数は何人ですか。(1つに○)

- | | | |
|---------------|-----------------|--------------|
| 1. 10人未満 | 2. 10～50人未満 | 3. 50～100人未満 |
| 4. 100～500人未満 | 5. 500～1,000人未満 | 6. 1,000人以上 |

Q23. 貴社は設立から何年経っていますか。(1つに○)

- | | | |
|------------|-------------|-------------|
| 1. 1年未満 | 2. 1～4年未満 | 3. 4～6年未満 |
| 4. 6～10年未満 | 5. 10～20年未満 | 6. 20～30年未満 |
| 7. 30年以上 | | |

Q24. 貴社の業種は何ですか。複数該当する場合は、最も売上高が大きいものについてお答えください。(1つに○)

- | | | |
|----------------------|--------------------------|--------------|
| 1. 農業、林業、漁業 | 2. 鉱業、採石業、砂利採取業 | 3. 建設業 |
| 4. 製造業(素材関係) | 5. 製造業(機械関係) | 6. 製造業(消費関連) |
| 7. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 8. 情報通信業 | 9. 運輸業 |
| 10. 卸売業 | 11. 小売業 | 12. 金融業、保険業 |
| 13. 不動産業、物品賃貸業 | 14. 飲食業 | 15. 宿泊業 |
| 16. 医療・福祉(介護・社会福祉事業) | 17. 医療・福祉(介護・社会福祉事業以外) | |
| 18. 教育・学習支援業 | 19. 学術研究、専門・技術サービス業 | |
| 20. 生活関連サービス業、娯楽業 | 21. 複合サービス事業(郵便局、協同組合) | |
| 22. その他サービス業 | 23. 上記以外の業種(具体的に: _____) | |

Q25. 貴社が事業を行っている地域についてお答えください。(1つに○)

- | | | | | |
|--------|----------|-------|-------|--------|
| 1. 町丁内 | 2. 区市町村内 | 3. 都内 | 4. 国内 | 5. 国内外 |
|--------|----------|-------|-------|--------|

Q26. 貴社の従業員の平均勤続年数は何年ですか。(1つに○)

- | | | |
|-------------|-----------|------------|
| 1. 1年未満 | 2. 1～5年未満 | 3. 5～10年未満 |
| 4. 10～20年未満 | 5. 20年以上 | |

Q27. 貴社の従業員の平均賃金はいくらですか。(1つに○)

- | | | |
|----------------|------------------|----------------|
| 1. 200万円未満 | 2. 200～400万円未満 | 3. 400～600万円未満 |
| 4. 600～800万円未満 | 5. 800～1,000万円未満 | 6. 1,000万円以上 |

Q28. 貴社の資本金をお答えください。(1つに○)

- | | | |
|--------------|--------------------|------------------|
| 1. 1,000万円未満 | 2. 1,000～5,000万円未満 | 3. 5,000万円～1億円未満 |
| 4. 1～5億円未満 | 5. 5～10億円未満 | 6. 10～100億円未満 |
| 7. 100億円以上 | | |

～以上で質問は終了です。ご回答ありがとうございました。～

令和7年度都民等のボランティア活動等に関する実態調査 (NPO)

それぞれの質問について、当てはまる選択肢の番号に○を記入してください。

1. ボランティア活動について

Q1. (すべての方) ボランティアと一緒に取り組む事業を行っていますか。(1つに○)

1. はい 2. いいえ → Q9 へお進みください

Q2. (Q1で「1. はい」と回答した方) 貴団体が団体として企画・実施しているボランティア活動^{*}で、当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

^{*}名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください

1. 健康や医療サービスに関係した活動(献血、入院患者の話し相手など)
2. 高齢者を対象とした活動(高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど)
3. 障害者を対象とした活動(手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など)
4. 子供を対象とした活動(子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど)
5. スポーツに関係した活動(スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど)
6. 文化・芸術・学術に関係した活動(美術館や博物館等のガイドボランティア、文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど)
7. まちづくり・地域貢献のための活動(道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、町会・自治会の活動、観光ガイドボランティアなど)
8. 安全な生活のための活動(防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など)
9. 自然や環境を守るための活動(動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など)
10. 災害に関係した活動(炊き出し、がれきや土砂の撤去など)
11. 在住・訪日外国人のための活動(日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など)
12. 国際協力に関係した活動(在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など)
13. 募金を集める活動
14. 金銭や物品を寄附する活動
15. 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ(障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など)
16. その他(具体的に:)

Q3. (Q1で「1. はい」と回答した方)ボランティアが参加する活動について、年間の活動頻度及び1回あたりのボランティア活動人数・時間をお答えください。(複数の活動を企画・実施している場合は、そのうち中心的に行っている活動についてお答えください。)(それぞれ1つずつに○)

年間の活動頻度	1. 年1回程度	2. 年2～6回程度	3. 月1、2回程度
	4. 週1回程度	5. 週2回以上	
1回あたりの活動人数	1. 5人以下	2. 6～10人	3. 11～20人
	4. 21～30人	5. 31人以上	
1回あたりの平均活動時間	1. 1時間未満	2. 1～2時間程度	
	3. 3～4時間程度	4. 5時間以上	
	5. わからない		

Q4. (Q1で「1. はい」と回答した方)ボランティア活動(社会貢献活動)の企画・実施にあたって、連携している団体がありますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

- | |
|---|
| 1. 市民活動団体(NPO 法人を除く)
2. NPO 法人
3. 公益法人
4. 地縁団体(町会・自治会や老人会など)
5. 地域のボランティア団体
6. 当事者団体(障害者支援団体など)
7. 事業者(企業など)
8. 学校や教育機関
9. 東京ボランティア・市民活動センター
10. 区市町村のボランティアセンター
11. 行政機関
12. その他(具体的に:)
13. 連携していない |
|---|

Q5. (Q1で「1. はい」と回答した方)ボランティア活動の企画・実施にあたって、今後連携したい団体があれば、当てはまるものをお答えください。(複数選択可)

- | |
|--|
| 1. 市民活動団体(NPO 法人を除く)
2. NPO 法人
3. 公益法人
4. 地縁団体(町会・自治会や老人会など)
5. 地域のボランティア団体
6. 当事者団体(障害者支援団体など)
7. 事業者(企業など)
8. 学校や教育機関
9. 東京ボランティア・市民活動センター
10. 区市町村のボランティアセンター
11. 行政機関
12. その他(具体的に:)
13. 連携したい団体はない |
|--|

Q6. (Q4 または Q5 で1～12と回答した方) 現在、どのような連携をしていますか。または今後、どのような連携をしたいですか。具体的にお書きください。

--

Q7. (Q1で「1. はい」と回答した方) 現状でボランティアの参加人数は十分だと考えますか。(1つに○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

Q8. (Q1で「1. はい」と回答した方) ボランティアの参加人数を増やしていくためにはどのようなことが必要ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

<ol style="list-style-type: none">1. ボランティア希望者の情報2. 外部に働きかける広報ツール3. 時間的な余裕4. ボランティア活動を企画・実施する人材5. ボランティア活動を企画・実施するためのノウハウ6. 職員のスキルアップ7. ボランティア活動の対象となる地域の課題などの把握8. 資金9. その他(具体的に: _____)10. わからない
--

Q9. (Q1で「2. いいえ」と回答した方) ボランティアと一緒に取り組む事業を行いたいですか。(1つに○)

1. はい	2. いいえ → Q11へお進みください
-------	----------------------

Q10. (Q9で「1. はい」と回答した方) ボランティアを募集した活動を行いたくてもできていない理由について、当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

<ol style="list-style-type: none">1. 団体の設立理念や実施事業にそぐわないため2. 経済的に余裕がないため3. ボランティア活動を企画・実施する人材がないため4. ボランティア活動の企画・実施方法がわからないため5. ボランティア活動を企画・実施する時間的余裕がないため6. ボランティア活動の対象となる地域の課題などがわからないため7. ボランティアが参加するために、募集など外部に働きかける広報ツールがないため8. ボランティアが参加しなくても、事業を行えるため9. 活動は有償で行うものであるため10. その他(具体的に: _____)
--

Q11. (すべての方) ボランティアコーディネーター*を配置していますか。(1つに○)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 配置している | 2. 配置していない |
|-----------|------------|

※ボランティアコーディネーター: ボランティア活動について、活動する側と受入れ側とを調整する人材

Q12. (すべての方) 貴団体の運営にボランティアとして関わっている方はいますか。(1つに○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

Q13. (すべての方) 貴団体のボランティア活動(社会貢献活動)を推進するにあたっての課題をすべてお答えください。(複数選択可)

- | |
|------------------------------|
| 1. 経済的負担が大きすぎる |
| 2. ボランティア活動を企画・推進する人材が十分にいない |
| 3. ボランティア活動に参加する人材が十分にいない |
| 4. 地域の理解が得られない |
| 5. 利害関係者の理解が得られない |
| 6. 団体内の関係者の理解が得られない |
| 7. 活動を行うための十分な時間がない |
| 8. 活動を行うための情報が得られない |
| 9. ボランティアコーディネーターがいない |
| 10. 連携できる他の団体が見つからない |
| 11. その他(具体的に: _____) |

Q14. (すべての方) 東京ボランティア・市民活動センター(飯田橋セントラルプラザ内)をご存じですか。また、利用したことはありますか。(1つに○)

- | |
|---------------------|
| 1. 利用したことがある |
| 2. 知っているが、利用したことはない |
| 3. 知らない |

Q15. (すべての方) 東京ボランティア・市民活動センターのウェブサイト「ボラ市民ウェブ」はご存じですか。また、閲覧したことはありますか。(1つに○)

- | |
|---------------------|
| 1. サイトを閲覧したことがある |
| 2. 知っているが、閲覧したことはない |
| 3. 知らない |

※東京ボランティア・市民活動センターの「ボラ市民ウェブ」はこちら

URL: <https://www.tvac.or.jp/>



Q16. (Q14または Q15で「1. 利用したことがある」と回答した方)利用して、満足されましたか。(1つに○)

1. とても満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば満足していない
4. 満足していない
5. わからない

Q17. (すべての方)区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。(1つに○)

1. 利用したことがある
2. 知っているが、利用したことはない
3. 知らない

Q18. (すべての方)東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。
「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。
また、閲覧したことはありますか。(1つに○)

1. サイトを閲覧したことがある
2. 知っているが、閲覧したことはない
3. 知らない

※「東京ボランティアレガシーネットワーク」はこちら
URL:<https://www.vln.metro.tokyo.lg.jp/>



Q19. (すべての方)「東京ボランティアレガシーネットワーク」を今後活用したいと思いますか。(1つに○)

1. ボランティアの募集を行うために活用したい
2. ボランティアに関する情報を得るために活用したい
3. ボランティア募集する予定がないので活用しない
4. 活用する予定がない

Q20. (すべての方)貴団体のボランティア活動に関して、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 活動に関する情報提供、情報発信の充実
2. 相談窓口の整備
3. 活動を行うために必要な知識を学ぶ講習会やイベントの開催
4. 団体が行う情報発信の支援(行政広報誌や行政が運営するポータルサイトの利用など)
5. 団体間の交流の場の提供
6. ボランティア希望者との交流の場の提供
7. 団体の活動継続に必要な費用の助成
8. ボランティアが必要とする交通費・保険等の助成
9. 活動を行うために必要な用具など物品の供与・貸出
10. 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助
11. ボランティアコーディネーター^{*1}を派遣する制度の創設
12. ボランティアポイント制度^{*2}の創設
13. その他(具体的に:)
14. 特にない

^{*1} ボランティアコーディネーター:ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側とを調整する人材

^{*2} ボランティアポイント制度:ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じた特典を受けられる制度

Q21. (すべての方)ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

2. 貴団体について ※すべての方がご回答ください

Q22. 貴団体の活動の性質は次のどれにあたりますか。(複数回答可)

1. 支援団体のネットワーク組織
2. 中間支援機能に特化した組織
3. 上記以外

Q23. 貴団体の団体構成員の総数は何人になりますか。(1つに○)

1. 10 人未満
2. 10～20 人未満
3. 20～30 人未満
4. 30～50 人未満
5. 50～100 人未満
6. 100 人以上

Q24. 貴団体は設立から何年経っていますか。(1つに○)

1. 1年未満
2. 1～4年未満
3. 4～6年未満
4. 6～10年未満
5. 10～20年未満
6. 20～30年未満
7. 30年以上

Q25. 貴団体の活動分野は次のどれにあたりますか。(複数選択可)

1. 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
2. 社会教育の推進を図る活動
3. まちづくりの推進を図る活動
4. 観光の振興を図る活動
5. 農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動
6. 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
7. 環境の保全を図る活動
8. 災害救援活動
9. 地域安全活動
10. 人権の擁護又は平和の推進を図る活動
11. 国際協力の活動
12. 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
13. 子どもの健全育成を図る活動
14. 情報化社会の発展を図る活動
15. 科学技術の振興を図る活動
16. 経済活動の活性化を図る活動
17. 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
18. 消費者の保護を図る活動
19. 上記の活動を行う団体の運営、又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動
20. 上記の活動に準ずる活動として都道府県、又は指定都市の条例で定める活動

Q26. 貴団体の活動地域はどの程度の範囲ですか。(1つに○)

1. 町丁内
2. 区市町村内
3. 都内
4. 国内
5. 国内外

Q27. 貴団体の構成員の平均勤続年数は何年ですか。(1つに○)

1. 1年未満
2. 1～5年未満
3. 5～10年未満
4. 10～20年未満
5. 20年以上

Q28. 貴団体の構成員の平均賃金はいくらですか。(1つに○)

1. 200万円未満
2. 200～400万円未満
3. 400～600万円未満
4. 600～800万円未満
5. 800～1,000万円未満
6. 1,000万円以上

Q29. 貴団体の主な収入源は何ですか。(1つに○)

1. 会費
2. 寄附金
3. 行政からの業務委託費
4. 行政からの補助金・助成金
5. 財団など民間からの助成金や協賛金
6. 独自の事業収入
7. その他(具体的に: _____)

Q30. 貴団体の活動内容について情報発信する際に利用しているものとして、当てはまるものをお答えください。(複数選択可)

1. 貴団体ホームページ
2. 貴団体広報誌
3. 自治体ホームページ
4. 自治体広報誌
5. 東京ボランティア・市民活動センター
6. 区市町村のボランティアセンター
7. 様々な団体のボランティア募集情報を紹介する情報サイト
8. ボランティア情報誌
9. テレビ・ラジオ・新聞・雑誌
10. SNS
11. その他(具体的に: _____)

～以上で質問は終了です。ご回答ありがとうございました。～

令和7年度団体のボランティア活動等に関する実態調査（大学）

それぞれの質問について、当てはまる選択肢の番号に○を記入してください。

1. ボランティア活動について

Q1. (すべての方)貴学には、学生のボランティア活動*を支援する組織などがありますか。(1つに○)

※名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください

1. ボランティア活動支援部署(大学ボランティアセンターなど)を設置している
2. ボランティア活動支援部署(大学ボランティアセンターなど)は設置していないが、担当者を配置している
3. 支援する組織などはない → Q9 へお進みください

Q2. (Q1で1または2を回答した方)設置しているボランティア活動支援部署(大学ボランティアセンター)などの名称・設置年度・職員数・設置したきっかけをお答えください。

(Q1で2と答えた方は、職員数と配置したきっかけをお答えください。)

「職員数」について、配置していない場合は「0」人と記入してください。

名称	
設置年度	()年度 ※西暦でご記入ください
職員数 (配置していない場合は「0」人と記入してください。)	教員:()人 事務職員:()人 ボランティアコーディネーター*など:()人 学生スタッフ:()人
きっかけ (複数選択可)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育機関として地域と共存するなど、社会に貢献していく必要があると考えたため 2. 教育機関のイメージアップにつながるため 3. 学生の効果的な教育の場を創出できると考えたため 4. 学内にボランティア活動に熱心な学生や教職員がいたため 5. 地域の行事などにより推進することとしたため 6. 周囲の教育機関が設置しているため 7. 学長・学部長などの判断 8. 災害など、きっかけとなる出来事があったため 9. その他(具体的に:)

※ボランティアコーディネーター：ボランティア活動について、活動する側と受入れ側を調整する人材

Q3. (Q1で1または2を回答した方) 貴学のボランティア活動支援部署(大学ボランティアセンター)などで行っている取組のうち、当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. ボランティア活動情報の提供・紹介
2. 活動を希望する学生、サークルに対する相談・助言
3. 学生とボランティア活動とのマッチング
4. 学生が参加するためのボランティア活動の企画・実施
5. 学生コーディネーターの育成
6. ボランティア活動に関する研修会・講習会など
7. ボランティアサークルなどの活動支援
8. 学生、ボランティアサークルなどの活動の発表
9. 学外の団体などとの連携
10. ボランティアポイント制度*の導入
11. その他(具体的に:)

※ボランティアポイント制度: ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じて特典を受けられる制度

Q4. (Q1で1または2を回答した方) 貴学において、直近1年間(令和6年10月1日から令和7年9月30日まで)にボランティア活動支援部署(大学ボランティアセンター)などが紹介・実施をして、実際に学生が参加したボランティア活動について、当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 健康や医療サービスに関係した活動(献血、入院患者の話し相手など)
2. 高齢者を対象とした活動(高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど)
3. 障害者を対象とした活動(手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など)
4. 子供を対象とした活動(子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど)
5. スポーツに関係した活動(スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど)
6. 文化・芸術・学術に関係した活動(美術館や博物館等のガイドボランティア、文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど)
7. まちづくり・地域貢献のための活動(道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、観光ガイドボランティアなど)
8. 町会・自治会の活動
9. 安全な生活のための活動(防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など)
10. 自然や環境を守るための活動(動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など)
11. 災害に関係した活動(炊き出し、がれきや土砂の撤去など)
12. 在住・訪日外国人のための活動(日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など)
13. 国際協力に関係した活動(在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など)
14. 募金を集める活動
15. 金銭や物品を寄附する活動
16. 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ(障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など)
17. その他(具体的に:)
18. 直近1年間はないが、2~3年前には参加したことがある
19. 直近2~3年以内には参加したことはないが、過去には参加したことがある
20. 実施していない

Q5. (Q4で1～17を回答した方) 貴学のボランティア活動支援部署(大学ボランティアセンター)などが紹介・実施したボランティア活動(寄附関係を含まない)に直近1年間(令和6年10月1日から令和7年9月30日まで)で参加した学生数(延べ人数)は何人ですか。(1つに○)

- | | | |
|---------------|----------------|------------------|
| 1. 10 人未満 | 2. 10～20 人未満 | 3. 20～50 人未満 |
| 4. 50～100 人未満 | 5. 100～500 人未満 | 6. 500～1,000 人未満 |
| 7. 1,000 人以上 | 8. わからない | |

Q6. (Q4で1～17を回答した方) 貴学のボランティア活動支援部署(大学ボランティアセンター)などが紹介・実施して実際に学生が参加したボランティア活動について、活動した地域はどこですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 大学所在地の近隣地域 | 2. 大学の所在地外の地域(都内) |
| 3. 大学の所在地外の地域(東京近郊) | 4. 遠方地域(具体的に:) |
| 5. 海外 | 6. オンライン |
| 7. わからない | |

Q7. (Q1で1または2を回答した方) 学生へのボランティア情報の周知方法について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

- | |
|-------------------------------|
| 1. チラシ、ポスター |
| 2. 貴学のホームページや学生ポータルサイト、メルマガ |
| 3. 様々な団体のボランティア募集情報を紹介する情報サイト |
| 4. SNS |
| 5. 学内放送・学内誌 |
| 6. 説明会等のイベントや講義の中で紹介 |
| 7. 口コミ |
| 8. その他(具体的に:) |
| 9. 実施していない |

Q8. (Q1で1または2を回答した方) 学内のボランティア活動を充実させていくための課題は何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

- | |
|----------------------------|
| 1. 予算 |
| 2. 人員 |
| 3. ボランティアコーディネーターなどの専門職の配置 |
| 4. 外部組織との連携の充実 |
| 5. 教職員など、学内の理解・協力 |
| 6. 学長、部局長などのリーダーシップ |
| 7. ボランティアセンター職員のスキルアップ |
| 8. 学生の理解・協力 |
| 9. 学生サークルなどの活動の充実や協力 |
| 10. 学生コーディネーターの育成 |
| 11. 学生が参加できるボランティア活動先の開拓 |
| 12. 学生に向けたボランティア情報の周知 |
| 13. その他(具体的に:) |
| 14. わからない |

Q9. (Q1 で「3. 支援する組織などはない」と回答した方) ボランティア活動支援部署(大学ボランティアセンター)などを設置していない理由について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 学長や部局長などの理解が得られないため
2. 教員など関係者の理解が得られないため
3. 十分な予算がないため
4. ボランティアコーディネーター*など必要な人材がいないため
5. 活動を行える十分な機会・場所がないため
6. 設置したいが、どうしたらよいかわからないため
7. 設置しても学生が集まらないため
8. 教育活動と直接の関係がないため
9. 周囲の教育機関が設置をしていないため
10. そもそも設置すること自体考えたことがないため
11. その他(具体的に: _____)

※ボランティアコーディネーター: ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側を調整する人材

Q10. (すべての方) 貴学に学生のボランティアサークルなどがありますか。(1つに○)

1. ボランティア活動を主目的とするサークルがある
2. 主目的ではないが、ボランティア活動に関わっているサークルがある
3. ない
4. わからない

Q11. (Q10で「1. ボランティア活動を主目的とするサークルがある」と回答した方)ボランティア活動を主目的とするサークルなどの活動内容、団体数、学生数をお答えください。

・活動内容(複数選択可)

- | |
|---|
| 1. 健康や医療サービスに関係した活動(献血、入院患者の話し相手など)
2. 高齢者を対象とした活動(高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど)
3. 障害者を対象とした活動(手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など)
4. 子供を対象とした活動(子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど)
5. スポーツに関係した活動(スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど)
6. 文化・芸術・学術に関係した活動(美術館や博物館等のガイドボランティア、文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど)
7. まちづくり・地域貢献のための活動(道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、観光ガイドボランティアなど)
8. 町会・自治会の活動
9. 安全な生活のための活動(防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など)
10. 自然や環境を守るための活動(動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など)
11. 災害に関係した活動(炊き出し、がれきや土砂の撤去など)
12. 在住・訪日外国人のための活動(日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など)
13. 国際協力に関係した活動(在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など)
14. 募金を集める活動
15. 金銭や物品を寄附する活動
16. 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ(障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など)
17. その他(具体的に: _____) |
|---|

団体数(_____)団体	学生数 約(_____)人
----------------	-----------------

Q12. (すべての方)ボランティア活動の企画・実施にあたって、連携している団体はありますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

- | |
|---|
| 1. 市民活動団体(NPO 法人を除く)
2. NPO 法人
3. 公益法人
4. 地縁団体(町会・自治会や老人会など)
5. 地域のボランティア団体
6. 当事者団体(障害者支援団体など)
7. 事業者(企業など)
8. 大学
9. 高校、中学校、小学校
10. 東京ボランティア・市民活動センター
11. 区市町村のボランティアセンター
12. 行政機関
13. その他(具体的に: _____)
14. 連携していない |
|---|

Q13. (すべての方) ボランティア活動の企画・実施にあたって、今後連携したい団体があれば、当てはまるものをすべてお答えください。現在、既に連携していて、今後も引き続き連携したい場合も含めてお答えください。(複数選択可)

1. 市民活動団体(NPO 法人を除く)	2. NPO 法人
3. 公益法人	4. 地縁団体(町会・自治会や老人会など)
5. 地域のボランティア団体	6. 当事者団体(障害者支援団体など)
7. 事業者(企業など)	8. 大学
9. 高校、中学校、小学校	10. 東京ボランティア・市民活動センター
11. 区市町村のボランティアセンター	12. 行政機関
13. その他(具体的に: _____)	
14. 連携したい団体はない	

Q14. (Q12 または Q13 で1~13を回答した方) 現在、どのような連携をしていますか。または今後、どのような連携をしたいですか。具体的にお書きください。

Q15. (すべての方) 東京ボランティア・市民活動センター(飯田橋セントラルプラザ内)をご存じですか。また、利用したことはありますか。(1つに○)

1. 利用したことがある 2. 知っているが、利用したことはない 3. 知らない

Q16. (すべての方) 東京ボランティア・市民活動センターのウェブサイト「ボラ市民ウェブ」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。(1つに○)

1. サイトを閲覧したことがある 2. 知っているが、閲覧したことはない 3. 知らない

※東京ボランティア・市民活動センターの「ボラ市民ウェブ」はこちら
URL:<https://www.tvac.or.jp/>



Q17. (すべての方) 区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。(1つに○)

1. 利用したことがある 2. 知っているが、利用したことはない 3. 知らない

Q18. (すべての方) 東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア活動情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存じですか。また、閲覧したことはありますか。(1つに○)

1. サイトを閲覧したことがある 2. 知っているが、閲覧したことはない 3. 知らない

※「東京ボランティアレガシーネットワーク」はこちら
URL:<https://www.vln.metro.tokyo.lg.jp/>



2. 学校の概要について ※すべての方がご回答ください

Q21. 貴学の職員(教授など含む)の総数は何人ですか。(1つに○)

- | | | |
|----------------|------------------|---------------|
| 1. 10 人未満 | 2. 10～50 人未満 | 3. 50～100 人未満 |
| 4. 100～500 人未満 | 5. 500～1,000 人未満 | 6. 1,000 人以上 |
| 7. わからない | | |

Q22. 貴学は設立から何年経っていますか。(1つに○)

- | | | |
|--------------|--------------|---------------|
| 1. 1 年未満 | 2. 1～4 年未満 | 3. 4～6 年未満 |
| 4. 6～10 年未満 | 5. 10～20 年未満 | 6. 20～30 年未満 |
| 7. 30～50 年未満 | 8. 50～75 年未満 | 9. 75～100 年未満 |
| 10. 100 年以上 | | |

Q23. 貴学の学生数は何人ですか。(1つに○)

- | | | |
|--------------------|---------------------|----------------------|
| 1. 100 人未満 | 2. 100～500 人未満 | 3. 500～1,000 人未満 |
| 4. 1,000～5,000 人未満 | 5. 5,000～10,000 人未満 | 6. 10,000～20,000 人未満 |
| 7. 20,000 人以上 | 8. わからない | |

～以上で質問は終了です。ご回答ありがとうございました。～

令和7年度団体のボランティア活動等に関する実態調査（中学・高校）

それぞれの質問について、当てはまる選択肢の番号に○を記入してください。

1. ボランティア活動について

Q1. (すべての方) 貴校では、教育活動の一環としてボランティア活動※を取り入れていますか。(1つに○)

※名称にかかわらず、報酬を目的としない社会貢献活動と考えてください

- | |
|---|
| 1. 授業及び授業以外の教育活動(部活動は含まない)で取り入れている |
| 2. 授業で取り入れている |
| 3. 授業以外の教育活動(部活動は含まない)で取り入れている → Q6へお進みください |
| 4. 取り入っていない → Q5へお進みください |

Q2. (Q1で1～2を回答した方) 授業に取り入れたボランティア活動の年間時間数及び教科を教えてください。

年間時間数 (1つに○)	1. 2時間未満 2. 2～3時間 3. 4～5時間 4. 6～10時間 5. 11～20時間 6. 21～30時間 7. 31時間以上
教科名	

Q3. (Q1 で1～2を回答した方)直近 1 年間(令和6年 10月1日から令和7年9月30日まで)に授業で実際に生徒が参加したボランティア活動がある場合、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 健康や医療サービスに関係した活動(献血、入院患者の話し相手など)
2. 高齢者を対象とした活動(高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど)
3. 障害者を対象とした活動(手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など)
4. 子供を対象とした活動(子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど)
5. スポーツに関係した活動(スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど)
6. 文化・芸術・学術に関係した活動(美術館や博物館等のガイドボランティア、文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど)
7. まちづくり・地域貢献のための活動(道路や公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、観光ガイドボランティア・あいさつ運動など)
8. 町会・自治会の活動
9. 安全な生活のための活動(防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など)
10. 自然や環境を守るための活動(動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など)
11. 災害に関係した活動(炊き出し、がれきや土砂の撤去など)
12. 在住・訪日外国人のための活動(日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など)
13. 国際協力に関係した活動(在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など)
14. 募金を集める活動
15. 金銭や物品を寄附する活動
16. 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ(障害、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など)
17. その他(具体的に:)
18. 直近 1 年間はないが、2～3 年前には参加したことがある
19. 直近 2～3 年以内には参加したことはないが、過去には参加したことがある
20. 実施していない

Q4. (Q1 で1～2を回答した方)授業でボランティア活動を取り入れていくための課題(授業を行っていく上での課題)は何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 予算
2. ボランティア活動の体験の場の確保
3. ボランティア活動に関する授業を実施できる教員の確保
4. 教員のスキルアップの場、研修の機会など
5. 教材の充実
6. 年間の授業時間の中でボランティア教育のための時間を確保することが難しい
7. その他(具体的に:)
8. わからない

Q5. (Q1 で「4. 取り入れていない」を回答した方) 貴校にボランティア活動を取り入れていない理由について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 十分な予算がないため2. 保護者や教員など関係者の理解が得られないため3. ボランティア活動に関する授業を実施できる教員など、必要な人材がないため4. 活動を行える十分な機会・場所がないため5. 利用したい教材がないため6. そもそも検討したことがないため7. 周囲の教育機関で取り入れていないことから、必要性を感じないため8. 取り入れたいが、どうしたらよいかわからないため9. 時間的な余裕がないため10. その他(具体的に: _____) |
|---|

Q6. (すべての方) ボランティア活動を行っている部活動などがありますか。(1つに○)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. ある2. ない |
|---|

Q7. (Q6 で「1. ある」を回答した方) ボランティア活動を行っている部活動などの活動内容、団体数、生徒数、担当教員数をお答えください。

活動内容 (複数選択可)	1. 健康や医療サービスに関係した活動(献血、入院患者の話し相手など) 2. 高齢者を対象とした活動(高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど) 3. 障害者を対象とした活動(手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など) 4. 子供を対象とした活動(子供の居場所づくり、学習支援、子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど) 5. スポーツに関係した活動(スポーツ大会・スポーツイベントの運営、地域のスポーツクラブのコーチや手伝いなど) 6. 文化・芸術・学術に関係した活動(美術館や博物館等のガイドボランティア、文化や芸術に関係したイベント運営ボランティアなど) 7. まちづくり・地域貢献のための活動(道路、公園などの清掃、花いっぱい運動、まちおこし、町会・自治会の活動、観光ガイドボランティア、あいさつ運動など) 8. 安全な生活のための活動(防災活動、パトロールなどの防犯活動、交通安全運動など) 9. 自然や環境を守るための活動(動物の保護活動、森林や緑、海や川を守る活動、リサイクル運動、ごみ減量の推進活動など) 10. 災害に関係した活動(炊き出し、がれきや土砂の撤去など) 11. 在住・訪日外国人のための活動(日常生活の手助けや道案内などの支援活動、国際交流など) 12. 国際協力に関係した活動(在住・訪日外国人のための活動を除く、海外支援協力、難民支援など) 13. 募金を集める活動 14. 金銭や物品を寄附する活動 15. 当事者活動、セルフ・ヘルプ・グループ(障害者、病気、介護などの体験や困難を抱えている人が、体験を伝えるなどして同様の体験がある人を助けるための活動など) 16. その他(具体的に:)
団体数	()団体
生徒数	()人(合計)
担当教員数	()人(合計)

Q8. (Q1 で1～3、または Q6 で1を回答した方) ボランティア活動を行っている授業や部活動などは、活動にあたり外部の団体と連携していますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 市民活動団体(NPO 法人を除く) 2. NPO 法人 3. 公益法人 4. 地縁団体(町会・自治会や老人会など) 5. 地域のボランティア団体 6. 当事者団体(障害者支援団体など) 7. 事業者(企業など) 8. 大学 9. 高校、中学校、小学校 10. 東京ボランティア・市民活動センター 11. 区市町村のボランティアセンター 12. 行政機関 13. その他(具体的に:) 14. 連携していない
--

Q9. (Q1 で 1～3、または Q6 で1を回答した方) ボランティア活動を行っている授業や部活動などにおいて、今後連携したい団体があれば、当てはまるものをすべてお答えください。現在、既に連携していて、今後も引き続き連携したい場合も含めてお答えください。(複数選択可)

1. 市民活動団体(NPO 法人を除く)
2. NPO 法人
3. 公益法人
4. 地縁団体(町会・自治会や老人会など)
5. 地域のボランティア団体
6. 当事者団体(障害者支援団体など)
7. 事業者(企業など)
8. 大学
9. 高校、中学校、小学校
10. 東京ボランティア・市民活動センター
11. 区市町村のボランティアセンター
12. 行政機関
13. その他(具体的に: _____)
14. 連携したい団体はない

Q10. (Q8 または Q9 で1～13を回答した方) 現在、どのような連携をしていますか。または今後、どのような連携をしたいですか。具体的にお書きください。

Q11. (すべての方) ボランティアコーディネーター*として活動できる人はいますか。(1つに○)
※ボランティアコーディネーター: ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側を調整する人材

1. いる
2. いない

Q12. (すべての方) 東京ボランティア・市民活動センター(飯田橋セントラルプラザ内)をご存知ですか。また、利用したことはありますか。(1つに○)

1. 利用したことがある
2. 知っているが、利用したことはない
3. 知らない

Q13. (すべての方) 東京ボランティア・市民活動センターのウェブサイト「ボラ市民ウェブ」をご存知ですか。また、閲覧したことはありますか。(1つに○)

1. サイトを閲覧したことがある
2. 知っているが、閲覧したことはない
3. 知らない

※東京ボランティア・市民活動センターの「ボラ市民ウェブ」はこちら

URL:<https://www.tvac.or.jp/>



Q14. (すべての方)区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。(1つに○)

1. 利用したことがある
2. 知っているが、利用したことはない
3. 知らない

Q15. (すべての方)東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア活動情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存知ですか。また、閲覧したことはありますか。(1つに○)

1. サイトを閲覧したことがある
2. 知っているが、閲覧したことはない
3. 知らない

※「東京ボランティアレガシーネットワーク」はこちら

URL:<https://www.vln.metro.tokyo.lg.jp/>



Q16. (すべての方)ボランティア活動に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

Q17. (すべての方)ボランティア活動に関して、どのような支援があったらよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 活動に関する情報提供、情報発信の充実
2. 相談窓口の整備
3. 活動を行うために必要な知識を学ぶ講習会やイベントの開催
4. 生徒の活動支援に関する他の学校の取組事例の紹介
5. ボランティア団体などとの交流の場の提供
6. 学生が活動を体験する場の提供
7. 学生が活動を行うために必要な費用の助成
8. ボランティアセンターを設置・運営するために必要な費用の助成
9. 生徒が活動を行うために必要な用具など物品の供与・貸出
10. 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助
11. ボランティアコーディネーターを派遣する制度の創設
12. 活動を評価する表彰制度の創設
13. ボランティアポイント制度※の創設
14. その他(具体的に: _____)
15. 特になし

※ボランティアポイント制度:ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じて特典を受けられる制度

2. 貴校について ※すべての方がご回答ください

Q18. 貴校の学校種別についてお答えください。(1つに○)

1. 中学校
2. 高校

Q19. 貴校の職員(教職員など含む)の総数は何人ですか。(1つに○)

1. 10 人未満
2. 10～20 人未満
3. 20～30 人未満
4. 30～50 人未満
5. 50～100 人未満
6. 100 人以上
7. わからない

Q20. 貴校は設立から何年経っていますか。(1つに○)

1. 1 年未満
2. 1～4 年未満
3. 4～6年未満
4. 6～10 年未満
5. 10～20 年未満
6. 20～30 年未満
7. 30～50 年未満
8. 50～75 年未満
9. 75～100 年未満
10. 100 年以上

Q21. 貴校の生徒数は何人ですか。(1つに○)

1. 50 人未満
2. 50～100 人未満
3. 100～200 人未満
4. 200～300 人未満
5. 300～400 人未満
6. 400～500 人未満
7. 500～600 人未満
8. 600～700 人未満
9. 700～800 人未満
10. 800～900 人未満
11. 900～1000 人未満
12. 1000 人以上

～以上で質問は終了です。ご回答ありがとうございました。～

令和7年度団体のボランティア活動等に関する実態調査（町会・自治会）

ご所属の区市町村名および町会・自治会名をご記入ください。

それぞれの質問について、当てはまる選択肢の番号に○を記入してください。

1. 貴団体の活動について

Q1. (すべての方) 貴団体の活動内容について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。
(複数選択可)

1. 地域交流イベント(祭り、餅つき、運動会、クリスマスなど)
2. 防災活動(防災訓練、防災マップ作成など)
3. 子ども・若者育成活動(伝統文化の継承、スポーツ教室、自然体験、しごと体験など)
4. 高齢者見守り活動(見守り訪問活動、高齢者サロン活動など)
5. 子育て世代や子供の見守り活動(多世代交流サロン、子供の居場所づくりなど)
6. 障害者の支援(外出の付き添い、障害者を対象とした防災訓練など)
7. 在住・訪日外国人への支援(案内板の多言語化、日常生活を送る上での手助けなど)
8. 防犯活動(パトロール、防犯講習会、振り込め詐欺防止など)
9. デジタル活用支援(デジタル機器の使い方講習会やデジタルを活用したイベントなど)
10. 街の環境整備(清掃活動、緑地の整備など)
11. その他(具体的に: _____)
12. 活動していない → Q5 へお進みください

Q2. (Q1 で1～11を回答した方) 貴団体の活動状況についてお答えください。(1つに○)

1. ほとんど毎日
2. 週に2～3日くらい
3. 週に1日くらい
4. 月に2～3日くらい
5. 月に1日くらい
6. 年に数回くらい

Q3. (Q1 で1～11を回答した方) 貴団体区域内に住んでいる外国人の活動参加状況についてお答えください。(1つに○)

1. 全員参加している
2. ほとんど参加している
3. まあまあ参加している
4. あまり参加していない
5. ほとんど参加していない
6. 全く参加していない
7. わからない

Q4. (Q3で4～6を回答した方) 外国人の貴団体活動への参加にあたり、妨げとなっていることについて、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 外国人の区域内での居住状況を把握できていない
2. 外国人住民への声のかけ方が分からない
3. 外国人住民が参加しやすいイベントがない(少ない)
4. 住民や役員について、外国人との共生に理解が得られていない
5. その他(具体的に:)

Q5. (すべての方) 団体として活動を行うにあたっての課題について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 活動の担い手が不足している
2. 町会・自治会に加入しない住民が増えている
3. 地域の住民が減少している
4. 活動の担い手が高齢化している
5. 活動資金の調達が難しい
6. 会費の徴収が難しい
7. 町会・自治会館などがなく、活動拠点の確保が難しい
8. 町会・自治会活動について住民の理解が得られない
9. 特定の活動(防災・防犯・子供や高齢者の見守りなど)について専門的な知識がない
10. 地域の行政機関、企業、教育機関などの協力が得られない
11. 連携・協力してくれる他の団体が見つからない
12. ボランティアポイント制度*など、町会・自治会の活動を後押しする制度がない
13. その他(具体的に:)

※ボランティアポイント制度:ボランティア活動にポイントをつけて、そのポイントに応じて特典を受けられる制度

2. 他の団体との連携について

Q6. (すべての方) 貴団体の活動の企画や実施にあたって、連携している団体はありますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 市民活動団体(NPO 法人を除く) 2. NPO 法人 3. 公益法人 4. 地縁団体(他の町会・自治会や老人会など) 5. 地域のボランティア団体 6. 当事者団体(障害者支援団体など) 7. 事業者(企業など) 8. 学校や教育機関 9. 東京ボランティア・市民活動センター 10. 区市町村のボランティアセンター 11. 行政機関 12. その他(具体的に: _____) 13. 連携していない → Q9 へお進みください

Q7. (Q6で1～12を回答した方)他の団体と連携した活動において、連携した団体はボランティアの募集を行いましたか。行った場合は、おおよその参加人数及び活動内容をお答えください。

ボランティアの募集 (1つに○)	1. 募集した 2. 募集していない
◎「1. 募集した」と答えた方は、下記の質問にお答えください。	
ボランティア参加人数	約 (_____)人
連携して行った活動はどのようなものですか。当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)	1. 地域交流イベント(祭り、餅つき、運動会、クリスマスなど) 2. 防災活動(防災訓練、防災マップ作成など) 3. 子ども・若者育成活動(伝統文化の継承、スポーツ教室、自然体験、しごと体験など) 4. 高齢者見守り活動(見守り訪問活動、高齢者サロン活動など) 5. 子育て世代や子供の見守り活動(多世代交流サロン、子供の居場所づくりなど) 6. 障害者の支援(外出の付き添い、障害者を対象とした防災訓練など) 7. 在住・訪日外国人への支援(案内板の多言語化、日常生活を送る上での手助けなど) 8. 防犯活動(パトロール、防犯講習会、振り込め詐欺防止など) 9. デジタル活用支援(デジタル機器の使い方講習会やデジタルを活用したイベントなど) 10. 街の環境整備(清掃活動、緑地の整備など) 11. その他(具体的に: _____)

Q8. (Q6で1～12を回答した方)他の団体と連携してよかった点や課題について、次の中から当てはまるものをすべてお答えください。

よかった点 (複数選択可)	1. 単独で実施するよりも大規模なイベントなどが実施できる 2. 若者の協力を得ることができ、活気が出る 3. イベントなどの参加者が増加する 4. 斬新なアイデアを得ることができる 5. 資金不足、人手不足を解消できる 6. 町会や自治会の加入率が上がる 7. その他(具体的に:) 8. 特になし
課題 (複数選択可)	1. 連携先との連絡調整 2. 経費の分担や支出管理 3. 役割分担の明確化 4. 各団体の意見の統一 5. スケジュール調整 6. 連携先を見つけることが難しい 7. 連携することについて、内部の同意を得ることが難しい 8. その他(具体的に:) 9. 特になし

Q9. (Q6で「13. 連携していない」と回答した方)今後他の団体と連携して活動を行うとした場合、妨げとなることは何ですか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 連携するための十分な資金がない 2. 活動を行う人材が十分に集まらない 3. 他の住民の理解が得られない 4. 活動場所が見つからない 5. 活動を行うにあたって十分な時間がない 6. 活動を行うための情報が得られない 7. 連携する団体がいない 8. 連携先の理解が得られない 9. 他の団体との連携方法がわからない 10. その他(具体的に:)

Q10. (すべての方)貴団体の活動の企画・実施にあたって、今後連携したい団体があれば、当てはまるものをお答えください。(複数選択可)

1. 市民活動団体(NPO 法人を除く)
2. NPO 法人
3. 公益法人
4. 地縁団体(他の町会・自治会や老人会など)
5. 地域のボランティア団体
6. 当事者団体(障害者支援団体など)
7. 事業者(企業など)
8. 学校や教育機関
9. 東京ボランティア・市民活動センター
10. 区市町村のボランティアセンター
11. 行政機関
12. その他(具体的に:)
13. 連携したい団体はない → Q13 へお進みください

Q11. (Q10で1～12を回答した方)今後どのような分野で他の団体と連携して活動を行ってみたいですか。(複数選択可)

1. 地域交流イベント(祭り、餅つき、運動会、クリスマスなど)
2. 防災活動(防災訓練、防災マップ作成など)
3. 子ども・若者育成活動(伝統文化の継承、スポーツ教室、自然体験、しごと体験など)
4. 高齢者見守り活動(見守り訪問活動、高齢者サロン活動など)
5. 子育て世代や子供の見守り活動(多世代交流サロン、子供の居場所づくりなど)
6. 障害者の支援(外出の付き添い、障害者を対象とした防災訓練など)
7. 在住・訪日外国人への支援(案内板の多言語化、日常生活を送る上での手助けなど)
8. 防犯活動(パトロール、防犯講習会、振り込め詐欺防止など)
9. デジタル活用支援(デジタル機器の使い方講習会やデジタルを活用したイベントなど)
10. 街の環境整備(清掃活動、緑地の整備など)
11. その他(具体的に:)

Q12. (Q10 で1～12を回答した方)他の団体との連携を継続していく(充実していく)ために必要なことは何だと思えますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 活動資金の確保
2. 町会・自治会への加入促進策
3. 他の町会・自治会との情報共有
4. 活動場所
5. 活動時間
6. 連携する団体の情報
7. ボランティアコーディネーター*など、連携先の団体と調整する人材
8. その他(具体的に:)

*ボランティアコーディネーター:ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側を調整する人材

Q13. (すべての方)東京都では、“ちょっとした困りごと”を抱える町会・自治会と、それをお手伝いする地元ボランティアとを区市町村がコーディネーターとなつてつなげる取組を一部の区市と連携して実施しています。このような取組を実施してみたいですか。現在、既に連携している場合は、今後についてお答えください。(1つに○)

1. 実施してみたい
2. 余裕があれば実施してみたい
3. 実施したくない
4. 地元ボランティアにお願いする困り事がないため実施する必要はない

Q14. (すべての方)ボランティアコーディネーター*として活動できる人はいますか。(1つに○)

1. いる
2. いない

※ボランティアコーディネーター:ボランティア活動について、活動する側と受け入れ側を調整する人材

3. その他の活動などについて ※すべての方がご回答ください

Q15. 東京ボランティア・市民活動センター(飯田橋セントラルプラザ内)をご存知ですか。また、利用したことはありますか。(1つに○)

1. 利用したことがある
2. 知っているが、利用したことはない
3. 知らない

Q16. (すべての方)東京ボランティア・市民活動センターのウェブサイト「ボラ市民ウェブ」をご存知ですか。また、閲覧したことはありますか。(1つに○)

1. サイトを閲覧したことがある
2. 知っているが、閲覧したことはない
3. 知らない

※東京ボランティア・市民活動センターの「ボラ市民ウェブ」はこちら
URL: <https://www.tvac.or.jp/>



Q17. 区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティアセンターをご存じですか。また、利用したことはありますか。(1つに○)

1. 利用したことがある
2. 知っているが、利用したことはない
3. 知らない

Q18. 東京都と東京都つながり創生財団では、様々なボランティア活動情報を発信するポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」を運営しています。
「東京ボランティアレガシーネットワーク」をご存知ですか。また、閲覧したことはありますか。(1つに○)

1. サイトを閲覧したことがある
2. 知っているが、閲覧したことはない
3. 知らない

※「東京ボランティアレガシーネットワーク」はこちら
URL: <https://www.vln.metro.tokyo.lg.jp/>



Q19. ボランティア活動(町会・自治会活動を含む)に対する今後の取組の意向があれば、ご自由にお書きください。

4. 貴団体について ※すべての方がご回答ください

Q20. 貴団体の役員数は何人 ですか。(1つに○)

1. 5 人未満
2. 5～10 人未満
3. 10～20 人未満
4. 20～30 人未満
5. 30～50 人未満
6. 50 人以上

Q21. 貴団体に加入している世帯数はどのくらいですか。(1つに○)

1. 10 世帯未満
2. 10～49 世帯
3. 50～99 世帯
4. 100～299 世帯
5. 300～999 世帯
6. 1,000～1,999 世帯
7. 2,000 世帯以上

Q22. 住民の貴団体への加入率はどのくらいですか。(1つに○)

1. 10%未満
2. 10～19%
3. 20～29%
4. 30～49%
5. 50～69%
6. 70～89%
7. 90～100%
8. わからない

Q23. 貴団体は加入促進のためにどのような取組を行っていますか。次の中から当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

1. 地域交流イベント(祭り、餅つき、運動会、クリスマスなど)を実施して、当日募集
2. チラシ、パンフレットなどを作成して周知
3. 回覧板による募集
4. 各家庭に訪問して募集
5. 現会員による口コミや呼び込み
6. 地域の学校や商店街を通じた呼び込み
7. ホームページ・SNS を通じた呼び込み
8. その他(具体的に: _____)
9. 加入促進活動をしていない

～以上で質問は終了です。ご回答ありがとうございました。～

「団体のボランティア活動等に関する実態調査」

登録番号（7）45

令和8年3月発行

編集・発行 東京都生活文化局都民生活部地域活動推進課
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03（5388）3156

調査委託 株式会社エスミ
東京都中野区本町4-44-18
電話 03（5385）7322

<お 願 い>

この報告書の内容を引用される場合、その旨を下記にご連絡ください。なお、印刷物の場合はその掲載部分の写しをお送りくだされば幸いです。

東京都生活文化局

都民生活部地域活動推進課

〒163-8001 新宿区西新宿二丁目8番1号

電 話 03 (5388) 3156

FAX 03 (5388) 1331

E-mail : S1161202@section.metro.tokyo.jp